Canon

PUB. DIJ-0507-000E

EOS R5 C

デジタルシネマカメラ

Firmware ver. 1.0.6.1

詳細ガイド
（動画編）

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

⚠ 警告 死亡や重傷を負うおそれがある内容です。

- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- 破損したときは、内部に触れない。
- 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
  感電の原因となります。
- 分解や改造をしない。
- 強い衝撃や振動を与えない。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
- 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。
  感電、破裂、火災の原因となります。
- 指定外の電源は使わない。
- バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
  - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
  - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
  - コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
  - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
  - 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
  - 電源に長時間つないだままにしない。
  - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
  - 5℃～ 40℃の範囲外で充電しない。
- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
  - 液漏れしたものは使わない。
    液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。
  - 指定外の製品で使わない。
  - 熱したり、火中投入しない。
  - 指定外の製品で充電しない。
  - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
  - バッテリーを子供の手の届く範囲内に置かない。
  - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。
- レンズ、またはレンズを付けたカメラを太陽に向けたり、撮影をしたりしない。
  太陽が画面外にあるときや逆光撮影の場合でも、レンズに入った太陽の光が集光し、故障や火災の原因となることがあります。
- レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。
  光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。
- レンズキャップを外した状態で放置しない。
- 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
- 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。
  熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。
- 乳幼児の手の届くところに置かない。
  ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
  カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
  電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。
  アクセサリーシューカバーを飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
- 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。
  電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となるおそれがあります。
- 設置時、カメラと接続機器を含む総重量に耐える十分な強度があることを確認のうえ、必要に応じて適切な補強を行う。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。
  けがやカメラの故障の原因となります。
- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
  製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
- 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。
- ストロボを目に近付けて発光しない。
  目をいためる恐れがあります。
- 長い時間、ファインダーや画面を見続けない。
  乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。
  すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。
- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。
  やけどや故障の原因となります。
- レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。
  けがやカメラの故障の原因となります。
- カメラを三脚につけたまま移動しない。
  けがや事故の原因となります。
- 製品の内部には手を入れない。
  けがの原因となります。
- 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

Contents

安全上のご注意 2

1. はじめに 7

はじめにお読みください 7
商品を確認する 9
各部の名称 10

2. 準備 13

電源を準備する 13
バッテリーを使う 13
コンセントにつないで使う 15
LCDモニターを使う 16
日時を設定する 17
メニューで設定を変える 18
撮影設定をロックする（キーロック） 22
カメラを準備する 23
レンズを準備する 23
省電力モードを使用する 26
撮影に必要な電源の種類を確認する（電源ナビゲーション） 26
ファインダーを使う 29
カメラの傾きを確認する 30
マルチアクセサリーシュー対応アクセサリーを取り付ける 30
記録メディアを準備する 31
使用可能な記録メディア 31
カードを入れる 32
カードを取り出す 33
カードを初期化する 33
ボリュームラベルを設定する 34
使用するカードスロットを切り換える 34
カードの記録可能時間を確認する 34
撮影データを修復する 34
動画の記録方法を選ぶ 36
記録するデータのファイル名を設定する 38
RAWクリップ／XF-AVCクリップのファイル名を設定する 38
MP4クリップ／静止画番号の付けかたを選ぶ ... 40
冷却ファンの動作方法を選ぶ 41
ブラックバランスを調整する 42
センサークリーニングを行う 43

3. 撮影 44

動画を撮影する 44
撮影する 44
撮影時の画面表示 46
レックレビューで確認する 53
撮影設定を行う 54
ダイレクトタッチコントロールで基本的な設定を行う 54
カメラダイレクト設定を使う 55
映像の記録信号形式を選ぶ 56
メイン動画の記録先を選ぶ 59
サブ動画を同時に記録する 60
プロキシ動画を同時に記録する 68
シャッタースピードを調整する 70
ISO感度／ゲインを調整する 72
オートで調整する 74
アイリスを調整する 76
レンズのアイリス設定を選ぶ 76
一時的にオートで調整する（プッシュオートアイリス） 77
オートで調整する（オートアイリス） 77
露出を補正する（AEシフト） 78
測光方式を設定する 78
ホワイトバランスを調整する 79
ホワイトバランスモード（調整方法）を選ぶ ... 79
ホワイトバランスセットで調整する 79
プリセット設定／色温度設定で調整する 80
オートホワイトバランス（AWB）で調整する ... 81
フォーカスを調整する 82
レンズのフォーカスモードを選ぶ 82
マニュアルで調整する 82
ワンショットAFで調整する 84
連続AFで調整する 85
AF枠の位置／タイプを変更する 86
顔を検出してフォーカスを合わせる（顔検出AF） 87
手ブレを補正する 89
ズームを操作する 90
レンズのズームモードを選ぶ 90
調整する 90
マーカー／ゼブラパターン／フォルスカラーを表示する 91
タイムコードを設定する 94
ユーザービットを設定する 95

外部機器と同期をとる 96
音声を記録する 98
MP4動画の音声記録形式を選ぶ..... 98
2スロット記録機能を使って音声記録をする..... 99
外部マイク／外部音声入力機器を本機に接続する 99
録音レベルを調整する 100
入力音声を調整する 101
モノラルマイクを使う 101
ヘッドホンでモニターする..... 102
カラーバー／テストトーンを記録する 103
波形モニター／ベクトルスコープを表示する 104
撮影中／撮影後のクリップにマークを付加する.. 106
撮影中にショットマークを付加する 106
最後に撮影したクリップにOKマーク／チェックマークを付加する..... 106
メタデータを操作する 107
News Metadata（ニュースメタデータ）を操作する 108
特殊記録を行う 110
スロー &ファストモーション記録を行う 110
プレ記録を行う 112
フレーム記録を行う 113
インターバル記録を行う 114
常時記録を行う 114
アナモフィックレンズで撮影する..... 116
Webカメラとして使用する..... 117

4. カスタマイズ 118

アサインボタンを使用する..... 118
カスタムピクチャーを使用する 122
Lookファイルで画質を調整して記録する..... 124
カスタムピクチャーファイルを保存する..... 125
カスタムピクチャーの設定項目 126
設定データの保存と読み出し 131

5. 再生..... 132

撮影データを再生する 132
インデックス画面を表示する 132
再生する 133
撮影データを操作する 137
クリップメニューで操作する 137
クリップメニュー一覧 137
クリップの情報を表示する..... 138
OKマーク／チェックマークを付加する 139
OKマーク／チェックマークを消去する 139
ショットマークを付加／消去する..... 139
撮影データを消去する 140
ユーザーメモ／GPS情報を消去する..... 140

6. 接続..... 141

出力信号形式..... 141
外部モニター／レコーダーを接続する 144
接続のしかた..... 144
HDMI OUT端子を使用する..... 144
出力レンジを選択する 146
出力映像に画面表示を重畳する..... 147
画面に表示する映像にビューアシストを適用する 148
ビューアシストを適用する..... 149
HDR映像をSDR映像に変換するときのゲインの差を調整する 149
音声の出力チャンネルを選択する..... 150
撮影データをパソコン／スマートフォンに取り込む 151
MP4クリップをパソコンに保存する 151
WAVファイルをパソコンに保存する..... 151
撮影データをスマートフォンに保存する..... 152
RAWクリップを現像する 152

7. ネットワーク 153

ネットワーク機能と接続方式 153
Wi-Fiで接続するとき 154
イーサネットで接続するとき 154
ネットワークの接続設定を行う 155
ネットワークを有効にする 155
ウィザードで新規に接続設定を行う 156
機能設定を行う 156
その他の接続方法で通信設定を行う 159
その他のネットワーク設定を行う 162
接続設定（SET）を確認／編集する 162
通信設定（NW）や機能設定（MODE）を確認／変更する 164
ネットワークの接続状態を確認する 167
クリップをFTPで転送する 168
1つのクリップを転送する 168
クリップをまとめて転送する 168
映像をストリーミングで送信する 169
ネットワーク機器でリモート撮影する 170
ブラウザーリモートを起動する 170
リモート撮影する 171
撮影データをスマートフォンに転送する 175

8. メニュー 176

メニュー一覧 176
カメラ設定メニュー 176
Custom Pictureメニュー 178
記録/メディア設定メニュー 178
オーディオ設定メニュー 180
モニタリング設定メニュー 181
アシスト設定メニュー 183
ネットワーク設定メニュー 185
アサインボタンメニュー 186
システム設定メニュー 186
マイメニュー 188

9. その他 189

ステータス画面を表示する 189
USB電源アダプターを使う 199
バッテリーグリップを使う 200
ボタンやダイヤルの操作 200
ワイヤレスファイルトランスミッターを使う 202
家庭用電源を使用するとき 202
ボタンやダイヤルの操作 204
トラブルシューティング 205
エラーメッセージ 211
取り扱い上のご注意 219
システム図 222
主な仕様 224
R5 C本体 224
バッテリーチャージャー LC-E6 227
バッテリーパック LP-E6NH 227
対応レンズと機能 228
動画の記録可能時間の目安 230
動画の連続撮影時間の目安 232
バッテリーの充電時間の目安 233
寸法図（単位：mm） 234
索引 235

はじめにお読みください

ご使用の前に、必ず本書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。万一、本製品が正常に動作しないときは、「トラブルシューティング」（🕮 205）をご確認ください。

使う前に知っておいてください

必ずためし撮りをしてください

実際の撮影条件で事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。万一、カメラが正常に動作しないときは、「トラブルシューティング」（🕮 205）をご確認ください。

記録内容の補償はできません

カメラや記録メディアなどの不具合により、記録や再生ができなかった場合であっても、記録内容の補償はご容赦ください。

著作権にご注意ください

録画・録音したビデオは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

撮影方法にご配慮ください

本製品の使用においては、プライバシー保護および肖像権等の権利侵害を防止する観点から、撮影方法に十分ご配慮ください。

LCDモニター、ファインダーおよび表示パネル画面について

画面は精密度の高い技術で作られています。99.99%以上の有効画素がありますが、まれに点灯しない画素や常時点灯する画素が発生することがあります。

CFexpressカードについて

カメラ内部の発熱により、CFexpressカードが熱くなっていることがあります。撮影直後にカードを取り出すと、やけどの原因になる恐れや、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。

アクセスランプについて

アクセスランプ（🕮 32）が赤色に点灯／点滅中は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。

- 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- メモリーカードカバーを開けない。

本機には、静止画モードと動画モードの2つのモードがあります

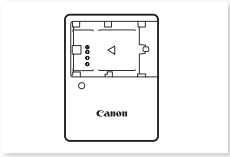
電源スイッチを「PHOTO」にすると、静止画モードになります。電源スイッチを「VIDEO」にすると、動画モードになります。
静止画モード対応ソフトウェアは、静止画モード時のみ使用できます。動画モード対応ソフトウェアは、動画モード時のみ使用できます。各ソフトウェアを使用時に静止画／動画モードを切り換えると、カメラとの接続が切れます。

本文中の表記

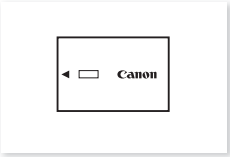
- ご注意 必ず守っていただきたいこと
- MEMO 知っておいていただきたいこと
- 🕮 参照ページ
- 参考 ▸▸ 参考になるページなど
- ファインダー
  ビューファインダーのこと
- 画面
  ファインダーまたはLCDモニターの画面のこと
- バッテリー
  付属または別売のバッテリーパックのこと
- SDカード
  SD / SDHC / SDXCメモリーカードのこと
- メモリーカード、またはカード
  CFexpressカード、またはSDカードのこと
- カメラモード
  動画撮影モードのこと
- メディアモード
  再生モードのこと
- RAW
  Cinema RAW Light形式で記録したRAWデータのこと
- 撮影用の機能は、とくに記載がないかぎりカメラモードで使用します。
- 本書で使用しているイラストには、レンズにRF24-105mm F4 L IS USMを取り付けています。また、作例写真はスチルカメラで撮影したものです。
- 本書では開発中の画面を使用して説明しています。そのため、実際の製品とは異なることがあります。
- 本書では、見やすくするために加工した画面を一部使用しています。

商品を確認する

本製品には、次のものが付属しています。ご使用になる前に足りないものはないか確認してください。また、別売のアクセサリーについては、「システム図」（🕮 222）をご覧ください。以降、本書中では、特に必要な場合を除いて、付属品／別売品の記載を行いません。

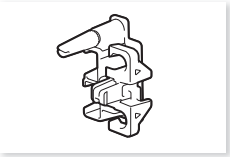


バッテリーチャージャー
LC-E6

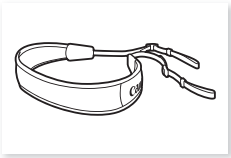


バッテリーパック
LP-E6NH
（保護カバー付き）

インターフェースケーブル
IFC-100U



ケーブルプロテクター



ショルダーストラップ
SS-1200

マルチアクセサリー
シューカバー
（本体装着）

ボディキャップ
（本体装着）

使用説明書

使用説明書について

製品に付属している冊子は、カメラの基本的な使い方をまとめた「使用説明書」です。
すべての使い方は、「詳細ガイド」で説明しています。詳細ガイドには、「静止画編」と「動画編（本書）」があります。

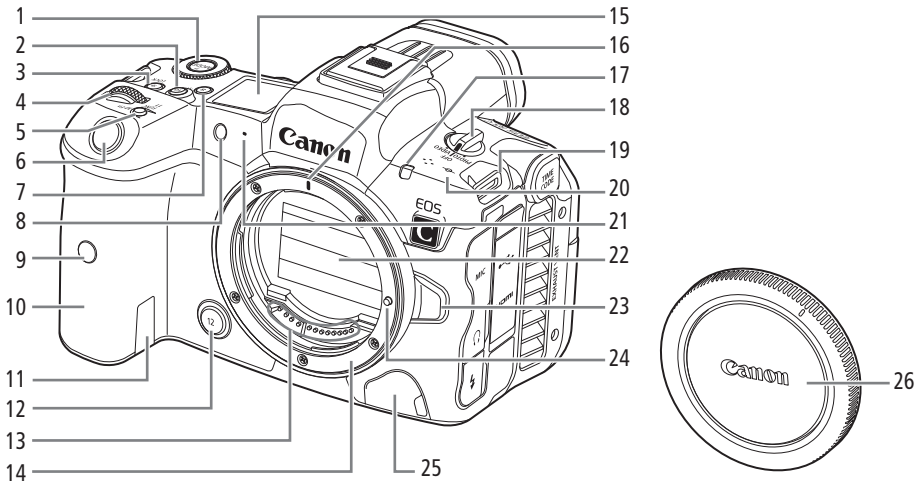
静止画編： 静止画モード時の使い方を説明しています。電源スイッチを〈**PHOTO**〉にすると、「静止画モード」になります。
動画編： 動画モード時の使い方を説明しています。電源スイッチを〈**VIDEO**〉にすると、「動画モード」になります。

最新の詳細ガイドは、下記のサイトでご確認ください。
https://cam.start.canon/

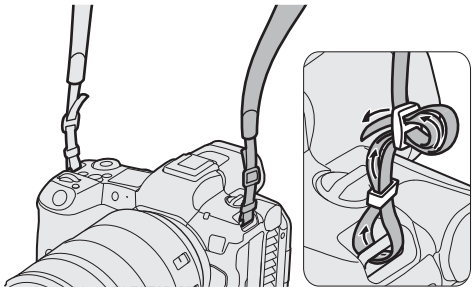
各部の名称

各部の機能と使いかたについては、▶▶ 🕮に記載されているページをご覧ください。なお、番号が付いているボタンはアサインボタンです（🕮 118）。

本体

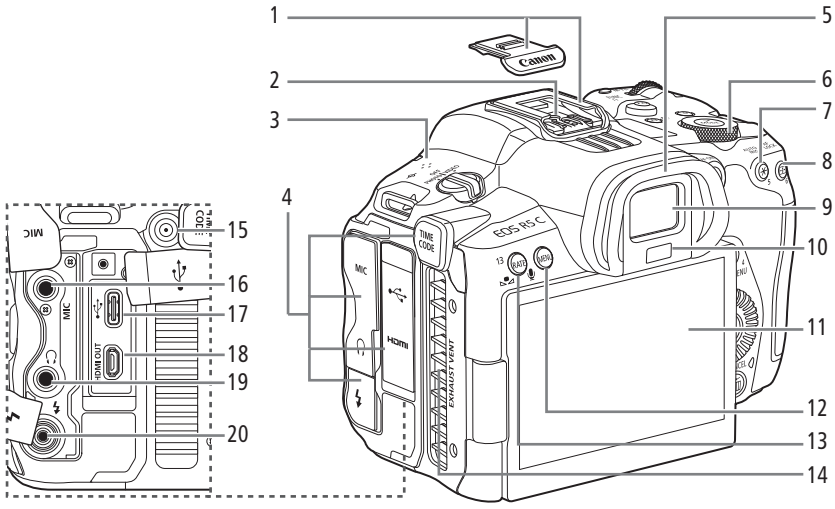


1 アサイン**7**ボタン*
2 アサイン**10**ボタン
「REC」を割り当て可能。（🕮 118）
3 **LOCK**（キーロック）／アサイン**9**ボタン*
4 グリップ電子ダイヤル* ▶▶ 🕮 72、76
5 **FUNC**（ファンクション）／アサイン**11**ボタン* ▶▶ 🕮 55
6 **REC**（記録開始／停止）ボタン* ▶▶ 🕮 44
7 ☼（表示パネル情報切り換え／照明）ボタン／アサイン**8**ボタン*
8 セルフタイマーランプ／AF補助光（静止画モード用）
9 リモコン受信部
10 グリップ（バッテリー室）▶▶ 🕮 14
11 DCカプラーコード通し部
12 アサイン**12**ボタン*
13 レンズ接点 ▶▶ 🕮 23
14 レンズマウント
15 表示パネル
16 RFレンズ取り付け指標 ▶▶ 🕮 23
17 電源ランプ／タリーランプ ▶▶ 🕮 44
18 電源スイッチ
VIDEO： 動画モードで起動
PHOTO： 静止画モードで起動
OFF： 電源OFF
19 ストラップ取り付け部
ショルダーストラップ SS-1200を取り付け、ストラップの長さを調節します。



20 ϕ撮像面マーク
21 マイク ▶▶ 🕮 98
22 シャッター幕／撮像素子
23 レンズロック解除ボタン ▶▶ 🕮 23
24 レンズロックピン
25 リモコン端子
26 ボディキャップ

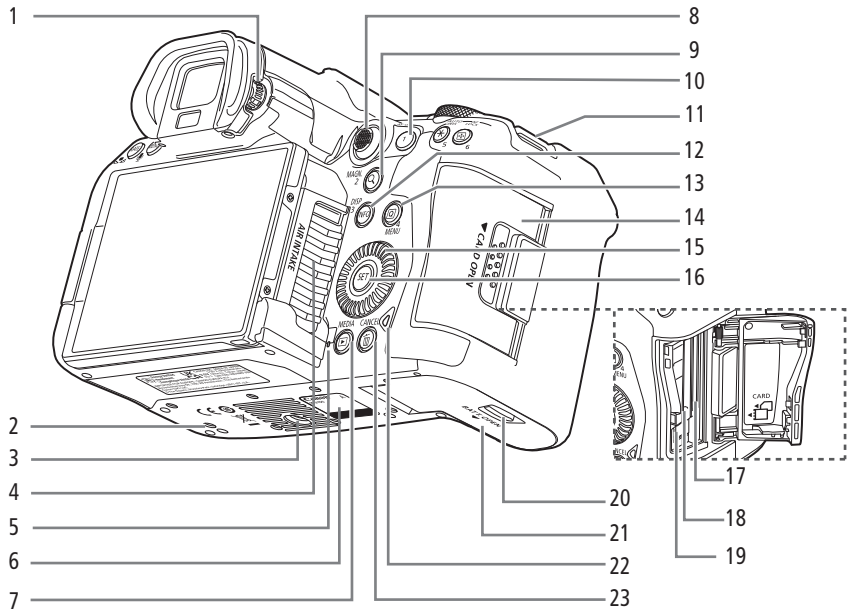
* 静止画モードでは、名称や機能が異なります。



1 マルチアクセサリーシュー（シューカバー有り）
2 シンクロ接点
3 スピーカー ▶▶ 🕮 136
4 端子カバー
5 アイカップ
6 上面電子ダイヤル* ▶▶ 🕮 73、76
7 **AUTO IRIS**（オートアイリス）／アサイン**5**ボタン* ▶▶ 🕮 77、118
8 **AF LOCK**（AFロック）／アサイン**6**ボタン* ▶▶ 🕮 86、118
9 ファインダー接眼部
10 アイセンサー *
11 モニター ▶▶ 🕮 16
12 **MENU**（メニュー）ボタン ▶▶ 🕮 18
13 （ホワイトバランスセット）／アサイン**13**ボタン ▶▶ 🕮 79、118
「REC」を割り当て可能。（🕮 118）
14 **EXHAUST VENT**（排気口）▶▶ 🕮 41
15 **TIME CODE**端子 ▶▶ 🕮 96
16 **MIC**（マイク）端子 ▶▶ 🕮 99
17 （デジタル）端子
- 別売のUSB電源アダプター PD-E1やGPSレシーバー GP-E2を接続する。

18 **HDMI OUT**端子 ▶▶ 🕮 144
19 （ヘッドホン）端子 ▶▶ 🕮 102
20 シンクロ端子（静止画モード用）

* 静止画モードでは、名称や機能が異なります。



1 視度調整つまみ ▶▶ 🕮 29
2 アクセサリー位置決め穴
3 三脚用ネジ穴
4 **AIR INTAKE**（吸気口）▶▶ 🕮 41
5 音声メモ用マイク（静止画モード専用）
6 シリアル番号（機番）
7 **MEDIA**（メディア）ボタン* ▶▶ 🕮 132
- カメラモードとメディアモードを切り換える。

8 ジョイスティック* ▶▶ 🕮 18
- 上下左右と斜めの全8方向の移動操作と、垂直に押し込む決定操作が可能。

9 **MAGN.**（拡大）／アサイン**2**ボタン* ▶▶ 🕮 84、118
10 **AF-ON**（ワンショットAF）／アサイン**1**ボタン* ▶▶ 🕮 84、118
11 ストラップ取り付け部
12 **DISP**（ディスプレイ）／アサイン**3**ボタン* ▶▶ 🕮 46、118
13 **MENU**（メニュー）／アサイン**4**ボタン* ▶▶ 🕮 18、118
14 メモリーカードカバー（カードスロットカバー）▶▶ 🕮 32
15 SELECT（選択）ダイヤル* ▶▶ 🕮 18
16 **SET**（設定）ボタン ▶▶ 🕮 18
17 カードスロット 2（SDカード）▶▶ 🕮 32
18 カードスロット 1（CFexpressカード）▶▶ 🕮 32
19 カード取り出しボタン▶▶ 🕮 33
20 バッテリー収納部ふたロック▶▶ 🕮 14
21 バッテリー収納部ふた▶▶ 🕮 14
22 アクセスランプ ▶▶ 🕮 32
23 **CANCEL**（キャンセル）ボタン* ▶▶ 🕮 18

ご注意

- ネジの長さがネジ穴の深さを超える三脚などのアクセサリーを使用すると、カメラ本体を破損することがあります。

* 静止画モードでは、名称や機能が異なります。

電源を準備する

電源は、バッテリーまたはコンセントから供給できます。
本機に装着するレンズとアクセサリー、使用する記録設定の組み合わせで、撮影に必要な電源の種類を事前に確認できます（電源ナビゲーション 26）。

バッテリーを使う

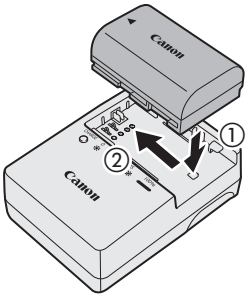
本機は、バッテリーパックLP-E6NH（またはLP-E6N、LP-E6）を使用できます。バッテリーを初めて使うときは、一度充電完了まで充電してから使い切ってください。

充電する

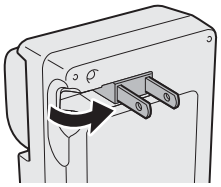
バッテリーチャージャー LC-E6を使って充電します。バッテリーを使うときは、ショート防止用端子カバー（保護カバー）を取り外します（219）。

1 バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける

- 取り外しは逆の手順で行う。

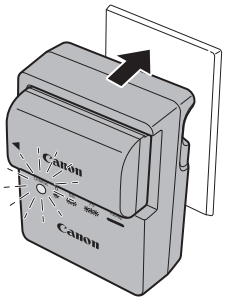


2 電源プラグを起こす



3 電源プラグをコンセントに差し込む

- 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅する。



充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～49%	オレンジ	1秒ごとに点滅
50～74%		1秒ごとに2回点滅
75%以上		1秒ごとに3回点滅
充電完了	緑	点灯

ご注意

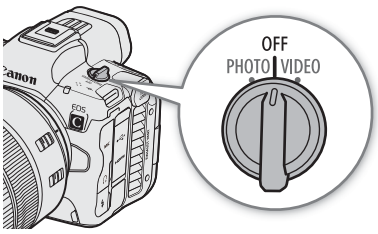
- バッテリーチャージャーに指定された製品以外を接続しないでください。
- 充電器をコンセントから取り外したときは、10秒程度、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6以外は充電できません。

MEMO

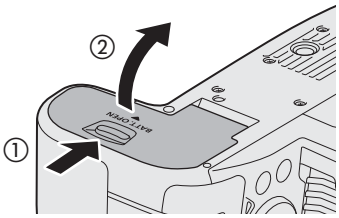
- 使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温（+23°C）で約3時間です。なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5°C～+10°C）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。
- 購入時、バッテリーはフル充電されていません。充電してからお使いください。
- バッテリーの取り扱いについては、219ページをご覧ください。
- バッテリーの充電時間は233ページを、使用時間の目安は232ページをご覧ください。
- フル充電したバッテリーも少しずつ放電します。使用直前に充電することをおすすめします。
- 充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜いてください。
- カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておいてください。バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です。バッテリーの劣化度を確認した上で、新しいバッテリーをお買い求めください。
- バッテリーは、充放電を繰り返すと少しずつ劣化して容量が少なくなります。本機に取り付けたバッテリーの寿命は、システム設定ステータス画面（🕮 194）で確認できます。寿命をより正確に確認するには、バッテリーを充電してから使い切ってください。

本体に取り付ける

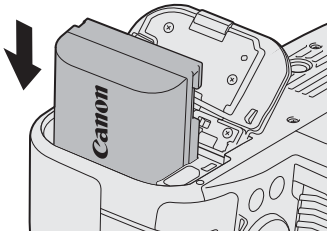
1 本機の電源を切る



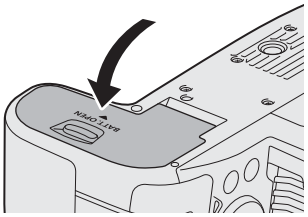
2 バッテリー収納部ふたロックをスライドして（①）、ふたを開ける（②）



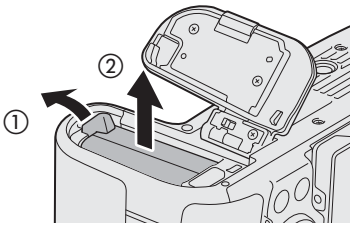
3 バッテリーを入れる
- バッテリー接点の方から入れる。
- ロック位置までしっかりと入れる。



4 ふたを閉める
- カチッと音がするまで、ふたを押して閉じる。



本体から取り外す



1 本機の電源を切る

2 ふたを開けて、バッテリーを取り出す

- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し（①）、バッテリーを取り出す（②）。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバーを取り付ける。

ご注意

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6NHの使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

MEMO

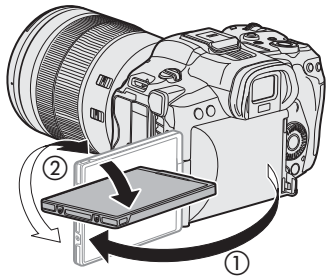
- 撮影／再生可能時間（分）とバッテリー残量（%）は一致しないことがあります。
- 動画モードのバッテリー残量と、静止画モードのバッテリー残量や付属の充電器の充電ランプ表示は異なります。
- 本機やバッテリーの状態により、撮影／再生可能時間（分）とバッテリー残量（%）が急に減ることがあります。
- 撮影／再生可能時間（分）とバッテリー残量は目安です。

コンセントにつないで使う

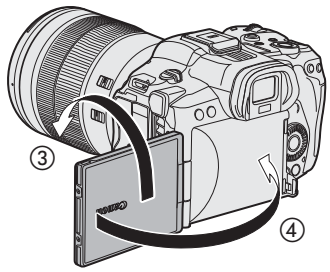
別売のDCカプラー DR-E6CとACアダプター CA-946を使って、本機をコンセントにつないで使用できます。接続のしかたについては、各アクセサリーの使用説明書をご覧ください。

LCDモニターを使う

LCDモニターの使いかたを説明します。LCDモニターは下図のように向きを調整して使用できるほか、明るさやコントラストなどの画質設定を行うこともできます。また、タッチパネルを搭載しているため、タッチ操作で被写体を選んだり、ダイレクトタッチコントロールで設定を行ったりすることができます。



LCD モニターを手前に引き出し（①）、見やすい角度に調整する（②）



画面を被写体側に向けたあと（③）、元の位置にもどす（④）ことも可能

MEMO

- LCDモニターは、明るさ、コントラスト、カラー、シャープネス、輝度の各項目を、MENU > モニタリング設定メニュー（181）で変更できます。なお、この設定は記録される映像には影響しません。
- カメラモードの場合、MENU > モニタリング設定 >「白黒: LCD」で画面の映像を白黒に変更できます。なお、アイコンなどの画面表示（46）はカラーで表示されます。
- LCDモニターのタッチパネルの応答性は、MENU > システム設定 >「タッチ操作レスポンス」で変更できます。
- LCDモニターの画面を相手に見せながら撮影するときなどは、MENU > モニタリング設定 >「LCD対面ミラー」を「入」にすると、画面を左右に反転して表示させることができます。
- LCDモニターの取り扱いについては219ページを、お手入れについては221ページをご覧ください。

日時を設定する

初めて電源を入れたときや本機をリセットした後は、日付と時刻の設定が必要です。設定操作に使うボタンなどの使いかたを、「メニューで設定を変える」（🕮 18）の図で確認して、設定してください。

1 ジョイスティックまたはSELECT（選択）ダイヤルでタイムゾーン* を選び、SET（設定）ボタンを押すかジョイスティックを垂直に押して決定する

- カーソルが次の項目に移動する。
- 画面の▲／▼をタッチして設定値を選ぶこともできる。
- ジョイスティックを左右に押す、または画面の各項目をタッチしても、カーソルを移動できる。

* 協定世界時（UTC）

2 1の操作を繰り返して、日付と時刻を設定する

3 カーソルが一番右の「セット」にある状態で、時報に合わせてSET（設定）ボタンを押す

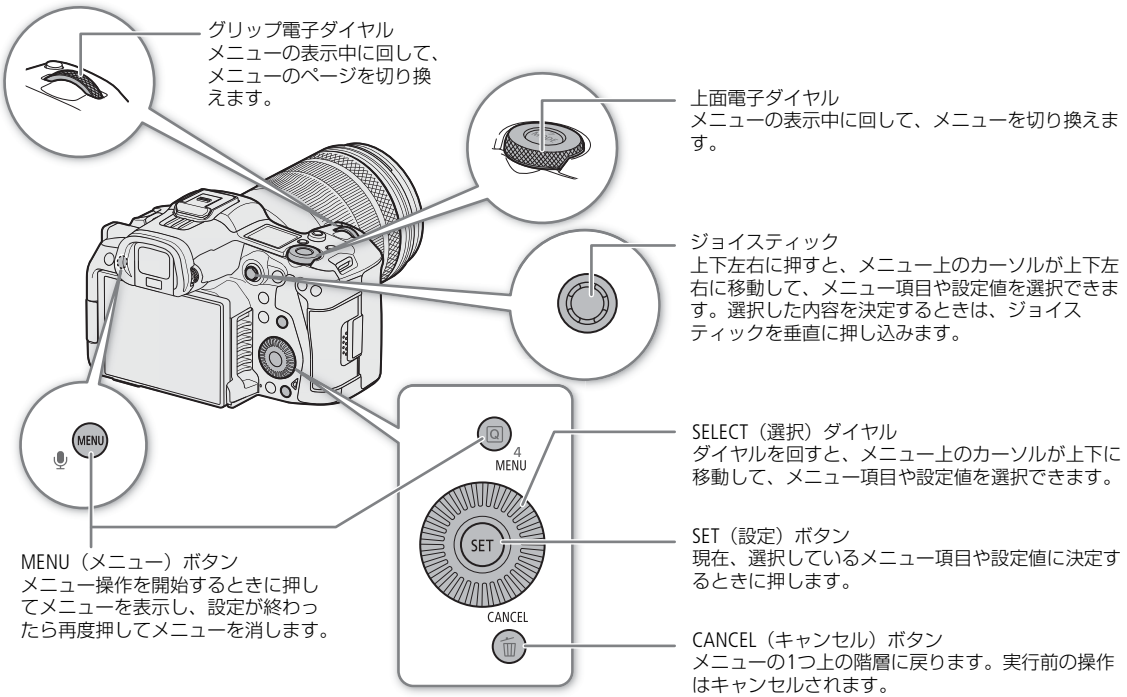
- 時報に合わせて画面の「セット」をタッチして決定することもできる。

MEMO

- MENU > モニタリング設定 >「Custom Display 2」または「Custom Display」>「日付/時刻」で、画面に日時を表示できます。
- 設定は、MENU > システム設定 >「タイムゾーン」または「日付/時刻」で変更できます。
- 動画モードで設定した日付と時刻は、静止画モードにも反映されます。
- MENU > システム設定 >「リセット」>「全設定」で、本機の動画モードの設定をリセットすると、静止画モードの日時設定もリセットされます
- 本機を3ヶ月近く使わないと、内蔵の充電式リチウム電池が放電して日時の設定が解除されることがあります。そのときは、内蔵のリチウム電池を充電してから設定し直してください（🕮 220）。
- GPSレシーバー GP-E2を使用すると、GPSから得られる時刻情報を本機に自動で設定できます（🕮 187）。

メニューで設定を変える

本機のさまざまな機能をメニューによって設定できます。また、よく使うメニュー項目をあらかじめマイメニューに登録して設定することもできます。メニューの設定項目については「メニュー一覧」（🕮 176）をご覧ください。



メニュー操作の基本

ここではメニュー設定の基本操作について説明します。本書の各項目で説明されているメニュー設定を操作するときの参考にしてください。

1 MENUボタンを押す

- 画面にメニューが表示され、いずれかのメニューアイコンが選択状態（オレンジ色）になる。
- メニューアイコンが選択状態になっていないときは、ジョイスティックを上に押すか、CANCELを押して、アイコンの背景をオレンジ色にする。
- メニューは、最後にメニューを消した時の状態が保持されたまま、表示される（電源をオフ／オンすると初期状態に戻る）。

2 ジョイスティックを左右に押して、設定するメニューを選ぶ

- 上面電子ダイヤルで操作することもできる。
- メニューアイコンをタッチして選ぶこともできる。

3 ジョイスティックを垂直に押すかSETボタンを押して、設定するメニューを決定する

- 選んだメニューの先頭ページの先頭項目にカーソルが移動する。
- ジョイスティックを下に押して、カーソルをメニュー項目に移動することもできる。
- ページやメニュー項目をタッチして移動することもできる。
- 以降、この決定操作を「SETを押す」と記載する。

4 設定するメニュー項目を選び、SETを押す

ジョイスティックの操作

- 左右に押すとページが切り換わり、ページの端を超えると次または前のメニューに移動する（グリップ電子ダイヤルでも同様）。
- 上下に押すとページ内のメニュー項目上をカーソルが移動する。

SELECTダイヤルの操作

- ダイヤルを回すとページ内のメニュー項目上をカーソルが移動し、メニュー項目の端を超えると次または前のページに移動する。
- ページの端を超えると、次または前のメニューに移動する。

画面上のタッチ操作

- 画面を左右にフリックしてページを切り換えることもできる。
- 画面のメニュー項目を上下にドラッグしても、カーソルを移動できる。また、設定するメニュー項目のところで指を離して選ぶこともできる。

5 ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して設定内容を選び、SETを押す

- 選択中は現在選んでいる設定内容に◗が表示される。SETを押すと決定され、上の階層に戻る。
- 表示しきれないメニュー項目があるときは、メニューの右端にスクロールバーが表示される。カーソルを上下に移動するとメニューがスクロールする。
- 画面の設定内容をタッチして決定することもできる。
- 「CANCELボタンを押す」*、「↩を選んでSETを押す」のいずれかを行うと、カーソルが1つ上の階層に戻る。
  * 以降、この操作を「CANCELを押す」と記載する。

6 MENUボタンを押してメニューを消す

- MENUボタンを押すと、メニューはいつでも終了する。

MEMO

メニュー階層の表記のしかた

操作説明中のメニュー階層は次のように表記します。

例：MENU > システム設定 >「日時スタイル」> いずれかを選ぶ

「～を選ぶ」は、「ジョイスティックを上下左右に押すかSELECTダイヤルを回して対象を選び、SETを押す」操作を示す。

- 他の機能の設定内容などによって設定できない項目は、灰色で表示されることがあります。
- 操作ガイドとして画面にSET、CANCEL、MENUが表示されることがあります。このときはガイドに応じて、それぞれ、ジョイスティックやCANCELボタン、MENUボタンを押す、または画面のガイドをタッチしてください。
- 現在の設定内容の一部を、ステータス画面で確認できます（🕮 189）。
- MENU > システム設定 >「電子ダイヤル FUNC/MENU操作」を「無効」にすると、グリップ電子ダイヤルと上面電子ダイヤルによるメニュー操作を無効にできます。無効の場合、メニューアイコンにカーソルがあるときは、SELECTダイヤルでメニューの切り換えができます。

マイメニューを使う

カメラモードでよく使うメニュー項目をあらかじめマイメニューに登録しておき、必要なときに簡単に設定することができます。マイメニューは、1ページにメニュー項目を6個、全5セット（ページ）登録できるので、用途に応じて使い分けることができます。アサインボタン（🕮 118）にマイメニューを割り当てておけば、1ボタン操作でマイメニューを開くこともできます。

マイメニューを登録する

1 MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 >「編集」>「登録」を選ぶ
- マイメニューに登録するメニュー項目を選ぶ画面が表示される。
- 登録を中止するときは、CANCELを押す。

2 メニュー項目を選ぶ

3「OK」を選ぶ
- 登録したメニュー項目がマイメニューに表示される。

登録したメニュー項目を並べ換える

1 MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 >「編集」>「並べ換え」を選ぶ

2 並び換えるメニュー項目を選ぶ
- 選んだメニュー項目の左に ⇕ が表示される。

3 メニュー項目を移動して、SETを押す

登録したメニュー項目を消去する

1 MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 >「編集」>「消去」を選ぶ

2 消去するメニュー項目を選ぶ >「OK」を選ぶ

登録したメニュー項目をすべて消去する

現在選択しているマイメニューに登録したメニュー項目をすべて消去できます。

MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 >「編集」>「設定初期化」>「OK」を選ぶ

マイメニューの名前を変更する

5セットのマイメニューにそれぞれ名前を付けておくと、マイメニューを識別するときに便利です。

1 MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 >「編集」>「メニュー名変更」を選ぶ

2 8桁の任意の英数字記号を入力する

文字入力のしかた

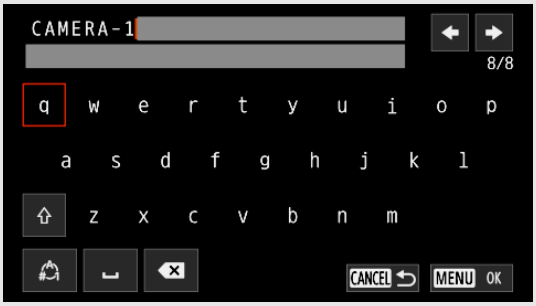
文字を入力するための画面は、キーボード画面と文字入力画面の2つがあります。画面と入力可能な文字は、操作している設定項目によって異なります。

キーボード画面で入力する

1 画面上のキーをタッチして文字を入力する

- 入力した文字が画面上部の入力エリアに表示される。

キー	説明
⬅／➡	入力エリアのカーソル移動
⇧	Shiftキー
#／A↔1	文字種切り換え
␣	Spaceキー
⌫	Back Spaceキー



- SELECT（選択）ダイヤルやジョイスティックで文字を選択し、SETを押して入力することもできる。

2「OK」をタッチすると入力が確定する

文字選択画面で入力する

入力操作はSELECT（選択）ダイヤルやジョイスティックで行います。

1 文字を選び、SETを押して決定する

- カーソルが次の項目に移動する。
- ジョイスティックを左右に押しても、カーソルを移動できる。
- 画面の▲／▼を押して文字を選んだり、文字を押してカーソルを移動したりすることもできる。
- 同じ要領で残りの文字を入力する。

2「セット」を選び、SETを押すと入力が確定する

- 画面の「セット」をタッチして入力を確定することもできる。
- 入力を中止するときは、CANCELを押す。

撮影設定をロックする（キーロック）

本体のスイッチやボタン*の操作を無効にして、誤操作を防止できます。キーロックで本機の操作を無効にしているときでも、ブラウザーリモートからは操作できます。電源を切るとキーロックは解除されますが、電源を入れ直しても解除しないようにすることもできます。

* 初期設定では、RECボタン以外。RECボタンを無効にすることもできます。

LOCK（キーロック）ボタンを押す

- 画面に「🔒」、表示パネルに「LOCK」が表示される。
- 解除するときは、再度LOCKボタンを押す。

キーロックの設定を変更する

MENU > システム設定 >「キーロック」>「すべてのボタン」または「RECボタン以外」を選ぶ

- 「すべてのボタン」を選ぶと、RECボタンも無効になる。

電源オフ／オン時にキーロックの設定を保持する

MENU > システム設定 >「電源オフ時のキーロック保持」>「入」を選ぶ

MEMO

- 次の場合、「電源オフ時のキーロック保持」を「入」にしてもキーロックの設定は保持されません。
  - アサインボタンに「キーロック」が割り当てられていないとき

カメラを準備する

ここではレンズの取り付け／取り外しやファインダーの調整など、初めに行うカメラの準備について説明します。

レンズを準備する

レンズの取り付け／取り外しは、ほこりの少ない場所で素早く行ってください。本機のRFレンズマウントにマウントアダプターを装着すれば、EFレンズを取り付けることもできます。取り付けるレンズ／マウントアダプターの説明書も併せてご覧ください。
本機に装着するアクセサリー、使用する記録設定、電源の種類の組み合わせで、使用可能なレンズを事前に確認できます（電源ナビゲーション🕮 26）。

ご注意

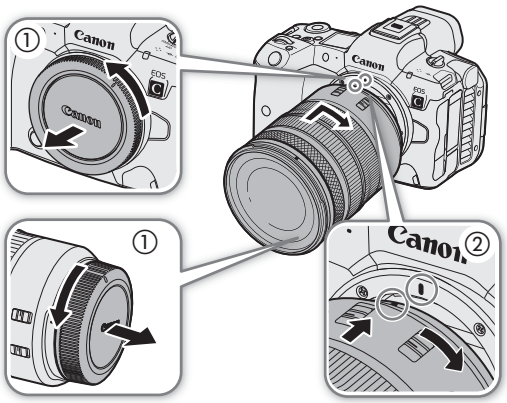
- レンズの取り付け／取り外しは、直射日光や強い照明を避けて行ってください。また、カメラやレンズを落とさないようにご注意ください。

MEMO

- **レンズを取り外したとき：**
  - レンズ／カメラ本体のレンズマウント、レンズマウントの内部に手を触れない。
  - カメラ本体のレンズマウントにボディキャップを、レンズにダストキャップを取り付けてください。キャップはゴミやほこりを落としてから使用してください。

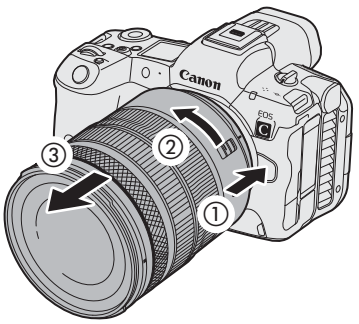
レンズを取り付ける

1 本機の電源を切る
2 レンズマウントからボディキャップを、レンズからダストキャップを取り外す（①）
3 本機とレンズの取り付け指標を合わせ、レンズを図のようにカチッと音がするまで回して、レンズを取り付ける（②）
   - レンズマウントとレンズの赤い取り付け指標を合わせる。



レンズを取り外す

1 本機の電源を切る
2 レンズロック解除ボタンを押しながら（①）、レンズを図のように回転が止まるまで回す（②）
3 レンズを取り外す（③）
4 レンズマウントにボディキャップを、取り外したレンズにダストキャップを取り付ける



MEMO

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズを使用する場合、手ブレ補正をONにするとバッテリーの持ちが悪くなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正をOFFにすることをおすすめします。
- 取り付けたレンズによっては、次の動作になることがあります。
  - レンズ型名情報の一部が省略されて表示される。
  - EFレンズのフォーカスモードスイッチがAFのときに手動でフォーカス調整できない。
  - EFレンズでフォーカスプリセットが動作しない（超望遠レンズ）。
  - EFレンズに搭載されたパワーズーム機能が使用できない。
- 本機のセンサーサイズは、RF-S／EF-Sレンズが対応するサイズ（APS-C）より大きいため、RF-S／EF-Sレンズを装着すると、ケラレが発生することがあります（🕮 177）。
- レンズのフォーカスモードスイッチをAFにして電源を切ると、自動的にレンズの全長を最短に収納できます（対応レンズのみ。🕮 188）。

マウントアダプター EF-EOS R 0.71xを使用する

- 本機のセンサーモードがSuper 35mm（Crop）またはSuper 16mm（Crop）のとき、本機に、EF-EOS R 0.71xとこれに対応するEFレンズを装着すると、フルフレーム相当の画角の映像を撮影することができます。また、オートフォーカスや周辺光量補正、倍率色収差補正が使用できます。対応レンズについては、キヤノンのホームページでご確認ください。

  * 本機のセンサーモードを「フルサイズ」にすると、ケラレが発生します。
- マウントアダプター EF-EOS R 0.71xを使用してEFレンズを取り付けると、AF範囲を制限する枠が表示されるレンズがあります。

レンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターのファームウェアを更新する

本機に取り付けたレンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターのファームウェアを更新することができます（カメラモードのみ）。最新のファームウェアについては、キヤノンのホームページでご確認ください。以下は、レンズの場合を例に説明します。

1 レンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターのファームウェアをキヤノンのサイトからダウンロードしてSDカードのルートフォルダーに保存し、SDカードを本機（スロット2）に入れる（🕮 32）

2 ファームウェアを更新するレンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターを取り付けたあと、本機をカメラモードで起動する

- マウントアダプター／パワーズームアダプターのファームウェアを更新するときは、レンズも取り付ける。

3 MENU > システム設定 >「Firmware」>「レンズ」、「マウントアダプター」または「パワーズームアダプター」を選ぶ

- 取り付けているレンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターのバージョン情報が画面に表示される。
- メニュー項目が灰色になっていて選べないときは、取り付けたレンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターがファームウェアの更新に対応していないか、本機に入れたSDカードにファームウェアが保存されていない。レンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターやSDカードを確認して再度操作1から操作する。

4「OK」を選ぶ

5 ファームウェアの更新ファイル（XXX.LFUまたはXXX.AFU）を選ぶ

6「OK」を選ぶ

- ファームウェアの更新が開始される。ファームウェアの更新は中止できない。

7 更新が完了したら、SETを押す

ご注意

- ファームウェアの更新中は次のことを必ず守ってください。
  - 電源を切らない。バッテリーや電源機器を取り外さない。
  - レンズ／マウントアダプター／パワーズームアダプターを取り外さない。
  - 他のボタンを操作しない。
  - メモリーカードカバーを開けて、SDカードを取り出さない。

MEMO

- プレ記録中はファームウェアの更新を行うことができません。
- DCカプラーとACアダプターを使ってコンセントにつなぐ、または十分に充電したバッテリーを装着して操作してください。
- エクステンダー EFを装着しているときは、取り外してから操作してください。

レンズの周辺光量、色収差、回折、歪曲収差を補正する

レンズの特性により、映像の四隅の明るさが中央部に比べて暗くなる（周辺光量の低下）、映像の周辺部に色ずれや色にじみが発生する（色収差）、映像の先鋭さが低下する（回折）、映像がゆがむ（歪曲収差）などの現象が見られますが、補正することができます。周辺光量の低下と色収差は、レンズごとの補正データを用いて補正できます。
L.C.A.C.*に対応する放送用レンズ装着時は、色収差を補正できます。なお、RAW 形式で撮影したRAW クリップは、色収差と回折を補正できませんが、RAW クリップの撮影と同時にプロキシ動画を記録するときは、プロキシクリップに色収差と回折の補正を行うことができます。
歪曲収差は対応するRFレンズのみ補正できます。
* 色収差補正。Lens Chromatic Aberration Correctionの略。

1 レンズを取り付けたあと、電源スイッチを「VIDEO」にする

2 MENU > カメラ設定 >「周辺光量補正」、「色収差補正」、「回折補正」、「歪曲収差補正」のいずれかを選ぶ
- 取り付けているレンズの補正データが本機にないときは、「周辺光量補正」／「色収差補正」が灰色になっていて選べない。レンズがこれらの補正に対応しているかキヤノンのホームページで確認し、対応している場合はファームウェアをダウンロードして、本機のファームウェアを更新し、再度操作1から操作する。
- 取り付けているレンズに歪曲収差補正の補正データが格納されていないときは、「歪曲収差補正」が灰色になって選べない。

3「入」を選ぶ
- 以降の撮影時に補正を行う。

MEMO

- **レンズごとの補正データについて：**
  本機発売時点で販売している周辺光量／倍率色収差補正対応レンズ（一部を除く）の補正データは、あらかじめ本機に格納しています。将来発売されるレンズの補正データについては、補正データを含むファームウェアで本機のファームウェアを更新することによって、本機に取り込むことができます。最新のファームウェアについては、キヤノンのホームページでご確認ください。
- 周辺光量／色収差の補正ができない場合：
  - レンズの補正データが本機に格納されていないとき。
  - 他社製レンズを装着しているとき。他社製レンズを装着して各補正を「入」に設定できる場合でも、「切」にすることをおすすめします。
- レンズの現在の絞り値が取得できないときは、回折の補正ができません。
- 周辺光量補正／回折補正を行うとき：
  - 撮影条件によっては、記録される映像の一部にノイズが発生することがある。
  - 距離情報を持たないレンズでは、周辺光量の補正量が少なくなる。
  - ISO感度／ゲインが高くなるほど、補正量が少なくなる。
  - RF-S／EF-Sレンズのときは、周辺光量の低下が大きくなることがある。

省電力モードを使用する

省電力モードを使用すると、一部の機能を制限してカメラの消費電力を減らし、バッテリーの持ちをよくすることができます。

MENU＞システム設定＞「省電力モード」＞「入」を選ぶ

省電力モードのときに使用できない機能／設定

項目（画面の表示）	使用できない機能／設定
「RAW」	「メイン記録形式」（178）の「RAW HQ」、「RAW ST」、「RAW LT」、「HDMI RAW」
「7680 x 4320以上の解像度」	「メイン解像度/ビットレート」（178）の「8192x4320」、「7680x4320」
「XF-AVC Intra 3840x2160以上でのSlow & Fastモーション」（「Slow & Fastモーション」）	「メイン記録形式」（178）がXF-AVC形式で、「メイン解像度/ビットレート」（178）が「3840x2160 Intra-frame」または「4096x2160 Intra-frame」のときの、MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「Slow & Fastモーション」、「Slow & Fastモーション/音声(WAV)」
「LCD/VF輝度」	MENU > モニタリング設定 >「LCD輝度」、「VF輝度」
「LCD/VFのHDRアシスト」（「HDRアシスト」）	MENU > モニタリング設定 >「ビューアシスト選択: LCD」、「ビューアシスト選択: VF」>「HDRアシスト(1600%)」、「HDRアシスト(400%)」
「ネットワーク機能」	MENU > ネットワーク設定 >「ネットワーク」>「有効」
「カメラから給電するアクセサリー」	カメラ本体から給電するマルチアクセサリーシュー対応アクセサリー
「PTP接続/GP-E2以外のUSBモード」	MENU > システム設定>「USBモード」>「映像出力（UVC）」、「iPhone Canonアプリ」

撮影に必要な電源の種類を確認する（電源ナビゲーション）

本機に装着するレンズとアクセサリー、使用する記録設定（記録形式とフレームレート）と電源の組み合わせで、撮影可能な条件*を事前に確認できます。

* 省電力モードを「切」にして撮影するときの条件。

電源の種類：バッテリーパック、USB電源アダプター PD-E1、DCカプラー DR-E6C

電源を確認する

1 MENU＞システム設定＞「電源ナビゲーション」＞「必要な電源を確認する」を選ぶ

2 レンズの種別を選ぶ

3 記録形式とフレームレートの組み合わせを選ぶ（複数選択可）

- 必要な電源構成が表示される。

記録設定を確認する

1 MENU＞システム設定＞「電源ナビゲーション」＞「使用可能な記録設定を確認する」を選ぶ

2 レンズの種別を選ぶ

3 電源の種類を選ぶ

- 市販のマルチアクセサリーシュー対応アクセサリー（XLRマイクアダプター）を使用する場合、カメラから給電するときはチェックボックスに✓を付ける。
- 使用可能な記録形式／フレームレートが表示される。

RFレンズ／EFレンズの使用可能な記録設定と電源の組み合わせ

その他の電源：USB電源アダプター PD-E1またはDCカプラー DR-E6C

センサーモード	メイン記録形式	メイン解像度	システム周波数／フレームレート[*1] 上段：59.94 Hz 中段：50.00 Hz 下段：24.00 Hz	バッテリーパック使用時[*2]		その他の電源
				アクセサリー（市販）への		
				給電あり	給電なし	
フルサイズ	RAW ST	8192x4320	– 26-30 25-30	–	–	●[*3]
			1-30 1-25 1-24	●	●	●
	RAW LT		31-60 26-60 25-60	–	–	●[*3]
			1-30 1-25 1-24	●	●	●
	HDMI RAW		29.97、23.98 25.00 24.00	●	●	●
	MP4 (HEVC)	8192x4320 7680x4320	1-30[*4] 1-25 1-24	●	●	●
		4096x2160 3840x2160 2048x1080 1920x1080	31-120 26-120 25-120	●[*5]	●	●
			1-30 1-25 1-24	●	●	●
		1280x720	59.94 50.00 –	●[*5]	●	●
	XF-AVC MP4 (H.264)	4096x2160 3840x2160 2048x1080 1920x1080	31-120 26-120 25-120	●[*5]	●	●
			1-30 1-25 1-24	●	●	●
		1280x720	59.94 50.00 –	●[*5]	●	●

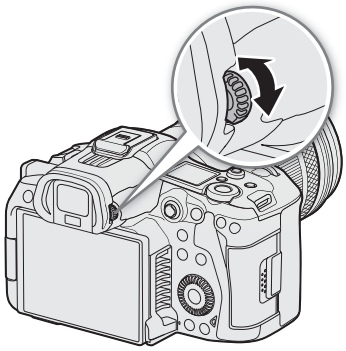
センサーモード	メイン記録形式	メイン解像度	システム周波数／フレームレート*1 上段：59.94 Hz 中段：50.00 Hz 下段：24.00 Hz	バッテリーパック使用時*2		その他の電源
				アクセサリー（市販）への		
				給電あり	給電なし	
Super 35mm（Crop）	RAW HQ	5952x3140	— 26-30 25-30	—	●*5	●
			1-30 1-25 1-24	●	●	●
	RAW ST RAW LT		31-60 26-60 25-60	—	●*5	●
			1-30 1-25 1-24	●	●	●
	HDMI RAW		59.94 50.00 —	—	●*5	●
			29.97、23.98 25.00 24.00	●	●	●
	XF-AVC MP4 (HEVC) MP4 (H.264)	4096x2160 3840x2160	31-60 26-60 25-60	●*5	●	●
			1-30 1-25 1-24	●	●	●
		2048x1080 1920x1080	31-120 26-120 25-120	●*5	●	●
			1-30 1-25 1-24	●	●	●
		1280x720	59.94 50.00 —	●*5	●	●
Super 16mm（Crop）	RAW HQ RAW ST RAW LT	2976x1570	1-120	●	●	●
	HDMI RAW		59.94、29.97、23.98 50.00、25.00 24.00	●	●	●
	XF-AVC MP4 (HEVC) MP4 (H.264)	2048x1080 1920x1080	1-120	●	●	●
		1280x720	59.94 50.00 —	●	●	●

*1 スロー &ファストモーション記録モードで撮影可能なフレームレートの値は、🕮110を参照してください。
*2 バッテリーパックを使用する場合、市販のマルチアクセサリーシュー対応アクセサリーを装着時にカメラ本体からアクセサリーに給電する（アクセサリー給電あり）、または給電しない（アクセサリー給電なし）場合で異なる。
*3 EFレンズと市販のマルチアクセサリーシュー対応アクセサリーを装着し、カメラ本体からアクセサリーに給電する場合、DCカプラーのみ使用できる。
*4 フレームレートが23.98Pのとき、スロー &ファストモーション記録モード時の撮影フレームレートは24まで設定できる。
*5 EFレンズを装着時は使用できない。また、RFレンズを装着時はレンズによって使用できないことがある。

ファインダーを使う

本機のファインダーは有機ELパネルを採用しており、ファインダーをのぞくと自動的に点灯し、のぞくのをやめると自動的に消灯します。

本機の電源を入れて、視度調整つまみを左右に動かして調整する



MEMO

- ファインダーとモニターを同時に表示することはできません。
- ファインダーは、明るさ、コントラスト、カラー、シャープネス、輝度の各項目を、MENU > モニタリング設定メニュー（181）で変更できます。
- カメラモードの場合、MENU > モニタリング設定 >「白黒: VF」で画面の映像を白黒に変更できます。なお、アイコンなどの画面表示（46）はカラーで表示されます。
- 画面の明るさを調整しても、記録される映像の明るさには影響しません。

画面の表示先を設定する

LCDモニターを使用時、意図せず接眼センサーが反応してしまうことを防ぐために、画面の表示先を設定することができます。

MENU > モニタリング設定 >「画面の表示先設定」>いずれかを選ぶ

オート1（時LCD固定）：	LCDモニターが開いている（バリアングルが開いている状態）とき、常にモニター表示になる。LCDモニターを被写体側に向けて閉じたとき（バリアングルを閉じている状態）のみ、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わる。
オート2（時も自動切り換え）：	常にモニター表示を行い、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わる。
LCD固定：	常にモニター表示になる。LCDモニターを閉じているときのみ、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わる。
VF固定（アイセンサー入）：	常にファインダー表示になる。ファインダーに接眼していないときは、自動的に消灯する。
VF固定（アイセンサー切）：	常にファインダー表示になる。

ファインダーの映像の揺れを軽減する

設定しているフレームレートが低い場合、カメラを左右に動かすと、ファインダーの映像が揺れることがあります。このようなファインダーの映像の揺れを低減できます。

MENU > モニタリング設定 >「VF倍速駆動」>「入」にする

MEMO

- 「入」にすると、使用可能なレンズ、アクセサリー、記録設定、電源の組み合わせが変わることがあります。
- 次の場合は「VF倍速駆動」を使用できません。
  - フレームレートが29.97P／25.00P／24.00P／23.98P以外のとき。
  - スロー &ファストモーション記録モードまたはフレーム記録モード、インターバル記録モードのとき。
  - 記録形式がMP4で解像度が8K（8192x4320、7680x4320）のとき。
  - メディアモードのとき。
- 撮影しているとき（画面に「●REC」が表示中）は、「VF倍速駆動」の設定を変更できません。

カメラの傾きを確認する

カメラの傾き補正に有効な水準器を表示できます。光軸の上下方向の傾き（Tilt）と光軸を中心とした回転方向の傾き（Roll）を確認できます。

MENU > モニタリング設定 >「Custom Display 1」>「水準器」>いずれかを選ぶ

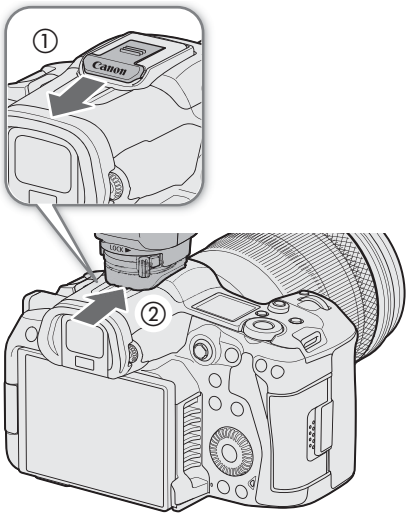
- 水準器が表示される。

マルチアクセサリーシュー対応アクセサリーを取り付ける

アクセサリーの取り付けや使いかたの詳細については、お使いのアクセサリーの説明書をご覧ください。

マルチアクセサリーシューカバーを取り外して（①）、アクセサリーの接続端子をマルチアクセサリーシューに差し込む（②）

- マルチアクセサリーシュー用の接点で通信を行うアクセサリーを取り付けるときは、アクセサリーの取り付け脚をカチッと音がするまで差し込んでから、取り付け脚ロックレバーをスライドして固定する。



ご注意

- **マルチアクセサリーシューカバーを取り付けて接点を保護する**
  - マルチアクセサリーシューからアクセサリーを取り外したときは、ほこりや水などから接点を保護するため、マルチアクセサリーシューカバーを取り付けてください。
  - マルチアクセサリーシューにごみなどが入ったときは、市販品のブロアーなどを使用して除去してください。
  - マルチアクセサリーシューに水分が入ったときは、乾くまで放置してください。
- ネジの付いているアクセサリーを使用すると、マルチアクセサリーシューを破損することがあります。

記録メディアを準備する

本機では、動画モードで撮影した動画や静止画などの撮影データをCFexpressカード／SDカード*に記録します。メインの動画（以降、「メイン動画」と記載）はCFexpressカードに、オフライン編集用の動画（以降、「プロキシ動画」と記載）はSDカードに記録します。**記録メディアを使用するときは、はじめに本機で初期化してください（🕮 33）。**

* SDカードは、カスタムピクチャーなどの設定データの保存や読み出しにも使用します。また、ビットレートが650 Mbps以下のときのみ記録できます（🕮 56）。

使用可能な記録メディア

本機で使用可能な記録メディアです。動作確認済みのメモリーカードなどの詳細情報は、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

CFexpressカード

CFexpress 2.0 Type Bに準拠したCFexpressカード。ただし、カメラの記録モードのビットレートによっては一部書き込めない場合があります。動作確認済みカードの情報はキヤノンのホームページなどでご確認ください。

SDカード

RAW形式で記録できるSDカードは、SDXCメモリーカードのみです。

メモリーカードのタイプ	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード
UHSスピードクラス*	U3
ビデオスピードクラス*	V30、V60、V90

* SDカードのデータ記録時の最低速度を保証する規格です。

動画の記録条件と推奨するスピードクラス

動画の記録条件			推奨するスピードクラス
記録モード	記録形式	解像度／ビットレート方式	
スロー &ファストモーション記録	–	–	V90
スロー &ファストモーション記録以外	RAW HQ RAW ST RAW LT	–	V90
	XF-AVC YCC 422 10 bit	4096x2160、3840x2160、またはIntra（Intra-frame）	V60、V90
	MP4(HEVC) YCC422 10 bit	8192x4320、7680x4320	V90
		4096x2160、3840x2160	V60、V90
	MP4(HEVC) YCC420 10 bit	8192x4320、7680x4320	V60、V90

ご注意

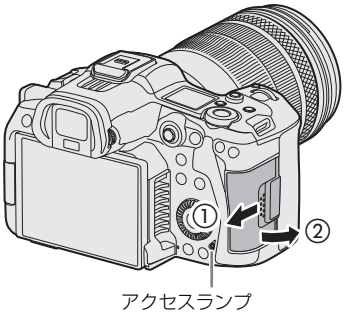
- カメラ内部の発熱により、CFexpressカードが熱くなっていることがあります。撮影直後にカードを取り出すと、やけどの原因になる恐れや、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。
- 撮影や編集を繰り返しているカードの場合、データの書き込み速度が低下し、記録が停止することがあります。あらかじめカードの動画や静止画をバックアップしてから、本機でカードを初期化してください。特に、重要なシーンを記録する前には、本機でカードを初期化してください。
- **CFexpressカード／SDXCメモリーカードを使用するとき：**
  これらのメモリーカードは、exFAT形式で初期化されます。
  - exFAT形式に対応した機器でのみ使用できる。exFAT形式に対応する、レコーダー、パソコン、またはカードリーダー／ライターなどでご使用ください。対応状況については、パソコン、OS、またはカードのメーカーにお問い合わせください。
  - exFAT形式に対応していないOSで使用すると、カードの初期化を促すメッセージが表示されることがある。**初期化するとデータが失われますので、キャンセルしてください。**

MEMO
- すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

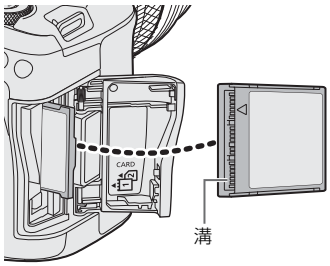
カードを入れる

1 アクセスランプが消灯していることを確認する

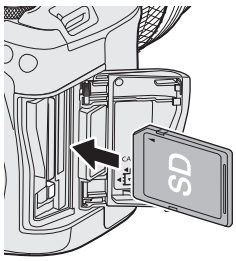
2 メモリーカードカバーをスライドして、開ける（①、②）



3 カードを入れる
- カメラの背面側に入れたカードが 1（CFexpressカード）、前面側に入れたカードが 2（SDカード）になります。
- CFexpressカードは、カードの表を手前にして、溝がある方を奥にして差し込みます。**入れる向きを間違えるとカメラが壊れることがあります。**
- カード取り出しボタン（灰色）がせり出します。
- SDカードは、カードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

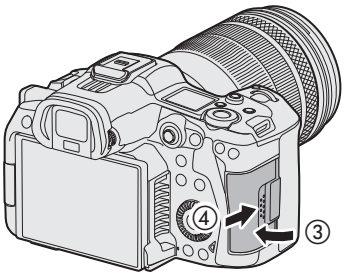


1 CFexpressカード



2 SDカード

4 メモリーカードカバーを閉じる（③、④）
- カードが正しく入っていない状態で、カバーを無理に閉めない。



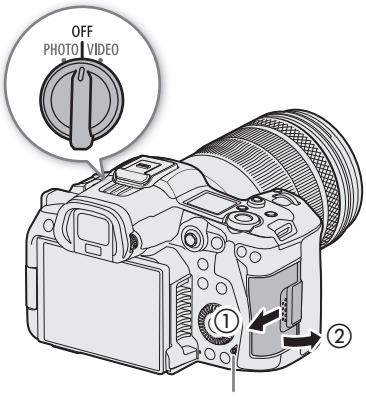
ご注意
- カードには表裏の区別があります。カードを裏返しに入れると、本機に不具合が発生することがあります。カードを入れるイラストを参考にして、正しい向きで入れてください。
- アクセスランプは、MENU > システム設定 >「カードアクセスLED」を「切」にすると点灯しません。

カードを取り出す

1 電源スイッチを「OFF」にする

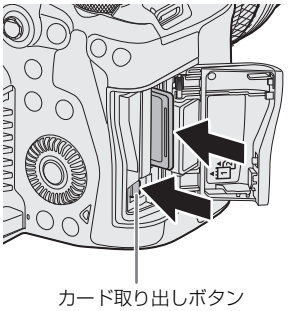
2 アクセスランプが消灯していることを確認する

3 メモリーカードカバーをスライドして、開ける（①、②）



4 カードを取り出す

- CFexpressカードは、カード取り出しボタンを押し込むと、カードが出てくる。
- SDカードは、カードを軽く押し込んで離すと出てくる。カードをまっすぐに取り出して、カバーを閉じる。



カードを初期化する

記録メディアをはじめて使用するときや、記録メディアに記録した動画／静止画などすべての情報を消去するときは初期化します。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「メディア初期化」を選ぶ

2 記録メディアのいずれかを選ぶ

3「OK」を選ぶ

- 選んだカードが初期化され、すべての情報が消去される。

ご注意

- SD メモリーカードはFAT形式、SDHC メモリーカードはFAT32形式、SDXC メモリーカードはexFAT形式で初期化されます。
- 初期化すると、動画、静止画、プロテクトしたカスタムピクチャーファイルなど、メモリーカード内のすべての情報が消え、元に戻せません。残しておきたいデータがあるときは、バックアップしてから初期化してください。
- SDカードの初期化は、カードによっては数分かかることがあります。

MEMO

- 「メディア初期化」を割り当てたアサインボタンを押して、「メディア初期化」サブメニューを表示することができます（🕮 118）。

ボリュームラベルを設定する

CFexpressカードとSDXCカードの場合、RAWクリップまたはXF-AVCクリップを記録するときにボリュームラベルを設定できます。ボリュームラベルを設定しておくと、撮影に使用したカードの識別や管理に便利です。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「ボリュームラベル」> いずれかを選ぶ

Canon： 文字列「Canon」
Canon＋メタデータ： 文字列「Canon」＋カメラインデックス＋リール番号（38）

2 カードを初期化する（33）

3 RAWクリップ／XF-AVCクリップのファイル名を設定する（38）

4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- ボリュームラベルは、初期化したカードにはじめてRAWクリップ／XF-AVCクリップを記録するときに設定される。

使用するカードスロットを切り換える

両方のスロットにカードを入れているときは、記録／再生に使うスロットを必要に応じて切り換えることができます。

1 アサインボタンに「スロット選択」を割り当てる（118）

- カメラモードとメディアモードで個別に割り当てる。

2 撮影一時停止状態（STBY）／インデックス画面のときに、アサインボタンを押す

MEMO

- MENU > 記録／メディア設定 >「メイン記録先」で変更することもできます。
- 記録中または再生中にアサインボタンを押しても、スロットは切り換わりません。
- ブラウザーリモートを使って撮影するときは、ブラウザーリモート画面の「SLOT SELECT」を押して切り換えることもできます（171）。

カードの記録可能時間を確認する

各スロットに入っている記録メディアの記録可能時間（分単位）*と、選択されているスロットを撮影画面で確認できます（47）。記録 / メディア設定ステータス画面（195）を表示すると、各カードの総容量、使用量、記録可能時間、静止画記録可能枚数、スピードクラスを確認できます。

* 記録可能時間は、現在設定している映像の信号形式を元に算出します。

撮影データを修復する

記録中の停電やカードの取り出しなどによって、カードに記録した撮影データ（クリップ、WAVファイル、News Metadata）に異常が発生することがあります。このようなデータは、修復することによって正常な状態に戻すことができます。

1 メディアモードに切り換え、修復する撮影データを含むインデックス画面を表示する（132）

2「?」が表示されているサムネイルにカーソルを合わせる

3 クリップメニュー >「修復」>「OK」を選ぶ

- 選んだ撮影データが修復される。

MEMO

- RAW形式／MP4形式のインデックス画面では、修復したクリップのサムネイルに▶が表示されます。
- 記録を開始してすぐに、停電やカードの取り出しが発生すると、撮影データが記録されないことがあります。また、撮影データが記録されても、修復によって消去されることがあります。
- 修復を行っても正常な状態に戻らないことがあります。特に、ファイルシステムが壊れているとき、またはカードが物理的に壊れているときは修復できません。
- 修復は、本機で撮影したクリップ／WAVファイル、News Metadataのみ行えます。また、静止画は修復できません。

動画の記録方法を選ぶ

本機には、記録モードと2つのカードスロットを使ったさまざまな動画記録方法があります。また、記録メディアに記録しながらストリーミング送信することもできます（🕮 169）。以下ではそれらの概要を紹介します。詳細については、各機能の説明をご覧ください。

記録モード
選択中のカードに記録する動画（メイン動画）の記録方法を選びます。

記録モード	機能	🕮
通常記録	設定した記録信号形式で動画を記録する最も基本的な記録方法。	44
スロー &ファストモーション記録	再生時と異なるフレームレートで記録する記録方法（オーバークランク、アンダークランク撮影）。音声（WAV）も記録可能。	110
プレ記録	記録開始操作より一定時間（3秒）前からの映像／音声を記録する。	112
フレーム記録	あらかじめ設定した記録フレーム数分の映像を記録する。音声は記録されない（ミュート）。	113
インターバル記録	あらかじめ設定した記録間隔と記録フレーム数で間欠的に映像を自動記録する。音声は記録されない（ミュート）。	114
常時記録	2つのカードスロットのうち、カード1は通常記録、カード2は常に記録を行う記録方法。	114

2スロット記録機能
選択中ではないカードに記録する動画の記録方法を選びます。

2スロット記録機能	機能	🕮
プロキシ動画記録	メイン動画をカード1に記録し、同時に、オフライン編集用にデータ量が小さいプロキシ動画をカード2に記録する。プロキシ動画は、メイン動画に関連付いたファイル名で記録する。	68
サブ動画記録	メイン動画をカード1に記録し、同時に、異なる記録信号形式の動画（サブ動画）をカード2に記録する。	60
音声記録	メイン動画をカード1に記録し、同時に、WAVファイル*をカード2に記録する。 * スロー &ファストモーション記録で記録できるWAVファイルとは異なる。	99
リレー記録	撮影中のカードの空き容量がなくなると、自動的にもう一方のスロットに切り換え、連続して記録する。スロットの切り換えは双方向に可能。	–
ダブルスロット記録	メイン動画をもう一つのカードにも同時に記録する。撮影中に映像のバックアップを取ることができる。	–

1 記録モードを選ぶ
- ダイレクトタッチコントロール（🕮 54）またはMENU > 記録／メディア設定 >「記録モード」

2 2スロット記録機能を選ぶ
- ダイレクトタッチコントロール（🕮 54）またはMENU > 記録／メディア設定 >「2スロット記録機能」

同時に使用可能な動画記録の組み合わせ

		2スロット記録機能					
		切	プロキシ動画記録*1	サブ動画記録	音声記録	リレー記録*2 *4	ダブルスロット記録*2
記録モード	通常記録	●	●	●	●	●	●
	スロー＆ファストモーション記録	●	●*3	●*3	–	–	–
	プレ記録*4	●	●	●	–	●	●
	フレーム記録	●	–	–	–	●	●
	インターバル記録	●	–	–	–	●	●
	常時記録	●	–	–	–	–	–

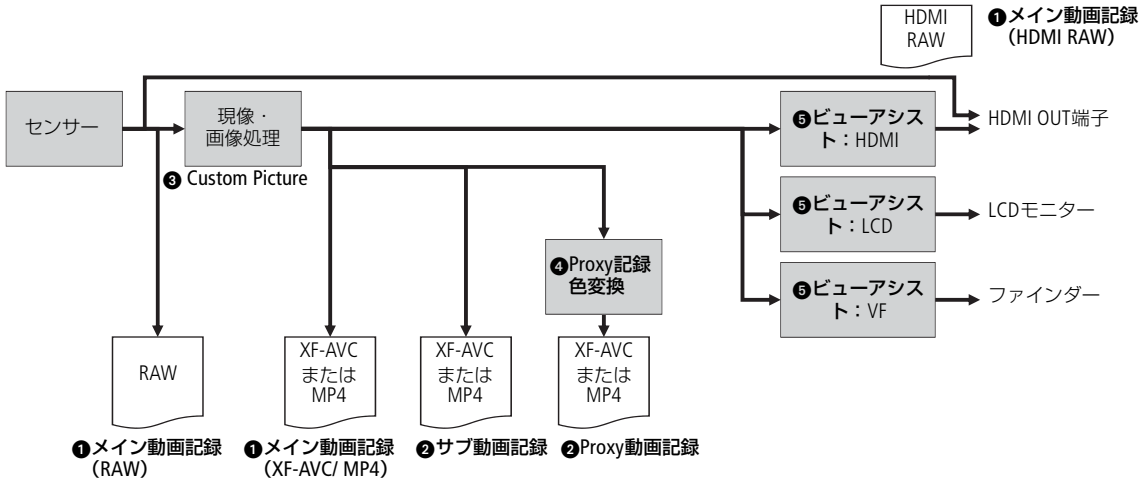
- IPストリーミングを有効にしてネットワークに接続中は、通常記録のみ同時に使用できます。

*1 メイン記録形式がMP4(HEVC)以外のときのみ。
*2 SDカードに記録時、ビットレートが650Mbpsを越える場合は使用できない。
*3 メイン記録形式がRAWのときのみ。
*4 メイン記録形式がXF-AVCまたはMP4のときのみ。

MEMO

- プロキシ動画記録、サブ動画記録、常時記録、音声記録が有効のときは、カードスロットの切り換えができません。
- ダブルスロット記録中、記録容量の少ないカードの空き容量がなくなると、両カードへの記録を停止します。なお、一方のカードに書き込みエラーが発生しても、他方のカードへの記録は継続します。

動画記録から出力について（概念図）



❶ メイン動画の記録信号形式を選ぶ（🕮 56）

❷ 2スロット記録機能を選ぶ（🕮 36）

- 音声記録、リレー記録、ダブルスロット記録も選択可能。メイン動画の記録形式や記録モードによって選択できない機能がある。

❸ カスタムピクチャーを使用する（🕮 122）

- カスタムピクチャーを使用した画質の調整ができる。

❹ プロキシ動画の場合：Proxy記録色変換を選ぶ（🕮 68）

- ガンマと色空間の設定を変換する。

❺ 各出力映像に、ビューアシストを適用する（🕮 148）

- ガンマと色空間の設定を変換する。

記録するデータのファイル名を設定する

RAWクリップ、XF-AVCクリップ、MP4クリップ、静止画のファイル名の付け方を設定します。

RAWクリップ／XF-AVCクリップのファイル名を設定する

カードに記録されるRAWクリップ／XF-AVCクリップのファイル名を設定します（カメラモードのみ）。以下の設定操作で文字を入力するときは、「文字入力のしかた」（21）をご覧ください。

クリップファイル名の構成

A 0 0 1 C 0 0 1 _ y y m m d d X X _ C A N O N _ 0 1 P
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

	項目	内容
①	カメラインデックス	A ～ Zの1文字。カメラごとに異なる文字を設定する。
②	リール番号	001 ～ 999の3桁の数字。カードごとに異なる番号が自動的に振られる。任意の初期値を指定できる。新しいカード*に交換すると、初回の記録時に番号が1つ繰り上がる。 * 購入または初期化直後のカード。
③	クリップ番号	001～999の3桁の数字で、先頭に「C」が付いてC001～C999となる。999を超えると「C」が「D」に変わり、D001～D999となる。クリップ番号はクリップごとに自動的に振られる。任意の初期値を設定したり、初期値（C001）にリセットしたりすることもできる。 クリップ番号の付けかたは、記録メディアを交換しても連番を振る「通し番号」と、記録メディアの交換後、初回の記録時に「001」にリセットする「オートリセット」の2方式がある。
④	年月日	撮影した年月日が自動的に設定される。
⑤	ランダムID	クリップごとにランダムに付加される、A ～ Z、0 ～ 9からなる2文字。
⑥	ユーザー定義	A ～ Z、0 ～ 9からなる5文字。
⑦	プロキシ、ストリーム番号	プロキシクリップのときに「_Proxy」または「_P」が自動的に付加される（39）。記録先がSD / SDHCメモリーカードのときは、「_Proxy」または「P」の前にストリーム番号（01 ～ 99の数字）が付与される。ストリーム番号は、クリップ内の映像ファイル（ストリーム）が分割されると1つ繰り上がる。

- プロキシ動画のクリップ名は、⑦の「_Proxy」または「_P」を除いてメイン動画（RAW形式またはXF-AVC形式）と同じになる。
- サブ動画のクリップ名は、②を除いてメイン動画と同じになる。
- ダブルスロット記録のクリップ名は、カード1／2とも同じになる。
- スロー &ファストモーション記録または2スロット記録機能の音声記録のWAVファイルは、⑦と拡張子（.WAV）を除いてメイン動画と同じファイル名となり、カードの「/PRIVATE/AUDIO」フォルダーに格納する。

カメラインデックスを設定する

1 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「カメラインデックス」を選ぶ

2 A ～ Zのいずれかの文字を選び、「セット」を選ぶ（21）

クリップ番号方式を設定する

MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「クリップ番号方式」>「オートリセット」または「通し番号」を選ぶ

リール番号／クリップ番号の初期値を設定する

1 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「リール番号」または「クリップ番号」>「変更」を選ぶ
- 「リセット」を選ぶと、初期設定（「001」）に戻る。

2 数値を入力する（21）

ユーザー定義を設定する

1 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「ユーザー定義」>「変更」を選ぶ
- 「リセット」を選ぶと、初期設定（「CANON」）に戻る。

2 文字や数値を入力する（21）

プロキシクリップのファイル名を設定する

プロキシクリップのファイル名の末尾に自動的に付加する文字列を設定します。

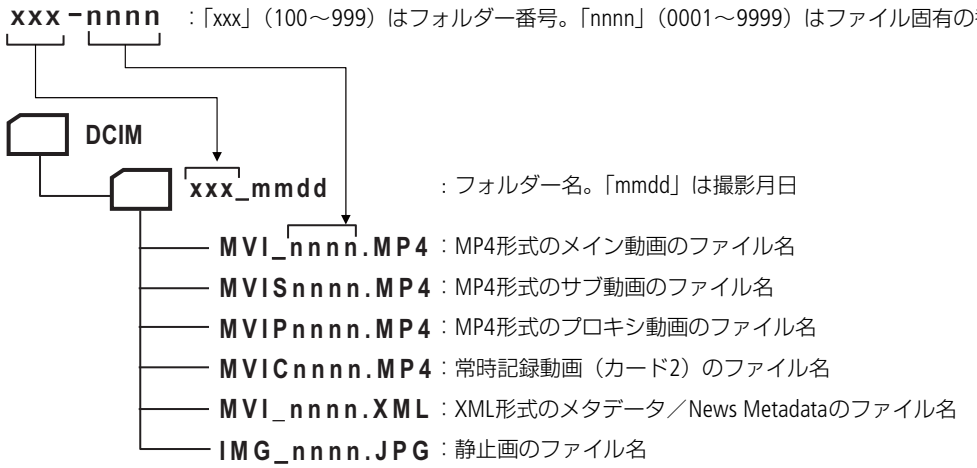
MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「ストリーム番号／プロキシ」>「01_Proxy」または「_01P」を選ぶ

MP4クリップ／静止画番号の付けかたを選ぶ

本機で記録するMP4クリップ／静止画には、連続した番号（MP4クリップ／静止画番号）が自動的に付けられます。
MP4クリップ／静止画番号の付けかたはメニューで設定できます。

MP4クリップ／静止画のフォルダー構成とファイル名

MP4クリップ／静止画番号



- サブ記録では、フォルダー名とファイル固有の番号（「nnnn」）が、カード1とカード2で同じになる。
- ダブルスロット記録では、フォルダー名／ファイル名がカード1とカード2で同じになる。
- スロー＆ファストモーション記録のWAVファイルは、メイン動画のファイル名（MVI_nnnn）に「_yyyymmddHHMMSS.WAV」（年月日時分秒）を付加したファイル名となり、カードの「/PRIVATE/AUDIO」フォルダーに格納する。
- 2スロット記録機能の音声記録のWAVファイルは、カードの「/PRIVATE/AUDIO」フォルダーに次のファイル名で格納される。
  メイン動画のファイル名（MVI_nnnn）＋「_yyyymmddHHMMSS」＋ プロキシ識別子* ＋「.WAV」
  * メニューの「ストリーム番号／プロキシ」（🕮 180）に応じて、「_P」または「_Proxy」となる。
- XML形式のメタデータ／News Metadataのファイル名は、ファイル名の一部（「MVI_」）が「MVIS」や「MVIC」、「MVIP」になることもある。

MP4クリップ／静止画番号方式を選ぶ

設定値	内容
オートリセット	初期化されたカードに記録する場合、常に100-0001から始まる。カード内にすでにMP4クリップ／静止画が記録されているときは、その続きの番号になる。
通し番号	最後に記録したMP4クリップ／静止画の続き番号から始まる。カード内に記録されているMP4クリップ／静止画番号のほうが大きいときは、その続き番号になる。パソコンで管理するときなどに便利。通常はこの設定をおすすめします。

MENU > 記録/メディア設定 >「 MP4クリップ／静止画番号方式」> いずれかを選ぶ

MEMO

- 1つのフォルダーには500ファイルまで保存でき、それを超えると自動的にフォルダーが作成されます。

冷却ファンの動作方法を選ぶ

本機は冷却ファンを回転させて、本機内部の熱を排出します。カメラモードでは、冷却ファンが設定した冷却ファンの動作とファン速度で回転します。メディアモードでは、冷却ファンが設定したファン速度で常時回転します。

カメラモードで冷却ファンの動作を設定する

1 MENU > システム設定 >「ファンモード」> いずれかを選ぶ

オート： 撮影一時停止中は回転し、撮影中（画面に●RECが表示中）は自動的に停止する。なお、撮影中でも、本機の内部温度が上昇すると、冷却ファンが自動的に回転する（FAN が表示される）。内部温度が十分下がると、再び冷却ファンは停止する。この設定は、冷却ファンの動作音を記録したくないときに使用する。

常時： 常に回転する。

「常時」を選んだとき

2 MENU > システム設定 >「ファン速度(常時)」> いずれかを選ぶ

「オート」を選んだとき

2 MENU > システム設定 >「ファン速度(STBY)」> 撮影一時停止中のファン速度を選ぶ

3 MENU > システム設定 >「ファン速度(REC)」> 撮影中のファン速度を選ぶ

- 「強制冷却」を選ぶと、回転数を最大にした冷却が可能（「ファン速度(STBY)」のみ）。

メディアモードで冷却ファンの動作を設定する

1 MENU > システム設定 >「ファン速度」を選ぶ

2 いずれかを選ぶ

ご注意

- 冷却ファンの回転中は、EXHAUST VENT（排気口）から暖かい空気が排出されます。
- 冷却ファンの吸排気口（📖 11、12）をテープなどで塞がないでください。

MEMO

- 高温下など撮影環境によっては「オート」にしてもファンが停止しないことがあります。

ブラックバランスを調整する

使用環境の温度が変わったときなど映像信号の黒がずれたときに、ブラックバランスを自動的に調整することができます（カメラモードのみ）。

1 本体にボディキャップを取り付けて、本機をカメラモードで起動する

- レンズを取り付けているときは、本機の電源を切ってレンズを取り外し、ボディキャップを取り付ける。

2 MENU > カメラ設定 >「ABB」>「OK」を選ぶ

- 画面に「実行中」が表示され、ブラックバランス調整が行われる。調整には約1分程度かかることがある（23.98P / 24.00Pの場合）。
- センサーの遮光が正しく行われていないときは、画面に「エラー」が表示される。エラーのときは、再度操作1から操作する。

MEMO

ブラックバランス調整が必要なとき

- 本機を初めて使用するとき、または長時間使用しなかったあとに使用するとき。
- 周囲の温度が大幅に変化したとき。
- センサーモードを切り換えたとき。
- スロー & ファストモーション記録モードを有効または無効（別の記録モードに切り換える）にしたとき。
- スロー & ファストモーション記録モードで撮影フレームレートの設定を変更したとき。
- MENU > システム設定 >「リセット」>「全設定」で、本機の設定をリセットしたとき。

- ブラックバランス調整中、画面の表示が乱れますが、故障ではありません。

センサークリーニングを行う

電源スイッチを「VIDEO」にして起動したときや、電源を切ったときに、撮像素子前面を清掃します。

1 MENU > システム設定 > 「センサークリーニング」> いずれかを選ぶ

電源オン／オフ時：電源スイッチを「VIDEO」にして起動したときと、電源を切ったときにセンサークリーニングを実行する。
電源オフ時：電源を切ったときのみ、センサークリーニングを実行する。
切：センサークリーニングを実行しない。

- センサークリーニング動作中は、画面に表示が出る。
- 「切」を選ぶと、電源オフ時にレンズキャップの装着を促すメッセージが出る。

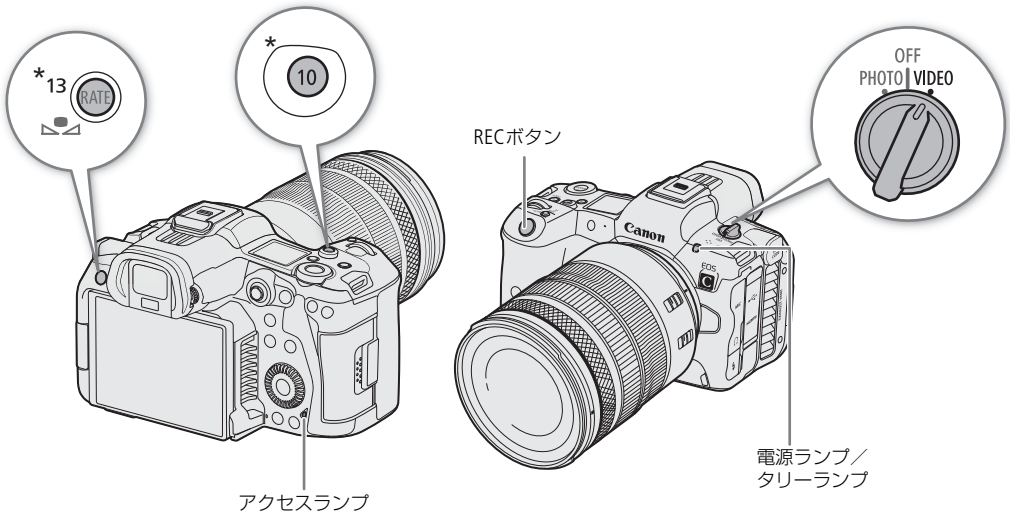
MEMO

- 机の上などにカメラを置き、底面が机に付いた状態で行うと、効果的にゴミを除去できます。

動画を撮影する

ここでは、動画の基本的な撮影について説明します。音声の記録については、98ページをご覧ください。

撮影する



* 「REC」を割り当て可能（🕮 119）。

1 電源スイッチを「VIDEO」にする

- はじめて電源スイッチを「VIDEO」にして電源を入れたときや本機をリセットした後に「記録後はCFexpressが高温になることがあります　取り出すときは注意してください」が表示される。メッセージを確認したら、「OK」を選び、画面を閉じる。
- 本機がカメラモードで起動し、撮影一時停止状態（STBY）になる。電源ランプ（タリーランプ）が緑色に点灯する。
- アクセスランプは赤色に点滅したあと、消灯する。

2 REC（記録開始／停止）ボタンを押す

- 撮影が始まる。タリーランプが赤色に点灯し、画面の撮影状態が「STBY」から「●REC」に変わる。
- アクセスランプが赤色に点灯する。
- ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（🕮 170）を使って撮影開始することもできる。

3 もう一度REC（記録開始／停止）ボタンを押す

- 撮影が終了してクリップ*がカードに記録され、撮影一時停止状態（STBY）になる。タリーランプは緑色に点灯する。
- アクセスランプは消灯する。

* 本書では、1回の撮影操作で記録される動画を「クリップ」と呼びます。クリップには、映像・音声のほかに、メタデータやNews Metadata（🕮 108）が含まれることがあります。

ご注意

- 万一のデータ破損に備えて、撮影したデータは必ずバックアップしてください。データ破損の場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

MEMO

- メタデータ（📖 107）やNews Metadata（📖 108）を設定して撮影すると、メタデータやNews Metadataが動画と一緒にクリップ内に記録されます。
- 撮影中にリレー記録（📖 36）が発生すると、撮影された映像はそれぞれ別々のクリップとして記録されます。
- 1つのクリップには、約6時間まで記録できます。それを超えると、自動的に別のクリップを生成して記録します（XF-AVC/MP4形式のみ）。
- レックレビュー機能（📖 53）を使うと、カメラモードのまま、最後に撮影したクリップを再生して確認できます。
- SDHC メモリーカードに記録する場合、クリップ内の映像ファイル（ストリーム）が約 4 GBごとに分割されます。本機では連続して再生されます。
- カメラアサイン10/13ボタンに「REC」を割り当てて、記録開始／停止操作を行うこともできます。
- MENU > システム設定 >「REC/STBYタッチボタン」を「入」にすると、画面の「STBY」をタッチして記録開始、「●REC」をタッチして記録停止することもできます。

静止画を記録する

動画の撮影一時停止中に、静止画をSDカードに記録できます。

1 アサインボタンに「Photo」を割り当てる（📖 118）

2 撮影一時停止状態（STBY）中に、アサインボタンを押す

- 画面に「▶🄹」が表示され、静止画がSDカードに記録される。
- 記録中はアクセスランプが赤色に点灯する。
- 記録される静止画のサイズ（📖 226）は、現在設定している映像の信号形式によって決まる。

撮影可能な静止画の解像度

センサーモード	メイン記録形式*	メイン解像度	静止画の解像度
フルサイズ	RAW	–	4096x2160
	MP4	8192x4320	8192x4320
		7680x4320	7680x4320
	XF-AVC MP4	4096x2160、2048x1080	4096x2160
		3840x2160、1920x1080、1280x720	3840x2160
Super 35mm (Crop)	RAW	–	4096x2160
	XF-AVC MP4	4096x2160、2048x1080	4096x2160
		3840x2160、1920x1080、1280x720	3840x2160
Super 16mm (Crop)	RAW	–	2048x1080
	XF-AVC MP4	2048x1080	2048x1080
		1920x1080、1280x720	1920x1080

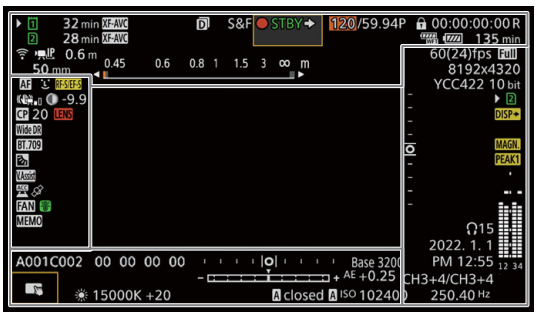
* MENU > 記録／メディア設定 >「メイン記録形式」の設定

MEMO

- **静止画が記録できないとき**
  - 動画の記録中やスロー＆ファストモーション記録モード中
  - プレ記録モードのとき
  - 本機をWebカメラとして使用しているとき
  - ブラウザーリモートの動作中
  - カラーバーの表示中

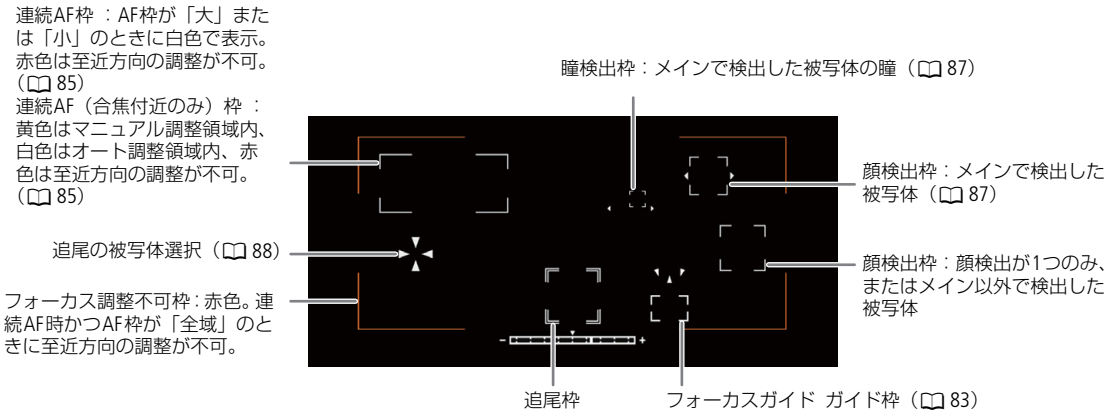
撮影時の画面表示

ここでは、カメラモードのときの画面表示について説明します。各表示項目は、メニューの「Custom Display 1」／「Custom Display 2」（🕮 182）で、表示の入／切を選択できます。以下の表内では「CD1」、「CD2」と省略して表記します。画面表示の情報量／位置（DISPレベル）は3段階で変更でき、各DISPレベルの内容もメニューで選択できます（🕮 50）。以下では、DISPレベル1（全表示）の場合で説明しています。



フォーカス枠

表示の入／切：CD1 > フォーカスモード



画面の左側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
MF AF	フォーカスモード（📖 82）	CD1 > フォーカスモード
	顔検出AF（📖 87）	
3.0×、2.5×、2.0×、1.5×	デジタルテレコン（📖 90）	CD1 > デジタルテレコン
	電子手ブレ補正（📖 89）	CD1 > 電子IS
	レンズ光学IS（📖 89）	
RF-S/EF-S レンズ情報	レンズの情報 • レンズによってレンズ固有の情報を表示することがある。	CD1 > レンズ
LENS（赤色） LENS（黄色）	レンズ警告（📖 207） • 装着されているレンズが使用できない状態（電源とアクセサリー、記録設定の組み合わせ、など）のときに黄色で表示される。画面に「レンズは動作しません」も表示される。	
CP 00	選んだカスタムピクチャーファイル（📖 122）	CD1 > Custom Picture
C.LOG3 / PQ / HLG / Wide DR / NORM / Std. / C.709 / C.Gamut / BT.2020 / BT.709	カスタムピクチャーのガンマ／色空間（📖 126）	
LOOK	Lookファイル（📖 124）	
	測光方式（📖 78）	CD1 > 測光方式
V.Assist	ビューアシスト（📖 148）	CD1 > ビューアシスト
ACC	マルチアクセサリーシューに装着したアクセサリーの接続状態（📖 30） • アクセサリーとの通信エラーや、アクセサリーの電源OFF時、異常発生時に赤色で表示される。	CD2 > マルチアクセサリーシュー
	GPS信号の受信状態 • 衛星未捕捉時は点滅し、衛星を捕捉すると点灯する。 • 本機にGPSレシーバー GP-E2を装着時のみ表示される。	CD2 > GPS
FAN	冷却ファンの動作 白色：通常（📖 41）／赤色：警告（📖 207）	CD2 > 温度/ファン
（緑色） （黄色） （赤色）	高温警告（📖 207） • 内部温度が上昇すると黄色で、本機を使い続けてさらに上昇すると赤色で表示される。	
MEMO	ユーザーメモ（📖 107）	CD2 > User Memo

画面の上側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
記録メディア状態／記録可能時間（分）／動画形式		CD2 > 記録可能時間
1/2（緑色） 0000 min	1：CFexpressカード、 2：SDカード 緑色：記録可能／黄色：記録可能時間6分未満／赤色：記録可能時間1分未満／白色：認識中。 • 選択中のカードに ▶が付く。	
1 2（赤色）END	カードの空き容量なし	
1 2（赤色）	カードなし／記録不可能	
RAW XF-AVC MP4 WAV	動画形式（📖 58）／音声（📖 110）	
FTP	ネットワークの接続状態／機能（📖 167）	CD2 > ネットワーク機能

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
	ダブルスロット記録（📖 36）	CD2 > 記録モード
撮影状態（記録モード）		
STBY、●REC	動画記録：撮影一時停止中／撮影中	
S&F STBY、S&F●REC	スロー &ファストモーション記録（📖 110）：撮影一時停止中／撮影中。	
PRE STBY、PRE●REC	プレ記録（📖 112）：撮影一時停止中／撮影中	
FRM STBY、FRM●REC、FRM●STBY	フレーム記録（📖 113）：撮影一時停止中／撮影中	
INT STBY、INT●REC、INT●WAIT	インターバル記録（📖 114）：撮影一時停止中／撮影中	
CONT、●CONT	常時記録（📖 114）：常時記録停止中／撮影中	
1s～10m00s	インターバルカウンター	CD2 > インターバルカウンター
REC➧、STBY➧ EXT REC➧、EXT STBY➧	記録コマンド状態（📖 144） 「EXT」：記録メディアなしのときに表示	CD2 > 記録コマンド(EXT REC)
00.00P、00.00i	フレームレート（📖 59） • スロー & ファストモーション記録時は、撮影フレームレートも表示される（000/00.00P）。	CD2 > フレームレート
	キーロック（📖 22）	CD1 > キーロック
00:00:00.00 00:00:00:00 R / P / F / E	タイムコード（📖 94） タイムコードの設定状態（📖 95）	CD2 > Time Code
電源供給状態		CD2 > バッテリー残量
/ / / / / （赤色） 000 min	バッテリーパック LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6のバッテリー残量と撮影／再生可能時間（分単位）（📖 15） • が表示されたときは、充電したバッテリーパックと交換する。	
USB PD	USB電源アダプター PD-E1（📖 199）	
WFT	ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10を取り付け時	
0000 mm	焦点距離（目安）	CD1 > 焦点距離
000.0 m	被写体距離（数値） • RFレンズと一部のEFシネマレンズの装着時のみ。	CD1 > 被写体距離（数値）
0.45 0.6 0.8 1 1.5 3 ∞ m	被写体距離（バー） • RFレンズ／RFシネマレンズの装着時のみ。	CD1 > 被写体距離（バー）

画面の右側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
60(24)fps、60(30)fps	映像出力（📖 121）	CD2 > 映像出力
Full、Super35、Super16	センサーモード（📖 58）	CD2 > センサーモード
0000x0000	解像度（📖 59）	CD2 > 解像度/カラーサンプリング
YCC000 00 bit	色深度、カラーサンプリング（📖 58）	
HQ / ST / LT 00 bit	RAWモード（📖 56）	

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
▶2	静止画記録可能（📖 45）	CD2 > Photo
▶2⃠（赤色）	SDカードなし／静止画記録不可能	
DISP（黄色）	画面表示出力（📖 147）	CD2 > オンスクリーン表示
MAGN（黄色）	拡大表示（📖 84）	CD1 > Magnification
PEAK1 PEAK2（黄色）	ピーキング（📖 83）	CD1 > ピーキング
	オーディオレベルメーター（📖 100）	CD2 > オーディオレベル
00、OFF	ヘッドホン音量（📖 136）	–
yyyy.mm.dd HH:MM	日時表示	CD2 > 日付/時刻
CH0/CH0、 CH0+CH0/CH0+CH0	音声出力チャンネル（📖 150）	CD2 > モニターチャンネル
1/0000.00、000.00°、 000.00Hz	シャッタースピード（📖 70）	CD1 > シャッター

画面の下側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
	ダイレクトタッチコントロール（📖 54）	–
A001C001 ～ Z999D999	カメラインデックス、リール番号、クリップ番号 クリップファイル名（📖 38）	CD2 > リール番号/クリップ番号
00 00 00 00	ユーザービット（📖 95）	CD2 > User Bit
Base 0000	Base ISO（📖 73）	CD1 > Base ISO
– +	露出バー（📖 78）	CD1 > 露出バー
AE ±0.00	AEシフト（📖 78）	CD1 > AEシフト
A/B、、、 K、AWB 00000 K ± 00	ホワイトバランス（📖 79）	CD1 > ホワイトバランス
A F00.0 / T00.0、closed	アイリス／絞り値（F値、T値）（📖 76）	CD1 > アイリス
A ISO 000000 00.0dB	ISO感度／ゲイン（📖 72）	CD1 > ISO/ゲイン
 （水平／垂直）	水準器（📖 30）	CD1 > 水準器

画面表示の情報量を変更する

DISP（ディスプレイ）ボタンを押すと、画面表示の情報量を変更することができます。DISPボタンを押すたびに、DISPレベルが、1 → 2 → 3 → 1の順で切り換わります。カメラモードでは、各DISPレベルの表示内容をメニューで変更できます（🕮 181）。

DISPレベル2（撮影情報表示）の例

カメラモード	メニュー設定*1	表示内容
DISPレベル1	全表示	すべての情報を表示する。
	全表示（フレーム）	周辺部にすべての情報を表示する。各表示項目の大きさは「全表示」より小さい。
DISPレベル2 *2	撮影情報表示	撮影中に必要な情報に絞って表示する。
	FUNC／MENU操作時表示	撮影状態、マーカー、フォーカス枠／追尾ガイド、WFM機能のみ表示する。カメラダイレクト設定やメニュー／アサインボタン操作を行ったときに関連する情報は表示する。
DISPレベル3 *2	REC／STBY表示のみ	撮影状態のみ表示する。
	表示なし	すべての画面表示を行わない。

*1 MENU > モニタリング設定 >「DISPレベル 1」、「DISPレベル2」または 「DISPレベル3」
*2 表示項目の大きさは「全表示（フレーム）」と同じ。

メディアモード	クリップ／静止画の再生中	インデックス画面／音声再生中
DISPレベル1	全表示	全表示
DISPレベル2	画面表示なし	
DISPレベル3	–	

MEMO

- ゼブラパターンやフォルスカラーは、DISPレベルに関係なく、常に表示されます。
- 画面表示を透過にして、不透過度を設定することができます（🕮 147）。

画面表示を映像の周囲に表示する

映像の表示領域を画面の内側に少し狭めて、映像に重ならないよう周辺の余白領域に画面表示を行います（フレーム表示）。フレーム表示はDISPレベルと連動でき、フレーム表示を行うDISPレベルをMENU > モニタリング設定 >「フレーム表示対象」で選択できます。

全画面表示

フレーム表示

タリー OSDを表示する

撮影中（REC中）は画面にタリー OSD（赤色の枠やバー）を表示することができます。タリー OSDを表示すると、離れた場所からモニターを見ても、撮影中かどうかが確認しやすくなります。

1 MENU > モニタリング設定 >「タリー OSD: XXXXX」のいずれか >「入（REC）」を選ぶ

- タリー OSDを表示する画面と出力先を確認／変更します。

2 MENU > モニタリング設定 >「タリー OSD位置」> いずれかを選ぶ

フレーム

上部

下部

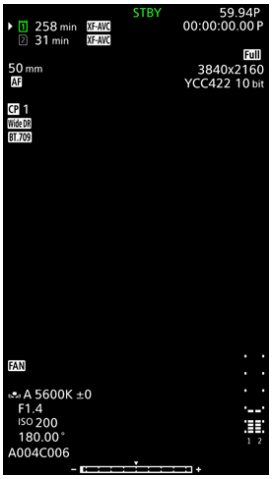
MEMO

- 記録される動画／静止画には影響しません。

縦撮り用の画面表示にする

縦位置で撮影するときは、画面表示の向きを回転させることができます。

MENU > モニタリング設定 >「オンスクリーン表示方向：LCD/VF」>「右90度回転」または「左90度回転」を選ぶ



MEMO

- HDMI OUT端子の出力映像は、MENU > モニタリング設定 >「オンスクリーン表示方向：HDMI」で変更できます（LCDモニター／ファインダーの画面表示の回転時のみ）。
- メニューやステータス画面は回転しません。
- 撮影画面を回転中、ダイレクトタッチコントロールとフレーム表示は使用できません。

表示パネルの表示

(表示パネル情報切り換え）ボタンを押すと、表示パネルの情報表示内容が切り換えることができます。
FUNCボタンで操作するカメラダイレクト設定のときは、選択されている項目に白枠が付きます。

表示例

1　ホワイトバランス
2　キーロック
3　アイリス／絞り値
4　ISO感度
5　シャッタースピード
6　バッテリー残量
7　WFTバッテリー残量
8　ネットワークの接続状態／機能
9　撮影状態（記録モード）

1　カード1（CFexpressカード）／記録可能時間
2　カード2（SDカード）／記録可能時間
3　タイムコード、タイムコードの設定状態
4　フレームレート

レックレビューで確認する

アサインボタンに「レックレビュー」をあらかじめ割り当てておくと、カメラモードで最後に撮影したクリップの映像を再生して確認できます。

1 アサインボタンに「レックレビュー」を割り当てる（📖 118）

2 MENU > 🔧 システム設定 >「レックレビュー」> いずれかを選ぶ

クリップ先頭から：　クリップの先頭からすべて再生する。
最終4 sec：　クリップの最後の4秒間のみを再生する。

3 撮影が終了したあとにアサインボタンを押す

- 操作2で選んだ再生範囲に応じて、直前に撮影した映像が再生される。画面に「▶ REVIEW」が表示される。
- スピーカーから音声は出力されません。音声は、🎧（ヘッドホン）端子またはHDMI OUT端子から出力されます。
- ジョイスティックによる映像の早送り／早戻しや、画面のシークバーのタッチ／ドラッグによる再生位置移動ができる（📖 135）。
- CANCELを押すか、画面を下にフリックすると、レックレビューを中止できる。
- レックレビューが終了するか、レックレビューを中止すると、撮影一時停止状態（STBY）に戻る。

MEMO

- 撮影中に記録先のカードが自動的に切り換わった場合、直後にレックレビューを行うと、新たに記録先となったカード内のクリップが再生されます。
- 常時記録モード中は、レックレビューを行えません。

撮影設定を行う

撮影時によく使うカメラ、記録、アシストなどの基本設定を、ダイレクトタッチコントロールで行うことができます。
また、FUNCボタンで操作するカメラダイレクト設定で、ホワイトバランスや露出関連の設定を行うこともできます。

ダイレクトタッチコントロールで基本的な設定を行う

カメラ設定、記録設定、アシスト設定の各メニュー設定のうち、撮影時に良く使う項目をタッチ操作で変更できます。各機能の詳細については、それぞれの節をご覧ください。

設定可能な項目

項目	設定内容
ホワイトバランス	調整方法（オート、セット、プリセット、色温度設定）、色温度、色補正値
アイリス	F値（またはT値）の調整
ISO感度／ゲイン	ISO感度またはゲイン値の調整、調整値のプリセット
シャッタースピード	現在のシャッターモードでの値の調整
（アシスト設定）	フォーカスガイド（入／切）、ピーキング（種類）、WFM（種類）、ゼブラ（種類）、 フォルスカラー（入／切）、マーカー（入／切）、ビューアシスト（入／切）
（記録設定）	センサーモード、記録モード、2スロット記録機能、メイン記録先、常時記録*1*2、 Slow & Fastフレームレート、フレーム記録 フレーム数、インターバル記録 フレーム数、 インターバル記録 時間間隔、メイン記録形式、CP ファイル選択、メイン解像度／ビットレート、 フレームレート、2記録形式、2解像度／ビットレート、2フレームレート、Proxy記録色変換

*1 メイン記録形式がMP4のときのみ。
*2「常時記録」（114）の設定を「STBY」から「REC」にするときのみ。

ダイレクトタッチコントロールを開始／終了する

ダイレクトタッチコントロールのホーム画面を表示します。この画面を表示したまま、撮影やメニュー設定、カメラダイレクト設定、ステータス画面表示などを行うこともできます。

1 をタッチしてダイレクトタッチコントロールを開始する
2 設定後、×をタッチしてダイレクトタッチコントロールを終了する

カメラ設定を変更する

1 カメラ設定の設定値のいずれかをタッチ > 調整値を選ぶ
- 下位の設定項目が表示されたときは、必要に応じて調整値／設定値を選ぶ。
- スライダーが表示されたときは、スライダー上を左右にドラッグするか、◀／▶をタッチして調整する。
- SELECTダイヤルや電子ダイヤルで調整することもできる。

2 ⮌ をタッチする

アシスト設定を変更する

1 （アシスト設定）をタッチ > アシスト機能を入／切するか、種類を選ぶ

2 ⮌ をタッチする

記録設定を変更する

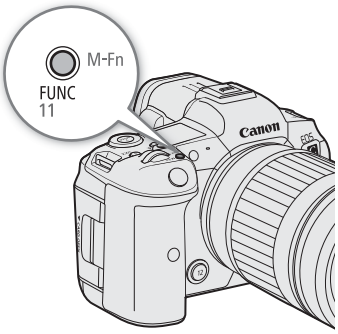
1 （記録設定）をタッチする
- 設定項目の選択画面が表示される。画面は3ページあり、左右のフリックで切り換える。

2 設定項目を選ぶ > 設定を変更する

3 ✕ をタッチする

カメラダイレクト設定を使う

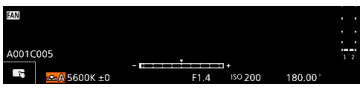
画面を見ながら、ホワイトバランス、アイリス、ISO感度／ゲイン、シャッタースピードを設定できます（カメラダイレクト設定）。ここでは基本的な操作を説明します。各機能の詳細については、それぞれの節をご覧ください。



1 FUNCボタンを押す
- いずれかの項目の背景がオレンジ色になる。
- FUNCボタンを押すか、ジョイスティックを左右に押して、設定したい項目に切り換える（上面電子ダイヤルでも同様）。

2 ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、数値やホワイトバランスの調整方法を選ぶ
- グリップ電子ダイヤルで操作することもできる。

3 SETを押す
- 設定が決定され、カメラダイレクト設定を終了する。
- 画面のオレンジ色の表示は解除される。



MEMO
- カメラダイレクト設定が終了する場合
  - 約6秒間操作しなかったとき。
  - シャッタースピードを選択中にFUNCボタンを押したとき。
  - メニューやステータス画面を開いたとき。
- 「ホワイトバランス」、「アイリス」、「ISO/ゲイン」、「シャッター」のいずれかを割り当てたアサインボタンを押して、カメラダイレクト設定のそれぞれの設定に切り換えることができます。

映像の記録信号形式を選ぶ

記録メディアに映像（メイン動画）を記録するときの信号形式を設定します。記録信号形式は、センサーモードとメイン記録形式（動画形式、カラーサンプリング、ビット数）、メイン解像度／ビットレート、フレームレートの組み合わせからなります。フレームレートはシステム周波数によって、メイン解像度／ビットレートはセンサーモードやメイン記録形式によって、それぞれ選択できる値が異なります。記録信号形式の組み合わせは後述の表をご覧ください*。
サブ動画については「サブ動画を同時に記録する」（🕮 60）を、音声については「音声を記録する」（🕮 98）ご覧ください。
* はビットレートが650 Mbps以上。

RAW形式

センサーモード	メイン記録形式	解像度	色深度	システム周波数／フレームレート／ビットレート*					
				59.94 Hz			50.00 Hz		24.00 Hz
				59.94P	29.97P	23.98P	50.00P	25.00P	24.00P
フルサイズ	RAW ST	8192×4320	12 bit	–	● 1980 Mbps	● 1580 Mbps	–	● 1650 Mbps	● 1580 Mbps
	RAW LT			● 2570 Mbps	● 1290 Mbps	● 1030 Mbps	● 2140 Mbps	● 1070 Mbps	● 1030 Mbps
Super 35mm (Crop)	RAW HQ	5952×3140		–	● 2120 Mbps	● 1700 Mbps	–	● 1770 Mbps	● 1700 Mbps
	RAW ST			● 2090 Mbps	● 1050 Mbps	● 836 Mbps	● 1750 Mbps	● 871 Mbps	● 836 Mbps
	RAW LT			● 1360 Mbps	● 679 Mbps	● 544 Mbps	● 1140 Mbps	● 566 Mbps	● 544 Mbps
Super 16mm (Crop)	RAW HQ	2976×1570		● 1080 Mbps	● 537 Mbps	● 430 Mbps	● 896 Mbps	● 448 Mbps	● 430 Mbps
	RAW ST			● 529 Mbps	● 265 Mbps	● 212 Mbps	● 441 Mbps	● 221 Mbps	● 212 Mbps
	RAW LT			● 344 Mbps	● 172 Mbps	● 138 Mbps	● 287 Mbps	● 144 Mbps	● 138 Mbps

* ビットレートの方式はVBR（可変）。

XF-AVC形式

メイン記録形式	センサーモード	メイン解像度／ビットレート*		システム周波数／フレームレート							
				59.94 Hz				50.00 Hz			24.00 Hz
				59.94P	59.94i	29.97P	23.98P	50.00P	50.00i	25.00P	24.00P
XF-AVC YCC422 10 bit	フルサイズ	4096x2160 3840x2160	810Mbps Intra	●	–	–	–	●	–	–	–
			410Mbps Intra	–	–	●	●	–	–	●	●
			260Mbps L.GOP	●	–	–	–	●	–	–	–
			160Mbps L.GOP	–	–	●	●	–	–	●	●
		2048x1080	310Mbps Intra	●	–	–	–	●	–	–	–
			160Mbps Intra	–	–	●	●	–	–	●	●
			50Mbps L.GOP	●	–	●	●	●	–	●	●
		1920x1080	310Mbps Intra	●	–	–	–	●	–	–	–
			160Mbps Intra	–	●	●	●	–	●	●	●
			50Mbps L.GOP	●	●	●	●	●	●	●	●
		1280x720	24Mbps L.GOP	●	–	–	–	●	–	–	–
	Super 35mm (Crop)	4096x2160 3840x2160	810Mbps Intra	●	–	–	–	●	–	–	–
			410Mbps Intra	–	–	●	●	–	–	●	●
			260Mbps L.GOP	●	–	–	–	●	–	–	–
			160Mbps L.GOP	–	–	●	●	–	–	●	●
	Super 35mm (Crop) Super 16mm (Crop)	2048x1080	310Mbps Intra	●	–	–	–	●	–	–	–
			160Mbps Intra	–	–	●	●	–	–	●	●
			50Mbps L.GOP	●	–	●	●	●	–	●	●
		1920x1080	310Mbps Intra	●	–	–	–	●	–	–	–
			160Mbps Intra	–	●	●	●	–	●	●	●
			50Mbps L.GOP	●	●	●	●	●	●	●	●
		1280x720	24Mbps L.GOP	●	–	–	–	●	–	–	–

* ビットレートの方式は可変（Valiable Bit Rate）。「Intra」（Intra-frame）は1フレームごとに圧縮し、カット編集に適した高画質な圧縮方式。「L.GOP」（Long GOP）は前後のフレームの差分を圧縮し、高圧縮で長時間の録画が可能。

MP4形式

メイン記録形式	センサーモード	メイン解像度	システム周波数／フレームレート					
			59.94 Hz			50.00 Hz		24.00 Hz
			59.94P	29.97P	23.98P	50.00P	25.00P	24.00P
MP4（HEVC）YCC422 10 bit/ YCC420 10 bit	フルサイズ	8192x4320	–	●	●	–	●	●
		7680x4320	–	●	●	–	●	●
MP4（HEVC）YCC422 10 bit/ YCC420 10 bit MP4（H.264）YCC420 8 bit	フルサイズ	4096x2160	●	●	●	●	●	●
	Super 35mm (Crop)	3840x2160	●	●	●	●	●	●
	フルサイズ	2048x1080	●	●	●	●	●	●
	Super 35mm (Crop)	1920x1080	●	●	●	●	●	●
	Super 16mm (Crop)	1280x720	●	–	–	●	–	–

MEMO

- 各種出力端子からの信号については、「出力信号形式」（141）をご覧ください。

システム周波数を選ぶ

カードに記録したシステム周波数と再生するクリップのシステム周波数が異なっても、メディアモードで本機のシステム周波数を切り換えられます。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「システム周波数」を選ぶ

2 いずれかを選ぶ

- 選んだシステム周波数に設定され、本機が再起動する。

センサーモードを選ぶ

撮影するときのCMOSセンサーの読み出し画角を変更できます。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「センサーモード」を選ぶ

- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（54）。

2 いずれかを選ぶ

メイン動画の記録形式を選ぶ

メイン動画の動画形式とカラーサンプリング、ビット数の組み合わせを選択します。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「メイン記録形式」を選ぶ

- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（54）。

2 いずれかを選ぶ

メイン動画の解像度とビットレートを選ぶ

1 MENU > 記録/メディア設定 >「メイン解像度／ビットレート」を選ぶ
- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（54）。

2 いずれかを選ぶ

フレームレートを選ぶ

メイン動画のフレームレートを選択します。システム周波数を「24.00Hz」に設定したときは、この操作は不要です。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「フレームレート」を選ぶ
- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（54）。

2 いずれかを選ぶ

メイン動画の記録先を選ぶ

1 MENU > 記録／メディア設定 >「メイン記録先」を選ぶ

2「CFexpress」または「SDカード」を選ぶ
- 「スロット選択」を割り当てたアサインボタンを押して、カード1（CFexpressカード）とカード2（SDカード）を切り換えることができる。（118）

サブ動画を同時に記録する

スロット1のCFexpressカードにメイン動画を記録しながら、スロット2のSDカードにサブ動画を記録できます。メイン記録方式がHDMI RAWのときは、HDMI OUT端子からメイン動画（RAW形式の動画）が出力され、スロット2のカードにサブ動画を記録します。サブ動画の記録信号形式については下表を、音声については「音声を記録する」（98）をご覧ください。
設定操作はダイレクトタッチコントロール（54）で行うこともできます。

サブ動画の記録信号形式（メイン動画：RAW、サブ動画：XF-AVC）

メイン動画				サブ動画[*1]
				記録形式と解像度／ビットレート
メイン記録形式	メイン解像度／ビットレート		フレームレート	XF-AVC YCC422 10 bit
RAW HQ	5952x3140	2120Mbps	29.97P	4096x2160／410Mbps Intra 4096x2160／160Mbps L.GOP 2048x1080／160Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		1770Mbps	25.00P	
		1700Mbps	24.00P、23.98P	
	2976x1570	1080Mbps	59.94P	2048x1080／310Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		896Mbps	50.00P	
		537Mbps	29.97P	2048x1080／160Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		448Mbps	25.00P	
		430Mbps	24.00P、23.98P	
RAW ST	8192x4320	1980Mbps	29.97P	4096x2160／410Mbps Intra 4096x2160／160Mbps L.GOP 2048x1080／160Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		1650Mbps	25.00P	
		1580Mbps	24.00P、23.98P	
	5952x3140	2090Mbps	59.94P	4096x2160／260Mbps L.GOP 2048x1080／310Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		1750Mbps	50.00P	
		1050Mbps	29.97P	4096x2160／410Mbps Intra 4096x2160／160Mbps L.GOP 2048x1080／160Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		871Mbps	25.00P	
		836Mbps	24.00P、23.98P	
	2976x1570	529Mbps	59.94P	2048x1080／310Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		441Mbps	50.00P	
		265Mbps	29.97P	2048x1080／160Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		221Mbps	25.00P	
		212Mbps	24.00P、23.98P	

メイン動画				サブ動画[*1]
				記録形式と解像度／ビットレート
メイン記録形式	メイン解像度／ビットレート		フレームレート	XF-AVC YCC422 10 bit
RAW LT	8192x4320	2570Mbps	59.94P	4096x2160／260Mbps L.GOP 2048x1080／310Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		2140Mbps	50.00P	
		1290Mbps	29.97P	4096x2160／410Mbps Intra 4096x2160／160Mbps L.GOP 2048x1080／160Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		1070Mbps	25.00P	
		1030Mbps	24.00P、23.98P	
	5952x3140	1360Mbps	59.94P	4096x2160／260Mbps L.GOP 2048x1080／310Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		1140Mbps	50.00P	
		679Mbps	29.97P	4096x2160／410Mbps Intra 4096x2160／160Mbps L.GOP 2048x1080／160Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		566Mbps	25.00P	
		544Mbps	24.00P、23.98P	
	2976x1570	344Mbps	59.94P	2048x1080／310Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		287Mbps	50.00P	
		172Mbps	29.97P	2048x1080／160Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		144Mbps	25.00P	
		138Mbps	24.00P、23.98P	

[*1] フレームレートは原則としてメイン動画と同じ。

サブ動画の記録信号形式（メイン動画：RAW、サブ動画：MP4）

メイン動画				サブ動画*1		
				記録形式と解像度／ビットレート		
メイン記録形式	メイン解像度／ビットレート		フレームレート	MP4(HEVC) YCC422 10 bit	MP4(HEVC) YCC420 10 bit	MP4(H.264) YCC420 8 bit
RAW HQ	5952x3140	2120Mbps	29.97P	4096x2160／135Mbps 2048x1080／50Mbps	4096x2160／100Mbps 2048x1080／35Mbps	4096x2160／150Mbps 2048x1080／35Mbps
		1770Mbps	25.00P			
		1700Mbps	24.00P、23.98P			
	2976x1570	1080Mbps	59.94P	2048x1080／50Mbps	2048x1080／35Mbps	2048x1080／35Mbps
		896Mbps	50.00P			
		537Mbps	29.97P			
		448Mbps	25.00P			
		430Mbps	24.00P、23.98P			
RAW ST	8192x4320	1980Mbps	29.97P	4096x2160／135Mbps 2048x1080／50Mbps	4096x2160／100Mbps 2048x1080／35Mbps	4096x2160／150Mbps 2048x1080／35Mbps
		1650Mbps	25.00P			
		1580Mbps	24.00P、23.98P			
	5952x3140	2090Mbps	59.94P	4096x2160／225Mbps 2048x1080／50Mbps	4096x2160／170Mbps 2048x1080／35Mbps	
		1750Mbps	50.00P			
		1050Mbps	29.97P	4096x2160／135Mbps 2048x1080／50Mbps	4096x2160／100Mbps 2048x1080／35Mbps	
		871Mbps	25.00P			
		836Mbps	24.00P、23.98P			
	2976x1570	529Mbps	59.94P	2048x1080／50Mbps	2048x1080／35Mbps	2048x1080／35Mbps
		441Mbps	50.00P			
		265Mbps	29.97P			
		221Mbps	25.00P			
		212Mbps	24.00P、23.98P			

メイン動画				サブ動画*1		
				記録形式と解像度／ビットレート		
メイン記録形式	メイン解像度／ビットレート		フレームレート	MP4(HEVC) YCC422 10 bit	MP4(HEVC) YCC420 10 bit	MP4(H.264) YCC420 8 bit
RAW LT	8192x4320	2570Mbps	59.94P	4096x2160／225Mbps 2048x1080／50Mbps	4096x2160／170Mbps 2048x1080／35Mbps	4096x2160／150Mbps 2048x1080／35Mbps
		2140Mbps	50.00P			
		1290Mbps	29.97P	4096x2160／135Mbps 2048x1080／50Mbps	4096x2160／100Mbps 2048x1080／35Mbps	
		1070Mbps	25.00P			
		1030Mbps	24.00P、23.98P			
	5952x3140	1360Mbps	59.94P	4096x2160／225Mbps 2048x1080／50Mbps	4096x2160／170Mbps 2048x1080／35Mbps	
		1140Mbps	50.00P			
		679Mbps	29.97P	4096x2160／135Mbps 2048x1080／50Mbps	4096x2160／100Mbps 2048x1080／35Mbps	
		566Mbps	25.00P			
		544Mbps	24.00P、23.98P			
	2976x1570	344Mbps	59.94P	2048x1080／50Mbps	2048x1080／35Mbps	2048x1080／35Mbps
		287Mbps	50.00P			
		172Mbps	29.97P			
		144Mbps	25.00P			
		138Mbps	24.00P、23.98P			

*1 フレームレートは原則としてメイン動画と同じ。

サブ動画の記録信号形式（メイン動画：HDMI RAW、サブ動画：XF-AVC/MP4）

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">メイン動画</th><th colspan="4">サブ動画</th></tr>
<tr><th colspan="4">記録形式と解像度／ビットレート</th></tr>
<tr><th>メイン
記録形式</th><th>メイン
解像度</th><th>フレームレート</th><th>XF-AVC YCC422
10 bit</th><th>MP4(HEVC)
YCC422 10 bit</th><th>MP4(HEVC)
YCC420 10 bit</th><th>MP4(H.264)
YCC420 8 bit</th></tr>
<tr><td rowspan="10">HDMI RAW</td><td rowspan="3">8192x4320</td><td>29.97P</td><td rowspan="3">4096x2160／
410Mbps Intra
4096x2160／
160Mbps L.GOP
2048x1080／
160Mbps Intra
2048x1080／
50Mbps L.GOP</td><td rowspan="3">4096x2160／
135Mbps
2048x1080／
50Mbps</td><td rowspan="3">4096x2160／
100Mbps
2048x1080／
35Mbps</td><td rowspan="6">4096x2160／
150Mbps
2048x1080／
35Mbps</td></tr>
<tr><td>25.00P</td></tr>
<tr><td>24.00P、23.98P</td></tr>
<tr><td rowspan="3">5952x3140</td><td>59.94P</td><td rowspan="2">4096x2160／
260Mbps L.GOP
2048x1080／
310Mbps Intra
2048x1080／
50Mbps L.GOP</td><td rowspan="2">4096x2160／
225Mbps
2048x1080／
50Mbps</td><td rowspan="2">4096x2160／
170Mbps
2048x1080／
35Mbps</td></tr>
<tr><td>50.00P</td></tr>
<tr><td>29.97P</td><td rowspan="3">4096x2160／
410Mbps Intra
4096x2160／
160Mbps L.GOP
2048x1080／
160Mbps Intra
2048x1080／
50Mbps L.GOP</td><td rowspan="3">4096x2160／
135Mbps
2048x1080／
50Mbps</td><td rowspan="3">4096x2160／
100Mbps
2048x1080／
35Mbps</td></tr>
<tr><td>25.00P</td></tr>
<tr><td>24.00P、23.98P</td></tr>
<tr><td rowspan="5">2976x1570</td><td>59.94P</td><td rowspan="2">2048x1080／
310Mbps Intra
2048x1080／
50Mbps L.GOP</td><td rowspan="5">2048x1080／
50Mbps</td><td rowspan="5">2048x1080／
35Mbps</td><td rowspan="5">2048x1080／
35Mbps</td></tr>
<tr><td>50.00P</td></tr>
<tr><td>29.97P</td><td rowspan="3">2048x1080／
160Mbps Intra
2048x1080／
50Mbps L.GOP</td></tr>
<tr><td>25.00P</td></tr>
<tr><td>24.00P、23.98P</td></tr>
</table>

サブ動画の記録信号形式（メイン動画：XF-AVC、サブ動画：XF-AVC）

メイン動画				サブ動画*1
				記録形式と解像度／ビットレート
メイン記録形式	メイン解像度／ビットレート		フレームレート	XF-AVC YCC422 10 bit
XF-AVC YCC422 10 bit	4096x2160	810Mbps Intra	59.94P、50.00P	2048x1080／310Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		260Mbps L.GOP	59.94P、50.00P	2048x1080／50Mbps L.GOP
		410Mbps Intra	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	4096x2160／160Mbps L.GOP 2048x1080／160Mbps Intra 2048x1080／50Mbps L.GOP
		160Mbps L.GOP	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	2048x1080／50Mbps L.GOP
	3840x2160	810Mbps Intra	59.94P、50.00P	1920x1080／310Mbps Intra 1920x1080／160Mbps Intra*2 1920x1080／50Mbps L.GOP*3 1280x720／24Mbps L.GOP
		260Mbps L.GOP	59.94P、50.00P	1920x1080／50Mbps L.GOP*3 1280x720／24Mbps L.GOP
		410Mbps Intra	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	3840x2160／160Mbps L.GOP 1920x1080／160Mbps Intra 1920x1080／50Mbps L.GOP
		160Mbps L.GOP	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	1920x1080／50Mbps L.GOP
	2048x1080	310Mbps Intra	59.94P、50.00P	2048x1080／50Mbps L.GOP
		160Mbps Intra	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	
	1920x1080	310Mbps Intra	59.94P、50.00P	1920x1080／50Mbps L.GOP 1280x720／24Mbps L.GOP
		50Mbps L.GOP	59.94P、50.00P	1280x720／24Mbps L.GOP
		160Mbps Intra	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	1920x1080／50Mbps L.GOP
		160Mbps Intra	59.94i、50.00i	1920x1080／50Mbps L.GOP

*1 フレームレートは原則としてメイン動画と同じ。
*2 59.94i/50.00iのみ選択可能。
*3 59.94i/50.00iも選択可能。

サブ動画の記録信号形式（メイン動画：XF-AVC、サブ動画：MP4）

メイン動画				サブ動画*1
				記録形式と解像度／ビットレート
メイン記録形式	メイン解像度／ビットレート		フレームレート	MP4(H.264) YCC420 8 bit
XF-AVC YCC422 10 bit	4096x2160	810Mbps Intra	59.94P、50.00P	2048x1080／35Mbps
		260Mbps L.GOP		
		410Mbps Intra	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	4096x2160／150Mbps 2048x1080／35Mbps
		160Mbps L.GOP		
	3840x2160	810Mbps Intra	59.94P、50.00P	1920x1080／35Mbps 1280x720／8Mbps
		260Mbps L.GOP		
		410Mbps Intra	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	3840x2160／150Mbps 1920x1080／35Mbps
		160Mbps L.GOP		
	2048x1080	310Mbps Intra	59.94P、50.00P	2048x1080／35Mbps
		50Mbps L.GOP		
		160Mbps Intra	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	2048x1080／35Mbps
		50Mbps L.GOP		
	1920x1080	310Mbps Intra	59.94P、50.00P	1920x1080／35Mbps 1280x720／8Mbps
		50Mbps L.GOP		
		160Mbps Intra	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	1920x1080／35Mbps
		50Mbps L.GOP		
	1280x720	24Mbps L.GOP	59.94P、50.00P	1280x720／8Mbps

*1 フレームレートは原則としてメイン動画と同じ。

サブ動画の記録信号形式（メイン動画：MP4、サブ動画：MP4）

メイン動画				サブ動画*1		
				記録形式と解像度／ビットレート		
メイン記録形式	メイン解像度／ビットレート		フレームレート	MP4(HEVC) YCC422 10 bit	MP4(HEVC) YCC420 10 bit	MP4(H.264) YCC420 8 bit
MP4(HEVC) YCC422 10 bit	4096x2160	225Mbps	59.94P、50.00P	2048x1080／50Mbps	2048x1080／35Mbps	—
		135Mbps	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P		4096x2160／100Mbps 2048x1080／35Mbps	
	3840x2160	225Mbps	59.94P、50.00P	1920x1080／50Mbps 1280x720／12Mbps	1920x1080／35Mbps 1280x720／9Mbps	—
		135Mbps	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	1920x1080／50Mbps	3840x2160／100Mbps 1920x1080／35Mbps	—
	2048x1080	50Mbps	59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	—	2048x1080／35Mbps	—
	1920x1080	50Mbps	59.94P、50.00P	1280x720／12Mbps	1920x1080／35Mbps 1280x720／9Mbps	—
			29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	—	1920x1080／35Mbps	—
	1280x720	12Mbps	59.94P、50.00P	—	1280x720／9Mbps	—

メイン動画				サブ動画*1		
				記録形式と解像度／ビットレート		
メイン記録形式	メイン解像度／ビットレート		フレームレート	MP4(HEVC) YCC422 10 bit	MP4(HEVC) YCC420 10 bit	MP4(H.264) YCC420 8 bit
MP4(HEVC) YCC420 10 bit	4096x2160	170Mbps	59.94P、50.00P	–	2048x1080／35Mbps	–
		100Mbps	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	–	2048x1080／35Mbps	–
	3840x2160	170Mbps	59.94P、50.00P	–	1920x1080／35Mbps 1280x720／9Mbps	–
		100Mbps	29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	–	1920x1080／35Mbps	–
	1920x1080	35Mbps	59.94P、50.00P	–	1280x720／9Mbps	–
MP4(H.264) YCC420 8 bit	4096x2160	150Mbps	59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	–	–	2048x1080／35Mbps
	3840x2160	150Mbps	59.94P、50.00P	–	–	1920x1080／35Mbps 1280x720／8Mbps
			29.97P、25.00P、24.00P、23.98P	–	–	1920x1080／35Mbps
	1920x1080	35Mbps	59.94P、50.00P	–	–	1280x720／8Mbps

*1 フレームレートは原則としてメイン動画と同じ。

1 スロット1にメイン動画用のカードを、スロット2にサブ動画用のカードを入れる

2 MENU > 記録/メディア設定 >「2スロット記録機能」>「[1]メイン／[2]サブ記録」を選ぶ

3 MENU > 記録/メディア設定 >「[2]記録形式」> いずれかを選ぶ

4 MENU > 記録/メディア設定 >「[2]解像度／ビットレート」> いずれかを選ぶ

5 MENU > 記録/メディア設定 >「[2]フレームレート」> いずれかを選ぶ

- メイン動画が一部の記録形式のときのみ、選択できる。

6 RECボタンを押して、記録を開始する

- メイン動画の記録開始と同時に、サブ動画の記録が始まる。

MEMO

- メイン動画用のカードがスロットに入っていないときは、サブ動画のみ記録します。

プロキシ動画を同時に記録する

スロット1のCFexpressカードにメイン動画を記録しながら、スロット2のSDカードにプロキシ動画を記録できます。メイン記録方式がHDMI RAWのときは、HDMI OUT端子からメイン動画（RAW形式の動画）が出力され、スロット2のカードにプロキシ動画を記録します。プロキシ動画はメイン動画よりもビットレートが低く、ファイル容量も比較的小さいため、オフライン編集に向いています。
設定操作はダイレクトタッチコントロール（🕮 54）で行うこともできます。

プロキシ動画の記録信号形式

<table>
<tr><th colspan="3">メイン動画</th><th colspan="3">プロキシ動画</th></tr>
<tr><th rowspan="2">メイン
記録形式</th><th rowspan="2">メイン解像度</th><th rowspan="2">フレームレート</th><th colspan="2">記録形式と解像度／ビットレート</th><th rowspan="2">フレームレート</th></tr>
<tr><th>XF-AVC
YCC420 8 bit</th><th>MP4 (H.264)
YCC420 8 bit</th></tr>
<tr><td rowspan="2">RAW ST
RAW LT
HDMI RAW</td><td rowspan="2">8192×4320</td><td>59.94P、50.00P</td><td>2048x1080／35Mbps
L.GOP</td><td rowspan="8">2048×1080／9Mbps</td><td rowspan="15">メイン動画と同一</td></tr>
<tr><td>29.97P、25.00P
23.98P、24.00P</td><td>2048×1080／24Mbps
L.GOP</td></tr>
<tr><td>RAW HQ</td><td rowspan="3">5952×3140</td><td>29.97P、25.00P
23.98P、24.00P</td><td>2048×1080／24Mbps
L.GOP</td></tr>
<tr><td rowspan="2">RAW ST
RAW LT
HDMI RAW</td><td>59.94P、50.00P</td><td>2048x1080／35Mbps
L.GOP</td></tr>
<tr><td>29.97P、25.00P
23.98P、24.00P</td><td>2048×1080／24Mbps
L.GOP</td></tr>
<tr><td rowspan="2">RAW HQ
RAW ST
RAW LT
HDMI RAW</td><td rowspan="2">2976×1570</td><td>59.94P、50.00P</td><td>2048x1080／35Mbps
L.GOP</td></tr>
<tr><td>29.97P、25.00P
23.98P、24.00P</td><td>2048×1080／24Mbps
L.GOP</td></tr>
<tr><td rowspan="6">XF-AVC
YCC422 10 bit</td><td rowspan="2">4096×2160
2048×1080</td><td>59.94P、50.00P</td><td>2048×1080／35Mbps
L.GOP</td><td rowspan="2">2048×1080／9Mbps</td></tr>
<tr><td>29.97P、25.00P
23.98P、24.00P</td><td>2048×1080／24Mbps
L.GOP</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3840×2160
1920×1080</td><td>59.94P、50.00P</td><td>1920×1080／35Mbps
L.GOP</td><td rowspan="2">1920×1080／9Mbps
1280×720／9Mbps
1280×720／6Mbps</td></tr>
<tr><td>29.97P、25.00P
23.98P、24.00P</td><td>1920×1080／24Mbps
L.GOP</td></tr>
<tr><td>1920×1080</td><td>59.94i、50.00i</td><td>1920×1080／24Mbps
L.GOP</td><td>—</td></tr>
<tr><td>1280×720</td><td>59.94P、50.00P</td><td>1280×720／17Mbps
L.GOP</td><td>1280×720／9Mbps
1280×720／6Mbps</td></tr>
<tr><td rowspan="5">MP4 (H.264)
YCC420 8 bit</td><td rowspan="2">4096×2160
2048×1080</td><td>59.94P、50.00P</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">2048×1080／9Mbps</td></tr>
<tr><td>29.97P、25.00P
23.98P、24.00P</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3840×2160
1920×1080</td><td>59.94P、50.00P</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">1920×1080／9Mbps
1280×720／9Mbps
1280×720／6Mbps</td></tr>
<tr><td>29.97P、25.00P
23.98P、24.00P</td></tr>
<tr><td>1280×720</td><td>59.94P、50.00P</td><td>—</td><td>1280×720／6Mbps</td></tr>
</table>

1 スロット1にメイン動画用のカードを、スロット2にプロキシ動画用のカードを入れる
2 メイン動画の記録形式を選ぶ（🕮 58）

3 MENU > 記録/メディア設定 >「2スロット記録機能」>「1メイン／2Proxy記録」を選ぶ

4 MENU > 記録/メディア設定 >「2記録形式」> いずれかを選ぶ

5 MENU > 記録/メディア設定 >「2解像度／ビットレート」> いずれかを選ぶ

6 MENU > 記録/メディア設定 >「Proxy記録色変換」> いずれかを選ぶ

Custom Picture準拠： 変換しない。

BT.709 (Wide DR) ／ BT.709 (CMT 709)： カスタムピクチャーのガンマが、「BT.709 XXXXX」／「Canon 709」のとき、またはLook File適用後のガンマが「SDR XXXXX」のときはそのまま、それ以外のときは選んだガンマに変換する。色空間は「BT.709」に変換する。変換元のガンマがHDRのときは、MENU > モニタリング設定 >「HDR→SDRゲイン」で明るさを調整できる（149）。

7 RECボタンを押して、記録を開始する

- メイン動画の記録開始と同時に、プロキシ動画の記録が始まる。

MEMO

- 同時記録中にメイン動画の記録が停止すると、プロキシ動画の記録も停止します。
- メイン動画用のカードがスロットに入っていないときは、プロキシ動画のみ記録します。

シャッタースピードを調整する

被写体や撮影環境に合わせてシャッタースピードを調整すると、動きの速い被写体（スポーツや乗り物など）を鮮明に撮影したり、低照度のシーンを明るく撮影したりすることができます。シャッタースピードの調整には、次のモードがあります。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（🕮 172）を使って調整することもできます。

スピード： 秒数でシャッタースピードを設定する。設定時の刻み幅は、メニューで1/3段と1/4段から選べる。
アングル： 開角度でシャッタースピードを設定する。
クリアスキャン： 周波数でシャッタースピードを設定する。モニター画面に黒い帯が出ないようにするときなど。
スロー： フレームレートより低速のシャッタースピードを秒数で設定する。低照度の場所で撮影するときなど。スロー &ファストモーション記録モードのときは選択できない。
切： 各フレームレートの基準シャッタースピードを使用する。

設定可能なシャッタースピード

選択できるシャッタースピードはフレームレートによって異なります。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="3">シャッタースピードモード</th><th colspan="6">システム周波数 / フレームレート</th></tr>
<tr><th colspan="3">59.94 Hz</th><th>24.00 Hz</th><th colspan="2">50.00 Hz</th></tr>
<tr><th>59.94P / 59.94i*1</th><th>29.97P</th><th>23.98P</th><th>24.00P</th><th>50.00P/50.00i*1</th><th>25.00P</th></tr>
<tr><td rowspan="2">スピード*2</td><td>1/3段刻み</td><td colspan="6">1/1 ～ 1/2000秒（全34設定）</td></tr>
<tr><td>1/4段刻み</td><td colspan="6">1/1 ～ 1/2000秒（59.94 Hz/24.00 Hz：全47設定、50.00 Hz：全45設定）</td></tr>
<tr><td colspan="2">アングル*2</td><td colspan="6">360°、240°、180°、120°、90°、60°、45°、30°、22.5°、15°、11.25°
1/120秒、1/100 秒、1/60 秒、1/50 秒、1/40 秒、3/100 秒、1/30 秒、
1/25秒相当のアングルも設定可能。</td></tr>
<tr><td colspan="2">クリアスキャン*2</td><td colspan="3">23.98 Hz ～ 1998 Hz</td><td colspan="3">24.00 Hz ～ 2003 Hz</td></tr>
<tr><td colspan="2">スロー*3</td><td>1/4、1/8、1/15、1/30秒</td><td>1/4、1/8、1/15秒</td><td colspan="2">1/3、1/6、1/12秒</td><td>1/3、1/6、1/12、1/25秒</td><td>1/3、1/6、1/12秒</td></tr>
<tr><td colspan="2">切*2</td><td>1/60秒</td><td>1/30秒</td><td>1/24秒</td><td>1/24秒</td><td>1/50秒</td><td>1/25秒</td></tr>
</table>

*1 MENU > 記録/メディア設定の「メイン記録形式」を「XF-AVC YCC422 10 bit」に、「メイン解像度／ビットレート」を「1920x1080 Intra-frame」または「1920x1080 Long GOP」を選択時のみ。
*2 設定できる値は、フレームレートまたはスロー &ファストモーション記録の撮影フレームレート、「VF倍速駆動」の設定によって変わる。また、「VF倍速駆動」が「入」の場合、シャッタースピードの下限は1/x 秒相当になる（xは設定しているフレームレートの2倍の値）。
*3 スロー &ファストモーション記録モードのとき、または「VF倍速駆動」が「入」のときは使用できない。

1 MENU > カメラ設定 >「シャッターモード」> いずれかを選ぶ
2「スピード」を選んだときは、MENU > カメラ設定 >「シャッターステップ」>「1/3段」または「1/4段」を選ぶ
3 カメラダイレクト設定（🕮 55）で、シャッタースピードや開角度（アングル）、周波数（クリアスキャン）を調整する
- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（🕮 54）。

スローによる撮影について

スローを使うと、明るさが不足している場所で被写体を明るく撮影できます。また、動いている被写体をパンするときに背景を流す、ズームに残像効果を加えるなどの特殊効果として使用することもできます。
- 通常の撮影に比べて画質が多少劣化することがあります。

MEMO

- 蛍光灯、水銀灯、ハロゲンライトなどの人工光源の照明下で撮影する場合、設定したシャッタースピードによっては、原理上フリッカーが出ることがあります。フリッカーが気になるときは、電源の周波数に応じたシャッタースピードを設定すると抑制できることがあります。電源周波数が50Hzのときは1/50秒*、または1/100秒を、60Hzのときは1/60秒、または1/120秒を選んでください。
  *フレームレートによっては選択できません。
- 晴天下などの明るい場所で撮影するときに絞りを絞り込むと、小絞りによるボケが発生することがあります。この現象は、以下を行うことで防止できることがあります。
  - シャッタースピードを高速にして絞りを開く。
  - 回折補正を有効にする（🕮 25）。補正効果は取り付けたレンズによって異なる。
- シャッタースピードのモードを「スロー」にすると、画面に赤、緑、青の輝点が出ることがあります。このときはシャッタースピードを上げるか、ISO感度／ゲインを下げてください（🕮 72）。
- シャッタースピードのモードが「スロー」のとき、スロー &ファストモーション記録モードまたはVF倍速駆動モードを設定すると、自動的に「シャッターモード」は「スピード」になります。

ISO感度／ゲインを調整する

映像アンプの増幅量をISO感度またはゲインで設定できます。設定にはオートとマニュアルの2種類があり、マニュアル設定時の刻み幅は、ISO感度／ゲインそれぞれ個別に設定できます。また、カメラの基準感度（Base ISO）を、3つのモードから選択できます。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（🕮 172）を使って調整することもできます。

設定可能な値

ISO/ゲイン[*1]	刻み幅[*2]	設定可能な値
ISO	1段	100、160[*3]、200、400、640[*3]、800、1600、3200、6400、12800、25600、51200、102400
	1/3段	100、125、160、200、250、320、400、500、640、800、1000、1250、1600、2000、2500、3200、4000、5000、6400、8000、10000、12800、16000、20000、25600、32000、40000、51200、64000、80000、102400
ゲイン	ノーマル (3dB)	–2dB[*3]、-6dB～54dB
	ファイン (0.5dB)	–2dB～54dB

設定可能な範囲

Base ISO	ISO/ゲイン[*1]	刻み幅[*2]	設定可能な範囲	
				感度拡張時[*4]
自動切り換え	ISO	任意	160～ 25600	100 ～ 102400
	ゲイン	ノーマル (3dB)	-2dB ～ 42dB	-6dB ～ 54dB
		ファイン (0.5dB)	-2dB ～ 42dB	-2dB ～ 54dB
Base ISO 160／Base ISO 160 (-2dB) Base ISO 400／Base ISO 400 (6dB) Base ISO 800／Base ISO 800 (12dB)	ISO	任意	160～ 6400	100 ～ 25600
	ゲイン	ノーマル (3dB)	-2dB ～ 30dB	-6dB ～ 42dB
		ファイン (0.5dB)	-2dB ～ 30dB	-2dB ～ 42dB
Base ISO 640／Base ISO 640 (-2dB) Base ISO 1600／Base ISO 1600 (6dB) Base ISO 3200／Base ISO 3200 (12dB)	ISO	任意	640 ～ 25600	400 ～ 102400
	ゲイン	ノーマル (3dB)	-2dB ～ 30dB	-6dB ～ 42dB
		ファイン (0.5dB)	-2dB ～ 30dB	-2dB ～ 42dB

*1 MENU > 📹 カメラ設定 >「ISO/ゲイン」の設定。
*2 MENU > 📹 カメラ設定 >「ISO/ゲインステップ」の設定。
*3 MENU > 📹 カメラ設定 >「ISO/ゲイン感度拡張」が「切」のときのみ。
*4「ISO/ゲイン感度拡張」が「入」のとき。

基準感度（Base ISO）を選ぶ

推奨のダイナミックレンジを実現するために必要な感度です。カメラの基準感度を、低感度または高感度の設定、自動切り換えから選択できます。通常の照明下では低感度設定、低照度の条件では高感度設定をおすすめします。高感度設定を選択すると、高いISO/ゲインで低ノイズを実現します。「自動切り換え」は、ISO/ゲインの値によって基準感度を自動で切り換えます。

MENU > カメラ設定 >「Base ISO」> いずれかを選ぶ

- カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」と記録形式の設定によって選択できる値が異なる。

Base ISOの設定値

Gamma/Color Space のガンマ	MENU > カメラ設定 >「ISO/ゲイン」	
	「ISO」のとき	「ゲイン」のとき
Canon Log 3	自動切り換え、Base ISO 800、Base ISO 3200	自動切り換え、Base ISO 800 (12dB)、Base ISO 3200 (12dB)
BT.709 Wide DR / PQ / HLG / Canon 709	自動切り換え、Base ISO 400、Base ISO 1600	自動切り換え、Base ISO 400 (6dB)、Base ISO 1600 (6dB)
BT.709 Standard / BT.709 Normal	自動切り換え、Base ISO 160、Base ISO 640	自動切り換え、Base ISO 160 (-2dB)、Base ISO 640 (-2dB)

* メイン記録形式がRAWのときの設定可能な基準感度は、Gamma/Color Spaceのガンマが「Canon Log 3」のときと同じ。

マニュアルで調整する

1 MENU > カメラ設定 >「ISO／ゲイン」>「ISO」または「ゲイン」を選ぶ

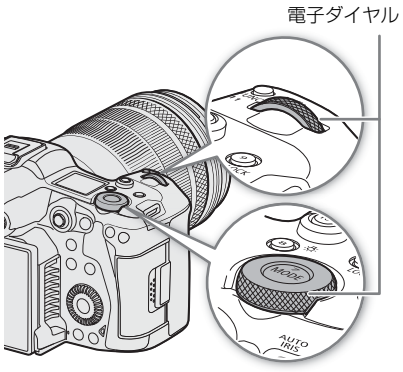
2 MENU > カメラ設定 >「ISO／ゲインモード」>「マニュアル」を選ぶ

3 操作1の選択に応じて、MENU > カメラ設定 >「ISO／ゲインステップ」> いずれかを選ぶ

4 カメラダイレクト設定（🕮 55）で、ISO感度またはゲインの値を調整する

- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（🕮 54）。

電子ダイヤル／コントロールリングで調整する



ISO感度／ゲインを割り当てた電子ダイヤルやコントロールリング（RFレンズ、マウントアダプター）で調整することができます。

1「マニュアルで調整する」の操作1～3を行う

2 MENU > システム設定 >「グリップ電子ダイヤル」または「上面電子ダイヤル」、「コントロールリング」>「ISO/ゲイン」を選ぶ

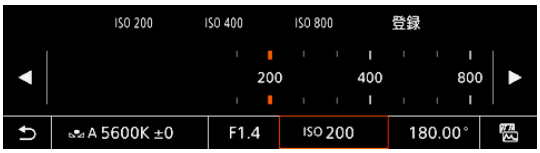
3 電子ダイヤル／コントロールリングを回して、ISO感度またはゲインを調整する

ISO感度／ゲインをプリセットする

ダイレクトタッチコントロール（🕮 54）にISO感度／ゲインの設定値を3つまでプリセットして使用できます。

プリセットする

1 > ISO感度／ゲイン値をタッチする
2 調整値を選び、「登録」をタッチする
3 登録先をタッチする
- 現在の値が登録される。



プリセットした値を使う

1 > ISO感度／ゲイン値をタッチする
2 スライダーの上のプリセット値のいずれかをタッチする
- プリセットされた値が適用される。

MEMO
- ISO感度／ゲインを上げると画面が多少ざらつくことがあります。
- ISO感度／ゲインを上げると、画面に赤、緑、青の輝点が出ることがあります。このときはシャッタースピード（70）を上げるか、ISO感度／ゲインを下げてください。
- ISO感度／ゲインの切り換え時、画面にノイズが現れることがあります。撮影中は、ISO感度／ゲインを切り換えないでください。
- MENU > システム設定 >「グリップ電子ダイヤル方向」または「上面電子ダイヤル方向」、「コントロールリング方向」で、電子ダイヤル／コントロールリングの操作方向を個別に変更することができます。
- 「ISO／ゲインモード」を割り当てたアサインボタンを押して、オートとマニュアルを切り換えることができます（118）。

オートで調整する

感度を被写体に応じて自動的に調整します。感度の上限を設定することもできます。スロー &ファストモーション記録モードのときは、オートで調整できません。

オート時の設定値

感度の下限値は、カスタムピクチャーのガンマの設定によって自動的に決まります。

Gamma/Color Spaceのガンマ	Base ISO[*1]	感度の下限値
Canon Log 3	自動切り換え	ISO 800（ゲイン12dB）
	Base ISO 800	
	Base ISO 3200	ISO 3200（ゲイン12dB）
BT.709 Wide DR PQ HLG Canon 709	自動切り換え	ISO 400（ゲイン6dB）
	Base ISO 400	
	Base ISO 1600	ISO 1600（ゲイン6dB）
BT.709 Normal BT.709 Standard	自動切り換え	ISO 160（ゲイン-2dB）
	Base ISO 160	
	Base ISO 640	ISO 640（ゲイン-2dB）

[*1] MENU > カメラ設定>「Base ISO」の設定。

MENU > カメラ設定 >「ISO／ゲインモード」>「オート」を選ぶ

- 感度の下限値は、基準感度になります。

MEMO

- 感度を自動で調整するときの応答性を、MENU > カメラ設定 >「AEレスポンス」で設定できます*。

* 非対応のレンズを除く（228）。

オート調整時の感度の上限を設定する

感度を自動的に調整するときの感度の上限を設定して、ノイズの上昇を抑えたり、暗い雰囲気を残したまま撮影したりすることができます。

MENU > カメラ設定 >「オート時リミット」> いずれかの値を選ぶ

アイリスを調整する

被写体の明るさに応じてアイリス（絞り）を調整します。設定可能な絞り値や使用できる調整方法、絞り値表示（F値またはT値）は、取り付けたレンズによって異なります（🕮 228）。設定時の刻み幅を設定したり、装着しているレンズの最小の刻み幅で調整したりすることができます。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（🕮 172）を使って操作することもできます。

マニュアルアイリス：　手動で調整する。
オートアイリス：　適正露出になるように常に自動調整する。
プッシュオートアイリス：　AUTO IRISボタンを押している間だけ一時的にオートアイリスの状態になる。

レンズのアイリス設定を選ぶ

カメラからのアイリス調整に対応するEFシネマレンズ／放送用レンズ／アイリスリングを備えるRFレンズを使うときは、レンズのアイリス設定をオートにします。レンズの操作部名称がレンズによって異なることがあります。詳しくはレンズの説明書をご覧ください。

レンズのアイリスオート／マニュアル切替えスイッチまたはアイリスリングをオートにする

- レンズのアイリス調整を、本機から行えるようになる。

マニュアルで調整する

1 MENU > カメラ設定 >「アイリスモード」>「マニュアル」を選ぶ
- オートアイリス対応レンズ装着時のみ設定可能。非対応レンズ装着時は「マニュアル」固定となる。

2 レンズのアイリス設定に対応するレンズ装着時：レンズのアイリス設定をオートにする（🕮 76）

3 MENU > カメラ設定 >「アイリスステップ」>「1/2段」または「1/3段」を選ぶ
- MENU > カメラ設定 >「アイリスファイン」>「入」を選ぶと、装着しているレンズの最小の刻み幅で調整することもできる。画面上の絞り値は、レンズの最小の刻み幅では表示されない。

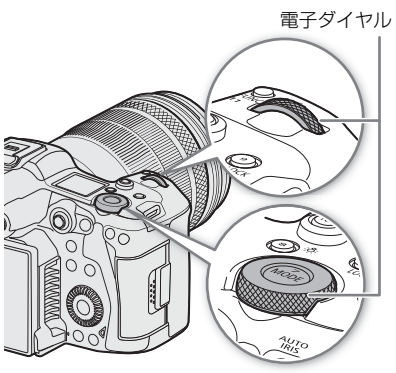
4 カメラダイレクト設定（🕮 55）で絞り値を調整する
- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（🕮 54）。

電子ダイヤル／コントロールリングで調整する

アイリスを割り当てた電子ダイヤルやコントロールリング（RFレンズ、マウントアダプター）で調整することができます。

1 MENU > システム設定 >「グリップ電子ダイヤル」または「上面電子ダイヤル」、「コントロールリング」>「アイリス」を選ぶ

2 電子ダイヤルを回して、絞り値を調整する



MEMO

- MENU > システム設定 >「グリップ電子ダイヤル方向」または「上面電子ダイヤル方向」、「コントロールリング方向」で、電子ダイヤル／コントロールリングの操作方向を個別に変更することができます。
- 「アイリス +」または「アイリス −」を割り当てたアサインボタンを押して、絞りを開いたり、絞ったりすることもできます（🕮 118）。
- レンズのアイリス設定に対応するレンズを装着しているときは、レンズのアイリスリングでもアイリスを調整できます（🕮 76）。
- 接点のないレンズや非対応レンズ（🕮 228）を装着しているときは、本機でアイリスを調整できません。レンズ側で調整してください。
- ズーム操作によりF値が変化するレンズを使うときは、MENU > カメラ設定 >「ズーム連動F値補正」で、ズームに連動してF値を補正するかどうかを指定できます。

RF / EFシネマレンズを使用するとき

- 絞り値はT値で表示されます*。その際、画面に表示されるT値が、レンズの指標と異なることがあります。
  * RFシネマレンズはファームウェアの更新が必要（🕮 24）。
- アイリスがクローズに近づくとT値が灰色で表示されます。
- アイリスがオープンまたはクローズの状態からT値を変更するとき、アイリスが動作するまでに複数回の操作が必要なことがあります。

- マウントアダプター EF-EOS R 0.71xを使用してEFレンズを取り付けると、絞り値がレンズの指標より約1段明るくなります。

一時的にオートで調整する（プッシュオートアイリス）

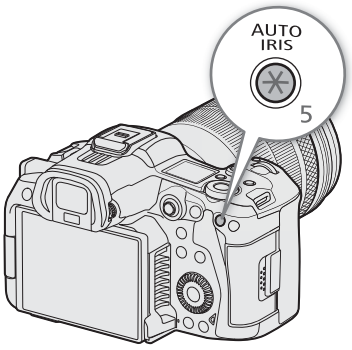
AUTO IRIS（オートアイリス）ボタンを押している間、絞りを自動的に調整して適正な露出にします。スロー &ファストモーション記録モードのときは、プッシュオートアイリスを使用できません。

1 MENU > カメラ設定 >「アイリスモード」>「マニュアル」を選ぶ

2 レンズのアイリス設定に対応するレンズ装着時：レンズのアイリス設定をオートにする（🕮 76）

3 AUTO IRISボタンを押し続ける

- ボタンを押し続けている間、適正露出になるように絞りが自動的に調整される。画面の絞り値の左に A が表示され、調整にともなって画面の絞り値が更新される。
- ボタンを離すと絞りの自動調整が終了し、絞り値が固定される。絞り値の左の A は消える。



MEMO

- アイリスを自動で調整するときの応答性を、MENU > カメラ設定 >「AEレスポンス」で設定できます*。
  * 非対応のレンズを除く（🕮 228）。

オートで調整する（オートアイリス）

対応レンズを装着しているときは、アイリスを常に自動調整できます。スロー &ファストモーション記録モードのときは、オートアイリスを使用できません。

1 MENU > カメラ設定 >「アイリスモード」>「オート」を選ぶ

- 適正露出になるように絞りが自動的に調整される。画面の絞り値の左に A が表示され、調整にともなって画面の絞り値が更新される。

2 レンズのアイリス設定に対応するレンズ装着時：レンズのアイリス設定をオートにする（🕮 76）

MEMO

- 「アイリスモード」を割り当てたアサインボタンを押して、「オート」と「マニュアル」を切り換えることもできます（118）。
- 次の場合、絞り値が変わることがあります。
  - EFシネマレンズの内蔵エクステンダーとアイリス補正機能を使用にしていて、オートアイリスからマニュアルアイリスに切り換えたとき。
  - レンズのアイリス設定のオート／マニュアルを切り換えたとき。
- アイリスのゲインを調整できるEFシネマレンズの装着時、レンズのアイリスゲインが高いと撮影シーンによってはハンチング（絞りが不安定になること）が発生することがあります。このときは、レンズのアイリスゲインを初期設定に戻してください。

露出を補正する（AEシフト）

露出を意図的に補正して明るめや暗めに撮影することができます。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（172）を使って調整することもできます。

1 MENU > カメラ設定 >「AEシフト」を選ぶ

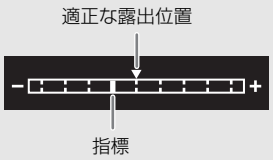
2 いずれかの値を選ぶ

- 設定した補正量に応じて露出を調整する。
- 補正量は－2段～＋2段まで17段階で設定できる。

MEMO

- 「AEシフト +」と「AEシフト −」を割り当てたアサインボタンを押して露出の補正量を調整することもできます（118）。

露出バー
図の「適正な露出位置」（▼）は、補正量が±0（AE±0）時の明るさの目標値を示します。露出バーの刻み幅は1/2段です。露出バーの内側に現在の露出位置が表示されます。露出バーは±2段まで表示でき、この範囲を超えると指標が点滅します。測光方式を変更すると、適正露出は変化します。



測光方式を設定する

撮影シーンに合わせて測光方式を設定すると、より適正な明るさで撮影することができます。

1 MENU > カメラ設定 >「測光方式」を選ぶ

2 いずれかを選ぶ

バックライト：　逆光のシーンを撮影するとき、暗部をより明るく制御する。
スタンダード：　画面中央の被写体に重点を置きながら、画面全体を測光する。
スポットライト：　スポットライトが当たった被写体を撮影するとき、スポット的に明るくなった部分が最適な明るさになるように制御する。

- バックライトを選ぶとが、スポットライトを選ぶとが画面に表示される。

MEMO

- 「バックライト」または「スポットライト」を割り当てたアサインボタンを押して、それぞれの測光方式と「スタンダード」を切り換えることもできます（118）。
- アイリスをマニュアルで調整後、測光方式を変更したときは、露出を再調整してください。

ホワイトバランスを調整する

照明や太陽光などの光源の色温度に応じて、ホワイトバランスを設定することができます。本機では次の方法でホワイトバランスを調整できます。蛍光灯下で撮影するときは、ホワイトバランスセットで調整してください。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（🕮 172）を使って調整することもできます。

ホワイトバランスセット：	実際に撮影する環境下でグレーカードや白い無地の被写体を写して基準白色を取り込む。「A」（セットA）と「B」（セットB）の2種類の設定を登録できる。
プリセット設定：	「☀」（太陽光）または「☀」（電球）のいずれかを選ぶ。色温度（K）と色補正値（CC）*の微調整が可能。
色温度設定：	2000K ～ 15000Kの範囲で色温度を設定する。色補正値（CC）の微調整が可能。
オートホワイトバランス（AWB）：	常に適切なホワイトバランスになるように自動調整する。

* マゼンタ／グリーン方向の補正。Color Compensation。

MEMO

- カスタムピクチャー（🕮 129）の「Color Matrix Tuning」または「White Balance」を設定しているときは、それらの設定がホワイトバランス設定より優先されます。
- MENU > カメラ設定 >「ショックレスWB」を「入」にすると、ホワイトバランスを切り換えたときに値がなめらかに変化します。
- 本機で表示または設定する色温度は目安です。

ホワイトバランスモード（調整方法）を選ぶ

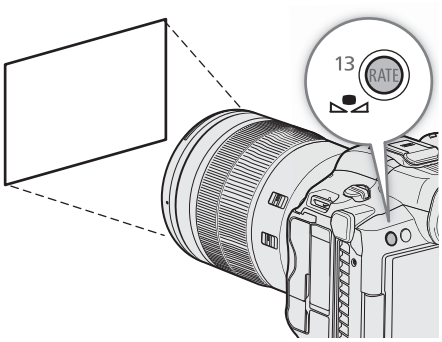
カメラダイレクト設定（🕮 55）でホワイトバランスのモードを選ぶ

- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（🕮 54）。
- MENU > システム設定 >「グリップ電子ダイヤル」または「上面電子ダイヤル」、「コントロールリング」に「ホワイトバランスモード」を割り当てると、電子ダイヤル／コントロールリングでモードを変更することもできる。

MEMO

- 「AWB AWB」、「セットA」、「セットB」、「☀太陽光」、「☀電球」、「K Kelvin」のいずれかを割り当てたアサインボタンを押して、ホワイトバランスモードを一時的に変更することができます。アサインボタンをもう一度押すと、ホワイトバランスモードは元に戻ります。

ホワイトバランスセットで調整する



1 ホワイトバランスモードをA（セットA）またはB（セットB）にする（🕮 79）

- 登録済みのホワイトバランスセットを選んだときは、以降の操作は不要。新しいホワイトバランスセットを登録するときは、以下の操作を行う。

2 グレーカードや白い無地の被写体を画面の中央に写す

- 被写体は実撮影と同じ照明条件下に置く。

3 （ホワイトバランスセット）ボタンを押す

- 「A」または「B」が速く点滅する。
- 調整中は、グレーカードや白い無地の被写体を画面の中央に写し続ける。
- 点滅→点灯に変わったら調整完了。調整されたホワイトバランスは電源を切っても記憶されている。

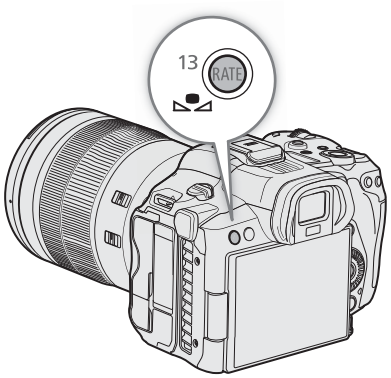
MEMO

- 場所や明るさが変わったときは、ホワイトバランスセットをセットし直してください。
- 光源によっては、ごくまれに が速い点滅→点灯に変わらない（速い点滅から遅い点滅に変わる）ことがあります。その場合は、被写体の明るさを変えて、再度ホワイトバランスセットの調整を行ってください。
- 調整後に色温度値と色補正値が灰色で表示されることがあります。これは、表示可能な範囲を超えたためで、調整自体は適切に行われています。

プリセット設定／色温度設定で調整する

1 ホワイトバランスモードを ☀（太陽光）、💡（電球）、K（色温度）のいずれかにする（79）

- SETを押すと、プリセット設定または色温度設定が適用される。以降の操作は不要。色温度や色補正値（CC）を調整するときは、以下の操作を行う。



2 （ホワイトバランスセット）ボタンを押す

- カメラダイレクト設定に入り、色温度の背景がオレンジ色で表示される。ジョイスティックを右に押すと、カーソルが色補正値（CC）の設定値に移動する。
- ダイレクトタッチコントロールで、色温度／色補正値をタッチして調整することもできる（54）。

3 調整値を選ぶ

- 選んだ色温度または色補正値（CC）が設定され、☀、💡、またはKの隣に表示される。

ホワイトバランスの調整方法	調整可能範囲	
	色温度（K）	色補正値（CC）
☀（太陽光）	4300K ～ 8000K	−5 CC ～ +5 CC
💡（電球）	2700K ～ 3700K	
K（色温度）	2000K ～ 15000K	−20 CC ～ +20 CC

MEMO

- MENU > カメラ設定 >「色温度ステップ」で、色温度の単位を「ミレッド」（5ミレッド単位）または「ケルビン」（100ケルビン単位）から選ぶことができます。「ミレッド」に設定した場合でも、ケルビンに換算して画面に表示されます。なお、色温度ステップを変更すると、ホワイトバランスの設定が変わることがあります。
- MENU > システム設定 >「グリップ電子ダイヤル」または「上面電子ダイヤル」、「コントロールリング」に「ホワイトバランス（K）」または「ホワイトバランス（CC）」を割り当てると、電子ダイヤル／コントロールリングで色温度や色補正値を調整できます。

オートホワイトバランス（AWB）で調整する

常に適切なホワイトバランスになるように自動で調整します。光源の色温度が変化すると、ホワイトバランスも自動的に調整し直されます。

ホワイトバランスモードを AWB（オートホワイトバランス）にする（79）

- 調整された色温度や色補正値（CC）が、AWBのアイコンの隣に表示される。

MEMO

- 次のような条件で撮影する場合、画面の色が不自然なときは（ホワイトバランスセット）で調整してください。
  - 照明条件が急に変わる場所での撮影。
  - クローズアップ撮影。
  - 空や海、森など単一色しか持たない被写体の撮影。
  - 水銀灯や一部の蛍光灯／ LED照明下での撮影。
- オートホワイトバランスの応答性は、MENU > カメラ設定 >「AWBレスポンス」で設定できます。
- 「AWBホールド」を割り当てたアサインボタンを押して、オートホワイトバランスの動作を一時停止させることができます（118）。もう一度押すか、他の調整方法に切り換えると解除されます。

フォーカスを調整する

取り付けたレンズによって、次の方法でフォーカスを調整できます。AF（オートフォーカス）の方式にはデュアルピクセルCMOS AFを使用します。使用できる調整方法は、取り付けたレンズによって異なります（🕮 228）。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（🕮 172）を使って調整することもできます。
また、調整方法によっては、LCDモニターの画面上をタッチしてピントを合わせる位置を移動できます。
* マニュアルフォーカスレンズ装着時を除く。

マニュアルフォーカス：	レンズのフォーカスリングを回してフォーカスを手動で調整する。フォーカスアシスト機能（🕮 83）を使うと、ピントを合わせやすくなる。
ワンショットAF：	AF-ONボタンを押してAFフレーム枠内の被写体に合わせてフォーカスを一時的に自動調整する。
連続AF*：	フォーカスを常に自動調整する。 「合焦付近のみ」を選ぶと、大まかな調整はマニュアルで行い、合焦位置に近づくとAFで自動調整する。（AFブーストMF機能と同等）
顔検出AF*：	人物の顔を検出して自動的にピントを合わせ、被写体が動いても追尾する。
瞳検出*：	人物の瞳を検出して自動的にピントを合わせ、被写体が動いても追尾する。
追尾：	選んだ被写体を認識し、被写体が動いても追尾する。

*「AFロック」（🕮 86）でフォーカス位置を固定することも可能。

レンズのフォーカスモードを選ぶ

レンズのスイッチを操作して、レンズのフォーカスモード（オート、マニュアル）を選択します。レンズの操作部名称がレンズによって異なることがあります。詳しくはレンズの説明書をご覧ください。

レンズのフォーカスモードをオートまたはマニュアルにする

- 画面に AF（オート）または MF（マニュアル）が表示される。
- フォーカスモードの選択スイッチがないレンズのときは、MENU > 🎥 カメラ設定 >「フォーカスモード」で、「AF」または「MF」を選ぶ。

マニュアルで調整する

マニュアルでフォーカスを調整します。

フォーカスリングを回して、ピントを合わせる

MEMO

- レンズによっては、フォーカスモードをオートにしたまま、フォーカスリングで調整できるものがあります。
- ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。
- 電源を入れたままで放置するとピントがボケることがあります。これはレンズとカメラ内部の温度上昇によってピント面がわずかに移動するためです。撮影を開始する前に再度ピントを確認してください。
- フォーカス調整時にレンズの先端部分やフォーカスリングが動くときは、動いている部分に触れないでください。

RFレンズのフォーカスリング操作について

- MENU > 🔧 システム設定 >「フォーカスリング方向」で、フォーカスリングの操作方向を変更できる。
- フォーカスリングの回転角度と回転速度のどちらに連動してフォーカス操作行うかを、MENU > 🔧 システム設定 >「フォーカスリングレスポンス」で選択できる。
- レンズのフォーカスモードがオートのときに、マニュアル調整の有効／無効を、MENU > 🔧 システム設定 >「フォーカスリング操作」で選択できる。

フォーカスアシスト機能を使う

フォーカスを調整するとき、デュアルピクセルフォーカスガイド、ピーキング（輪郭強調）表示や拡大表示を使うと、ピントが合わせやすくなります。デュアルピクセルフォーカスガイドとピーキング、ピーキングと拡大表示を同時に使うこともできます。

デュアルピクセルフォーカスガイド

現在のフォーカス位置から合焦位置への調整方向と調整量を、ガイド枠で視覚的に表示します。顔検出（📖87）と併用すると、ガイド枠は主な被写体と判断した顔に表示されます。瞳検出（📖87）が有効のときは、ガイド枠が主な被写体と判断した顔の瞳に表示されます。

1 ダイレクトタッチコントロール（📖54）の「フォーカスガイド」でガイド枠を表示する

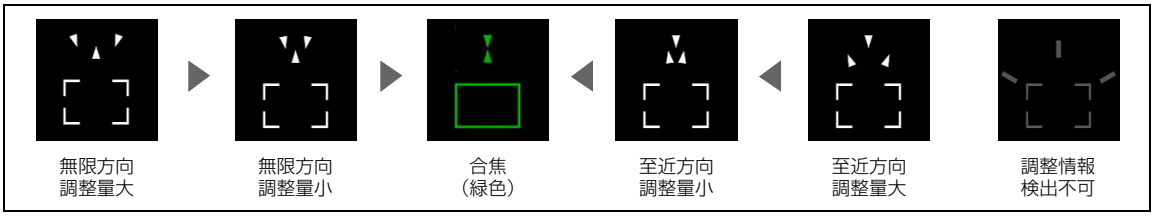
- MENU > 📷 アシスト設定 >「フォーカスガイド」または「フォーカスガイド」を割り当てたアサインボタンで、ガイド枠を入／切することもできる。

2 LCDモニター画面上のフォーカスを合わせたい被写体にタッチして、フォーカスガイド枠を移動する

- ジョイスティックを8方向のいずれかに押して、フォーカスガイド枠を移動することもできる。CANCELを押すと、フォーカスガイド枠が画面の中央に戻る。

3 必要に応じて、手動でフォーカスを調整する

- ピントが合うと、ガイド枠が緑色になる。



MEMO

- オートフォーカスでピントが合いにくい撮影条件／設定（📖85）では、ガイドが正しく表示されないことがあります。

デュアルピクセルフォーカスガイドが使えないとき

- ワンショットAFまたは連続AF（「合焦付近のみ」を含む）の調整中。
- 一部のRF / EFシネマレンズ（📖228）を除く、マニュアルフォーカスレンズ装着時。

ピーキング

本機では2つのピーキングをメニューで切り換えて使用できます。

1 アサインボタンに「ピーキング」を割り当てる（📖118）

2「ピーキング」を割り当てたアサインボタンを押す

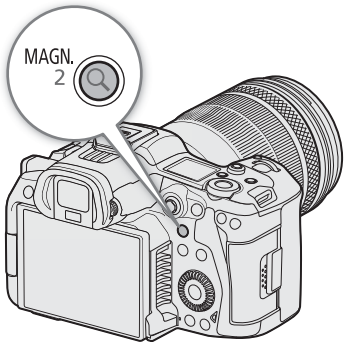
- 画面に PEAK1 または PEAK2 が表示され、画面の映像の輪郭が合焦状態に応じて強調される。
- もう一度、PEAKINGボタンを押すと、ピーキング表示が解除される。
- ダイレクトタッチコントロール（📖54）で、「ピーキング1」／「ピーキング2」を入／切することもできる。
- MENU > 📷 アシスト設定 >「ピーキング: XXXXX」で、各端子／出力先ごとにピーキング表示を入／切することもできる。

3 MENU > 📷 アシスト設定 >「ピーキング選択」>「ピーキング1」または「ピーキング2」を選ぶ

拡大表示

1 MAGN.（拡大）ボタンを押す

- 画面に MAGN. 表示され、画面の中心部*を中心に約2倍に拡大される。
  * 各種AF枠や顔検出枠、フォーカスガイド枠が表示されているときは、枠の中心部となる。
- 画面の右上に拡大領域の位置を示すオレンジ色の枠が表示される。
- SETを押すたびに、拡大倍率が2倍→5倍→10倍→2倍→5倍→10倍のように切り換わる。



2 必要に応じて拡大位置を移動して、拡大表示した部分を確認する

- ジョイスティックを8方向のいずれかに押すか、LCDモニター画面上をドラッグして拡大位置を移動させる。
- CANCELを押すと、拡大位置が画面の中央に戻る。
- もう一度MAGN.ボタンを押すと拡大表示が解除される。

MEMO

- **ピーキング／拡大表示について：**
  - ピーキングの色、ゲイン、周波数は、MENU > アシスト設定 >「ピーキング1」または「ピーキング2」でそれぞれ設定できます。
  - MENU > アシスト設定 >「Magnification出力先」で拡大表示の出力先を選べます。
  - 記録される動画／静止画には影響しません。
  - 拡大表示中に、記録信号形式（56）や、MENU > カメラ設定 >「電子IS」を設定したり、スロー &ファストモーション記録モードを入／切したりすると、拡大表示が解除されます。
- ピーキング／拡大表示は、カラーバーの表示中に使用できません。
- MENU > アシスト設定 >「Magnification有効時白黒」を「入」にすると、拡大表示使用時に、画面を白黒表示します。記録される映像や外部出力には影響しません。

記録形式がMP4で解像度が8192x4320／7680x4320の場合

- 2倍を超える拡大表示はできない。
- HDMI OUT端子から4096x2160または3840x2160の映像出力時は拡大表示できない。
- 拡大表示にした出力先のデスクイーズ表示は解除される。

ワンショットAFで調整する

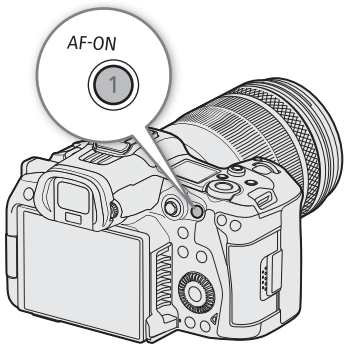
AF枠内の被写体に自動でピントを合わせます。操作を行ったときに1度だけ合焦動作を行います。AF枠の位置／タイプは変更できます。

1 レンズのフォーカスモードをオートにする（82）

2 必要に応じてAF枠の位置／タイプを変更する（86）

3 AF-ONボタンを押し続ける

- 画面に白い枠（ワンショットAF枠）が表示され、自動的にフォーカスの調整を行う。AF枠の設定が「全域」のときは、白いAF枠は表示されない。顔検出AFを使用中は、主な被写体と判断した顔の枠が白いAF枠に変わる。
- ピントが合うと、AF枠が緑色に変わる。ピントが合わないときは、AF枠が赤色に変わる。
- AF枠の設定が「全域」のときは、ピントが合う位置に緑色のAF枠が表示される。ピントが合わないときは、赤色のAF枠が表示される。
- AF-ONボタンを離すとAF枠が消える。



MEMO

- 顔検出AFが「顔限定」で、顔が検出されていない場合、ワンショットAFは動作しません。

連続AFで調整する

画面中央の縦横それぞれ80%のエリア内の被写体を対象にして、フォーカスを常に自動調整します。

1 レンズのフォーカスモードをオートにする（82）

2 MENU > カメラ設定 >「連続AF」>「する」を選ぶ

- 画面に白いAF枠（連続AF枠）が表示される。AF枠の設定が「全域」のときは、白いAF枠は表示されない。
- 顔検出AFを使用中は、主な被写体と判断した顔に白い枠が表示される。

3 必要に応じてAF枠の位置／タイプを変更する（86）

MEMO

オートフォーカス機能について

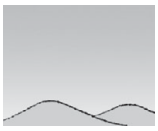
- ピントが合う位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件によってわずかに変動します。撮影を開始する前に再度ピントを確認してください。
- 次の場合、ピント合わせに時間がかかることがあります。
  - 一部のレンズでは、ピントが合うまでの時間がかかったり、適切なピント合わせができなかったりすることがあります。詳細情報については、キヤノンのホームページでご確認ください。
- オートフォーカスの調整速度や応答性を変更できます。対応レンズの詳細については、キヤノンのホームページをご覧ください。
  - MENU > カメラ設定 >「AFスピード」で、AFスピード（ピントが合うまでの速度）を10段階で選択できます。
  - MENU > カメラ設定 >「AFレスポンス」で、AFの応答性を7段階で選択できます。
  - 連続AF（「合焦付近のみ」を含む）で調整中にAF-ONボタンを押し続けると、一時的に最大のAFスピード／応答性でワンショットAFによるフォーカス調整を行います。
- **次のときはオートフォーカスが動作しません。**
  - スロー &ファストモーション記録モードで、オートフォーカスが使用できないレンズの装着時。
  - スロー &ファストモーション記録で、撮影フレームレートが、24P、25P、30P、48P、50P、60P、100P、120P以外のとき。

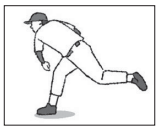
連続AFが動作しないとき

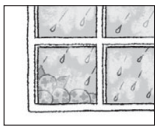
- フォーカスモードスイッチがないEFレンズを装着時。

オートフォーカスでピントが合いにくい撮影条件

強い光が反射


明暗差がない


動きが速い


水滴が付いた
ガラス越しの撮影

夜景

繰り返し模様

- 絞りを小絞りに設定したとき
- 遠近の被写体が同時に含まれるとき
- ISO感度／ゲインの感度を拡張して、拡張領域のISO／ゲイン値を設定しているとき（72）
- カスタムピクチャー（126）のガンマにBT.709 Normal／BT.709 Standard以外を選んだとき
- RAW形式で記録するとき

合焦付近のみをAFで調整する

ねらった被写体に対して、大まかなフォーカス調整をマニュアルで行い、合焦位置に近づくとAFで自動調整します。高解像度（4K以上）の撮影でピントが甘くなるのを防ぎたいときなどに使用します。また、調整情報が検出できないときに不確実な調整動作を行わないため、連続AFよりも安定して調整できます。

1 レンズのフォーカスモードをオートにする（82）

2 MENU > カメラ設定 >「連続AF」>「合焦付近のみ」を選ぶ
- フォーカス位置が手動調整領域内のときは、画面に黄色の連続AF枠が表示される。

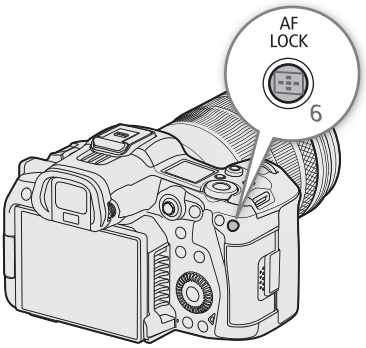
3 必要に応じてAF枠の位置／タイプを変更する（86）

4 フォーカスリングを回して、調整する
- フォーカス位置が合焦位置に近づき自動調整領域に入ると、画面のAF枠が白色に変わり、自動的にピント合わせを行う。
- フォーカス位置が自動調整領域内にある間は、常に自動調整する。

フォーカス位置を固定する（AFロック）

連続AF（「合焦付近のみ」を含む）中にフォーカス位置を固定することができます。

1 オートフォーカスの動作中にAF LOCKボタンを押す
- フォーカスが固定され、画面の白い枠（AF枠）と AF が灰色に変わる。顔を検出中は、主な被写体の顔に灰色の枠が表示される。
- フォーカスガイドが「入」のときは、画面の枠はフォーカスガイドのガイド枠に変わる。
- 「AFロック（押下時有効）」を割り当てたアサインボタンで操作すると、アサインボタンの押下げ中のみフォーカスがロックされる。



2 もう一度AF LOCKボタンを押すと、AFロックが解除される

MEMO

AFロックが自動的に解除されるとき
- 電源の切／入、システム周波数の変更を行ったとき。
- レンズを着脱したとき。
- MENU > カメラ設定 >「連続AF」を「しない」に変更したとき。
- スロー &ファストモーション記録時の撮影フレームレートが120 / 100 / 60 / 50 / 48 / 30 / 25 / 24 以外のとき。

AF枠の位置／タイプを変更する

オートフォーカスで調整するときに、画面に表示されるAF枠（顔検出AF／追尾用の枠を除く）の位置／タイプを変更することができます。AF枠のタイプを「大」または「小」に設定しているときはAF枠の位置を移動できます。

1 MENU > カメラ設定 >「AF枠位置」> いずれかを選ぶ

可動：	LCDモニター画面上をタッチして、AF枠を移動できる。ジョイスティックを8方向のいずれかに押して、AF枠を移動することもできる。CANCELを押すと、AF枠が画面の中央に戻る。
中央固定：	AF枠を画面の中央に固定する。

2 MENU > カメラ設定 >「AF枠」> いずれかを選ぶ

全域*：	画面中央部にある被写体にピントが合うように自動的にAF枠を設定する。画面に枠は表示されない。
大：	標準的な大きさのAF枠。
小：	「大」の横幅を1/3にした大きさのAF枠。

* MENU > カメラ設定 >「連続AF」>「する」または「しない」のときのみ選択可能

MEMO
- 「デジタルテレコン」が有効のときは、「小」のAF枠が「中央固定」で表示されます。

顔を検出してフォーカスを合わせる（顔検出AF）

人物の顔を検出して、検出した複数の人物の中からメインの被写体を自動的に決定し、メインの被写体が動いても自動的に追尾します。顔検出したメインの被写体の瞳を検出（瞳検出）することもできます。オートフォーカス機能を併用すれば、自動的にメインの被写体にピントを合わせることができます（顔検出AF）。また、デュアルピクセルフォーカスガイドを使用すれば、メインの被写体に手動でフォーカス調整することもできます。さらに、メインの被写体は変更することもできます。

1 MENU > カメラ設定 >「顔検出&追尾」>「入」を選ぶ

2 MENU > カメラ設定 >「顔検出AF」> 顔が検出されないときの動作を選ぶ

顔優先：　「連続AF」の設定に応じた調整方法になる。
顔限定：　ピントが固定される。

- 画面に（顔優先）または（顔限定）が表示される。
- 瞳検出を有効にしないときは、操作4に進む。

3 MENU > カメラ設定 >「瞳検出」>「入」を選ぶ

4 必要に応じて、MENU > カメラ設定 >「頭部検出モード」>「顔 / 頭部から検出」を選ぶ

顔から検出：　人物の顔を検出する。検出した顔が後ろを向いても検出し続ける。
顔 / 頭部から検出：「顔から検出」に加え、人物の頭部からも検出する。

5 カメラを人物に向ける

- 検出したすべての顔に枠が表示される。複数の顔が検出されたときは、メインの被写体を自動的に決定し、メインの被写体の顔の枠に◀と▶が付く。瞳検出を有効にすると、メインの被写体の瞳に枠が表示される。
- ジョイスティックを左右に押すと、メインの被写体が別の人物に切り換わる。瞳検出を有効にして、両方の瞳が検出されているときは、ジョイスティックを左右に押すと、任意の瞳を選べる。
- メインの被写体の顔や瞳の枠は、オートフォーカスのときは白色で、マニュアルフォーカスのときは灰色または黄色*で表示される。
  * 連続AFが「合焦付近のみ」でフォーカス位置が手動調整領域内のとき。
- 連続AFが「する」のときは、メインの被写体と判断した顔に継続してピントを合わせる。
- ワンショットAF のときは、AF-ONボタンを押すと、メインの被写体と判断した顔にピントを合わせる。
- 追尾（88）と併用すると、メインの被写体を確実に追尾することができる。LCDモニター画面上の被写体をタッチすると、追尾が開始され、顔検出枠が2重枠（追尾枠）に変わる。

設定可能な項目

<table>
<tr><th rowspan="3"></th><th rowspan="3">フォーカス操作</th><th colspan="4">顔検出AF</th></tr>
<tr><th colspan="2">顔優先</th><th colspan="2">顔限定</th></tr>
<tr><th>顔の検出あり</th><th>顔の検出なし</th><th>顔の検出あり</th><th>顔の検出なし</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ワンショットAF</td><td>ボタンを押さない
（マニュアルフォーカス）</td><td colspan="4">マニュアルフォーカス</td></tr>
<tr><td>ボタンを押す
（ワンショットAF動作中）</td><td rowspan="3">検出した顔に合焦</td><td rowspan="3">AF枠内の被写体に合焦</td><td rowspan="3">検出した顔に合焦</td><td rowspan="3">マニュアルフォーカス</td></tr>
<tr><td>連続AF</td><td>自動調整</td></tr>
<tr><td rowspan="2">連続AF
（合焦付近のみ）</td><td>自動調整中</td></tr>
<tr><td>自動調整をしていないとき
（黄色のAF枠が表示中）</td><td colspan="4">マニュアルフォーカス</td></tr>
</table>

MEMO

顔が検出されない主な例

- 顔が画面全体に対して極端に小さい、大きい、暗い、または明るいとき。
- 顔が横や斜めを向いていたり、顔の一部が隠れたりしているとき。顔が上下逆さまのとき。

顔検出AFが使用できない場合

- シャッタースピードが1/30秒未満（システム周波数が59.94 Hz時）、1/25秒未満（同50.00 Hz時）、1/24秒未満（同24.00 Hz時、または59.94Hz時でフレームレートが23.98P）のとき。
- スロー &ファストモーション記録モードのとき。
- マニュアルフォーカスレンズの装着時。
- 「デジタルテレコン」が有効のとき。

- 人物以外の被写体を、誤って顔として検出することがあります。そのときは「顔検出&追尾」を「切」にしてください。
- 「顔検出&追尾」や「顔検出AF」、「瞳検出」を割り当てたアサインボタンを押して、それぞれの機能を設定することもできます（🕮 118）。

選んだ被写体を追尾する

ねらった被写体を追尾し、連続AFやAF枠のタイプの設定に応じて、追尾対象の被写体にピントを合わせることができます。

連続AFが「する」でAF枠が「全域」のとき

LCDモニター画面上の追尾したい被写体をタッチする

- 2重枠⛶（追尾枠）が表示されて、選んだ被写体の追尾が始まる。
- CANCELを押すと追尾を終了する。
- 追尾に失敗すると□が表示される。もう一度被写体を選ぶ。

AF枠が「全域」または「大」、「小」のとき

1 アサインボタンに「追尾」を割り当てる（🕮 118）

2 「追尾」を割り当てたアサインボタンを押す

- 追尾待機モードになり、画面に⁘が表示される。
- もう一度アサインボタンを押すか、CANCELを押すと追尾待機モードを終了する。

3 LCDモニター画面上の追尾したい被写体をタッチする

- ⁘が2重枠⛶（追尾枠）に変わり、選んだ被写体の追尾が始まる。
- ジョイスティックを8方向のいずれかに押して⁘の中央を被写体に合わせた後、SETを押しても追尾を開始できる。
- 追尾に失敗すると⁘が約1秒間赤色になる。もう一度被写体を選ぶ。
- 追尾被写体が、オートフォーカスの処理対象になる。

4 SETまたは「追尾」を割り当てたアサインボタンを押す

- 追尾を終了して追尾待機モードに戻る。
- CANCELを押すと追尾を終了し、連続AFに応じたAF枠が表示される。

MEMO

- 特徴が似た別の被写体を誤って追尾することがあります。そのときは、被写体を選択しなおしてください。
- 「顔検出AFが使用できない場合」と同じ条件で追尾も使用できません。

手ブレを補正する

手ブレによる映像の揺れを電子的に軽減します。補正は、広角（ワイド）方向のときに最も効果が高くなり、望遠（テレ）方向になるほど効果が低くなります。RAW 形式で撮影するときは、カメラ本体の手ブレ補正が無効になります。

1 レンズに手ブレ補正機能があるときは、レンズのISスイッチをONにする
- RF-Sレンズを装着しているときは、MENU > カメラ設定 >「レンズ光学IS」>「入」を選ぶ（が表示される）。

2 MENU > カメラ設定 >「電子IS」>「入」を選ぶ
- 「電子IS」を割り当てたアサインボタンで入／切することもできる。

3 MENU > カメラ設定 >「電子ISモード」> いずれかを選ぶ

標準：　手ブレを補正する。画角がやや狭くなる。
強：　標準より大きな手ブレを補正する。画角がさらに狭くなる。
- 画面に（標準）または（強）が表示される。

4 通信により焦点距離を取得できないレンズのときは、MENU > カメラ設定 >「レンズ焦点距離」> 数値（焦点距離）を入力する（21）
- 入力した焦点距離に応じて手ブレが補正される。

5 アナモフィックレンズを装着しているときは、MENU > カメラ設定 >「アナモフィック補正」> 手ブレを補正するスクイーズ倍率を選ぶ
- 「レンズスクイーズ連動」を選んだときは、MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「レンズスクイーズ」で設定している倍率に応じて手ブレが補正される。

MEMO
- レンズの手ブレ補正機能がOFFのときは、カメラ本体の手ブレ補正も無効（が点滅）になります。
- 「電子IS一時停止」を割り当てたアサインボタンを押下げ中は、カメラの手ブレ補正を行いません（または が灰色で表示）。レンズの手ブレ補正には影響しません。
- 手ブレ補正の効果により、被写体や撮影条件によって、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- 次のときは、手ブレ補正を「切」にすることをおすすめします。
  - TS-Eレンズやフィッシュアイを装着したとき。
  - 三脚を用いた撮影など手ブレが発生しない状況。
- 手ブレが大きいときは、補正しきれないことがあります。
- カメラ本体の手ブレ補正は、レンズの焦点距離が1000mmを超えるレンズを装着していると、機能しません。

ズームを操作する

ズーム調整に対応するEFシネマレンズ（228）、パワーズームアダプター PZ-E1を装着したEFレンズ、またはパワーズームアダプター PZ-E2を装着したRFレンズを取り付けると、本機からズームを操作することができます。また、ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（172）を使って操作することもできます。
メニューでデジタルテレコンを選んで、焦点距離をテレ側に移動させることもできます（RAW記録時を除く）。

レンズのズームモードを選ぶ

レンズのスイッチを操作して、レンズのズームモード（オート、マニュアル）を選択します。レンズの操作部名称がレンズによって異なることがあります。詳しくはレンズ／レンズアクセサリーの説明書をご覧ください。

レンズのズームモードをオートにする

- レンズのズーム操作が、本機から行えるようになる。

調整する

1 レンズのズームモードをオートにする

2 MENU > カメラ設定 >「カメラグリップズーム」>「入」を選ぶ

3 MENU > カメラ設定 >「カメラグリップズームスピード」> いずれかを選ぶ

- ズームスピードは固定速で、「1」が最も遅く、「16」が最も速い。

4 ジョイスティックを上下に操作して、ズームを調整する

- 上に操作すると望遠（テレ）方向に、下に操作すると広角（ワイド）方向に調整できる。

MEMO

- ズームスピードを低速に設定していると、レンズの動き出しまでに時間がかかることがあります。

デジタルテレコンを使う

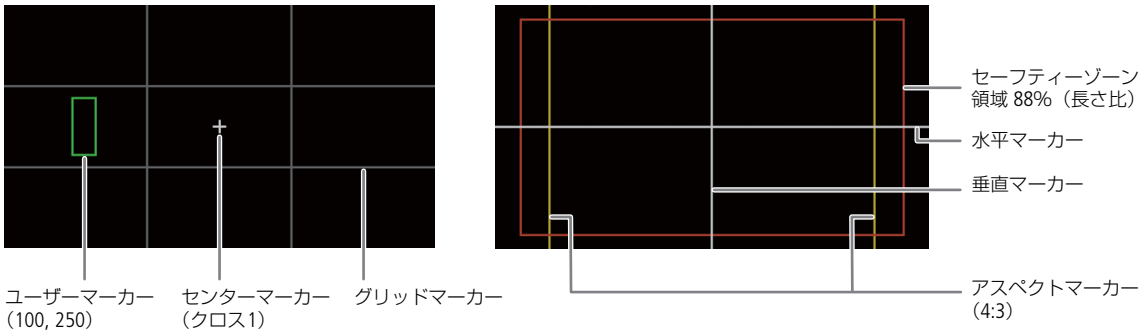
MENU > カメラ設定 >「デジタルテレコン」> いずれかの倍率を選ぶと、焦点距離が選んだ倍率分テレ側に移動します。

マーカー／ゼブラパターン／フォルスカラーを表示する

画面にマーカーを表示すると、構図を決めるガイドにしたり、適切なセーフティーゾーンを確認したりできます。ゼブラパターンを表示すると、露出オーバーになる領域を把握できます。フォルスカラーを表示すると、撮影している映像の露出が正しいか確認できます。これらの表示は、画面とHDMI OUT端子に出力でき、個別に入／切できます。記録される映像には影響しません。

マーカーを表示する

構図を決める際のガイドとして、次の種類のマーカーを表示することができます。マーカーの色は、それぞれのマーカーで選べます。



センターマーカー：　画面の中央を示すマーカー。中央のマーカー形状は選べる。

水平マーカー、垂直マーカー：　画面の水平または垂直を示すマーカー。

グリッドマーカー：　画面の垂直と水平を格子状で示すマーカー。

アスペクトマーカー：　アスペクト比を示すマーカー。さまざまなアスペクト比で、色枠の表示または映像以外の部分のマスク表示ができる。アスペクト比は任意の値を指定することもできる。

セーフティーゾーンマーカー：　セーフティーゾーンを示すマーカー（色枠またはマスク表示）。セーフティーゾーンは、基準領域と、それに対する長さまたは面積で設定できる。

ユーザーマーカー 1、ユーザーマーカー 2：　矩形を示すマーカー。矩形は2つまで表示でき、矩形のサイズや位置もそれぞれ設定できる。

1 MENU > 🖼 アシスト設定 >「マーカー : XXXXX」のいずれか >「入」を選ぶ

- 「入」に設定した出力先へのマーカー出力が有効になる。
- ダイレクトタッチコントロール（📖 54）で、「マーカー：LCD」を入／切することもできる。
- 「切」にすると、マーカーの設定を個別に行っていてもマーカーは表示されない。

2 表示するマーカーの種類を決めて、マーカーの設定をする

- 異なるマーカーを同時に表示できる。

センターマーカー／水平マーカー／垂直マーカー／グリッドマーカーを設定する

1 MENU > 🖼 アシスト設定 >「センターマーカー」、「水平マーカー」、「垂直マーカー」、「グリッドマーカー」のいずれか > いずれかの色を選ぶ

- 「切」を選ぶと、マーカーを表示しない。

2 センターマーカーを選んだときは、MENU > 🖼 アシスト設定 >「センターマーカータイプ」> いずれかを選ぶ

アスペクトマーカーを設定する

1 MENU > 🖼 アシスト設定 >「アスペクトマーカー」> いずれかの色かマスクの透過度を選ぶ
- 「切」を選ぶと、マーカーを表示しない。

2 MENU > 🖼 アシスト設定 >「マーカー アスペクト比」> いずれか選ぶ

3「カスタム」を選んだときは、MENU > 🖼 アシスト設定 >「マーカー カスタムアスペクト比」> アスペクト比の数値を入力する（📖 21）

MEMO

アスペクトマーカーが表示されないとき
- 解像度が7680×4320／3840x2160／1920x1080／1280×720で、マーカーのアスペクト比が「16：9」のとき。
- 解像度が8192×4320／5952×3140／2976×1570／4096x2160／2048x1080で、マーカーのアスペクト比が「1.90：1」のとき。

いずれも「カスタム」で同じアスペクト比を設定したときも同様。

セーフティーゾーンマーカーを設定する

セーフティーゾーンの領域をマーカーまたはマスクで表示します。セーフティーゾーンの領域は、映像全体またはアスペクトマーカー領域のいずれかに対して、長さ比または面積比で指定します。

1 MENU > 🖼 アシスト設定 >「セーフティーゾーンマーカー」> いずれかの色かマスクの透過度を選ぶ
- 「切」を選ぶと、マーカーを表示しない。

2 アスペクトマーカーを表示しているときは、MENU > 🖼 アシスト設定 >「セーフティーゾーン基準」>「映像全体」または「アスペクトマーカー領域」を選ぶ

3 MENU > 🖼 アシスト設定 >「セーフティーゾーン領域」> いずれかの領域を選ぶ
- セーフティーゾーンにする領域は、パーセントと比率（長さ、または面積）の組み合わせから選ぶ。

ユーザーマーカーを設定する

ユーザーマーカー 1とユーザーマーカー 2の2種類があり、色、サイズ、位置を個別に設定できます。

1 MENU > 🖼 アシスト設定 >「ユーザーマーカー x」> いずれかの色を選ぶ
- 「切」を選ぶと、マーカーを表示しない。

2 MENU > 🖼 アシスト設定 >「ユーザーマーカー x サイズ」> 幅と高さの数値を入力する（📖 21）

3 MENU > 🖼 アシスト設定 >「ユーザーマーカー x 位置」> 水平方向と垂直方向の座標値を入力する（📖 21）

MEMO

- 画面表示のDISPレベルを設定すれば、マーカーだけを表示することもできます（📖 50）。
- 「マーカー : XXXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、各出力先のマーカー表示を入／切することもできます（📖 118）。

ゼブラパターンを表示する

露出オーバーで白とびするおそれがある領域に、縞状のパターンを表示することができます。ゼブラパターンには「ゼブラ1」と「ゼブラ2」の2種類があり、2つを同時に表示することもできます。ゼブラ1は設定した輝度レベル ±5%の領域にゼブラパターン1を表示します（輝度レベルは5±5%～95±5%の範囲。5%刻みで設定可能）。ゼブラ2は設定した輝度レベル以上の領域にゼブラパターン2を表示します（輝度レベルは0%～100%の範囲。5%刻みで設定可能）。

ゼブラ1　ゼブラ2

1 MENU > アシスト設定 >「ゼブラ：XXXXX」> いずれかを選ぶ

- ダイレクトタッチコントロール（📖 54）で、「ゼブラ：LCD」を入／切することもできる。
- 「ゼブラ: XXXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、各出力先のゼブラパターン表示を入／切することもできる（📖 118）。

2 MENU > アシスト設定 >「ゼブラ選択」> いずれかを選ぶ

3 MENU > アシスト設定 >「ゼブラ1レベル」または「ゼブラ2レベル」> いずれかの輝度レベルを選ぶ

フォルスカラーを表示する

撮影時、フォルスカラーを表示して、映像の輝度レベルを色で確認できます。

MENU > アシスト設定 >「フォルスカラー : XXXXX」のいずれか >「入」を選ぶ

- ダイレクトタッチコントロール（📖 54）で、「フォルスカラー：LCD」を入／切することもできる。
- 「フォルスカラー : XXXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、各出力先のフォルスカラー表示を入／切することもできる（📖 118）。

MEMO

- MENU > アシスト設定 >「フォルスカラーインデックス」でフォルスカラーのインデックスを表示できます。

色	意味
赤	White clipping（ 白クリップ）
黄	Just below white clipping （白クリップの直ぐ下）
ピンク	One stop over 18% gray （18%グレイより1段高いグレイ）
緑	18% gray （18%グレイ）
青	Just above black clipping （黒クリップの直ぐ上）
紫	Black clipping（黒クリップ）
無彩色	上記以外の明るさ

- カスタムピクチャーのLookファイルが有効のときは、正しい輝度レベルの色で表示されないことがあります。

タイムコードを設定する

タイムコードを内蔵のタイムコードジェネレーターで生成して、映像とともに記録メディアに記録できます。タイムコードは、TIME CODE端子またはHDMI OUT端子に出力できます。また、設定しているフレームレートによって、ドロップフレームとノンドロップフレームを選択できます（🕮 94）。

タイムコードのモードを選ぶ

タイムコードのモードを選びます。

MENU > システム設定 >「Time Codeモード」> いずれかを選ぶ

Preset： タイムコードを任意の初期値から開始する。タイムコードの初期値は「00：00：00：00」。以降の操作でタイムコードの歩進方法と任意の初期値を設定する。

Regen.： タイムコードは記録時に歩進する。記録メディアに記録されている最後のタイムコードを読み出し、その続きから歩進する。同一の記録メディアに記録している間、タイムコードは記録したクリップの順で連続する。

タイムコードの歩進方法を選ぶ

タイムコードのモードに「Preset」を選んだときは、タイムコードの歩進方法を選びます。

MENU > システム設定 >「Time Code Run」> いずれかを選ぶ

Rec Run： タイムコードは記録時に歩進する。タイムコードの初期値は任意に設定可能。同一の記録メディアに記録している間、タイムコードは記録したクリップの順で連続する。

Free Run： タイムコードは、記録状態に関係なく常に歩進する。初期値は任意に設定可能。

タイムコードの初期値を設定する

タイムコードのモードに「Preset」を選んだときは、タイムコードの初期値を設定します。

1 MENU > システム設定 >「Time Code設定」>「変更」を選ぶ

- タイムコードの設定画面が表示され、「時」の桁が選択される。
- 「リセット」を選ぶと、タイムコードが「00:00:00.00」（NDF時は「00:00:00:00」）にリセットされる。「Free Run」を選んでいるときは、リセット後のタイムコードから歩進を続ける。

2 タイムコードの初期値の数値を入力する（🕮 21）

- タイムコードのモードに「Free Run」を選んでいるときは、この時点で設定値のタイムコードから歩進する。

ドロップフレーム／ノンドロップフレームを切り換える

フレームレートを59.94P、59.94i、または29.97Pに設定しているときは、ドロップフレーム（DF）、またはノンドロップフレーム（NDF）を切り換えることができます。なお、フレームレートが59.94P 、59.94i、29.97P以外のときはNDFに固定されます。

MENU > システム設定 >「Time Code DF/NDF」> いずれかを選ぶ

- DFとNDFで画面上のタイムコード表示が次のように異なる。
  DFのとき　　00：00：00．00
  NDFのとき　　00：00：00：00

タイムコードの表示について

タイムコードの設定や状態を表わす文字が、画面のタイムコードの横に表示されます。

文字	意味
R	Regen.（リジェネ）設定時
P	Rec Run（レックラン）設定時
F	Free Run（フリーラン）設定時
E	タイムコード外部入力時
表示なし	再生時

MEMO

- タイムコードのフレームカウントは、フレームレートが23.98P / 24.00Pのときは0 ～ 23、25.00P / 50.00i / 50.00Pのときは0～24、それ以外は0～29となります。
- スロー &ファストモーション記録モード／フレーム記録モード／インターバル記録モードのときは、「Free Run」は使用できません。また、プレ記録のときは「Free Run」固定となります。
- スロー &ファストモーション記録モード／フレーム記録モード／インターバル記録モードのときは、本機の各出力端子にタイムコードを出力できません。
- ドロップフレーム、ノンドロップフレームを混在させて録画すると、撮影開始時のタイムコードが不連続になることがあります。
- 内蔵のリチウム電池の残量があれば、バッテリーなどの電源がなくても、フリーランタイムコードは歩進します。
- 「Time Code」を割り当てたアサインボタンを押して、MENU > システム設定のタイムコードを設定するメニューページを表示することもできます（🕮 118）。

ユーザービットを設定する

8桁の16進数、撮影時刻、または撮影日（年月日）をユーザービットとして設定できます。16進数は、0 ～ 9とA ～ Fの英数字を使用できます。ユーザービットは映像と一緒に記録され、TIME CODE端子／HDMI OUT端子から出力できます。ユーザービットには、撮影情報や記録した映像の管理情報など、映像に付加したい情報を自由に設定できます。

1 MENU > システム設定 >「User Bit タイプ」>「設定」、「時刻」または「日付」を選ぶ

- 「時刻」または「日付」を選んだときは以降の操作は不要。

2「変更」を選ぶ

- 「リセット」を選ぶと、ユーザービットが「00 00 00 00」にリセットされる。

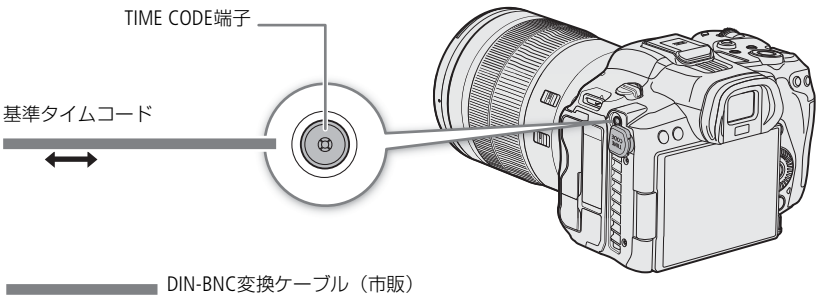
3 ユーザービットに設定する数値と文字を入力する（🕮 21）

外部機器と同期をとる

TIME CODE端子を使って、本機のタイムコードを外部入力のタイムコードに同期させることができます。同じジェネレーターのタイムコードを複数のカメラに入力すれば、マルチカメラ撮影を行うことができます。本機のタイムコードを他のカメラに出力してマルチカメラ撮影を行うこともできます。

外部機器と接続する

外部機器とタイムコードを同期させるときは、TIME CODE端子にタイムコード信号を入力します。TIME CODE端子の入出力は、あらかじめメニューで切り換えます。



ご注意

TIME CODE端子に接続するDIN-BNC変換ケーブル（市販）について

DINケーブルにはプラグリリース部が長いケーブル（図1-A）と短いケーブル（図1-B）があります。プラグリリース部が短いケーブルを本体のTIME CODE端子に差すと抜くことができなくなる恐れがあります（図2）。本体にケーブルを挿入したときに、プラグリリース部をつまんで抜くことができる長いケーブルをご使用ください。

動作確認済みケーブル：カナレ電気　D2.5HDC***E-D （***は長さ）

キヤノンのホームページで動作確認済みのDINケーブルをご確認ください。

図1

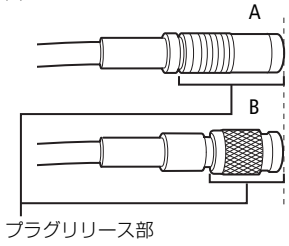
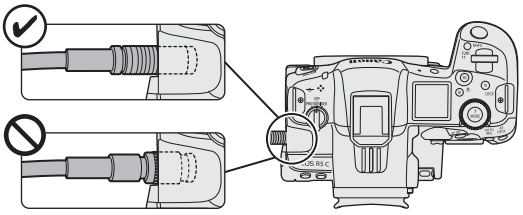


図2



外部のタイムコード信号に同期する（タイムコード入力）

TIME CODE端子に入力されるLTC規格の信号を、タイムコードとして記録メディアに記録します。同時に入力されるユーザービットも記録できます。TIME CODE端子の設定は、外部機器を接続する前に入力モードに切り換えます。なお、本機のタイムコードの歩進方式（🕮 94）が「Free Run」のときのみ、タイムコードを入力できます。

1 MENU > システム設定 >「TC In/Out」>「In」を選ぶ

2 外部入力のユーザービットを記録するときは、MENU > システム設定 >「User Bit 記録モード」>「External」を選ぶ

MEMO

- フレームレートが23.98P / 24.00Pのときは24フレーム信号のタイムコード、25.00P / 50.00i / 50.00Pのときは25フレーム信号のタイムコード、その他のフレームレートのときは30フレーム信号のタイムコードを入力できます。
- タイムコードが入力されると本機のタイムコードが同期します。TIME CODE端子からケーブルを外しても、外部ロック状態は保持されます。
- タイムコードが入力されない、または不正な値が入力されているときは、MENU > システム設定 >「Time Code モード」と「Time Code Run」で設定した内部タイムコードが記録されます。
- DF/NDFは、外部入力されるタイムコードの設定に従います。
- プレ記録を設定した後、タイムコード入力を行うと、プレ記録したクリップのタイムコードが不連続になることがあります。
- ケーブルを外した状態で次の操作を行うと、タイムコードの同期が乱れます。ケーブルを再度接続すると、正しいタイムコードに復帰します。
  - 電源の入／切
  - メディアモードへの切り換え
  - 記録信号形式の変更

タイムコードを出力する

本機のタイムコードを、LTC規格の信号でTIME CODE端子から出力します。ユーザービットも同時に出力します。

MENU > システム設定 >「TC In/Out」>「Out」を選ぶ

MEMO

- **ユーザービットの出力について：**
  設定されているユーザービット（95）が出力され、メディアモードで再生するときは、TIME CODE端子からユーザービットを出力しません。
- スロー &ファストモーション記録／フレーム記録／インターバル記録モード時は、タイムコードとユーザービットを出力しません。
- MENU > 記録/メディア設定 >「HDMI Time Code」を「入」にすると、HDMI OUT端子の出力にタイムコードを重畳できる（144）。

音声を記録する

本機では、以下に示す形式の音声を記録／再生できます。収録する音声は、マルチアクセサリーシュー対応アクセサリー、外部マイク（MIC端子）、モノラルマイク*（内蔵）から選びます。また、HDMI OUT端子から出力される映像信号には音声信号が重畳されます。この音声信号を外部レコーダーで記録できます。

* ボイスメモの用途に使用します。

音声記録形式

	動画の記録形式または音声記録の条件	音声記録形式				
		コーデック	サンプリング周波数	量子化ビット数	記録チャンネル数	ビットレート
動画記録	RAW、XF-AVC	リニアPCM	48 kHz	24 bit	4チャンネル	4.5 Mbps
	MP4*	リニアPCM		16 bit	4チャンネル	3 Mbps
		AAC		16 bit	2チャンネル	256 kbps
音声記録	スロー &ファストモーション記録の音声記録時	–	48 kHz	24 bit	4チャンネル	4.5 Mbps
	2スロット記録機能の音声記録時	–	8 kHz	16 bit	1チャンネル	128 kbps

* プロキシ記録時の音声記録形式は、AAC記録方式になる。

音声入力機器と記録音声

接続する端子／音声入力機器		必要な設定	記録音声			
マルチアクセサリーシュー対応アクセサリー *1	MIC（マイク）端子（外部マイク）	モノラルマイク*2	CH1	CH2	CH3	CH4
有	有	–	マルチアクセサリーシュー対応のアクセサリー		MIC端子（L）	MIC端子（R）
有	無	入	マルチアクセサリーシュー対応のアクセサリー		モノラルマイク（内蔵）	
無	有	入	MIC端子（L）	MIC端子（R）	モノラルマイク（内蔵）	
無	無	入	モノラルマイク（内蔵）		モノラルマイク（内蔵）	

*1 マルチアクセサリーシュー対応のアクセサリー（指向性ステレオマイクロホン DM-E1D（別売）または市販のアクセサリー）の音声端子の割り当てや入力切り換えの設定については、お使いのアクセサリーの説明書をご覧ください。

*2 MENU > ♪)) オーディオ設定 >「モノラルマイク」の設定。

MEMO

- 「オーディオステータス」を割り当てたアサインボタンを押すと、♪)) オーディオ設定ステータス画面が表示されます。オーディオ設定ステータス画面では、各記録チャンネルの設定と現在のオーディオ設定が確認できます（193）。
- 指向性ステレオマイクロホンDM-E1D（別売）のMENUボタンを押すと、オーディオ設定メニュー画面が表示されます。

MP4動画の音声記録形式を選ぶ

メイン動画またはサブ動画がMP4形式のときは、音声記録形式を選択します。

MENU > 記録/メディア設定 >「メイン記録MP4オーディオ形式」または「2MP4オーディオ形式」> いずれかを選ぶ

2スロット記録機能を使って音声記録をする

2スロット記録機能を使って音声記録をすると、データ容量の軽いWAVファイルが記録できます。記録する音声は、メイン動画の4チャンネルの音声を1チャンネルの音声に変換した音声です。そのため、各チャンネルの録音レベルは下がって記録されます。

1 スロット1にメイン動画用のカードを、スロット2に音声記録用のカードを入れる

2 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「通常記録」を選ぶ

3 MENU > 記録/メディア設定 >「2スロット記録機能」>「1メイン／2音声記録」を選ぶ

4 RECボタンを押して、記録を開始する

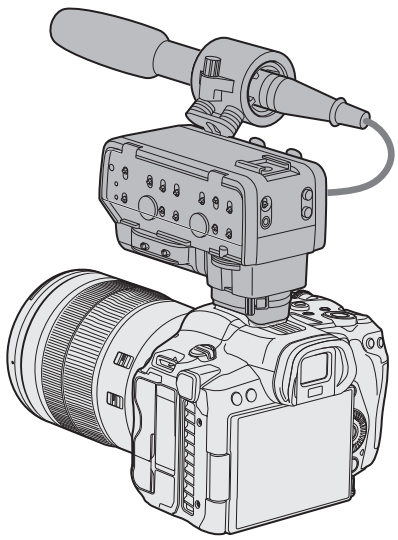
- メイン動画の記録開始と同時に、WAVファイルの記録が始まる。

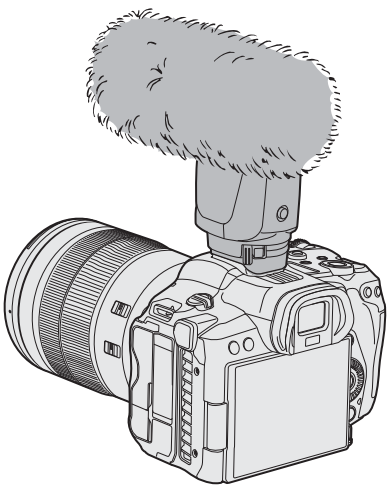
MEMO

- 2スロット記録機能を使って音声記録で音声（WAV）を記録するとき
  - 8 kHz、16 bit、1チャンネルで記録する。
  - 記録メディアの状況により動画が記録できないときは、音声も記録しない。
  - 記録メディアの状況により音声が記録できない場合でも、動画は記録する。
  - 同一ファイル名のWAVファイルがあるときは、記録しない。
  - 6時間に達すると、自動的に音声の記録を停止する（動画の記録は継続する）。
  - WAVファイルは999個を超えて記録できない。

外部マイク／外部音声入力機器を本機に接続する

MIC（マイク）端子には、⌀3.5mmステレオミニプラグの外部マイクを接続できます。マルチアクセサリーシュー対応アクセサリー（指向性ステレオマイクロホンDM-E1D（別売）、市販のアクセサリー）を取り付けて、使用できます（30）。アクセサリーの詳細については、お使いのアクセサリーの説明書をご覧ください。
市販のアクセサリーについては、キヤノンのホームページをご覧ください。





録音レベルを調整する

指向性ステレオマイクロホン DM-E1D、MIC端子の録音レベルを調整します。録音レベルは、CH1 ～ CH4のチャンネルごと、またはCH1 / CH2*、CH3 / CH4*の組み合わせごとにオート／マニュアルを設定できます。

*「CH1/CH2 ALCリンク」または「CH3/CH4 ALCリンク」を「連動」にしたとき（🕮 100）。

CH1、CH2、またはCH1 / CH2を調整する

1 MENU > ♪)) オーディオ設定 >「録音レベル CH1」、「録音レベル CH2」、「録音レベル CH1/CH2」のいずれか >「オート」または「マニュアル」を選ぶ

- 「オート」を選んだときは、以降の操作は不要。「マニュアル」を選んだときは、以降の操作を行い、録音レベルを調整する。

2 MENU > ♪)) オーディオ設定 >「CH1 レベル」、「CH2 レベル」、「CH1/CH2 レベル」のいずれか > 録音レベルを調整する

- 0（－∞）～ 50（0dB）～ 100（+18dB）の範囲で録音レベルを調整する。
- 画面に表示されるオーディオレベルメーターの－18dB（－20dBの1つ右隣）より右が時々点灯するように調整する。

CH3、CH4、またはCH3 / CH4を調整する

1 MENU > ♪)) オーディオ設定 >「録音レベル CH3」、「録音レベル CH4」、「録音レベル CH3/CH4」のいずれか >「オート」または「マニュアル」を選ぶ

- 「オート」を選んだときは、以降の操作は不要。「マニュアル」を選んだときは、以降の操作を行い、録音レベルを調整する。

2 MENU > ♪)) オーディオ設定 >「CH3 レベル」、「CH4 レベル」、「CH3/CH4 レベル」のいずれか > 録音レベルを調整する

- 0（－∞）～ 50（0dB）～ 100（+18dB）の範囲で録音レベルを調整する。
- 画面に表示されるオーディオレベルメーターの－18dB（－20dBの1つ右隣）より右が時々点灯するように調整する。

MIC端子のCH1とCH2（またはCH3とCH4）の録音レベル調整を連動させる

- MIC端子を使用する場合、CH1とCH2（またはCH3とCH4）のレベル調整を連動させることができます。設定は、MENU > C オーディオ設定 >「CH1/CH2 ALCリンク」（または「CH3/CH4 ALCリンク」）で設定します。
- 連動する設定にすると、CH1の調整操作でCH1 / CH2を、CH3の調整操作でCH3 / CH4を、それぞれまとめて調整できます。

MEMO

- 録音レベルを調整するときは、ヘッドホンでモニターしながら行うことをおすすめします。オーディオレベルメーター上で適切に表示されていても、入力レベルが過大な場合、音声がひずむことがあります。
- 「オーディオレベル」を割り当てたアサインボタンを押して、オーディオレベルメーターの表示を入／切することができます（🕮 118）。

入力音声を調整する

指向性ステレオマイクロホン DM-E1D、MIC端子の音声を調整することができます。各調整機能は、それぞれの音声入力が有効なときに働きます。

外部マイク（MIC端子）のアッテネーターを使う

外部マイク（MIC端子）にアッテネーター（20 dB）を使用できます。

MENU > ♪)) オーディオ設定 >「MIC アッテネーター」>「入」を選ぶ

外部マイク（MIC端子）の特性を選ぶ

収録する音に合わせてマイクの特性を選択できます。

MENU > ♪)) オーディオ設定 >「MICローカット」> いずれかを選ぶ

切： 一般的な音を録音するとき。風の影響を受けない場所で撮影するときや、低音まで収録するとき。
LC1： 人の声を中心に録音するとき。
LC2： 海辺やビルの近くなど風の影響を受ける屋外で撮影するときに、風の「ボコボコ」という音の影響を低減する。収録する低い音の一部も風の音と一緒に低減される。

指向性ステレオマイクロホン DM-E1Dのアッテネーターを使う

マルチアクセサリーシューに取り付けたマイクにアッテネーター（20 dB）を使用できます。

MENU > ♪)) オーディオ設定 >「シューマイクアッテネーター」>「入」を選ぶ

指向性ステレオマイクロホン DM-E1Dの特性を選ぶ

収録する音に合わせてマイクの特性を選択できます。

MENU > ♪)) オーディオ設定 >「シューマイクローカット」> いずれかを選ぶ

切： 一般的な音を録音するとき。風の影響を受けない場所で撮影するときや、低音まで収録するとき。
入： 海辺やビルの近くなど風の影響を受ける屋外で撮影するときに、風の「ボコボコ」という音の影響を低減する。収録する低い音の一部も風の音と一緒に低減される。

指向性ステレオマイクロホン DM-E1Dの指向性を選ぶ

MENU > ♪)) オーディオ設定 >「シューマイク指向性」> いずれかを選ぶ

ショットガン(モノラル)： 正面の音を明瞭に収音する。
90°(ステレオ)： 正面の音と周囲の音を適度に収音する。
120°(ステレオ)： 90° より広く周囲の音を収音する。

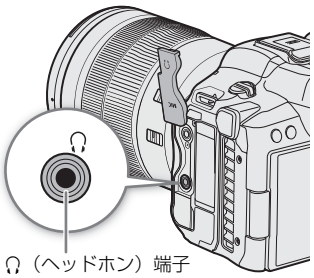
モノラルマイクを使う

モノラルマイクを使ってボイスメモ（モノラル音声）を記録すると、編集時、映像と音声を同期しやすくなります。モノラルマイクを使用するときはメニューで有効にします。また、モノラルマイクの録音レベルは常にオートで調整されます。

MENU > ♪)) オーディオ設定 >「 モノラルマイク」>「入」を選ぶ

ヘッドホンでモニターする

⌀3.5 mmステレオミニプラグのヘッドホンを🎧（ヘッドホン）端子に接続して、収録される音声をモニターできます。



MEMO

- MENU > ♪)) オーディオ設定 >「ヘッドホン音量」で音量を調整できます。「ヘッドホン +」または「ヘッドホン−」を割り当てたアサインボタンで操作することもできます（🕮 118）。

カラーバー／テストトーンを記録する

カラーバーと1 kHzのテストトーンを次の端子から出力／記録できます。メイン動画をRAW形式で記録するときは、カラーバーを出力／記録できません。

	LCDモニター／ファインダー	HDMI OUT端子	∩（ヘッドホン）端子
カラーバー	●	●	–
テストトーン	–	●	●

カラーバーを記録する

出力／記録するカラーバーは、SMPTE準拠、EBU準拠、ARIB準拠のいずれかをメニューで選べます。

1 MENU > カメラ設定 >「カラーバー」>「入」を選ぶ

- 画面にカラーバーが表示される。

2 MENU > カメラ設定 >「カラーバータイプ」> いずれかを選ぶ

- RECボタンを押して撮影を開始すると、カラーバーを記録できる。
- 電源を切るかメディアモードに切り換えると、自動的に「カラーバー」は「切」になる。

MEMO

- 「カラーバー」を割り当てたアサインボタンを押して、カラーバーを入／切することもできます（🕮 118）。

カラーバーを表示できないとき

- カスタムピクチャーのガンマが、「BT.709 Wide DR」、「BT.709 Normal」、「BT.709 Standard」または「Canon 709」のいずれでもないとき。

テストトーンを記録する

カラーバーの出力と同時に1 kHzのテストトーンを出力します。

MENU > ♪)) オーディオ設定 >「1 kHzトーン」> いずれかを選ぶ

- テストトーンのレベルは、「－12 dB」、「－18 dB」、「－20 dB」、「切」から選ぶ。
- カラーバーが「入」のときに、RECボタンを押して撮影を開始すると、選択したレベルのテストトーンが記録できる。

波形モニター／ベクトルスコープを表示する

画面に波形モニター（Waveform Monitor）やベクトルスコープ（Vectorscope）を表示できます。画面やHDMI OUT端子に出力できます。

表示する

波形モニターまたはベクトルスコープを表示します。不透過度や表示位置、波形モニターの表示倍率を変更することができます。

1 MENU > 🖼 アシスト設定 >「WFM機能」>「波形モニター」または「ベクトルスコープ」を選ぶ

2 MENU > 🖼 アシスト設定 >「WFM: XXXXX」のいずれか >「入」を選ぶ

- MENU > 🖼 アシスト設定 >「波形モニター設定」または「ベクトルスコープ設定」>「位置」で、表示位置（右／左）を選択できる。
- ダイレクトタッチコントロール（🕮 54）で、表示の入／切や位置を切り換えることもできる。

3 必要に応じて、MENU > 🖼 アシスト設定 >「WFM不透過度」> いずれかを選ぶ

- 数値が小さくなるほど、画面が透明になる。

MEMO

- LCDモニターやHDMI OUT端子の映像にビューアシストやレンジ（Range）、アナモフィック表示を適用していても、本機能の波形には影響しません。
- 波形モニター／ベクトルスコープは、カスタムピクチャーの画質調整画面にも表示されます。

波形モニターの設定を変更する

1 MENU > 🖼 アシスト設定 >「波形モニター設定」>「タイプ」> いずれかを選ぶ

ライン：	ライン表示する。
ライン+スポット：	ライン表示に重ねて、赤枠内の波形を赤色で表示する。
ラインセレクト：	赤い横線における波形を表示する。
RGB：	R、G、B信号をパレード表示する。
YPbPr：	Y、Pb、Pr信号をパレード表示する。

- 「ラインセレクト」以外を選んだときは、操作4に進む。

2 MENU > 🖼 アシスト設定 >「波形モニター設定」>「ラインセレクト」を選ぶ

3 赤い横線のY座標値を入力する（🕮 21）

- 設定できる範囲は、垂直解像度によって変わる。

4320のとき：	0～4318（2ライン刻み）
2160のとき：	0 ～ 2158 （2ライン刻み）
1080のとき：	0 ～ 1079 （1ライン刻み）
720のとき：	0 ～ 719 （1ライン刻み）

4 MENU > 🖼 アシスト設定 >「波形モニター設定」>「HDR時スケール」> いずれかを選ぶ

- HDR映像を波形モニターで表示するときの縦軸（輝度）の指標を選ぶ。

IRE：	IRE単位で指標を表示する。
PQ/HLG：	PQのHDR映像のときはnits指標（cd/m^2）と、ナローレンジ（ビデオレンジ）の波形を表示する。 HLGのHDR映像のときは、0～1000 nitsの相対指標を表示する。

5 MENU > アシスト設定 >「波形モニター設定」>「ゲイン」>「1x」または「2x」を選ぶ
- 「1x」を選んだときは、以降の操作は不要。

6 MENU > アシスト設定 >「波形モニター設定」>「Yポジション」> いずれかを選ぶ
- 波形モニターの縦軸（輝度）の表示範囲が50%になるため、表示開始輝度（%）を選択する。

7 必要に応じて、画面の波形モニターをタッチして表示倍率を切り換える（LCD／VFのみ）
- MENU > アシスト設定 >「波形モニター設定」>「サイズ: LCD/VF」で設定することもできる。

MEMO
- 波形モニターの表示をONにして、MENU > Custom Picture >「ファイル編集」>「Knee」>「Point」を変更する場合、波形モニター上のニーポイントに相当する輝度値*に横線を表示します。
  * カスタムピクチャーのLookファイルが有効のときは、正しい輝度に表示されないことがあります。
- 波形モニターのIRE指標は、カスタムピクチャーの設定にかかわらず、コード値（10 bit）の64を0%として、940を100%として表示します。

ベクトルスコープの設定を変更する

1 MENU > アシスト設定 >「ベクトルスコープ設定」>「タイプ」> いずれかを選ぶ

ノーマル： 映像全体の波形をベクトルスコープで表示する。
スポット： 画面上の赤い矩形で囲まれた領域の波形を、「ノーマル」のベクトルスコープの波形に重ねて赤色で表示する。

2 画面のベクトルスコープをタッチするたびに、拡大率（1x、2x）が切り換わる
- MENU > アシスト設定 >「ベクトルスコープ設定」>「ゲイン」で設定することもできる。

撮影中／撮影後のクリップにマークを付加する

XF-AVC形式でメイン動画を記録する場合、撮影中には重要なフレームにショットマーク（S）を、最後に撮影したクリップにはOKマーク（OK）またはチェックマーク（✓）を付加できます。メディアモードでも、クリップのマークを操作できます（📖 139）。
なお、プロキシクリップにはマークを付加できません。

撮影中にショットマークを付加する

撮影中にショットマークを付加するには、あらかじめ、いずれかのアサインボタンに「Shot Mark追加」を割り当てる必要があります。

1 アサインボタンに「Shot Mark追加」を割り当てる（📖 118）

2 撮影中、ショットマークを付加したいフレームでアサインボタンを押す
- 「Shot Mark」が表示され、ショットマークが付加される。

MEMO
- 1つのクリップに付加できるショットマークは、100個までです。
- ボタンを押した時点のフレームとショットマークを付加するフレームは、最大0.5秒程度ずれることがあります。
- ショットマークを付加すると、メディアモードのインデックス画面で、クリップサムネイルの横にSが表示されます。
- プレ記録モードでREC（記録開始／停止）ボタンを押下前やインターバル記録モード／フレーム記録モードのときには、ショットマークを付加できません。

最後に撮影したクリップにOKマーク／チェックマークを付加する

OKマークを付加したクリップは、本機での消去が禁止されるため、重要なクリップを保護することができます。あらかじめ、アサインボタンに「OK Mark追加」または「✓Mark追加」を割り当てて操作します。

1 アサインボタンに「OK Mark追加」または「✓Mark追加」を割り当てる（📖 118）

2 撮影が終了したあとにアサインボタンを押す
- 「OK Mark」または「✓Mark」が表示され、選んだマークがクリップに付加される。

MEMO
- OKマークとチェックマークは、同じクリップに同時に付加することはできません。
- OKマークやチェックマークを付加すると、メディアモードのインデックス画面で、クリップサムネイルの横にOKまたは✓が表示されます。

メタデータを操作する

メイン動画をXF-AVC形式／MP4形式で記録する場合、記録したクリップにはメタデータが付加されます。付加されたメタデータは、ソフトウェアCanon XF Utility（以下、XF Utility）で表示して確認したり、検索に使用したりすることができます。設定されるメタデータは、以下のとおりです。設定のしかたは項目によって異なります。また、News Metadataをクリップに付加することもできます（108）。

メタデータ	設定			参照		
	カメラ	XF Utility	Content Transfer Mobile	カメラ	XF Utility	Content Transfer Mobile
ユーザーメモ：クリップタイトル、撮影者、撮影場所、撮影内容	–	● *1	–	●	●	–
GPS情報	● *2	● *3	–	●	●	–
撮影情報：シーン、テイク	●	–	–	● *4	●	–
撮影情報：シャッター、ゲインなどの撮影時設定	– *5	–	–	●	●	–
UMD所有情報：国コード、組織コード、ユーザーコード	●（180）	–	–	● *4	–	–
News Metadata（108）	–	–	●	●	–	●

*1 ユーザーメモは、あらかじめソフトウェアで作成して、SDカードへの保存が必要。
*2 GPSレシーバー GP-E2接続時のみ、撮影時に自動的に記録される。
*3 記録されたクリップに対してのみ設定可能。
*4 カメラモードのみ。
*5 撮影時に自動的に記録される。

XF Utilityを使ってユーザーメモを設定する

ユーザーメモを設定する前に、XF Utilityをダウンロードしてインストールします（151）。次にXF Utilityでユーザーメモの情報を入力してSDカードに保存します。ユーザーメモの情報を入力したSDカードを本機に入れて、SDカード内のユーザーメモを選んで撮影すると、記録されるクリップにユーザーメモの情報が付加されます。

1 XF Utilityでユーザーメモを設定し、SDカードに保存する

参考 ▶▶ XF Utilityの使用説明書

2 ユーザーメモが保存されているSDカードを本機のスロット2に入れる

3 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「XMLファイル付加」>「入」を選ぶ

4 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「XMLファイル形式」>「User Memo」を選ぶ

5 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「User Memo」> SDカードに保存されているユーザーメモのファイル名のいずれかを選ぶ

- 画面に MEMO が表示される*。
  * MENU > モニタリング設定 >「Custom Display2」>「User Memo」が「入」のときのみ。

MEMO

- ユーザーメモを設定して撮影するときは、SDカードを抜かないでください。SDカードを抜くとユーザーメモはクリップに付加されません。
- ユーザーメモの設定は撮影前に行ってください。SDカードに記録されたクリップのユーザーメモを本機で変更することはできません*。
  * XF Utilityを使用して変更できます。

News Metadata（ニュースメタデータ）を操作する

動画を記録する場合、METADATA EXCHANGE FOR NEWS RECOMMENDATION DPP002 Ver1.1.1に準拠したNews Metadata（ニュースメタデータ。以降、News Metadataと記載）をクリップに付加することができます。News Metadataは、Content Transfer Mobileで編集したり、参照したりすることができます。付加するNews Metadataは、最後に設定したNews Metadataが優先されます。設定されるNews Metadataは、以下のとおりです。

News Metadata	設定		参照	
	カメラ	Content Transfer Mobile	カメラ	Content Transfer Mobile
Story Title、Description、KeyWords(Tags)、Category、Contributor、Source/Originator、Copyright Holder、Restrictions	–	●	●	●
Genre	–	●	–	●
Language	–	–	–	●

MEMO

- ファイル名が64文字（拡張子を含む）以上のNews Metadataは使用できません。

SDカードに保存したNews Metadataを設定する

News Metadataを設定する前に、あらかじめ作成したNews MetadataをSDカードに保存します。News Metadataの情報を入力したSDカードを本機に入れて、SDカード内のNews Metadataを選んで撮影すると、記録されるクリップにNews Metadataの情報が付加されます。

1 News MetadataをSDカードに保存する
- News Metadataは、SDカード内の格納フォルダー（/XMLTAG）に保存する。

2 News Metadataが保存されているSDカードを本機のスロット2に入れる

3 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「XMLファイル付加」>「入」を選ぶ

4 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「XMLファイル形式」>「News Metadata」を選ぶ

5 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「News Metadata」> SDカードに保存されているNews Metadataのファイル名のいずれかを選ぶ
- 選んだNews Metadataは、本機に保存される。

MEMO

- SDカードに記録されたクリップのNews Metadataを本機で変更することはできません*。
  * Content Transfer Mobileを使用して変更できます。

Content Transfer Mobileで編集したNews Metadataを設定する

News Metadataを設定する前に、あらかじめContent Transfer MobileでNews Metadataを編集します。本機とスマートフォンを接続（🕮 152、175）して、スマートフォンから本機にNews Metadataを転送し、本機に保存します。保存したNews Metadataを選んで撮影すると、記録されるクリップにNews Metadataの情報が付加されます。

1 スマートフォン：News MetadataをContent Transfer Mobileで編集する

2 本機とスマートフォンを接続する（🕮 152、175）

3 スマートフォン：Content Transfer Mobileを操作して、News Metadataを本機に転送する

4 本機にNews Metadataを保存する

- スマートフォンから本機にNews Metadataを転送すると、自動的に本機に保存される。
- 自動的にMENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」の「XMLファイル付加」が「入」に、「XMLファイル形式」が「News Metadata」に設定される。
- スマートフォンから最後に転送したNews Metadataのみ本機に保存できる。

News Metadataを初期化する

クリップに付加するNews Metadataを初期化します。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「News Metadata設定初期化」を選ぶ

2「OK」を選ぶ

ご注意

- News Metadataの保存、または本機に保存されたNews Metadataの初期化は、正常に電源を切ったときに行われます。停電などで正常に電源が切られなかったときは、保存／初期化されませんのでご注意ください。
- MENU > システム設定 >「リセット」>「全設定」で本機の設定をリセットするか、本機のファームウェアの更新を行うと、本機に保存したNews Metadataは初期化されます。

撮影情報（シーン、テイク）を設定する

撮影情報（シーン、テイク）を設定しておくと、撮影後のシーンやテイクを識別するときに便利です。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「シーン」または「テイク」>「変更」を選ぶ

2 任意の文字を入力する（🕮 21）

- 「リセット」を選ぶと、入力したシーンまたはテイクの情報が消去される。

特殊記録を行う

次の特殊記録を行うことができます。

スロー &ファストモーション記録： 再生時と異なるフレームレートで記録することにより、再生時にスローモーション、またはファストモーションの効果を得る。WAV形式の音声を同時に記録することもできる。

プレ記録： 撮影開始時点の一定時間前から記録することで、撮影開始操作が遅れたときの撮り逃がしを防ぐ。

フレーム記録： あらかじめ設定したフレーム数分の映像を記録する。クレイアニメを撮影するときなどに有効。

インターバル記録： あらかじめ設定した記録間隔とフレーム数で、間欠的に記録を行う。自然や植物など動きの少ない被写体を撮影するときに有効。

常時記録： 2つ目のスロットのカードに常時映像を記録して、撮り逃しを防ぐ（MP4形式のみ）

スロー &ファストモーション記録を行う

スロー &ファストモーション記録モードにすると、再生時のフレームレートと異なるフレームレート（撮影フレームレート）で、プログレッシブ方式で記録できます。再生時より高いフレームレートで撮影して再生すると、スローモーション効果が得られ、再生時より低いフレームレートで撮影して再生すると、ファストモーション効果が得られます。クリップに音声は記録されません（ミュート）が、WAV形式の音声を別データとして記録できます。1つのクリップに、再生時間で約6時間分以上の記録はできません。スロー &ファストモーション記録と同時にプロキシ動画も撮影できます（🕮 69）。プロキシ動画の再生フレームレート／撮影フレームレートの設定は、メイン動画のRAW形式の再生フレームレート／撮影フレームレートと同一です。
設定操作はダイレクトタッチコントロール（🕮 54）で行うこともできます。

設定可能な撮影フレームレート（RAW形式）

センサーモード	解像度	記録形式	解像度に応じて使用できる撮影フレームレート		
フルサイズ	8192x4320	RAW ST*	●	–	–
		RAW LT	●	●	–
Super 35mm (Crop)	5952x3140	RAW HQ*	●	–	–
		RAW ST RAW LT	●	●	–
Super 16mm (Crop)	2976x1570	RAW HQ RAW ST RAW LT	●	●	●

フレームレート	スロー &ファストモーション記録時の撮影フレームレート		
59.94P	1、2、3、6、15、30	44、48、52、56、60	90、120
29.97P	1、2、3、6、15、22、24、26、28、30	32、36、40、44、48、52、56、60	90、120
23.98P 24.00P	1、2、3、6、12、16、18、20、22、24、26、28、30	32、36、40、44、48、52、56、60	72、96、120
50.00P	1、5、15、25	34、38、42、46、50、54、58、60	75、100、120
25.00P	1、5、15、17、19、21、23、25、26、28、30	34、38、42、46、50、54、58、60	75、100、120

* 設定できるフレームレートは、29.97P、25.00P、23.98P、24.00Pのみ。

設定可能な撮影フレームレート（XF-AVC形式）

センサーモード	解像度	解像度に応じて使用できる撮影フレームレート	
フルサイズ	4096x2160 3840x2160 2048x1080 1920x1080	●	●
Super 35mm (Crop)	4096x2160 3840x2160	●	–
	2048x1080 1920x1080	●	●
Super 16mm (Crop)	2048x1080 1920x1080	●	●

フレームレート	スロー＆ファストモーション記録時の撮影フレームレート	
59.94P	1、2、3、6、15、30、44、48、52、56、60	90、120
29.97P	1、2、3、6、15、22、24、26、28、30、32、36、40、44、48、52、56、60	90、120
23.98P 24.00P	1、2、3、6、12、16、18、20、22、24、26、28、30、32、36、40、44、48、52、56、60	72、96、120
50.00P	1、5、15、25、34、38、42、46、50、54、58、60	75、100、120
25.00P	1、5、15、17、19、21、23、25、26、28、30、34、38、42、46、50、54、58、60	75、100、120

設定可能な撮影フレームレート（MP4形式）

センサーモード	解像度	解像度に応じて使用できる撮影フレームレート			
フルサイズ	8192x4320 7680x4320	●	–	–	–
	4096x2160 3840x2160 2048x1080 1920x1080	–	●	●	●
Super 35mm (Crop)	4096x2160 3840x2160	–	●	●	–
	2048x1080 1920x1080	–	●	●	●
Super 16mm (Crop)	2048x1080 1920x1080	–	●	●	●

フレームレート	スロー＆ファストモーション記録時の撮影フレームレート			
59.94P	–	1、2、3、6、15、30	44、48、52、56、60	90、120
29.97P	1、2、3、6、15、22、24、26、28、30	1、2、3、6、15、22、24、26、28、30	32、36、40、44、48、52、56、60	90、120
23.98P 24.00P	1、2、3、6、12、16、18、20、22、24	1、2、3、6、12、16、18、20、22、24、26、28、30	32、36、40、44、48、52、56、60	72、96、120
50.00P	–	1、5、15、25	34、38、42、46、50、54、58、60	75、100、120
25.00P	1、5、15、17、19、21、23、25	1、5、15、17、19、21、23、25、26、28、30	34、38、42、46、50、54、58、60	75、100、120

1 音声を記録するときは、動画の記録先ではない方のスロットにカードを入れる

2 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「Slow & Fastモーション」または「Slow & Fastモーション／音声（WAV）」を選ぶ
- スロー &ファストモーション記録モードになる。画面に「S&F STBY」が表示され、撮影フレームレート（撮影フレームレート／再生フレームレート）が表示される。

3 MENU > 記録/メディア設定 >「Slow&Fastフレームレート」> いずれかの撮影フレームレートを選ぶ
- 再生フレームレートの1/2倍、等倍、2倍のプリセット値から選ぶこともできる。

4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する
- タリーランプが赤色に点灯する。
- 撮影中は画面の「S&F STBY」が「S&F ●REC」に変わる。

5 もう一度RECボタンを押して、撮影を停止する
- クリップが、選択しているスロットのカードに記録される。
- 「Slow & Fastモーション／音声（WAV）」を選んだときは、WAVファイルが動画の記録先ではない方のカードに記録される。
- タリーランプは緑色に点灯する。画面の表示は「S&F STBY」に変わる。

6 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「通常記録」を選ぶと、スロー &ファストモーション記録モードが終了する

MEMO
- スロー &ファストモーション記録中は、撮影フレームレートを変更できません。
- システム周波数を変更すると、設定値は初期値のフレームレートにリセットされます。
- **スロー &ファストモーション記録中のタイムコードについて**
  - 「Rec Run」（レックラン）または「Regen.」（リジェネ）で記録される。
  - 「Free Run」（フリーラン）に設定しているときにスロー &ファストモーション記録モードにすると、強制的に「Rec Run」に設定される。
  - スロー &ファストモーション記録モードを解除すると、元のタイムコードの設定に戻る。
  - いずれの端子からも出力されません。

WAVファイルを記録するとき
- 48 kHz、24 bit、4チャンネルで記録する。
- 記録メディアの状況により動画が記録できないときは、音声も記録しない。
- 記録メディアの状況により音声が記録できない場合でも、動画は記録する。
- 同一ファイル名のWAVファイルがあるときは、記録しない。
- 60分に達すると、自動的に音声の記録を停止する（動画の記録は継続する）。
- WAVファイルは999個を超えて記録できない。

プレ記録を行う

プレ記録では、REC（記録開始／停止）ボタンを押して撮影を開始する一定時間（3秒）前からの映像と音声を記録できます。なお、メイン記録形式がRAWのときはプレ記録を行えません。
設定操作はダイレクトタッチコントロール（🕮 54）で行うこともできます。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「プレ記録」を選ぶ
- プレ記録モードになり、画面に「PRE STBY」が表示される。

2 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する
- タリーランプが赤色に点灯する。
- 撮影中は画面の「PRE STBY」が「PRE ●REC」に変わる。

3 もう一度RECボタンを押して、撮影を停止する
- 撮影開始から、プレ記録時間分さかのぼった時点からの映像が記録される。
- タリーランプは緑色に点灯する。画面の表示は「PRE STBY」に変わる。

4 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「通常記録」を選ぶと、プレ記録モードが終了する

MEMO
- 記録モードを変更すると、プレ記録モードが解除されます。
- **プレ記録中のタイムコードについて**
  - タイムコードの記録は、撮影開始操作からプレ記録時間分さかのぼった時点から行われる。
  - 「Free Run」（フリーラン）で記録される。
  - 「Rec Run」（レックラン）または「Regen.」（リジェネ）に設定しているときにプレ記録モードにすると、強制的に「Free Run」に設定される。
  - プレ記録モードを解除すると、元のタイムコードの設定に戻る。

フレーム記録を行う

記録フレーム数をあらかじめ設定して撮影を行うと、設定したフレーム数分の映像を記録します。記録中、音声は記録されません（ミュート）。撮影時は、本体を三脚などに固定してリモートで操作することをおすすめします。
設定操作はダイレクトタッチコントロール（54）で行うこともできます。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「フレーム記録」を選ぶ
- 画面に「FRM STBY」（FRMが点滅）が表示され、フレーム記録モードになる。

2 MENU > 記録/メディア設定 >「フレーム記録 フレーム数」> いずれかを選ぶ

3 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する
- タリーランプが赤色に点灯する。
- 撮影中は画面の「FRM STBY」が「FRM●REC」に変わる。
- 設定したフレーム数分のフレームが記録され、画面の表示が「FRM●STBY」に変わる。

4 操作3を繰り返して、撮影する

5 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「通常記録」を選ぶと、フレーム記録モードを終了する
- フレーム記録モードが終了する。この間に撮影したフレームは、すべて結合して1つのクリップとして記録される。
- タリーランプは緑色に点灯する。画面の表示は「STBY」に変わる。

MEMO
- スロー＆ファストモーション記録やプレ記録、インターバル記録、常時記録と同時には使用できません。
- フレームレートを59.94iまたは50.00iに設定しているときは、使用できません。また、フレーム記録モードのときにフレームレートを59.94iまたは50.00iに設定すると、フレーム記録モードが解除されます。
- フレーム記録モードで撮影中に、記録フレーム数を変更することはできません。
- クリップの末尾に、フレーム記録モードを終了したときの映像が記録されることがあります。
- **フレーム記録中のタイムコードについて**
  - Rec Run（レックラン）またはRegen.（リジェネ）で記録され、記録フレーム数ずつ歩進する。
  - Free Run（フリーラン）またはタイムコード入力している状態でフレーム記録モードにすると、強制的にRec Runに設定される。
  - フレーム記録モードを解除すると、元のカウントアップ方式に戻る。
  - タイムコードは、TIME CODE端子またはHDMI OUT端子のいずれからも出力されない。

インターバル記録を行う

記録間隔と記録フレーム数をあらかじめ設定して撮影を行うと、間欠的に映像を自動記録できます。記録中、音声は記録されません（ミュート）。
設定操作はダイレクトタッチコントロール（54）で行うこともできます。

1 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「インターバル記録」を選ぶ

- 画面に「INT STBY」（INTが点滅）が表示され、インターバル記録モードになる。

2 MENU > 記録/メディア設定 >「インターバル記録 時間間隔」> いずれかを選ぶ

3 MENU > 記録/メディア設定 >「インターバル記録 フレーム数」> いずれかを選ぶ

4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- タリーランプが赤色に点灯する。
- 撮影中は画面の「INT STBY」が「INT●REC」に変わる。
- 設定した記録間隔おきに、設定したフレーム数分のフレームが、自動的に記録される。

5 もう一度RECボタンを押して、撮影を停止する

- タリーランプは緑色に点灯する。画面の表示は「INT STBY」（INTが点滅）に変わる。

6 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「通常記録」を選ぶと、 インターバル記録モードを終了する

MEMO

- スロー＆ファストモーション記録やプレ記録、フレーム記録、常時記録と同時には使用できません。
- フレームレートを59.94iまたは50.00iに設定しているときは、使用できません。また、インターバル記録モードのときにフレームレートを59.94iまたは50.00iに設定すると、インターバル記録モードが解除されます。
- インターバル記録モードで撮影中に、記録間隔やフレーム数を変更することはできません。
- クリップの末尾に、インターバル記録モードを終了したときの映像が記録されることがあります。
- **インターバル記録中のタイムコードについて**
  - Rec Run（レックラン）またはRegen.（リジェネ）で記録され、記録フレーム数ずつ歩進する。
  - Free Run（フリーラン）またはタイムコード入力している状態でインターバル記録モードにすると、強制的にRec Runに設定される。
  - インターバル記録モードを解除すると、元のカウントアップ方式に戻る。
  - タイムコードは、TIME CODE端子またはHDMI OUT端子のいずれからも出力されない。

常時記録を行う

2つのカードスロットのうち、カード1は通常の記録、カード2は常に記録を行います。メイン記録形式がMP4のときに使用でき、両カードともMP4形式で、音声はリニアPCMで記録されます。
操作5以外の設定操作はダイレクトタッチコントロール（54）で行うこともできます。

1 スロット1に通常記録用のカードを、スロット2に常時記録用のカードを入れる

2 MENU > 記録/メディア設定 >「記録モード」>「1メイン／2常時記録」を選ぶ

- 画面のカード2に「CONT」が表示され、常時記録モードになる。

3 MENU > 記録/メディア設定 >「常時記録」>「REC」を選ぶ

- カード2への常時記録が始まり、タリーランプが赤色に点灯する。
- 画面の表示は「●CONT」に変わる。

4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- カード1への通常記録が始まる。
- 操作3の前にこの操作を行うと、常時記録と通常記録を同時に開始できる。

5 MENU > 記録/メディア設定 >「常時記録」>「STBY」を選ぶ

- 常時記録が終了してタリーランプが緑色に点灯し、画面の表示は「CONT」に変わる。
- 通常記録も同時に停止する。

6 記録/メディア設定 >「記録モード」>「通常記録」を選ぶと常時記録モードが終了する

MEMO

- カード2の状況によって常時記録を実行できない場合、通常記録も行いません。
- カード1の空き容量がなくなっても、常時記録は継続します。
- 「常時記録」が「STBY」のときに、メイン記録形式をMP4以外に変更すると、常時記録モードが解除されます。

アナモフィックレンズで撮影する

本機にアナモフィックレンズを装着して撮影できます。撮影中または再生中、画面では、メニューで設定した倍率で横方向に拡大（デスクイーズ）した映像を確認できます。

1 MENU > モニタリング設定 >「アナモフィック: XXXXX」のいずれか >「入」を選ぶ

2 MENU > モニタリング設定 >「アナモフィックデスクイーズ」> いずれかを選ぶ

レンズスクイーズ連動：	MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「レンズスクイーズ」の設定に連動する。
x2.0：	映像の横幅を2倍に拡大する。
x1.8：	映像の横幅を1.8倍に拡大する。
x1.3：	映像の横幅を1.3倍に拡大する。

3 必要に応じて、MENU > モニタリング設定 >「S&F時デスクイーズ」>「縮小表示」を選ぶ

- スロー &ファストモーション記録モードのときに「縮小表示」を選ぶと、横方向に拡大した映像を縮小して表示する。

MEMO

- MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「レンズスクイーズ」で、アナモフィックレンズの横方向のスクイーズ倍率をメタデータとして記録できます。
- HDMI OUT端子のアナモフィックデスクイーズを有効にすると、HDMI OUT端子への4K（4096x2160、3840x2160）59.94P / 50.00P出力は、1920x1080出力に変換されます。
- 静止画やブラウザーリモートのライブビュー映像は、横方向に拡大されません。

Webカメラとして使用する

本機とパソコンをインターフェースケーブルで接続すると、対応するアプリケーションのWebカメラとして使用できます。Webカメラとして使用するときは、動画のみ記録できます。対応OSや動作確認済みアプリケーションについては、キヤノンのホームページをご覧ください。パソコンの詳細については、それぞれの説明書をご覧ください。
カメラとパソコンを接続するときは、付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください。また、カメラにインターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください。ケーブルプロテクターを使用すると、ケーブルが不用意に抜けることを防止したり、端子の破損を防止することができます。ケーブルプロテクターの使い方については、詳細ガイド「静止画編」のご覧ください。

映像の出力信号形式

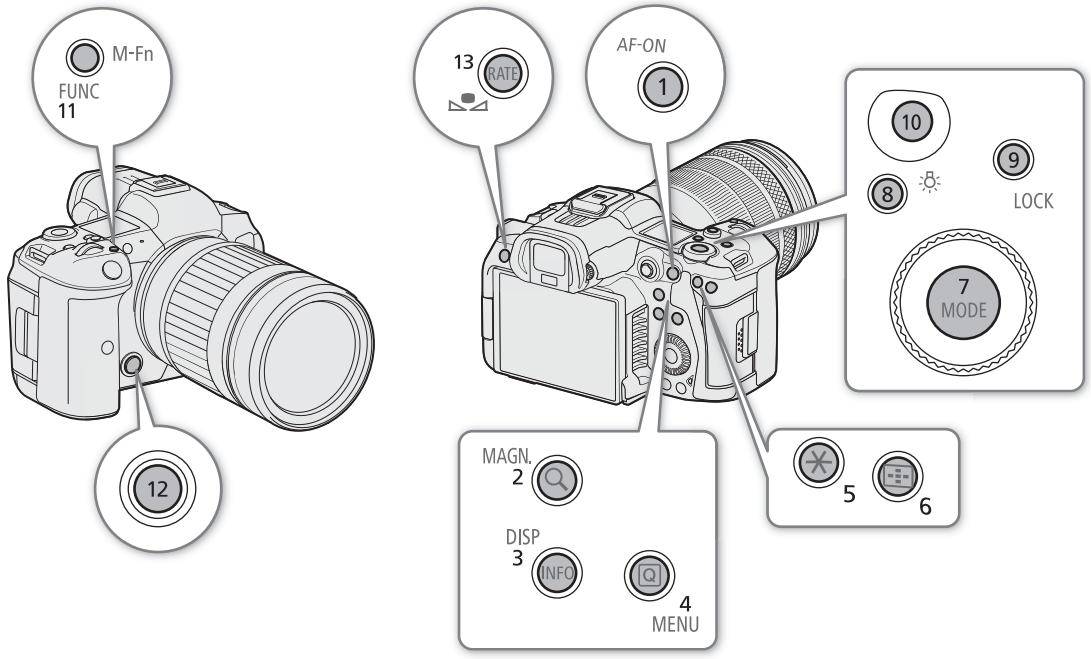
メイン解像度	映像フォーマット	解像度	フレームレート
7680x4320、3840x2160、1920x1080、1280x720	Motion JPEG	1024×576	最大30 fps
8192 x 4320、5952 x 3140、4096x2160、2976x1570、2048x1080		1088×576	

1 MENU > システム設定 >「USBモード」>「映像出力 (UVC)」を選ぶ
2 本機をパソコンにつなぐ
3 パソコン：対応アプリケーションを起動する
4 接続を終了するときは、本機からインターフェースケーブルを抜く

MEMO
- ブラウザーリモート（170）や静止画記録、IPストリーミング送信と同時には使用できません。

アサインボタンを使用する

使用頻度の高い機能をアサインボタンに割り当てて、より使いやすくカスタマイズすることができます。アサインボタンは、カメラ本体に13個あります。



アサインボタンの機能を変更する

カメラモードとメディアモードで個別に機能を割り当てることができます。

1 MENUボタンを押しながら、機能を割り当てるアサインボタンを押す

- アサインボタンの機能割り当て画面が表示される。
- アサインボタンメニューから機能を変更したいアサインボタンを選んで表示することもできる。

2 任意の機能を選ぶ

- 選んだ機能がアサインボタンに割り当てられる。

3「ユーザー設定」を選んだときは、任意のメニュー項目を選ぶ

- 「ユーザー設定」が、選んだメニュー項目の名称（先頭にMENUが付く）に変わる。

MEMO

- アサインボタンに割り当てた機能は、ステータス画面で確認できます（📖 192）。
- MENU > システム設定 >「リセット」>「アサインボタン」で、アサインボタンの割り当てを初期状態に戻すことができます。

アサインボタンを使う

必要なときに、機能を割り当てたアサインボタンを押して使用します。アサインボタンを押すと、画面に機能の詳細項目を選ぶメニューが表示されることがあります。そのときは、ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して項目を選んでください。

使用可能な機能

機能名に含まれる出力先（LCDや端子名）や「すべて」は、その出力先のみ、または適用可能な全出力先が対象となることを示します。

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
One-Shot AF	ワンショットAFを実行する。	●	
AFロック AFロック（押下時有効）*1	AFロックの入／切を切り換える。 「AFロック（押下時有効）」は、押している間だけAFロックが有効になる。	●	
AF枠	AF枠の全域／大／小を切り換える。	●	
フォーカスモード	フォーカスモードのAF／MFを切り換える。	●	
顔検出AF	顔検出AFの顔優先／顔限定を切り換える。	●	
顔検出&追尾	顔検出&追尾の入／切を切り換える。	●	
瞳検出	瞳検出の入／切を切り換える。	●	
追尾	追尾待機モードに入る。もう一度押すと出る。	●	
フォーカスガイド	デュアルピクセルフォーカスガイドの入／切を切り換える。	●	
ピーキング: すべて ピーキング: LCD ピーキング: VF ピーキング: HDMI	ピーキングの入／切を切り換える。	●	
Magnification Magnification: LCD Magnification: VF Magnification: HDMI	拡大表示の入／切を切り換える。	●	
デジタルテレコン	デジタルテレコンの x 1.5／ x 2.0／ x 2.5／ x 3.0／切を切り換える。	●	
プッシュオートアイリス	プッシュオートアイリスを実行する。	●	
アイリスモード	アイリスのモードを切り換える。	●	
アイリス+	絞り値を調整する。押すたびに、絞りを開く。	●	
アイリスー	絞り値を調整する。押すたびに、絞りを絞る。	●	
Base ISO	Base ISOの設定を切り換える。	●	
ISO/ゲインモード	オート／マニュアルを切り換える。	●	
AEシフト +	露出を明るめに調整する。	●	
AEシフト ー	露出を暗めに調整する。	●	
バックライト	測光方式のバックライト／スタンダードを切り換える。	●	
スポットライト	測光方式のスポットライト／スタンダードを切り換える。	●	
ゼブラ: すべて ゼブラ: LCD ゼブラ: VF ゼブラ: HDMI	ゼブラパターン表示の入／切を切り換える。	●	
WFM: すべて WFM: LCD WFM: VF WFM: HDMI	WFM機能の表示の入／切を切り換える。	●	●

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
ビューアシスト: すべて ビューアシスト: LCD ビューアシスト: VF ビューアシスト: HDMI	ビューアシストの入／切を切り換える。	●	
フォルスカラー : すべて フォルスカラー : LCD フォルスカラー : VF フォルスカラー : HDMI	フォルスカラーの入／切を切り換える。	●	
フォルスカラーインデックス	フォルスカラーインデックス表示の入／切を切り換える。	●	
ホワイトバランス	カメラダイレクト設定のホワイトバランス設定に切り換える。	●	
ホワイトバランスセット	ホワイトバランスセットの白取り込みを実行する。	●	
AWBホールド*1	オートホワイトバランスのホールドの入／切を切り換える。	●	
AWB AWB	ホワイトバランスの調整方法をオートホワイトバランスに変更する。	●	
セットA／セットB	ホワイトバランスの調整方法をセットAまたはセットBに変更する。	●	
太陽光	ホワイトバランスの調整方法を太陽光に変更する。	●	
電球	ホワイトバランスの調整方法を電球に変更する。	●	
K Kelvin	ホワイトバランスの調整方法を色温度に変更する。	●	
レンズ光学IS	レンズ光学ISの入／切を切り換える。	●	
電子IS 電子IS一時停止*1	電子手ブレ補正（電子IS）の入／切を切り換える。 「電子IS一時停止」は、押している間だけ、電子ISがOffになる。	●	
LCD設定 VF設定	モニタリング設定メニューのサブメニューを表示する。	●	●
オンスクリーン表示: HDMI	出力映像に画面表示を重畳する／しないを切り換える。	●	●
オンスクリーン透過: すべて オンスクリーン透過: LCD オンスクリーン透過: VF オンスクリーン透過: HDMI	オンスクリーン透過の入／切を切り換える。	●	●
DISP	画面の表示レベルを切り換える。	●	●
オンスクリーン表示方向：LCD/VF	オンスクリーン表示方向を、標準→左90度回転→右90度回転の順に切り換える。	●	
マーカー : すべて マーカー : LCD マーカー : VF マーカー : HDMI	マーカーの入／切を切り換える。	●	
カラーバー	カラーバーの入／切を切り換える。	●	
IPストリーミング	IPストリーミングの入／切を切り換える。	●	
Photo*1	静止画を記録する。	●	
レックレビュー*1	カメラモードのままで、最後に撮影したクリップを再生する。	●	
Time Code	システム設定の「Time Code」サブメニューを表示する。	●	
Shot Mark追加*1	ショットマークを付加する。	●	●
OK Mark追加	OKマークを付加する。	●	●
☑ Mark追加	チェックマークを付加する。	●	●
ヘッドホン+	ヘッドホンの音量を大きくする。	●	●

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
ヘッドホンー	ヘッドホンの音量を小さくする。	●	●
モニターチャンネル	∩（ヘッドホン）端子から出力される音声のチャンネルを切り換える。押すたびに出力チャンネルが切り換わる。	●	●
オーディオレベル	オーディオレベルメーター表示の入／切を切り換える。	●	●
FUNC	FUNCボタンの機能を割り当てる。	●	
Slow & Fastモーション	スロー &ファストモーション記録モードに切り換える。	●	
Slow & Fastフレームレート	スロー &ファストモーション記録モードのときに、スロー &ファストモーション記録の撮影フレームレート設定に切り換える。	●	
出力：60⇔60(24)fps*1*2 出力：60⇔60(30)fps*1*2	フレームレートが59.94Pまたは59.94iのときに、出力端子／画面の映像を24 fps（または30 fps）相当にする／しないを切り換える。	●	
アイリス	カメラダイレクト設定のアイリス設定に切り換える。	●	
シャッター	カメラダイレクト設定のシャッタースピード設定に切り換える。	●	
ISO/ゲイン	カメラダイレクト設定のISO感度／ゲイン設定に切り換える。	●	
表示パネル情報切り換え	表示パネルの情報表示の内容を切り換える。	●	
ステータス*1	ステータス画面を表示する。	●	●
オーディオステータス*1	オーディオ専用のステータス画面を表示する。	●	●
カードスロット温度情報表示*1	カードスロットの温度情報（グラフ）を表示する。	●	●
MENU	メニューを表示する。	●	●
Custom Picture	CP Custom Picture設定メニューを表示する。	●	
アサインボタン設定	アサインボタンメニューを表示する。	●	●
マイメニュー	マイメニューを表示する。	●	
メディア初期化	メディア初期化メニューを表示する。	●	●
再生／一時停止	再生／再生一時停止を切り換える。		●
INDEX／レジューム解除 INDEX	インデックス画面を切り換える。再生中断時のフレーム位置を保持しているクリップを選んで「レジューム解除」を行うと、フレーム位置を解除する。		●
キーロック	キーロックの入／切を切り換える。カメラアサイン9ボタンだけに割り当て可能。	●	●
REC	RECボタンの機能を割り当てる。カメラアサイン10/13ボタンだけに割り当て可能。	●	
スロット選択	カードスロットを切り換える。	●	●
ユーザー設定*1	任意のメニュー項目を表示する。	●	●

*1 アサインボタンのみの機能。
*2 スロー &ファストモーション記録モード時は使用できない。

カスタムピクチャーを使用する

撮影条件に合わせる、意図的に効果をつけるなど画質を調整するためのさまざまな設定を行うことができます。調整した設定値はカスタムピクチャーファイルとして本機やSDカードに保存し、必要に応じて再利用できます。また、カスタムピクチャーを設定してXF-AVC形式で撮影すると、カスタムピクチャーファイルをクリップと一緒に保存できます（🕮 125）。カスタムピクチャーファイルは本機とSDカードに20セット保存でき、本機とSDカードとの間で相互にコピーできます。
なお、カスタムピクチャーの設定は、記録または出力されるRAWクリップには影響しません。

カスタムピクチャーファイルを選ぶ

撮影に使用するカスタムピクチャーファイルを選択します。あらかじめ、画質設定をカスタムピクチャーファイルとして登録しておくと、リストから選ぶだけで希望の画質に調整することができます。カスタムピクチャーファイルの編集／登録、名称変更、プロテクト、コピーを行うときも、その対象となるカスタムピクチャーファイルを選びます。

1 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル選択」を選ぶ

- カスタムピクチャーの選択画面が表示される。
- 本機に保存されているカスタムピクチャーファイル（C1～C20）が選択可能になる。
- SDカードに入っているカスタムピクチャーファイルを使うときは、あらかじめ本機にコピーする（🕮 125）。
- ダイレクトタッチコントロール（🕮 54）の 記録設定で操作することもできる。

2 いずれかのカスタムピクチャーファイルを選ぶ

- 本機が、選んだカスタムピクチャーファイルの設定に調整される。

プリセットされたカスタムピクチャーについて

初期状態では、C1～C20に次の組み合わせのプリセットが用意されています。C1からC8のカスタムピクチャーファイルは、プロテクトされているため、設定を変更するときはプロテクトの解除が必要です。

	Gamma/Color Space（ガンマ／色空間）	Color Matrix（カラーマトリクス）	Look ファイル	特長
C1:BT.709 Wide DR	BT.709 Wide DR / BT.709	Neutral	–	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを実現。
C2:Canon Log 3	Canon Log 3 / C.Gamut	Neutral	–	ポストプロダクション処理を前提としたCanon Log 3ガンマを使用。Canon Logの特徴を残したままダイナミックレンジを拡大した。
C3:PQ	PQ / BT.2020	Neutral	–	ITU-R BT.2100 (PQ)規格に準拠*したHDR映像用ガンマを使用。
C4:HLG	HLG / BT.2020	Neutral	–	ITU-R BT.2100 (HLG)規格に準拠*したHDR映像用ガンマを使用。
C5:BT.709 Standard	BT.709 Standard / BT.709	Video	–	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。ITU-R BT.709規格に準拠したガンマを使用。
C6:EOS Standard	BT.709 Wide DR / BT.709	Neutral	入	レンズ交換式デジタル一眼カメラEOSでピクチャースタイル「スタンダード」を選択した場合の画質を再現する設定。
C7:EOS Neutral	BT.709 Wide DR / BT.709	Neutral	入	レンズ交換式デジタル一眼カメラEOSでピクチャースタイル「ニュートラル」を選択した場合の画質を再現する設定。

	Gamma/Color Space（ガンマ／色空間）	Color Matrix（カラーマトリクス）	Look ファイル	特長
C8:Canon 709	Canon 709 / BT.709	Neutral	–	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを確保しつつ、コントラストのある、「撮って出し（ポスト処理無しでの使用）」にも適したルック。
C9:User09～ C20:User20	BT.709 Wide DR / BT.709	Neutral	–	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを実現。

* ITU-R BT.2100は10 / 12 bit規格のため、記録信号形式のビット数が8 bitのときは規格相当となる。

MEMO

Canon Log 3を使用する

- ポストプロダクション処理を前提とするガンマで、撮像素子の特性を最大限に引き出す広いダイナミックレンジを実現できます。
- 撮影中、LCDモニターやファインダー、HDMI OUT端子の映像にビューアシストを適用し、モニタリングに適したガンマ／色空間に変換できます。
- 撮影したクリップをポストプロダクション処理する際、LUT（ルックアップテーブル）*を適用できます。
  * 最新のLUTデータについては、キヤノンのホームページでご確認ください。

カスタムピクチャーファイルを編集する

撮影時に使用する画質設定を行いカスタムピクチャーファイルに保存します。

1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ（🕮 122）

2 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル編集」を選ぶ

- プロテクトされていないカスタムピクチャーファイルを選ぶ 。

3 画質調整の設定を行う

参考 ▶▶ カスタムピクチャーの設定項目（🕮 126）

カスタムピクチャーファイルの名前を変更する

1 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル編集」>「名称変更」>「Input」を選ぶ

2 16文字の英数字・記号で名前を入力する（🕮 21）

- カスタムピクチャーファイルの名前が変更される。

カスタムピクチャーファイルをプロテクトする

必要に応じて、カスタムピクチャーファイルをプロテクトすることができます。

1 プロテクトするカスタムピクチャーファイルを選ぶ（🕮 122）

2 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル編集」>「プロテクト」>「プロテクト」を選ぶ

- カスタムピクチャーファイル名に 🔑 が表示される。
- プロテクトを解除するときは「プロテクト解除」を選ぶ。

カスタムピクチャーファイルをリセットする

選択しているカスタムピクチャーファイルの設定を初期状態に戻します。

1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ（🕮 122）

2 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル編集」>「リセット」を選ぶ

3 プリセットのいずれかを選ぶ >「OK」を選ぶ
- カスタムピクチャーファイルが、選択したプリセットの設定に初期化される。

Lookファイルで画質を調整して記録する

Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成したLUTファイル（以下「Lookファイル」と呼ぶ）をカスタムピクチャーファイルに登録すると、記録する映像の画質をLookファイルで調整できます。調整は、プロキシ動画や静止画、画面／出力端子の映像にも適用されます。

1 SDカードのルートフォルダーにLookファイルを格納し、本機のスロット2にカードを入れる

2 カスタムピクチャーファイルを選ぶ（🕮 122）

3 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル編集」>「Gamma/Color Space」> いずれかを選ぶ

4 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル編集」>「Look File設定」>「登録」を選ぶ
- SDカード内のLookファイルが表示される。

5 いずれかのLookファイルを選ぶ

6 Lookファイルの適用後のガンマ／色空間を選ぶ

7「OK」を2回選ぶ
- Lookファイルが読み込まれ、カスタムピクチャーファイルに登録される。
- 続いて、Lookファイルによる画質調整が有効になり、画面にLOOKが表示される。
- Lookファイルによる画質調整を無効にするときは、MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル編集」>「Look File」>「切」を選ぶ。

MEMO

Lookファイルについて
- Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成した17グリッドまたは33グリッドのLUTファイル（3D LUT／.cube形式）を使用できる。
- ヘッダー部の「LUT_3D_INPUT_RANGE」に、0～1以外の入力レンジを定義しているLUTファイルは使用できない。
- データ部に、0～1以外の値が含まれるLUTファイルは使用できない。
- ファイルサイズが2MB以上、またはファイル名が65文字（拡張子を含む）以上のLUTファイルは使用できない。
- ファイル名に使用可能な文字： 0～9、a～z、A～Z、「_」（アンダーバー）、「-」（ハイフン）、「.」（ドット）、「 」（半角スペース）

- Lookファイルは、SDカードの直下（ルートディレクトリ）に保存してください。
- 入力／出力のガンマ／色空間が正しく選択されていないと、正しく変換されません。
- Lookファイルを登録後、「Gamma/Color Space」、「HLG Color」、「Over 100%」を変更すると、登録したLookファイルを使用できません。
- 「Gamma/Color Space」のガンマが「BT.709 Normal」、「BT.709 Standard」、または「BT.709 Wide DR」の場合、スーパーホワイト（出力100%を超える信号）とスーパーブラック（出力0%未満の信号）はクリップされます。スーパーホワイトの信号を使用するときは、MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル編集」>「Other Functions」>「Over 100%」で「Press」を選んだ上でLookファイルを有効にして、100%に圧縮した信号に対してLookファイルを適用します。
- RAWクリップの再生時、撮影時のLookファイルは適用されません（サムネイルには適用されます）。

Lookファイルを消去する

カスタムピクチャーファイルに登録したLookファイルを消去できます。

1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ（🕮 122）

2 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル編集」>「Look File設定」>「消去」>「OK」を選ぶ
- Lookファイルが消去され、Lookファイルによる画質調整が無効になる。

カスタムピクチャーファイルを保存する

カスタムピクチャーファイルをコピーする

本機とSDカードとの間で、カスタムピクチャーファイルを相互にコピーすることができます。

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードに保存する

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードに保存します。新規に追加するか、既存のカスタムピクチャーファイルを上書きするかを選ぶことができます。

1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ（📖 122）

2 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル保存」>「SDカードへ保存」を選ぶ

3 SDカード内の保存先となるカスタムピクチャーファイルまたは「新規ファイル」*を選ぶ

* SDカード内のカスタムピクチャーファイルが20セット未満のときは、「新規ファイル」が表示される。

4「OK」を選ぶ

- 選択中のカスタムピクチャーファイルがSDカードに保存される。
- 「新規ファイル」を選んだときは、自動的に最後に追加される。

MEMO

- 保存したカスタムピクチャーファイルは、本機と同じ機種のみで使用できます。

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードのカスタムピクチャーファイルで置き換える

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードのカスタムピクチャーファイルで上書きします。

1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ（📖 122）

2 MENU > CP Custom Picture >「CP ファイル保存」>「SDカードから読み出し」を選ぶ

3 SDカード内のコピー元となるカスタムピクチャーファイルを選ぶ

4「OK」を選ぶ

- 選択中のカスタムピクチャーファイルが置き換わる。

撮影時にクリップと一緒にカスタムピクチャーファイルを保存する

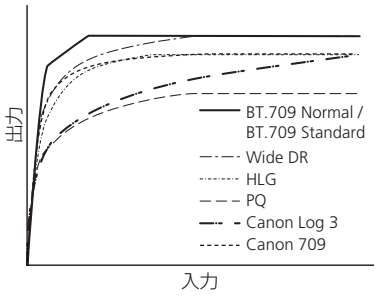
画質調整の設定を行ったあと、XF-AVC形式で撮影すると、カスタムピクチャーファイルがクリップと一緒に保存されます。メディアモードで情報表示画面を表示すると、そのクリップを撮影したときのカスタムピクチャーの設定を確認できます。

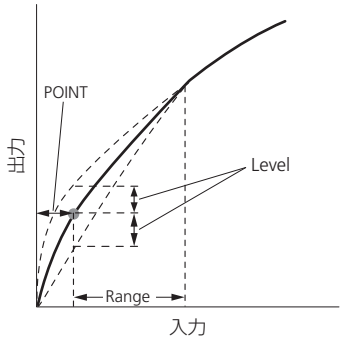
MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「CP ファイル付加」を選ぶ >「入」を選ぶ

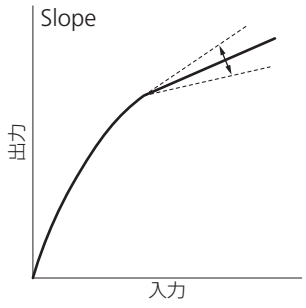
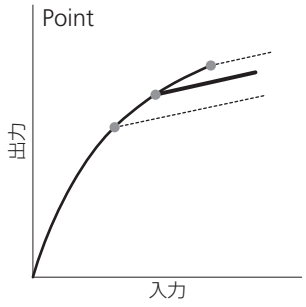
カスタムピクチャーの設定項目

カスタムピクチャーで設定できる項目について説明します。初期設定は太字で記載しています。

設定項目	設定値／内容
Gamma/Color Space	Canon Log 3 / C.Gamut、Canon Log 3 / BT.2020、Canon Log 3 / BT.709、PQ / BT.2020、HLG / BT.2020、BT.709 Wide DR / BT.2020、**BT.709 Wide DR / BT.709**、BT.709 Normal / BT.2020、BT.709 Normal / BT.709 、BT.709 Standard / BT.709、Canon 709 / BT.709
	ガンマと色空間の組み合わせを選択する。 **ガンマ** Canon Log 3： Canon Logの特徴を残したまま、ダイナミックレンジを広くしたガンマ。ポストプロダクション処理が前提。 PQ：ITU-R BT.2100(PQ)規格*に準拠したHDR映像用ガンマ。 HLG：ITU-R BT.2100(HLG)規格*に準拠したHDR映像用ガンマ。 BT.709 Wide DR： 広いダイナミックレンジを確保。BT.709準拠モニターに出力するとき。 BT.709 Normal：ITU-R BT.709規格に対して、低輝度部をより暗くして、高輝度部のコントラストを抑えたガンマ。BT.709準拠モニターで見るとき。 BT.709 Standard： ITU-R BT.709規格に準拠したガンマ。BT.709準拠モニターで見るとき。 Canon 709：広いダイナミックレンジを確保しつつ、コントラストのある「撮って出し（ポスト処理無しでの使用）」にも適したガンマ。BT.709準拠モニターに出力するとき。 * ITU-R BT.2100は10 / 12 bit規格のため、記録信号形式のビット数が8 bitのときは規格相当となる。 **色空間** C.Gamut： センサーの特性に基づいてキヤノンが開発した色空間でBT.2020より広い色域をカバーする。ACES2065-1色空間に変換して使用する場合にも推奨。 BT.2020： UHDTV（4K/8K）用に規定されたITU-R BT.2020規格に準拠した色空間。ITU-R BT.2100規格もこの色空間を採用している。 BT.709：sRGB規格に準拠した標準的な色空間。
Color Matrix	**Neutral**、Production Camera、Video
	Neutral：忠実な色再現。 Production Camera：映画制作用の色再現。 Video：TV放送に適したコントラストのある色再現。
Look File	入、**切**
	Lookファイルによる画質調整を有効にする。
Look File設定	
登録	Lookファイルをカスタムピクチャーに登録する。
消去	カスタムピクチャーに登録したLookファイルを消去する。



設定項目	設定値／内容
HLG Color	BT.2100、**Vivid**
	HLGの色味を設定する。「Gamma/Color Space」で「HLG / BT.2020」を選択時、有効。 BT.2100：ITU-R BT.2100 相当。 Vivid：ITU-R BT.2390 記載のTraditional Colour 相当。
Black	
Master Pedestal	－50～+50 (**±0**)
	黒のレベルを調整する。値を高くするほど暗部が明るくなり、コントラストが弱くなる。マイナスの値にすると、黒が沈む。「Gamma/Color Space」のGammaにCanon Log 3を選択時は、無効。
Master Black Red、Master Black Green、Master Black Blue	－50～+50 (**±0**)
	黒の色かぶりをRGB個別に補正する。「Gamma/Color Space」のGammaにCanon Log 3を選択時は、無効。
Black Gamma	
Level	－50～+50 (**±0**)
Range、Point	－20～+50 (**±0**)
	低輝度部のガンマを補正する。各値を変えることで、図の範囲内で黒側のガンマカーブを調整する。「Gamma/Color Space」のGammaにBT.709 Normal、またはBT.709 Standardを選択時のみ有効。 Level：基準ガンマからの高さ Range：Pointからの幅 Point：頂点の位置
Low Key Saturation	
Activate	On、**Off**
Level	－50～+50 (**±0**)
	低輝度領域の色の濃い／薄いを調整する。 Activate：Onにすると、ローキーサチュレーションによる調整を有効にする。 Level：低輝度領域の色の濃さ、薄さを設定する。

設定項目	設定値／内容
Knee	
Activate	**On**、Off
Slope	−35〜+50 (**±0**)
Point	50〜109 (**95**)
Saturation	−10〜+10 (**±0**)
 	高輝度部分に圧縮をかけて、とびの発生を抑える。「Gamma/Color Space」のGammaにBT.709 Normal、またはBT.709 Standardを選択時のみ有効。 Activate：Onにすると、ニーの調整を有効にする。 Slope：ニーの傾き。 Point：ニーポイント。 Saturation：高輝度部における色の濃さ・薄さ。
Sharpness	
Level	−10〜+50 (**±0**)
	輪郭強調のレベルを調整する。
Detail Frequency	−8〜+8（**±0**）
	輪郭強調の中心周波数を設定する。値を大きくするほど周波数が高くなり、輪郭強調は細くなる。
Coring Level	−30〜+50 (**±0**)
	コアリングのレベル。大きくすると、微小な輪郭が強調されなくなり、ノイズを低減できる。
Limit	−50〜+50 (**±0**)
	輪郭強調の大きさを制限するレベルを調整する。
Noise Reduction	
Automatic	Off 、**On**
Spatial Filter	**Off**、1〜12
	画像全体がソフトフォーカスをかけたようになりノイズを除去。Off以外に設定すると、残像は発生しないが、画面全体がソフトに表現される。
Frame Correlation	**Off**、1〜3
	前の画像（フィールド）と現在の画像を比較してノイズ成分を除去。Off以外に設定すると、解像感は落ちないが、動いている被写体では残像が出ることがある。

設定項目	設定値／内容
Skin Detail	
Effect Level	**Off**、Low、Middle、High
Hue	－16～+16 (**±0**)
Chroma、Area、Y Level	0～31 (**16**)
	肌色部分のノイズを低減して肌を美しく撮影するための設定を行う。調整中、設定した肌色部分を検出すると、画面や映像出力端子の出力映像上にゼブラパターンを表示する。 Effect Level：肌色を検出して、きれいな肌を演出するためのフィルターを調整する。調整は3段階のレベルで設定でき、Highがもっとも強く調整される。 Hue：検出する肌色の色相。 Chroma：検出する肌色の彩度。 Area：検出する肌色の色相の幅。 Y Level：検出する肌色の輝度レベル。
Color Matrix Tuning	
Gain	－50～+50 (**±0**)
Phase	－18～+18 (**±0**)
R-G、R-B、G-R、G-B、B-R、B-G	－50～+50 (**±0**)
	映像の色調を微調整する。 Gain：色の濃さを調整する。 Phase：色相を調整する。 R-G：シアンからグリーン、レッドからマゼンタの色調を調整する。 R-B：シアンからブルー、レッドからイエローの色調を調整する。 G-R：マゼンタからレッド、グリーンからシアンの色調を調整する。 G-B：マゼンタからブルー、グリーンからイエローの色調を調整する。 B-R：イエローからレッド、ブルーからシアンの色調を調整する。 B-G：イエローからグリーン、ブルーからマゼンタの色調を調整する。
White Balance	
R Gain、G Gain、B Gain	－50～+50 (**±0**)
	ホワイトバランスのシフト量を赤色の濃淡（R Gain）、緑色の濃淡（G Gain）、青色の濃淡（B Gain）で調整する。

設定項目	設定値／内容
Color Correction	
Select Area	**Off**、Area A、Area B、Area A&B
Area A Setting Phase	0～31 (**0**)
Area B Setting Phase	
Area A Setting Chroma	0～31 (**16**)
Area B Setting Chroma	
Area A Setting Area	
Area B Setting Area	
Area A Setting Y Level	
Area B Setting Y Level	
Area A Revision Level	－50～+50 (**±0**)
Area B Revision Level	
Area A Revision Phase	－18～+18 (**±0**)
Area B Revision Phase	
	特定の範囲の色調を補正する。調整中、設定した範囲の色調部分を検出すると、設定した範囲以外の色を画面や映像出力端子の出力映像上に無彩色で表示する（Area A(B) Revision LevelまたはArea A(B) Revision Phaseの調整中を除く）。 Select Area：補正する色の範囲をAエリアとBエリアの2種類設定でき、補正はいずれかまたは両方を選択できる。 Area A（B）Setting Phase：AエリアまたはBエリアの色相を設定する。 Area A（B）Setting Chroma：AエリアまたはBエリアの彩度を設定する。 Area A（B）Setting Area ：AエリアまたはBエリアの色相の幅を設定する。 Area A（B）Setting Y Level ：AエリアまたはBエリアの輝度レベルを設定する。 Area A（B）Revision Level：AエリアまたはBエリアにおける、色の濃さの補正量を設定する。 Area A（B）Revision Phase：AエリアまたはBエリアにおける、色相の補正量を設定する。
Other Functions	
Over 100%	**Through**、Press、Clip
	100%を超える信号の出力のしかたを設定する。「Gamma/Color Space」のGammaにCanon Log 3、PQ、HLGまたはCanon 709を選択時は、無効。 Through：信号をそのまま出力する。 Press：108%までの信号全体を100%に圧縮する。 Clip：白レベルを100%でクリップする。

MEMO

- 設定値を変えたとき、メニューの設定によっては、画質調整の効果が得られないことがあります。

設定データの保存と読み出し

本機の各種の設定情報（設定データ）をカメラ本体またはスロット2のSDカードに保存できます（動画モード時の設定データのみ）。設定データは、必要に応じて読み出して再利用できます。複数の本機と同じ機種を同じ設定にするときに便利です。

設定データを保存する

1 MENU > システム設定 >「メニュー /CP 設定保存」>「保存」を選ぶ

2「カメラ本体へ」または「SDカードへ」>「OK」を選ぶ

- 現在のメニュー設定やカスタムピクチャーが、選んだ保存先に保存される。保存されている設定データは、現在の設定で上書きされる。

設定データを読み込む

1 MENU > システム設定 >「メニュー /CP 設定保存」>「読み出し」を選ぶ

2「カメラ本体から」または「SDカードから」>「OK」を選ぶ

- 設定データが本機に読み込まれる。読み込まれたあと、画面が一度消え、本機が再起動する。

MEMO

保存されない設定

- MENU > カメラ設定 >「カラーバー」
- MENU > 記録/メディア設定 >「メタデータ」>「User Memo」、「News Metadata」
- MENU > アシスト設定 >「Magnification」、「Magnification出力先」
- MENU > アシスト設定 >「波形モニター設定」>「サイズ: LCD/VF」
- FTP転送のルート証明書

- 設定データを読み込むとき、本機にプロテクトされたカスタムピクチャーファイルがあっても、上書きされます。

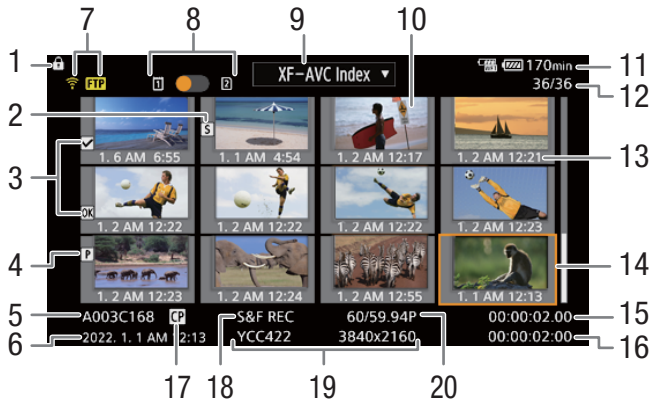
撮影データを再生する

ここでは、撮影データ（クリップ、静止画、WAV形式の音声）の再生について説明します。外部モニターに接続して再生するときは、「接続」（📖 141）をご覧ください。

インデックス画面を表示する

MEDIA（メディア）ボタン（📖 12）を押す

- 本機がメディアモードになり、クリップのサムネイル（縮小画像）がインデックス画面に表示される。
- ジョイスティック、SELECTダイヤルでカーソルを移動できる。
- 上下にフリックするかグリップ電子ダイヤルを回すと、次または前のページに移動する。



1 キーロック ▶▶ 📖 22
2 ショットマーク*1 ▶▶ 📖 106
3 OKマーク*1／チェックマーク*1 ▶▶ 📖 106
4 プロキシ動画*1 ▶▶ 📖 68
5 カメラインデックス、リール番号、クリップ番号、クリップ／音声ファイル名 ▶▶ 📖 38
6 収録日（年月日）と記録開始時間
7 ネットワークの接続状態／機能
8 記録メディア
- 現在選択しているカードの隣に●が表示される。

9 記録形式
10 クリップのサムネイル
11 電源供給状態 ▶▶ 📖 48
12 クリップ番号／クリップ総数
13 収録日（月日）と記録開始時間
14 カーソル（オレンジ色の枠）
15 記録開始フレームのタイムコード
16 記録時間
17 カスタムピクチャー *1 ▶▶ 📖 125
- カスタムピクチャーファイルが一緒に記録されていることを示す。

18 特殊記録 ▶▶ 📖 110
19 カラーサンプリング*1と解像度、音声記録形式
- RAW形式のときはRAWモード（HQ / ST / LT）と解像度を表示する。

20 フレームレート*2 ▶▶ 📖 59

*1 XF-AVC形式のみ。
*2 スロー &ファストモーション記録のクリップでは、撮影／再生フレームレートが表示される。

MEMO

- XF-AVCクリップの場合、システム周波数がクリップの撮影時と現在の設定で異なると、サムネイルの表示やクリップの再生ができません。本機のシステム周波数を再生するクリップと同じ設定にしてください（📖 56）。

再生する

インデックス画面で選んだクリップや静止画、音声を再生します。再生は、画面上のタッチ操作、アサインボタン操作のほか、ジョイスティックで操作することもできます。
記録メディアと記録形式の選択は、アサインボタンに機能を割り当てることができます。

1 記録メディアを選ぶ

- メディアモードで「スロット選択」を割り当てたアサインボタンを押す（🕮 118）、またはインデックス画面の記録メディアに表示されている●をタッチする。

2 記録形式を選ぶ

RAW Index:	RAW形式の動画
XF-AVC Index：	XF-AVC形式の動画
MP4 Index：	MP4形式の動画
Photo Index：	静止画（SDカードのみ）
WAV Index：	WAV形式の音声

- メディアモードで「INDEX」を割り当てたアサインボタンを押す（🕮 118）、またはインデックス画面の記録形式をタッチする。
- インデックスメニューが表示される。

3 インデックス画面上で再生対象のサムネイルをタッチする

- 再生が始まる。
- ジョイスティック／SELECTダイヤルでカーソルを移動し、SETを長押し（約1秒）しても再生開始できる。
- 画面をタッチして表示される「▮▮」（一時停止）をタッチするか、ジョイスティックを押すと、再生が一時停止する。
- 静止画の再生中は、ジョイスティックを左右に押すと、前または次の静止画に移動する。

4 再生を終了するときは、「INDEX」を割り当てたアサインボタンを押す

- インデックス画面に戻る。
- 画面を下にフリックしても再生を終了する。

RAWクリップの再生時の画質／カスタムピクチャー設定について

- 撮影時の「Gamma/Color Space」の設定で再生され、カラーマトリクスは Neutral となる。
- シャープネスは「-10」のときと同様となり輪郭強調されない。
- その他の設定は Offとなる。

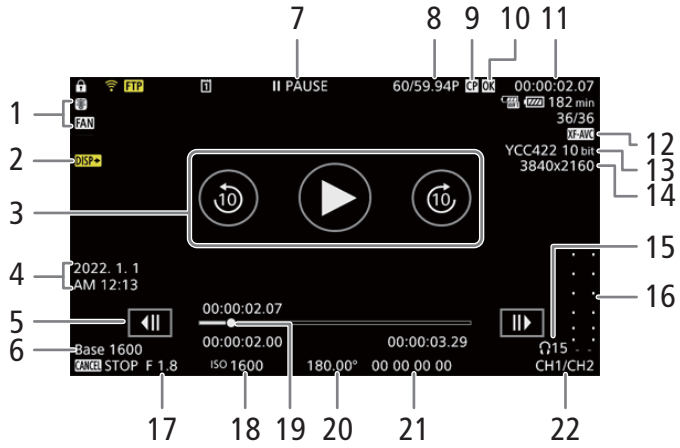
MEMO

- 次の静止画は正しく再生されないことがあります。
  - 本機以外の製品で記録したとき。
  - パソコンで作成や加工、ファイル名の変更をしたとき。

再生時の画面表示

インデックス画面と共通の表示項目は、「インデックス画面を表示する」（132）で説明しています。

クリップの再生画面



1 内部温度、ファン ▶▶ 207
2 画面表示出力
3 再生ボタン ⏵
10秒送りボタン ⏩
10秒戻しボタン ⏪
4 収録日と記録時刻*1
5 コマ戻しボタン ⏮
コマ送りボタン ⏭
6 Base ISO
7 再生状況
▶ PLAY 再生中
II PAUSE 再生一時停止中
10 sec ▶▶ 10秒送り
◀◀ 10 sec 10秒戻し
◀II/II▶ コマ戻し／コマ送り
F FWD x5 早送り（5倍速）
F FWD x15 早送り（15倍速）
F FWD x60 早送り（60倍速）
F REV x5 早戻し（5倍速）
F REV x15 早戻し（15倍速）
F REV x60 早戻し（60倍速）
8 撮影フレームレート*2／フレームレート ▶▶ 59
9 カスタムピクチャー*3 ▶▶ 125
10 OKマーク*3／チェックマーク*3／プロキシ動画 ▶▶ 106、68
11 タイムコード ▶▶ 94
12 動画形式
13 カラーサンプリングと色深度
14 解像度
15 ヘッドホン音量
16 オーディオレベルメーター*4
17 絞り値*5 ▶▶ 76
18 ISO感度／ゲイン*5 ▶▶ 72
19 シークバー
20 シャッタースピード*5 ▶▶ 70
21 ユーザービット ▶▶ 95
22 音声出力チャンネル ▶▶ 150

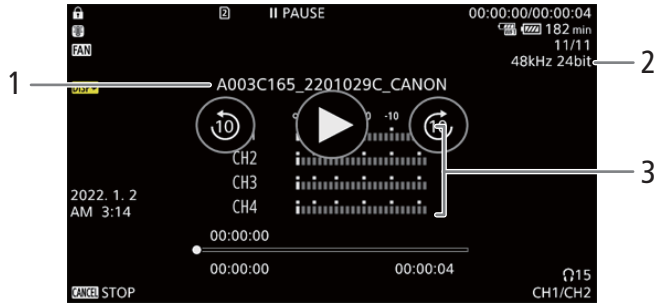
*1 モニタリング設定 >「Custom Display」>「日付/時刻」が「入」のときのみ。
*2 スロー &ファストモーション記録で記録されたクリップのみ。
*3 XF-AVCクリップのみ。
*4 モニタリング設定 >「Custom Display」>「オーディオレベル」が「入」のときのみ。
*5 モニタリング設定 >「Custom Display」>「カメラデータ」が「入」のときのみ。

MEMO

- DISP（ディスプレイ）ボタンを押すと、画面表示のレベルを切り換えることができます（50）。

WAVの再生画面

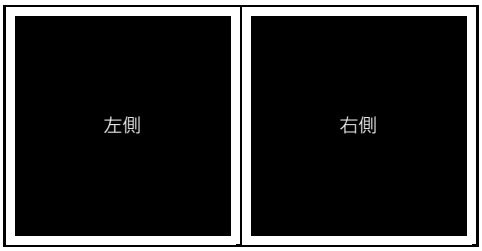
再生画面で共通の表示項目は、「クリップの再生画面」（🕮 134）で説明しています。



1　音声ファイル名
2　サンプリング周波数／量子化ビット数
3　オーディオレベルメーター

さまざまな再生

早送りや早戻し、コマ送り、スキップ再生などの再生方法があります。操作は、画面をタッチするか、ジョイスティックで行います。また、シークバーで再生位置を変更することもできます。



機能	操作時期	操作		説明
		画面をタッチ	ジョイスティック	
早送り*1	再生中に	−	上	押すたびに再生速度が約5 倍→約15 倍→約60 倍に切り換わる。*2
早戻し*1	再生中に	−	下	
10秒送り	再生中に	右側を2度タッチ	−	2度タッチするたびに10秒ごと進む。
	一時停止中に	右側の⟳	−	タッチするたびに10秒ごと進む。
10秒戻し	再生中に	左側を2度タッチ	−	2度タッチするたびに10秒ごと戻る。
	一時停止中に	左側の⟲	−	タッチするたびに10秒ごと進む。
コマ送り	一時停止中に	⏸▶	上	押すたびに1コマ進む。押し続けると連続してコマごとに進む。
コマ戻し	一時停止中に	◀⏸	下	押すたびに1コマ戻る。押し続けると連続してコマごとに戻る。
スキップ再生	再生中／一時停止中に	左にフリック	右	次のクリップの先頭から再生。
	再生中／一時停止中に	−	左	現在のクリップの先頭から再生。
	再生中／一時停止中に	右にフリック	−	前のクリップの先頭から再生。
	再生中に2回押す	−	左	前のクリップの先頭から再生。
再生位置変更	再生中／一時停止中に	シークバー上のタッチ／ドラッグ	−	再生位置／再生停止位置を移動する。

*1 操作中、画面が乱れることがあります。
*2 画面に出る倍速表示は目安です。

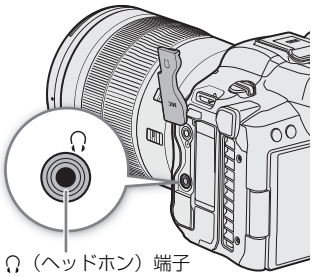
MEMO
- 特殊再生中は音声が聞こえません。

音声を聞く

通常の再生中は、音声をヘッドホンやスピーカーで聞くことができます。音声はHDMI OUT端子にも出力されます（144）。

1 MENU > ♪))オーディオ設定 >「ヘッドホン音量」または「スピーカー音量」を選ぶ

2 音量を調整する



MEMO
- モニターするチャンネルの選択については、「音声出力を選択する」（150）をご覧ください。
- 「ヘッドホン+」または「ヘッドホン−」を割り当てたアサインボタンで操作することもできます（118）。

撮影データを操作する

インデックス画面で選んでいる撮影データに対する操作や情報表示を行うことができます。

クリップメニューで操作する

1 操作対象のクリップを選ぶ

2 SETを押す

- クリップメニューが表示される。選択できる機能は撮影データによって異なる。
- 画面を長押し（約1秒）しても、クリップメニューを表示できる。

3 メニュー項目を選ぶ

クリップメニュー一覧

メニュー項目	内容	インデックス画面				
		RAW クリップ	XF-AVC クリップ	MP4 クリップ	静止画	WAV 音声
キャンセル	クリップメニューを消す。	●	●	●	●	●
再生	再生を開始する。	●	●	●	●	●
情報表示	情報表示画面を表示する。	●	●	●	–	–
OK Mark追加／OK Mark消去	OKマークを付加／消去する。	–	●*1*2	–	–	–
☑ Mark追加／☑ Mark消去	チェックマークを付加／消去する。	–	●*1*2	–	–	–
Shot Mark全消去	ショットマークをすべて消去する。	–	●*1	–	–	–
修復	撮影データを修復する。	●	●	●	–	●
消去	撮影データを消去する。	●	●	●	●	●
User Memo消去	クリップに付加されているユーザーメモ／GPS情報を消去する。	–	●	●	–	–
FTP転送	クリップをFTP転送する。	–	●	●	–	–
停止	静止画の再生を終了する。	–	–	–	●	–

*1 プロキシクリップを除く。
*2 クリップへのマークの付加状況により「追加」と「消去」が切り換わる。

クリップの情報を表示する

クリップメニューで「情報表示」を選択すると、選択しているクリップの情報を確認できます。情報表示画面でジョイスティックを左右に押すか、画面上の◀／▶をタッチすると、前／次のクリップに移動します。CANCELを押すと元の画面に戻ります。

1 選択しているクリップのサムネイル（縮小画）
2 GPS情報マーク
3 前のクリップのサムネイル
4 次のクリップのサムネイル
5 撮影開始日時
6 クリップファイル名 ▶▶ 🕮 38
7 ビットレート／解像度
8 特殊記録情報／フレームレート ▶▶ 🕮 110
- 特殊記録を行ったクリップのときは、「INT REC」、「FRM REC」、「S&F REC」が表示される。スロー & ファストモーション記録で記録したクリップのときは、「S&F REC」が表示され、フレームレートの表示が「撮影フレームレート／再生フレームレート」になる。

9 カスタムピクチャー ▶▶ 🕮 125
10 OKマーク／チェックマーク／ショットマーク ▶▶ 🕮 139
11 プロキシ動画 ▶▶ 🕮 68
12 カラーサンプリング ▶▶ 🕮 56
- RAW形式で撮影されたクリップのときは、「RAW」と色深度が表示される。

13 記録開始フレームのタイムコード
14 記録終了フレームのタイムコード
15 収録時間

ユーザーメモ／News Metadataを表示する

情報表示画面でジョイスティックを上または下に押すか、画面上の▲／▼の部分をタッチすると、クリップに付加されているユーザーメモまたはNews Metadataを表示できます。画面下の「情報表示」の左に表示される▲／▼と同じ方向にジョイスティックを押すか、画面上の「情報表示」をタッチすると、情報表示画面に戻ります。

カスタムピクチャーの設定を表示する

カスタムピクチャーファイルが一緒に記録されているクリップのときは、情報表示画面でジョイスティックを上または下に押すか、画面上の▲／▼の部分をタッチすると、カスタムピクチャーの設定内容を表示することができます。画面下の「情報表示」の左に表示される▲／▼と同じ方向にジョイスティックを押すか、画面上の「情報表示」をタッチすると、情報表示画面に戻ります。

OKマーク／チェックマークを付加する

XF-AVC形式で記録したクリップにOKマーク／チェックマークを付加することができます。OKマークが付加されたクリップは、本機での消去が禁止されるため、重要なクリップを保護できます。

再生中にOKマーク／チェックマークを付加する

再生中または再生一時停止中にOKマークまたはチェックマークを付加することができます。

1 アサインボタンに「OK Mark追加」または「☑ Mark追加」を割り当てる（📖 118）

2 XF-AVCクリップの再生中／再生一時停止中にアサインボタンを押す

- 「OK Mark」または「☑ Mark」が表示され、選んだマークがクリップに付加される。
- 再生中は、再生一時停止になる。

インデックス画面でOKマーク／チェックマークを付加する

1 XF-AVC形式のインデックス画面でクリップを選ぶ

2 クリップメニュー >「OK Mark追加」または「☑ Mark追加」>「OK」を選ぶ

- クリップにマークが付加される。

MEMO

- 1つのクリップにOKマークとチェックマークを同時に付加することはできません。一方のマークが付加されたクリップに他方のマークを付加すると、はじめに付加されていたマークは消去されます。

OKマーク／チェックマークを消去する

XF-AVC形式の動画に付加したOKマーク／チェックマークを消去することができます。

1 XF-AVC形式のインデックス画面でクリップを選ぶ

2 クリップメニュー >「OK Mark消去」または「☑ Mark消去」>「OK」を選ぶ

- 選択したクリップのマークが消去される。

ショットマークを付加／消去する

XF-AVC形式で記録したクリップの再生中、重要なフレームにショットマークを付加することができます。また、クリップに付加したショットマークをまとめて消去することもできます。

再生中にショットマークを付加する

1 アサインボタンに「Shot Mark追加」を割り当てる（📖 118）

2 XF-AVCクリップの再生中／再生一時停止中にアサインボタンを押す

- 「Shot Mark」が表示され、ショットマークが付加される。
- 再生中は、再生一時停止になる。

インデックス画面でショットマークをすべて消去する

1 インデックス画面でXF-AVC形式のクリップを選ぶ

2 クリップメニュー >「Shot Mark全消去」>「OK」を選ぶ

- 選んだクリップに付加されているショットマークがすべて消去される。

撮影データを消去する

記録した撮影データ（クリップ、静止画、WAV形式の音声）を消去することができます。OKマークが付加されたクリップを消去するときは、先にOKマークを消去する必要があります。

1 インデックス画面で撮影データを選ぶ

- 静止画は再生画面で操作することもできる。

2 クリップメニュー >「消去」>「OK」を選ぶ

- 選択した撮影データが消去される。
- 撮影データの消去は中止できない。

ユーザーメモ／GPS情報を消去する

1 インデックス画面でクリップを選ぶ

2 クリップメニュー >「User Memo消去」>「OK」を選ぶ

- 選択したクリップに付加されているユーザーメモ／GPS情報が消去される。

出力信号形式

HDMI™ OUT端子からの出力は、記録・再生の映像信号形式とメニューの設定によって切り換わります。

撮影／再生時の出力信号形式

メイン動画の記録信号形式			MENU>システム設定	出力信号形式	
記録形式	解像度	フレームレート	HDMI出力形式	HDMI OUT端子*1	
RAW	8192x4320 5952x3140	59.94P、50.00P 29.97P、25.00P 24.00P、23.98P	4096x2160P/3840x2160P	4096x2160	*2
			1920x1080P	1920x1080	*2
		59.94P、29.97P 23.98P	1920x1080i	1920x1080	59.94i
		50.00P、25.00P			50.00i
		24.00P			60.00i
		59.94P、29.97P 23.98P	1280x720P	1280x720	59.94P
		50.00P、25.00P			50.00P
		24.00P			60.00P
	2976x1570	59.94P、50.00P 29.97P、25.00P 24.00P、23.98P	4096x2160P/3840x2160P*3 1920x1080P	1920x1080	*2
		59.94P、29.97P 23.98P	1920x1080i	1920x1080	59.94i
		50.00P、25.00P			50.00i
		24.00P			60.00i
		59.94P、29.97P 23.98P	1280x720P	1280x720	59.94P
		50.00P、25.00P			50.00P
		24.00P			60.00P
MP4	8192x4320 7680x4320	29.97P、25.00P 24.00P、23.98P	4096x2160P/3840x2160P	4096x2160*4 3840x2160*5	*2
			1920x1080P	1920x1080	*2
		29.97P、23.98P	1920x1080i	1920x1080	59.94i
		25.00P			50.00i
		24.00P			60.00i
		29.97P、23.98P	1280x720P	1280x720	59.94P
		25.00P			50.00P
		24.00P			60.00P

メイン動画の記録信号形式			MENU>システム設定	出力信号形式	
記録形式	解像度	フレームレート	HDMI出力形式	HDMI OUT端子*1	
XF-AVC MP4	4096x2160 3840x2160	59.94P、50.00P 29.97P、25.00P 24.00P、23.98P	4096x2160P/3840x2160P	4096x2160*4 3840x2160*5	*2
			1920x1080P	1920x1080	*2
		59.94P、29.97P 23.98P	1920x1080i	1920x1080	59.94i
		50.00P、25.00P			50.00i
		24.00P			60.00i
		59.94P、29.97P 23.98P	1280x720P	1280x720	59.94P
		50.00P、25.00P			50.00P
		24.00P			60.00P
	2048x1080 1920x1080	59.94P、50.00P 29.97P、25.00P 24.00P、23.98P	4096x2160P/3840x2160P*3 1920x1080P	1920x1080	*2
		59.94P、29.97P 23.98P	1920x1080i	1920x1080	59.94i
		50.00P、25.00P			50.00i
		24.00P			60.00i
		59.94P、29.97P 23.98P	1280x720P	1280x720	59.94P
		50.00P、25.00P			50.00P
		24.00P			60.00P
	1920x1080	59.94i	4096x2160P/3840x2160P*3 1920x1080P*3 1920x1080i	1920x1080	59.94i
		50.00i			50.00i
		59.94i	1280x720P	1280x720	59.94P
		50.00i			50.00P
	1280x720	59.94P	4096x2160P/3840x2160P*3 1920x1080P*3 1920x1080i*3 1280x720P*3	1280x720	59.94P
		50.00P			50.00P

*1 カラーサンプリングはYCC422 10 bit。ビット数は映像信号の有効ビット数。
*2 出力フレームレートは、記録信号形式と同じ。スロー &ファストモーション記録時、記録信号形式のフレームレートが59.94P / 29.97P / 23.98Pのときは59.94P、50.00P / 25.00Pのときは50.00P、24.00Pのときは60.00Pで出力される。
*3 再生時（メディアモード）のみ選択可能。
*4 メイン動画の解像度が8192x4320または4096x2160のとき。
*5 メイン動画の解像度が7680x4320または3840x2160のとき。

撮影時の出力信号形式（HDMI RAW）

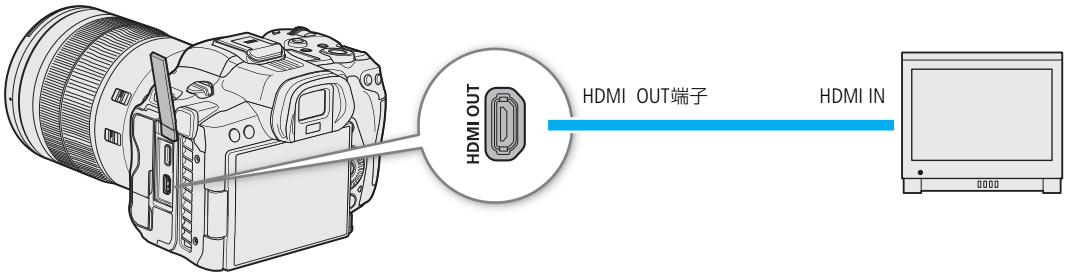
メイン動画の記録信号形式			MENU>システム設定	出力信号形式	
記録形式	解像度	フレームレート	HDMI出力形式	HDMI OUT端子	
HDMI RAW	8192x4320	29.97P、23.98P	—	4096x2160	59.94P
		25.00P			50.00P
		24.00P			60.00P
	5952x3140 2976x1570	59.94P、50.00P 29.97P、25.00P 24.00P、23.98P			*1

*1 出力フレームレートは、記録信号形式と同じ。

外部モニター／レコーダーを接続する

撮影・再生映像を外部モニターに表示したり、撮影映像を外部レコーダーに記録したりするときは、本機と外部機器を接続したあと、必要な設定をメニューで行います。出力信号の詳細については、「出力信号形式」（141）をご覧ください。

接続のしかた



HDMI ケーブル（市販）

MEMO

- カメラに市販のHDMIケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターの使用をおすすめします。ケーブルプロテクターの使い方については、詳細ガイド「静止画編」をご覧ください。
- DCカプラーとACアダプターを使って、コンセントにつないで使うことをおすすめします。

HDMI OUT端子を使用する

HDMI OUT端子を使用すると、映像と音声をデジタル信号で出力することができます。出力にタイムコード、記録コマンド、画面表示、マーカーなどを重畳できます。

1 HDMI OUT端子にHDMIケーブルを接続する

2 MENU > システム設定 >「HDMI出力形式」> いずれかを選ぶ

3 タイムコードを重畳するときは、MENU > 記録/メディア設定 >「HDMI Time Code」>「入」を選ぶ

MEMO

- MENU >「システム設定」>「HDMIモニター連動」を「入」にすると、接続されたモニターの能力に応じて自動で出力解像度を設定します。「切」にすると、出力解像度はメニューで選んだ解像度に設定され、接続したモニターが選んだ出力解像度に非対応のときは出力が停止します。
- HDMI OUT端子は出力専用です。他の出力端子と接続しないでください。故障の原因となります。
- DVI対応モニターとの接続は保証していません。
- MENU > 記録／メディア設定 >「記録コマンド(EXT REC)」とタイムコードの重畳を有効にして、本機と他機をHDMI OUT端子でつなぐと、本機の撮影／撮影一時停止操作（RECボタンの操作）と連動して、他機の記録／記録一時停止を行うことができます。
- スロー &ファストモーション記録モードやインターバル記録モード、フレーム記録モードのときは、記録コマンドを出力しません。

- 次の場合、HDMI OUT端子にタイムコードは重畳されません。
  - メディアモードのとき
- フレームレートが23.98Pの場合、「HDMI出力形式」が「1280×720P」のときは、HDMI OUT端子に出力するタイムコードのフレームカウントは0～29となります。

HDMI OUT端子からRAW形式の映像を出力する

カード2に映像を記録しながら、HDMI OUT端子からRAW形式の映像を出力することができます。

1 MENU > 記録／メディア設定 >「メイン記録形式」>「HDMI RAW」を選ぶ

2 MENU > 記録／メディア設定 >「2スロット記録機能」>「切」以外を選ぶ

3 MENU > 記録／メディア設定 >「センサーモード」を選ぶ

出力信号形式

メイン動画の記録信号形式			HDMI OUT端子	
メイン記録形式	センサーモード*	フレームレート	解像度	フレームレート
HDMI RAW	フルサイズ	29.97P	4096x2160	59.94P
		24.00P		60.00P
		23.98P		59.94P
		25.00P		50.00P
	Super 35mm (Crop) Super 16mm (Crop)	59.94P		59.94P
		50.00P		50.00P
		29.97P		29.97P
		24.00P		24.00P
		23.98P		23.98P
		25.00P		25.00P

* ビット長は、センサーモードがフルサイズ／Super 35mm（Crop）のときは10 bit、Super 16mm （Crop）のときは12 bit。

MEMO

- MENU > 記録/メディア設定の「記録モード」は、「通常記録」になります。
- 本機のHDMI RAW出力機能に対応していない機器に接続した場合、映像が正しく表示されません。

HDMI RAWのときにHDMI OUT端子の出力映像に適用されない設定

- MENU > モニタリング設定の「白黒」、「アナモフィック」、「オンスクリーン表示」、「ビューアシスト:HDMI」、「Range」
- MENU > アシスト設定の「ピーキング」、「フォルスカラー」、「ゼブラ」、「WFM」、「マーカー」

HDMI RAWのときに使用できない設定

- MENU > アシスト設定>「Magnification出力先」の「HDMI」
- MENU > システム設定の「HDMI出力形式」、「HDMIモニター連動」
- アサイン機能の「出力：60⇔60(24)fps」と「出力：60⇔60(30)fps」

出力レンジを選択する

HDMI OUT端子から出力する映像のガンマがLogガンマまたはHDR（PQまたはHLG）のときは、映像の出力レンジを選択することができます。

適用される出力レンジ設定

カスタムピクチャー			適用されるレンジ設定
Gamma	Look File	Look File適用後の Gamma/Color Space	MENU > モニタリング設定 > Range: HDMI
Canon Log 3	切	–	Canon Log出力時
	入	Custom Picture準拠	
PQ	切	–	HDR出力時
	入	Custom Picture準拠	
HLG	切	–	
	入	Custom Picture準拠	
BT.709 Wide DR	切	–	– （Narrow Range固定）
	入	Custom Picture準拠	
BT.709 Normal	切	–	
	入	Custom Picture準拠	
BT.709 Standard	切	–	
	入	Custom Picture準拠	
Canon 709	切	–	
	入	Custom Picture準拠	
–	入	SDR BT.709	
		SDR BT.2020	
		HDR PQ（BT.2100）	HDR出力時
		HDR HLG（BT.2100）	

1 MENU > モニタリング設定 >「Range: HDMI」を選ぶ

2「Canon Log 出力時」または「HDR出力時」> いずれかを選ぶ

Full Range優先： フルレンジで出力することを優先する。接続したモニターの能力によっては、レンジが自動で変更されて出力される。

Narrow Range： ナローレンジ（ビデオレンジ）で出力する。

MEMO

- 再生時は、再生するクリップを記録したときのガンマに応じて適用されるレンジ設定が決まります。
- 「ビューアシスト: HDMI」（149）が「入」のときは、「Range: HDMI」の設定は無効です。

出力映像に画面表示を重畳する

HDMI OUT端子から出力される映像に画面表示を重畳することができます。また、重畳する画面表示の透過度を設定することもできます。なお、この設定は、カードに記録する映像には影響しません。

MENU > モニタリング設定 >「オンスクリーン表示: HDMI」>「入」を選ぶ

- 画面に DISP が表示される*。

* カメラモードでは、MENU > モニタリング設定 >「Custom Display2」>「オンスクリーン表示」が「入」のときのみ。

MEMO

- 「オンスクリーン表示: HDMI」を割り当てたアサインボタンで操作することもできます（118）。

画面表示の透過度を設定する

重畳する画面表示の透過度を設定します。透過度を適用する画面を限定することもできます。

1 MENU > モニタリング設定 >「オンスクリーン透過: XXXXX」のいずれか >「入」を選ぶ

2 MENU > モニタリング設定 >「オンスクリーン透過 不透過度」> いずれかを選ぶ

- 数値が小さくなるほど、画面が透明になる。

3 MENU > モニタリング設定 >「オンスクリーン透過 適用画面」> いずれかを選ぶ

すべて： すべての画面にオンスクリーン透過を適用する。

撮影/再生画面のみ： 撮影/再生画面のみオンスクリーン透過を適用する。

MEMO

- 「オンスクリーン透過: XXXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、各出力先のオンスクリーン透過を入／切することもできます（118）。

画面に表示する映像にビューアシストを適用する

カスタムピクチャーで特定のガンマ／色空間を選択している場合、画面やHDMI OUT端子の出力映像にビューアシストを適用できます。ビューアシストを適用すると、BT.709規格に準拠したモニターで確認しやすいガンマ／色空間に簡易変換できます。

ビューアシスト一覧

ビューアシスト	ガンマ	色空間	内容
BT.709	BT.709 Wide DR相当	BT.709相当	画面／HDMI OUT端子の出力映像を標準的なガンマ／色空間に簡易変換する。
CMT 709	CMT 709相当	BT.709相当	画面／HDMI OUT端子の出力映像を標準的なガンマ／色空間に簡易変換する。Log撮影時の広いダイナミックレンジをクリップせずに残した、シネマ制作に適したルック。
HDRアシスト(1600%)*	独自ガンマ	BT.709相当	ITU-R BT.2100のHDR映像を画面で確認するためのビューアシスト。1600%、400%のいずれかの輝度領域をリニアに変換する。
HDRアシスト(400%)*			

* MENU > モニタリング設定 >「ビューアシスト: HDMI」を除く。

選択できるビューアシスト

使用可能なビューアシストは、カスタムピクチャー（122）の「Gamma/Color Space」と「Look File」の設定によって決まります（これらの設定を変更するとビューアシストは「切」になります）。

カスタムピクチャー		選択できるビューアシスト			
Look File	Look File適用後のGamma/Color Space	BT.709	CMT 709	HDRアシスト(1600%)	HDRアシスト(400%)
切	–	A（下表参照）			
入	Custom Picture準拠				
	SDR BT.709	–	–	–	–
	SDR BT.2020	●	–	–	–
	HDR PQ（BT.2100）	●	–	●	●
	HDR HLG（BT.2100）	●	–	–	●

* 表中の「SDR」は、スタンダードダイナミックレンジのこと。

選択できるビューアシスト（Aの場合）

カスタムピクチャー	選択できるビューアシスト			
Gamma/Color Space	BT.709	CMT 709	HDRアシスト(1600%)	HDRアシスト(400%)
Canon Log 3 / C.Gamut	●	●	●	●
Canon Log 3 / BT.2020	●	–	●	●
Canon Log 3 / BT.709	●	–	–	–
PQ / BT.2020	●	–	●	●
HLG / BT.2020	●	–	–	●
BT.709 Wide DR / BT.2020	●	–	–	–
BT.709 Wide DR / BT.709 BT.709 Normal / BT.2020 BT.709 Normal / BT.709 BT.709 Standard / BT.709 Canon 709 / BT.709	–	–	–	–

ビューアシストを適用する

1 MENU > モニタリング設定 >「ビューアシスト: XXXXX」>「入」を選ぶ

- ビューアシストが有効になり、出力映像のガンマと色空間が変更される。
- 映像の出力レンジはナローレンジ（ビデオレンジ）になる。
- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（54）。

2 MENU > モニタリング設定 >「ビューアシスト選択: XXXXX」> いずれかを選ぶ

- 選択できるビューアシストが1つのときは、適用するビューアシストが灰色で表示される。

MEMO

- 本機能で変換した映像の色は目安です。また、「BT.709」を選択した場合、カスタムピクチャー（126）の「Gamma/Color Space」で「BT.709 Wide DR/BT.709」を選んだときの色と異なります。
- 低輝度／高輝度部分の色が異なる場合があります。

HDR映像をSDR映像に変換するときのゲインの差を調整する

次の場合にHDRに対するSDRのゲインの差を±7.5 dB（0.5 dB刻み）の範囲で調整できます。

- メイン動画がHDR*で、出力にビューアシストを適用してBT.709にするとき。
- メイン動画がHDR*でプロキシ動画の「Proxy記録色変換」が「BT.709 (Wide DR)」／「BT.709 (CMT 709)」のとき。

* カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」が「PQ / BT.2020」／「HLG / BT.2020」のとき、またはLookファイルが有効でLookファイル適用後のGamma/Color Spaceが「HDR PQ（BT.2100）」／「HDR HLG（BT.2100）」のとき。

MENU > モニタリング設定 >「HDR→SDRゲイン」> いずれかを選ぶ

音声の出力チャンネルを選択する

HDMI OUT端子、🎧（ヘッドホン）端子、スピーカーから音声を出力できます。記録メディアに記録した4チャンネルの音声のうち、🎧（ヘッドホン）端子やHDMI OUT端子から出力される2チャンネルの音声はメニューで選択します。

音声の出力信号形式

記録信号形式		撮影／再生時	
記録方式	量子化ビット数	HDMI OUT端子	ヘッドホン端子
4ch リニアPCM	24 bit、16 bit	2ch リニアPCM 16bit	2ch
2ch AAC	16 bit		

🎧（ヘッドホン）端子の出力チャンネルを選ぶ

MENU > ♪)) オーディオ設定 >「モニターチャンネル」> 出力音声（L/R）の組み合わせを選ぶ

- 「CH1+2」はCH1とCH2のミックスした信号であることを示す。「CH1+3」、「CH3+4」なども同様。

HDMI OUT端子の出力チャンネルを選ぶ

HDMI OUT端子は2チャンネルの音声を出力できます。4チャンネルで記録／再生する音声のうち、HDMI OUT端子から出力するチャンネルをメニューで選択できます。

MENU > ♪)) オーディオ設定 >「HDMIチャンネル」>「CH1/CH2」または「CH3/CH4」のいずれかを選ぶ

撮影データをパソコン／スマートフォンに取り込む

撮影データをパソコンやスマートフォンに保存したり、RAWクリップをパソコンで現像したりすることができます。

撮影データをパソコンに保存する

XF-AVCクリップなどの撮影データをパソコンに保存するときはCanon XF Utilityを、XF-AVCクリップをノンリニア編集ソフトウェアに読み込むときはCanon XF Pluginを使用します。これらのソフトウェアは、キヤノンのホームページからダウンロードしてインストールします。ソフトウェアの動作環境および最新の情報については、キヤノンのホームページをご覧ください。ソフトウェアのインストールについては、ダウンロードしたソフトウェアの圧縮ファイルに含まれるPDFファイルをご覧ください。ソフトウェアの使いかたの詳細については、ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）*をご覧ください。

* ソフトウェアと一緒にインストールされます。

Canon XF Utility（Windows用／macOS用）
パソコンへの保存、クリップの確認・再生・管理、静止画の切り出しを行うソフトウェア

Canon XF Plugin for Avid Media Access（Windows用／macOS用）
Avid Media Accessに対応したノンリニア編集ソフトウェアAvid Media Composer （Windows / macOS）から、カード内またはパソコンに保存したクリップを直接読み込むことができる。

MP4クリップをパソコンに保存する

本機でカードに記録したMP4クリップは、パソコンまたはパソコンに接続したカードリーダー／ライターのスロットを使って、パソコンに取り込みます。カード内のファイルの取り込み方については、パソコンまたはOSの説明書をご覧ください。
また、本機で分割して記録されたMP4クリップは、ソフトウェアMP4 Join Toolを使って結合することができます。

クリップをパソコンに取り込む

1 MP4クリップが記録されたカードを、パソコンまたはパソコンに接続したカードリーダー／ライターに入れる

2 パソコンのOSの案内に従って操作する

3 カード内の撮影データをパソコンにコピーする

- 「DCIM¥100_mmdd」*という名称のフォルダーに撮影データ（MP4クリップ、静止画）が保存されている。
  *「100」は100～ 999の番号、「mmdd」は撮影した月日を表わす。

分割されたMP4クリップを結合する

クリップ内の映像ファイル（ストリーム）が約4GBに達したり、リレー記録が発生したりすると、クリップが分割して記録されます。分割して記録されたMP4クリップは、ソフトウェアMP4 Join Tool（Windows / macOS）を使って結合することができます。MP4 Join Toolは、キヤノンのホームページからダウンロードしてインストールします。ソフトウェアの動作環境および最新の情報については、キヤノンのホームページをご覧ください。ソフトウェアのインストールについては、ダウンロードしたソフトウェアの圧縮ファイルに含まれるPDFファイルをご覧ください。ソフトウェアの使いかたの詳細については、ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）*をご覧ください。

* ソフトウェアと一緒にインストールされます。

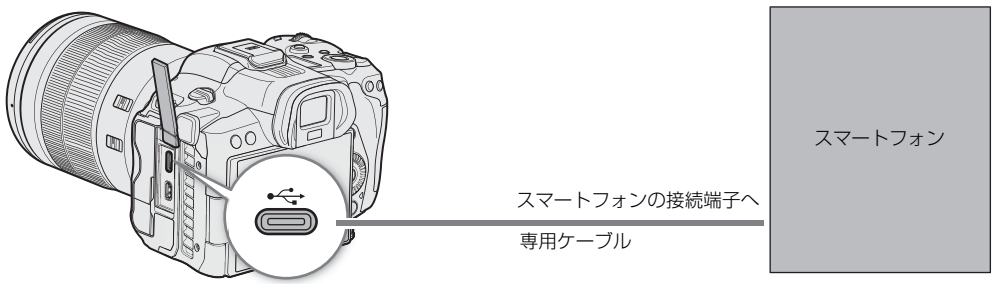
WAVファイルをパソコンに保存する

音声ファイルは、MP4クリップと同じ要領でパソコンに保存できます。カード内の音声ファイルの格納フォルダー（/PRIVATE/AUDIO）からパソコンにコピーしてください。

撮影データをスマートフォンに保存する

本機で撮影したMP4クリップやプロキシクリップ、News Metadataをスマートフォンに保存できます。保存には、Content Transfer Mobileが必要です。本機とスマートフォンは、専用ケーブル*で接続するか、ネットワーク機能を使用して接続します。ネットワーク機能を使用して接続するときは、「撮影データをスマートフォンに転送する」（🕮 175）をご覧ください。

* 専用ケーブルについては、キヤノンのホームページをご覧ください。



1 MENU > システム設定 >「USBモード」>「iPhone Canonアプリ」を選ぶ

2 本機とスマートフォンを専用ケーブルで接続する

3 スマートフォン：Content Transfer Mobileを起動する

4 スマートフォン：Content Transfer Mobileを操作して撮影データを保存する

5 接続を終了するときは、本機から専用ケーブルを抜く

RAWクリップを現像する

本機で撮影／記録したRAW形式のクリップは、現像ソフトウェアCinema RAW Developmentで現像して、DPX形式などの標準的なファイル形式の素材データに変換することによって、カラーグレーディングが可能となります。また、Canon RAW Pluginでノンリニア編集ソフトウェアに直接読み込むこともできます。Cinema RAW DevelopmentとCanon RAW Pluginは、キヤノンのホームページからダウンロードできます。システム構成や最新の情報についてはキヤノンのホームページをご覧ください。ソフトウェアのインストールについては、ダウンロードしたソフトウェアの圧縮ファイルに含まれるPDFファイルをご覧ください。詳細な使いかたについては、ソフトウェアに付属の使用説明書（PDF）*をご覧ください。

* ソフトウェアと一緒にインストールされます。

Cinema RAW Development （Windows 用／macOS用）
RAW クリップを現像して再生、およびRAW クリップを現像してエクスポートすることができる。

Canon RAW Plugin for Avid Media Access（Windows用／macOS用）
Avid Media Accessに対応したノンリニア編集ソフトウェアAvid Media Composer （Windows /macOS）から、RAWクリップを直接読み込むことができる。

Canon RAW Plugin for Final Cut Pro（macOS用）
ノンリニア編集ソフトウェアApple Final Cut Proから、RAWクリップを直接読み込むことができる。

ネットワーク機能と接続方式

本機にワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10（別売）を取り付けて、本機をネットワークに接続すると、下表のネットワーク機能が使用できます。

機能名	概要	イーサネット	Wi-Fi		🕮
			インフラストラクチャー*1	カメラアクセスポイント*2	
ブラウザーリモート	ネットワーク機器から本機をリモートで操作して撮影する。	●	●	●	170
IPストリーミング	ネットワーク経由で、映像と音声を映像伝送装置（デコーダー）にストリーミング送信する。	●	●	–	169
FTP転送	撮影したクリップをネットワーク機器にFTP*3で転送する。	●	●	●	168
Canonアプリ（Content Transfer Mobile）	撮影したクリップや音声ファイルをスマートフォンに転送したり、Content Transfer Mobileで作成／編集したNews Metadataを本機に反映したりする。	–	●	–	175

*1 アクセスポイントを介してWi-Fiに接続する通信方式。
*2 本機がアクセスポイントの働きをして、Wi-Fi機器と直接接続する方式。
*3 ネットワークに接続した機器間でファイルを転送するための通信規約。File Transfer Protocolの略。

ネットワーク機能を使用する前に

本書は、ネットワーク機器およびWi-Fiのアクセスポイントの設定が完了し、正しく動作していることを前提に説明しています。アクセスポイントの設定方法については、お使いの機器のメーカーにお問い合わせください。

- ネットワークの接続の設定を行うには、ネットワーク（イーサネットおよびWi-Fi）の設定方法に関する十分な知識が必要です。ネットワークの設定方法については、弊社ではサポートできませんので、あらかじめご了承ください。

ご注意

- ネットワーク機能を使用するためにネットワークに対して誤った設定を行った結果生じた損害、および本ネットワーク機能を使用した結果生じた損害については、弊社ではその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- セキュリティーで保護されていないWi-Fiやネットワーク環境に接続することは避けてください。お客様の個人情報などのデータが第三者に漏洩する危険性があります。

MEMO

- ネットワーク機能を使用中は、メモリーカードカバーを開けないでください。

Wi-Fiで接続するとき

本機にワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10（別売）を取り付けると、Wi-Fiでネットワークに接続できます（🕮 202）。

Wi-Fiの接続方式

Wi-Fiに接続するには、「カメラアクセスポイント」と「インフラストラクチャー」の2つの方式があり、インフラストラクチャー方式のときは、さらに4つの設定方法を選択できます。
Wi-Fiへの接続方法については、お使いのWi-Fiネットワーク環境によって仕様や制限事項が異なります。

カメラアクセスポイント

屋外などアクセスポイントのない環境で、カメラとWi-Fi対応機器を直接接続します。カメラがアクセスポイントの働き*1をするので、Wi-Fi対応機器側はアクセスポイントに接続するのと同じ操作で接続できます。

インフラストラクチャー

WPS(プッシュボタン方式)*2：　パスワードなどの入力が不要な最も簡単な設定方法です。この方法で接続するときは、お使いのアクセスポイントがWPS用のボタンを備えていることを、あらかじめご確認ください。

WPS(PIN方式)*2：　WPS用のボタンを備えていないアクセスポイントでも、PINコードを使って設定できるものがあります。接続は自動的に行われますが、アクセスポイントの設定画面を操作して、WPS機能を動作させるための一定の知識が必要です。詳しくはアクセスポイントの説明書をご覧ください。

アクセスポイント検索：　WPSに対応していないアクセスポイントに接続するときなどに、周囲のアクセスポイントを検索して設定できます。

SSIDと認証方式を入力：　アクセスポイントのSSIDなどを手動で入力してネットワーク設定を行います。

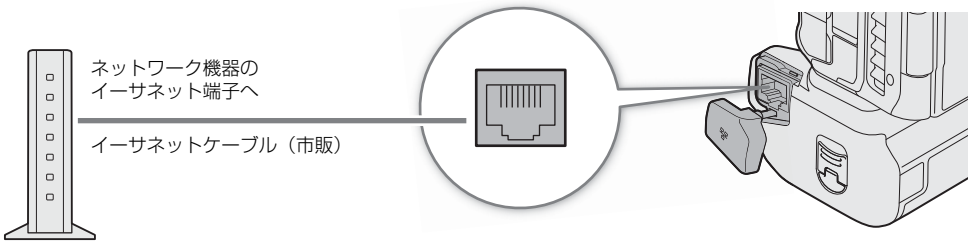
*1 カメラとWi-Fi対応機器間の通信を行うのみで、市販のアクセスポイントの機能とは異なります。
*2 WPSは、Wi-Fi Protected Setupの略で、アクセスポイントへの接続とセキュリティーの設定を簡単に行うための規格です。

ご注意

- IEEE 802.11b / g / a / n / acの電波を使用する場合、使用可能地域をご確認ください。使用可能地域については、製品に付属の使用説明書の取扱上のご注意「使用可能な地域について」の記載をご覧ください。地域によっては屋外やカメラアクセスポイントでの使用に法律上の制限が定められていることがあります。

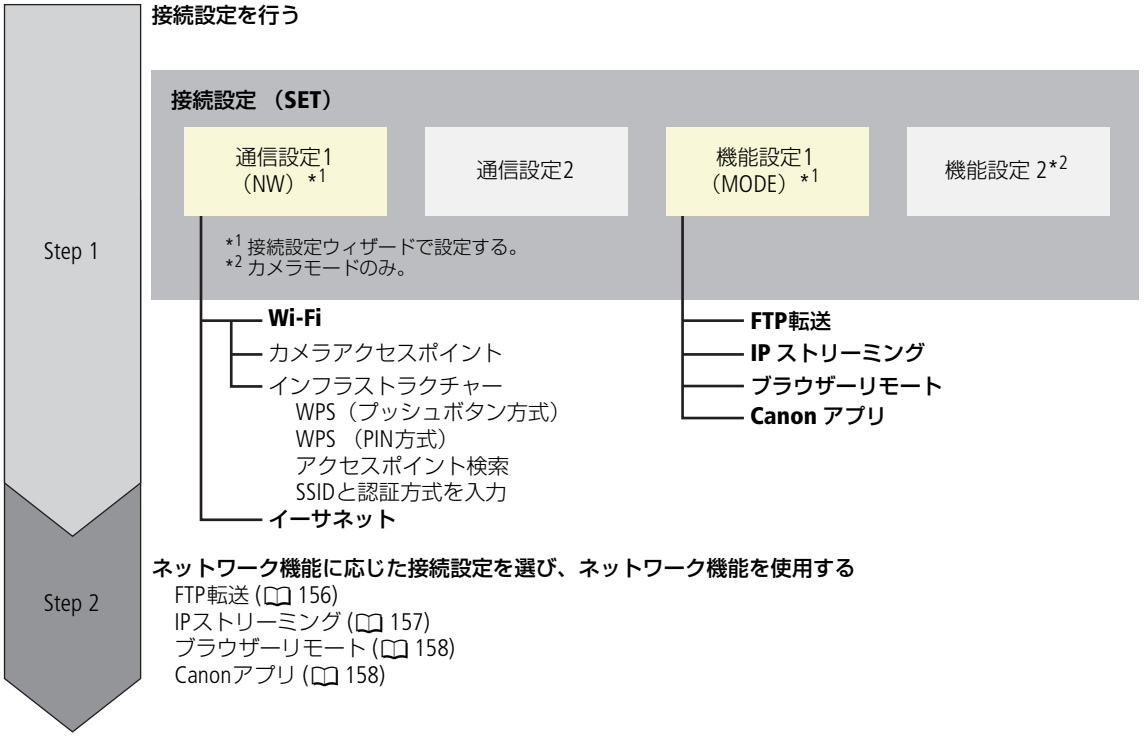
イーサネットで接続するとき

本機にワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10（別売）を取り付けると、WFT-R10のEthernet用RJ-45端子とイーサネットケーブル（市販）を使って、ネットワークに接続できます。イーサネットケーブルには、ギガビット対応でシールド性能の高い、カテゴリー 5e以上のSTP（Shielded Twisted Pair）ケーブルを使用してください。イーサネットケーブルの詳細については、メーカーの説明書をご覧ください。



ネットワークの接続設定を行う

ネットワークに接続するには、はじめに、「通信設定」（NW）と「機能設定」（MODE）とで構成される「接続設定」（SET）を作成する必要があります。通信設定と機能設定はそれぞれ25個まで保存でき、それらを組み合わせた接続設定は20個まで保存できます（SET1～SET20）*。
接続設定は、接続設定ウィザードを使って作成できます（🕮 156）。ウィザードを使うと、通信設定と機能設定を1つずつ組み合わせた接続設定が作成できます。複数の接続設定を作成した後で、2つ目の通信設定／機能設定を追加したり、既存の通信設定／機能設定を組み合わせて新しい接続設定を作ったりすることができます（🕮 162）。接続設定内にIPストリーミングの機能設定とブラウザーリモートの機能設定を登録すると、両機能を同時に使用することができます。
* 1つの接続設定には、通信設定と機能設定をそれぞれ2つまで登録可能。



ネットワークを有効にする

ネットワーク機能を使用するときや、オンラインで接続設定を行うときは、ネットワークへの接続を有効にします。

1 MENU > ネットワーク設定 >「ネットワーク」>「有効」を選ぶ

2 既存の接続設定を使うときは、MENU > ネットワーク設定 >「接続」>「SET1」～「SET20」のいずれか >「OK」を選ぶ

- ネットワーク接続を終了するときは、「接続」の代わりに「通信切」を選ぶ。

ウィザードで新規に接続設定を行う

接続設定ウィザードを使用して、新規に接続設定を行うことができます。ここでは、WPSプッシュボタン方式でWi-Fiに接続する場合を例に説明します。アクセスポイントのWPS用ボタンの位置と操作方法などアクセスポイントの操作／設定については、アクセスポイントの説明書をご覧ください。

1 ネットワークを有効にする（155）

2 MENU > ネットワーク設定 >「新規接続設定（ウィザード）」> 使用するネットワーク機能のいずれか >「OK」を選ぶ

3「通信設定を新規作成」を選ぶ

- 既に通信設定が登録されている場合、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの通信設定を使用できる。

4「Wi-Fi」を選ぶ

イーサネットで接続するとき（159）

5「WPS機能で接続」>「WPS(プッシュボタン方式)」を選ぶ

- 他の方法で接続するときは、いずれかの設定を行う。
  カメラアクセスポイントで接続する（159）
  WPS（PIN方式）で接続する（160）
  検出したアクセスポイントに接続する（160）
  SSIDと認証方式を入力して接続する（161）
  オフラインで設定する（161）

6 アクセスポイントのWPS用ボタンを長押ししてWPSを起動する > 本機の「OK」を選ぶ

7 IPアドレス（IPv4）を自動的に設定するときは、「自動設定」>「使わない」を選ぶ

手動で設定するとき（161）
TCP/IPv6を使用するときは「使う」を選び、ウィザード終了後に設定を行う（164）。

8「OK」を選ぶ

- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降は、操作2で選んだネットワーク機能に応じて機能設定を行う。
  「FTP転送の設定をする」（156）
  「IPストリーミングの設定をする」（157）
  「ブラウザーリモートの設定をする」（158）
  「Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）」（158）

MEMO

周囲の環境や使用している機器によっては、WPS（プッシュボタン方式）でうまく接続できないことがあります。このときは、WPS（PIN方式）など他の接続方法で接続してください。

機能設定を行う

新規接続設定ウィザードの通信設定に続き、この節では機能設定を行います。機能設定は、各ネットワーク機能特有の項目について設定します。設定画面で文字を入力するときは、「文字入力のしかた」（21）をご覧ください。

FTP転送の設定をする

FTPサーバーの設定や転送先フォルダーに関する設定を行います。FTPサーバーについては、必要に応じてネットワーク管理者にお問い合わせください。

1「機能設定を新規作成」を選ぶ

- 以前行ったFTP転送に関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2 FTPモードを選ぶ

FTP： 通信データが暗号化されない方式。
FTPS：ルート証明書（🕮 162）を使用してFTP転送のセキュリティーを行うとき。
SFTP：SSHを使用してFTP転送のセキュリティーを行うとき。

3 転送先FTPサーバーの設定として、「サーバー」と「ポート番号」を入力 > 「OK」を選ぶ

- FTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名と、ポート番号を入力する。
- ポート番号は、通常、21（FTP／FTPS）または22（SFTP）を使う。
- 以降は、操作2のFTPモードの選択に応じて、操作4または操作4～5を行ったあと、操作6に進む。

SFTP

4 SSHプロトコル認証のための「ユーザー名」と「パスワード」を入力 > 「OK」を選ぶ

FTP／FTPS

4 パッシブモードを使う（「使う」）か、アクティブモードを使う（「使わない」）かを選ぶ

- 通常は、アクティブモードを使う。

5 FTPサーバーの「ユーザー名」と「パスワード」を入力 > 「OK」を選ぶ

全FTPモード

6 転送先フォルダーを設定する

ルート： FTPサーバーで設定したルートフォルダーに保存される。
フォルダー指定： ルートフォルダーにある保存先フォルダーを指定できる。フォルダーがないときは、自動作成される。

7 「OK」を選ぶ

- 機能設定が「MODE」に保存される。

8 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ > 「OK」を選ぶ

- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
  「クリップをFTPで転送する」（🕮 168）

IPストリーミングの設定をする

送信する映像のビットレートや解像度、プロトコルなど、ストリーミング送信に必要な設定を行います。デコーダーまたはパソコンの受信用ソフトウェアの詳細については、それぞれの説明書などをご覧ください。

1 「機能設定を新規作成」を選ぶ

- 以前行ったIPストリーミングに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2 プロトコルを選ぶ

UDP： 高速な伝送を重視し、信頼性／順序性を保証しない。喪失／遅延パケットは無視する。
RTP： 動画／音声のインターネット配信の標準的な方式。喪失／遅延パケットは無視する。
RTP+FEC： RTPによる伝送に、エラー訂正（FEC）*の制御を行うことにより、受信側で喪失／破損パケットをリカバリーする。
* FECによるエラー訂正制御に対応するデコーダーまたはパソコン用ソフトウェアが必要。
RTSP+RTP： RTSP（リアルタイム・ストリーミング・プロトコル）によるリアルタイムデータの配信制御を行って、RTPによる伝送を行う。受信側からストリーミングの開始／停止が制御可能。

3 送信先の設定として、「送信先サーバー」と「送信先ポート番号」を入力 > 「OK」を選ぶ

- ポート番号は、通常は初期設定を使用する。
- 以降は、操作2のプロトコルの選択に応じて操作4を行ったあと、操作5に進む。

RTP+FEC

4 FECパケットの送信に使用する設定として、「FECポート番号」と「FECインターバル」を入力 >「OK」を選ぶ
- 通常は初期設定を使用する。

RTSP+RTP

4 RTSPクライアント設定として、「RTSP：ユーザー名」と「RTSP：パスワード」を入力 >「OK」を選ぶ

全プロトコル

5 出力信号形式を選ぶ

6 オーディオ出力チャンネルを選ぶ

7 解像度やフレームによっては、設定を変更する画面が表示されるので設定を変更する

8「OK」を選ぶ
- 機能設定が「MODE」に保存される。

9 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ >「OK」を選ぶ

10 受信側のデコーダーまたはパソコンの設定をする
- 受信側のデコーダーまたはパソコンをネットワークに接続し、必要な設定を行う。
- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「映像をストリーミングで送信する」（169）

ブラウザーリモートの設定をする

ネットワークに接続した機器に接続するためのログオン名とパスワードを設定します。

1「機能設定を新規作成」を選ぶ
- 以前行ったブラウザーリモートに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2 ユーザー名とパスワードを設定する

3「OK」を2回選ぶ
- 機能設定が「MODE」に保存される。

4 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ >「OK」を選ぶ
- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「ネットワーク機器でリモート撮影をする」（170）

Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）

本機とネットワークに接続したスマートフォンとの接続に必要な設定を行います。スマートフォンは、あらかじめ本機と同じネットワークに接続してください。
本機とスマートフォンの接続には、Content Transfer Mobileが必要です。Content Transfer Mobileのダウンロードについては、「撮影データをスマートフォンに転送する」（175）をご覧ください。スマートフォンの詳細については、スマートフォンの説明書をご覧ください。

1「機能設定を新規作成」を選ぶ
- 以前行ったCanonアプリに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2「OK」を選ぶ

3 画面の指示に従って、Content Transfer Mobileを起動する

4 スマートフォン：画面の指示に従って、本機を選ぶ
- 本機とスマートフォンが同じネットワークに接続していると、自動的に本機が検出される。

5「OK」を選ぶ
- 本機とスマートフォンの接続が完了する。
- 機能設定が「MODE」に保存される。

6 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ

7「OK」を選ぶ
- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「撮影データをスマートフォンに転送する」（🕮 175）

その他の接続方法で通信設定を行う

ここでは、WPS（プッシュボタン方式）以外の接続方法による、通信設定について説明します。設定画面で文字を入力するときは、「文字入力のしかた」（🕮 21）をご覧ください。

イーサネットで接続する

1「ネットワークの種類」画面で「イーサネット品」を選ぶ

2 イーサネットケーブルが正しく接続されていることを確認して、「ネットワークに接続して設定」を選ぶ
- ネットワークに接続しないで設定を行うときは、「ネットワークに接続せずに設定」を選ぶ。

3 IPアドレスを設定する（🕮 161）

4「OK」を選ぶ
- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定へ進む。
「FTP転送の設定をする」（🕮 156）
「IPストリーミングの設定をする」（🕮 157）
「ブラウザーリモートの設定をする」（🕮 158）

カメラアクセスポイントで接続する

カメラアクセスポイントで接続します。ネットワーク設定は自動（「簡単接続」）と手動で選べます。

1「ネットワークを選択」画面で「カメラアクセスポイントモード」を選ぶ

2 カメラアクセスポイントモードを選ぶ
- ネットワーク設定を自動で行うときは「簡単接続」を、手動で行うときは「手動接続」を選ぶ。
- 以降は、操作2のカメラアクセスポイントモードの選択に応じて、操作3または操作3～6を行ったあと、操作7に進む。

「簡単接続」

3 画面に表示されるSSIDとパスワードを確認して、「OK」を選ぶ
- 表示される情報は、ネットワーク機器からカメラに接続するのに必要となる。
画面に表示された「QR」をタッチして、QRコードを表示することもできる。
- 画面の「QR」をタッチして表示されるQRコードをネットワーク機器で読み取り、カメラと接続することもできる。

「手動接続」

3 SSIDを入力する >「OK」を選ぶ

4 チャンネル設定を選ぶ
- 手動で設定するときは「手動設定」を選んでチャンネルを選ぶ。

5 暗号化の設定を選ぶ
- 暗号化するときは「AES」を選ぶ。「AES」を選んだときは、パスワード画面が表示されるので、パスワードを入力して「OK」を選ぶ。

6 IPアドレスを設定する（📖161）

全カメラアクセスポイントモード

7「OK」を選ぶ
- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定の操作2に進む。
  「FTP転送の設定をする」（📖156）
  「ブラウザーリモートの設定をする」（📖158）

8 接続する機器を操作してカメラに接続する
- 接続する機器のWi-FiをONにして、カメラに表示されているSSID（ネットワーク名）を選ぶ。
- パスワード入力欄に操作5で設定したパスワードを入力する。

WPS（PIN方式）で接続する

WPS（PIN方式）でアクセスポイントに接続します。アクセスポイントの設定操作については、アクセスポイントの説明書をご覧ください。

1「ネットワークを選択」画面で「WPS機能で接続」>「WPS(PIN方式)」を選ぶ
- 画面にPINコード（8桁の数字）が表示される。

2 アクセスポイントのWPS（PINコード方式）の設定画面で、PINコードを入力してWPSを起動する

3「OK」を選ぶ

4 IPアドレスを設定する（📖161）

5「OK」を選ぶ
- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定に進む。
  「FTP転送の設定をする」（📖156）
  「IPストリーミングの設定をする」（📖157）
  「ブラウザーリモートの設定をする」（📖158）
  「Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）」（📖158）

検出したアクセスポイントに接続する

カメラが周囲のアクセスポイントを自動的に検出します。検出されたアクセスポイントの一覧から接続するアクセスポイントを選んで接続します。アクセスポイントのSSIDとパスワードについては、アクセスポイントの説明書またはネットワーク管理者にお問い合わせください。

1「ネットワークを選択」画面でアクセスポイントを選ぶ
- 暗号化されているアクセスポイントを選んだときは、パスワードを入力して「OK」を選ぶ。

2 IPアドレスを設定する（📖161）

3「OK」を選ぶ
- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定に進む。
  「FTP転送の設定をする」（📖156）
  「IPストリーミングの設定をする」（📖157）
  「ブラウザーリモートの設定をする」（📖158）
  「Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）」（📖158）

SSIDと認証方式を入力する

アクセスポイントのSSIDなどを手動で入力してネットワーク設定を行います。アクセスポイントのSSIDとパスワードについては、アクセスポイントの説明書またはネットワーク管理者にお問い合わせください。

1「ネットワークを選択」画面で「SSIDと認証方式を入力」を選ぶ

2 SSIDを入力する >「OK」を選ぶ

3 いずれかの認証方式を選ぶ

- 「オープン」を選ぶと「暗号化の設定」画面が表示されるので「しない」または「WEP」を選ぶ。
- 「共有キー」または「オープン」>「WEP」を選んだときは、キーインデックスを選ぶ。

4 パスワードを入力 >「OK」を選ぶ

5 IPアドレスを設定する（161）

6「OK」を選ぶ

- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定に進む。
  「FTP転送の設定をする」（156）
  「IPストリーミングの設定をする」（157）
  「ブラウザーリモートの設定をする」（158）
  「Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）」（158）

オフラインで設定する

ネットワークに接続せずにオフラインで設定します。

1「ネットワークを選択」画面で「オフラインで設定」を選ぶ

2「インフラストラクチャー」または「カメラアクセスポイントモード」を選ぶ
インフラストラクチャーを選んだとき：「SSIDと認証方式を入力する」（161）
カメラアクセスポイントモードを選んだとき：「カメラアクセスポイントで接続する」（159）

IPアドレスを設定する

IPアドレスを設定します。表示される項目は選んだ機能によって異なります。

1 IPアドレスの設定方法を、「自動設定」または「手動設定」から選ぶ

- 新規接続設定（ウィザード）で設定しているときは、「IPアドレス（IPv4）」画面で選ぶ。
- 以下、選んだ設定方法に応じて操作する。

「自動設定」

- 操作4に進む。

「手動設定」

2 IPアドレスやサブネットマスクなどの数値を入力する

- ゲートウェイを使う場合は「ゲートウェイの使用」>「使う」を選んでから数値を入力する。
- DNSアドレスを使う場合は「DNSアドレスの使用」>「手動設定」を選んでから数値を入力する。

3「OK」を選ぶ

共通の操作

4 TCP/IPv6を使うかどうかを選ぶ

- IPv4を使うときは「使わない」を選ぶ。

「TCP/IPv6を使用するとき」（164）

その他のネットワーク設定を行う

FTP転送用のルート証明書の読み出し／消去を行う

FTPモードに「FTPS」を使用するときは、接続するFTPSサーバーに対応したルート証明書をカメラに読み込む必要があります。読み込んだルート証明書は、内容を確認したり、消去したりすることもできます。

1 MEDIAモードにする

2 ルート証明書をカードのルートフォルダーに保存し、カードをスロット2に入れる

3 MENU > ネットワーク設定 >「詳細設定」>「FTP転送の設定」を選ぶ

4「ルート証明書を読み出し」>「OK」を選ぶ

- ルート証明書がカードから読み込まれる。
- 「ルート証明書の情報確認」を選ぶと、発行者や発行先、有効期限を確認でき、「ルート証明書の消去」を選ぶと、カメラに読み込んだルート証明書を消去できる。

MEMO

- カメラに読み込むことができるルート証明書は 1 つで、ファイル名が「ROOT.CER」、「ROOT.CRT」、「ROOT.PEM」のもののみです。
- 自己署名証明書を使用したFTPS接続を行う場合に、接続先サーバーを信頼できないことがあります。

802.1X認証の設定

802.1認証情報を設定します。

本機の対応プロトコルは以下のとおりです。

EAP-TLS： X.509をサポート。
EAP-TTLS： MS-CHAP v2をサポート
PEAP： MS-CHAP v2をサポート

MENU > ネットワーク設定 >「詳細設定」>「802.1X認証の設定」を選ぶ

設定ウィザード： ウィザードに従って、認証設定を行う。
認証プロトコルで「EAP-TLS」を選んだときは、「ルート証明書」、「クライアント証明書」、「秘密鍵」をカードから読み出す。「EAP-TTLS」または「PEAP」を選んだときは、「ユーザー名」と「パスワード」を入力して「ルート証明書」をカードから読み出す。
参考 ▸▸「文字入力のしかた」(🕮 21)
設定内容確認： 認証設定の内容を確認するときに選ぶ。
設定消去： 認証設定を消去するときに選ぶ。表示画面で「OK」を選ぶと、設定が削除される。

ニックネームを変更する

接続する機器で表示される、カメラのニックネームを変更することができます。

1 MENU > ネットワーク設定 >「ニックネーム」を選ぶ

2 ニックネームを入力する

接続設定（SET）を確認／編集する

カメラに保存されている接続設定（SET）の確認、変更、消去、名称変更を行うことができます。また、接続設定に2つ目の通信設定（NW）／機能設定（MODE）を追加することもできます。

接続設定の内容を確認する

1 MENU > ネットワーク設定 >「接続設定」> SET1～SET20のいずれかを選ぶ
- 設定内容を確認する接続設定を選ぶ。

2「設定内容確認」を選ぶ
- 設定内容が表示される。
- ジョイスティックを左右に押すかSELECTダイヤルを回すと、すべての設定を表示できる。また、CANCELを押すとメニューに戻る。

ウィザードで変更する

1 MENU > ネットワーク設定 >「接続設定」> SET1～SET20のいずれかを選ぶ
- 変更や確認を行う接続設定を選ぶ

2「ウィザードで変更」を選ぶ

3 ネットワーク機能を選ぶ > 必要に応じてウィザードで設定する（156の操作3以降）

既存の設定を使用して変更する

カメラにすでに登録されている通信設定（NW）や機能設定（MODE）を使用して、接続設定の内容を簡単に置き換えたり、2番目の通信設定／機能設定を追加したりすることができます。

1 MENU > ネットワーク設定 >「接続設定」> SET1～SET20のいずれかを選ぶ
- 変更や確認を行う接続設定を選ぶ

2「既存の設定から選択」を選ぶ

通信設定／機能設定を追加または置き換える

3 変更する設定を選ぶ >「既存の設定から選択」> いずれかの通信設定（NW）または機能設定（MODE）を選ぶ
- 登録されている通信設定／機能設定のうち、使用できないものは灰色で表示される。

4「決定」を選ぶ
- 必要に応じて「通信設定確認」または「機能設定確認」を選んで設定内容を確認する。

通信設定／機能設定の選択を解除する

3 選択解除する設定を選ぶ >「選択解除」>「OK」を選ぶ

MEMO
- IPストリーミングまたはブラウザーリモートのときは、1つの接続設定に、通信設定と機能設定を2つずつ登録することができます。
- 通信設定を2つとも選択解除すると、接続設定自体がリセットされ、「未設定」に変わります。

接続設定名を変更する

一覧から見つけやすくするために接続設定（SET）の名前を変更できます。

1 MENU > ネットワーク設定 >「接続設定」> SET1～SET20のいずれか >「セット名」を選ぶ

2 セット名を12文字以内で入力する

接続設定を消去する

1 MENU > ネットワーク設定 >「接続設定」> SET1～SET20のいずれか >「設定消去」を選ぶ
- 消去する接続設定を選ぶ。

2「OK」を選ぶ
- 接続設定が消去される。

MEMO
接続設定を消去しても登録した通信設定と機能設定は消去されません。ほかの接続設定を作成するときに再利用できます。

通信設定（NW）や機能設定（MODE）を確認／変更する

カメラに保存されている通信設定（NW）や機能設定（MODE）を確認し、必要に応じて変更／消去することができます。

通信設定／機能設定の内容を確認する

1 MENU > ネットワーク設定 >「詳細設定」>「通信設定」または「機能設定」を選ぶ
2 設定内容を確認する通信設定（「NW1」～「NW25」）または機能設定（「MODE1」～「MODE25」）を選ぶ
3「設定内容確認」を選ぶ
- 設定内容が表示される。
- ジョイスティックを左右に押すかSELECTダイヤルを回すと、すべての設定を表示できる。また、CANCELを押すとメニューに戻る。

通信設定／機能設定を変更／消去する

1 MENU > ネットワーク設定 >「詳細設定」>「通信設定」または「機能設定」を選ぶ
2 編集する通信設定（「NW1」～「NW25」）または機能設定（「MODE1」～「MODE25」のいずれかを選ぶ
3「設定変更」を選んで設定の変更を行う
- 操作2で「未設定」を選んだときは、「ウィザードで新規作成」（156）のみ選択できる。
- 「設定消去」>「OK」を選ぶと、設定が消去される。

TCP/IPv6設定を行う

接続設定ウィザードでTCP/IPv6の「使う」を選んだときは、ウィザードを終了後にTCP/IPv6設定が必要です。

1「TCP/IPv6」>「TCP/IPv6設定」>「使う」を選ぶ
- 新規接続設定（ウィザード）で「使う」を選んだときは、この操作は不要 。
- 以降、TCP/IPv6の設定を行う。

2 TCP/IPv6設定を手動で行うときは、「手動設定」>「使う」を選ぶ
- 「DNSサーバー」が「手動設定」に変わる。
- DNSサーバーを使用しないときは「使わない」を選ぶ。

3「DNSサーバー」> いずれかを選ぶ
- 操作2で「使わない」を選んだときは、DNSサーバーに「自動取得」が選べる。

4 DNSサーバーが「手動設定」のときは、「DNSアドレス」を設定する

「手動設定」が「使う」のとき

5「手動アドレス」、「プレフィックス長」、「ゲートウェイ」を設定する
- 項目を選んで入力する。

設定変更できる項目（通信設定）

設定項目	設定値／内容
Wi-Fi	
SSID	
詳細設定	画面の指示に従って設定する
TCP/IPv4	
IPアドレス設定	自動設定、手動設定
DNSサーバー	使わない、自動取得、手動設定
DNSアドレス、 IPアドレス	
サブネットマスク、ゲートウェイ	
TCP/IPv6	
TCP/IPv6設定	使わない、使う
手動設定	使わない、使う
DNSサーバー	使わない、自動取得、手動設定
DNSアドレス、手動アドレス	
プレフィックス長、ゲートウェイ	

設定変更できる項目（機能設定）

設定項目	設定値／内容
FTP転送	
転送先サーバー	
サーバー、ポート番号	
ユーザー名・パスワード	
ユーザー名、パスワード	
SSH設定	
ユーザー名、パスワード	
転送先フォルダー	
転送先フォルダーの階層	初期設定、カメラ
同名ファイルの上書き	スキップ、別名で保存、上書き
	スキップ：転送先に同じ名前のファイルがあるとき、そのファイルを転送しない。 別名で保存：転送先に同じ名前のファイルがあるとき、ファイル名の末尾に「_1」が付加される。 上書き：転送先に同じ名前のファイルがあっても、上書きする。
パッシブモード	使わない、使う
日付フォルダー生成	する、しない
IPストリーミング	
プロトコル	UDP、RTP、RTP+FEC、RTSP+RTP
送信先サーバー	
送信先ポート	
FECポート番号	
FECインターバル	
RTSPユーザー名	
RTSPパスワード	
出力信号形式	9Mbps/1920x1080 59.94P、4Mbps/1920x1080 59.94P、9Mbps/1920x1080 50.00P、4Mbps/1920x1080 50.00P、9Mbps/1920x1080 59.94i、4Mbps/1920x1080 59.94i、9Mbps/1920x1080 50.00i、4Mbps/1920x1080 50.00i
オーディオ出力チャンネル	CH1/CH2、CH3/CH4

ブラウザーリモートの設定を変更する

1 MENU > ネットワーク設定 >「詳細設定」>「ブラウザーリモート設定」を選ぶ

2 項目を選択して変更する

- ポート番号(HTTP)／ポート番号(HTTPS)を選ぶと、HTTP/HTTPS通信用のポート番号を変更することができる。通常は、初期設定（HTTP：80、HTTPS：443）を使用する。
- 「HTTPS」>「使う」を選ぶと、ブラウザーリモートにHTTPS通信でアクセスできるようになる。HTTPS通信を使う場合、はじめに、カメラアクセスポイントを使ってHTTP接続でネットワーク機器と接続します（🕮 170）。次に、ブラウザーリモートの設定メニュー（🕮 174）でルート証明書をダウンロードします。最後に、ダウンロードしたルート証明書をWebブラウザーにインポートすると、HTTPS通信を使うことができます。

ネットワークの接続状態を確認する

接続設定をオフラインで行う場合を除き、接続設定を行うとすぐに、本機は自動的にネットワーク接続を行い、選択されているネットワーク設定を有効化します。ネットワークの接続状態は、接続方式とネットワーク機能を表わすアイコンで確認できます。ネットワーク機能を無効にすると、ネットワーク接続アイコンは消えます。

接続方式のアイコン

: **Wi-Fi（インフラストラクチャー）**
ネットワークへの接続処理中は、画面に黄色で表示され、接続が完了すると白色に変わる。

: **Wi-Fi（カメラアクセスポイント）**
接続準備中は黄色で表示され、Wi-Fi対応機器から接続可能な状態になると白色に変わる。

: **イーサネット**
ネットワークへの接続処理中は黄色で表示され、接続が完了すると白色に変わる。

ネットワーク機能のアイコン

: **FTP転送**（168）

: **IPストリーミング**（169）

クリップをFTPで転送する

メディアモードのときに、本機に記録したクリップをFTPサーバーに転送できます。以下では、FTPサーバーがあらかじめ起動され、正しく動作していることを前提に説明しています。

1つのクリップを転送する

1 ネットワークを有効にする（155）
- FTP転送の機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2「XF-AVC」または「MP4」のインデックス画面で、転送するクリップを選ぶ

3 クリップメニュー >「FTP転送」>「OK」を選ぶ
- 本機がFTPサーバーと接続し、選択したクリップのファイルが転送される。
- 転送を中止するときは「CANCEL」を選ぶ。

クリップをまとめて転送する

1 ネットワークを有効にする（155）
- FTP転送の機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2「XF-AVC」または「MP4」のインデックス画面を表示する

3 MENU > ネットワーク設定 >「FTP全クリップ転送」を選ぶ
- 本機がFTPサーバーと接続し、インデックス画面内のクリップのファイルが転送される。
- 転送を中止するときは「CANCEL」を選ぶ。

ご注意
- ファイル転送中は、次のことを守ってください。通信が中断され、転送先に不要なファイルが残ることがあります。
  - メモリーカードカバーを開けない。
  - 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- 転送先に不要なファイルが残っているときは、内容を十分に確認してから、削除してください。

MEMO
- アクセスポイントの性能や設定、通信状態によっては、ファイルの転送に時間がかかることがあります。

映像をストリーミングで送信する

本機をネットワークに接続して、ネットワーク経由で映像伝送装置のデコーダー（以下「デコーダー」と記載）*1またはパソコン*2に、本機のライブ映像と音声をストリーミング送信します。ライブ中継に利用できるほか、ネットワーク環境が低速な取材現場からでも速報映像を送信することができます。

*1 対応するデコーダーについてはキヤノンのホームページなどでご確認ください。
*2 ストリーミング映像の受信に対応したパソコン用ソフトウェアが必要です。

送信できる映像と音声の信号形式

メイン動画			ストリーミングの信号形式				
記録形式	解像度	フレームレート	映像			音声*	
			ビットレート	解像度	フレームレート	形式	ビットレート
XF-AVC MP4 （H.264）	3840×2160 1920×1080	59.94P	4 Mbps 9 Mbps	1920×1080	59.94P、59.94i	MPEG-2 AAC 2ch	256 Kbps
		59.94i			59.94i		
		50.00P			50.00P、50.00i		
		50.00i			50.00i		

* メイン動画の音声が4チャンネルの場合、送信するチャンネルはメニューで選択可能。

1 受信側のデコーダーまたはパソコン：ストリーミング受信の待機状態にする
- デコーダーまたはパソコンの受信用ソフトウェアの詳細については、それぞれの説明書を参照する。

2 ネットワークを有効にする（155）
- IPストリーミングの機能設定を含む接続設定を選ぶ。

3 MENU > ネットワーク設定 >「IPストリーミング実行」>「する」を選ぶ
- 本機がストリーミング送信を開始する。
- RECボタンを押して、ストリーミング送信と同時に本機に記録することもできる。

4 受信側のデコーダーまたはパソコン：プロトコルが「RTSP+RTP」のときは、URL（rtsp://<カメラのIPアドレス>/stream）、RTSPのユーザー名とパスワードを入力する

5 MENU > ネットワーク設定 >「IPストリーミング実行」>「しない」を選んで、送信を終了する

ご注意

送信するデータは暗号化されません。

MEMO

- RTSPを使用しない場合、IPストリーミングは、受信側の状態にかかわらず、映像・音声データを送信します。IPアドレスを正しく設定し、受信側のデコーダーが正しく受信できることをあらかじめ確認してください。
- ネットワーク環境や通信状態によっては、パケットの喪失や遅延が発生することがあります。
- IPストリーミング送信を連続して24時間行うと、一旦停止したあと自動的に再開します。
- IPストリーミングを使用中にブラウザーリモートの接続を行うと、ストリーミングの映像や音声が途切れることがあります。IPストリーミングとブラウザーリモートを同時に使用するときは、ブラウザーリモートの接続を切断／再接続しないことをおすすめします。
- IPストリーミング実行中にメモリーカードカバーを開けて、カードの取り出しを行うと、ストリーミングの映像や音声が途切れることがあります。

次のときはIPストリーミングを使用できません。
- 記録モードが通常記録以外のとき。
- 「2スロット記録機能」が「切」以外のとき。
- 本機をWebカメラとして使用しているとき。

ネットワーク機器でリモート撮影する

カメラモードにおいて、ネットワークに接続した機器のWebブラウザーから本機をリモートで操作して、動画を撮影することができます（ブラウザーリモート）。撮影時は、ライブビューによる画角の確認、さまざまな撮影設定*、各種マークの付加が可能なほか、記録メディアやバッテリーの残量、タイムコードの確認を行うことができます。

* ホワイトバランス、ISO感度／ゲイン、シャッタースピード、アイリス、フォーカス、ズームなどが調整可能。

ブラウザーリモートを起動する

携帯端末などネットワークに接続した機器*1のWebブラウザー*2からブラウザーリモートを起動します。

*1 OS、Webブラウザーなどの情報については、キヤノンのホームページなどでご確認ください。
*2 JavaScript （ジャバスクリプト）に対応し、Cookie（クッキー）が有効になっている必要があります。

1 ネットワークを有効にする（📖 155）

- ブラウザーリモートの機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2 MENU > ネットワーク設定 >「接続設定」> 操作1で選んだ接続設定 >「設定内容確認」を選ぶ

- IPアドレスやURLをメモする。

3 携帯端末など：カメラまたはカメラと同じネットワークに接続する

4 携帯端末など：Webブラウザーを起動する

5 携帯端末など：操作2で確認したURLを入力して、ブラウザーリモートを起動する

- URLを次のように入力する。

http://xxx.xxx.xxx.xxx:nnn

カメラのIPアドレス　　ポート番号（初期値を使うときは省略可）

- HTTPS通信を使うときは、「http」を「https」に変更する。
- TCP/IPv6を使うときは、IPv6用に設定したIPアドレスとポート番号を使う。

6 携帯端末など：機能設定で設定したユーザー名とパスワードを入力（📖 158）してログインする

- ブラウザーリモートの画面が表示される。
- ユーザー名とパスワードが不明のときは、カメラの管理者にお問い合わせください。

7 携帯端末など： 撮影後はログアウトする

- 撮影後、ブラウザーリモート画面の「ログアウト」を選んで、ブラウザーリモートを終了する。

MEMO

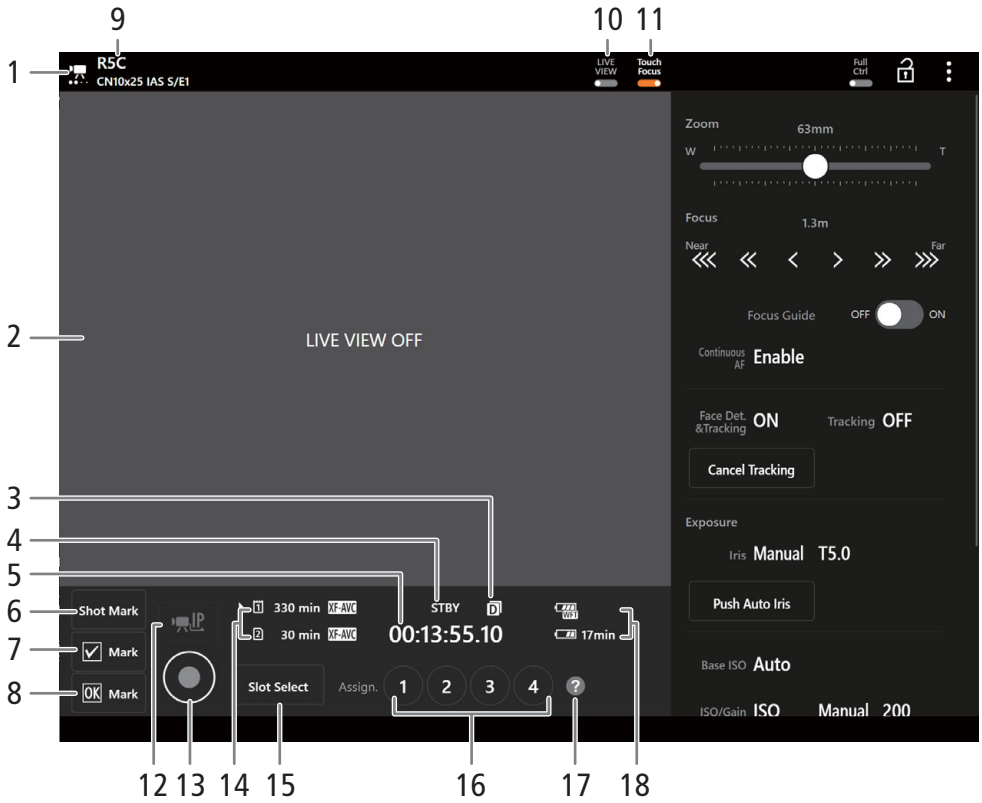
- 通信設定でTCP/IP v 6を使用しない設定をしたときは、MENU > ネットワーク >「IPv4アドレス確認」画面にブラウザーリモートのURL（QRコード）が表示されます。携帯端末などでQRコードを読み取り、ブラウザーリモートにアクセスすることができます。
- ネットワーク環境や通信状態によっては、ライブビューの表示や各種設定などに遅延が発生することがあります。遅延が大きい場合は、ライブビュー解像度（📖 174）を下げることをおすすめします。

リモート撮影する

MEMO

- ブラウザーリモートは、マルチタッチ操作には対応していません。

カメラ操作画面



1 接続状態表示
- ブラウザーリモートに接続中は、画面上の●●●●が、順に点灯→消灯を繰り返す。

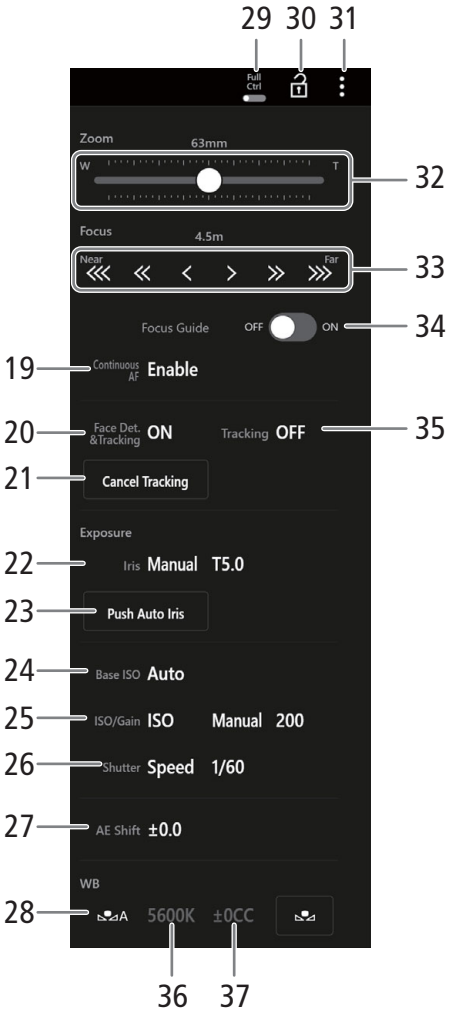
2 ライブビュー表示エリア
- カメラのライブビュー映像を表示する。

3 ダブルスロット記録
4 撮影状態／記録コマンド状態
5 タイムコード
6 Shotマークボタン
7 ☑Mark（チェックマーク）ボタン
8 OKMark（OKマーク）ボタン
9 ニックネーム、レンズ名
10 LIVE VIEW（ライブビュー）ボタン
- ライブビュー表示を入／切する。

11 Touch Focus（タッチフォーカス）ボタン
12 IPストリーミングボタン
- ブラウザーリモートとIPストリーミングを同時に実行しているとき使用できる。

13 REC（記録開始／停止）ボタン
- 撮影が開始され、撮影状態表示が「●REC」に変わる。RECボタンが●（赤色）に変わる。
- 撮影中は、タイムコードが歩進する。
- 再度、RECボタンを押すと撮影を終了し、撮影状態表示が「STBY」に変わる。

14 記録メディアの状態／撮影可能時間
15 SLOT SELECT（スロット選択）ボタン
16 アサインボタン
17 アサインボタン設定確認
18 バッテリー残量とバッテリー残時間



19 連続AF
20 顔検出&追尾
21 追尾キャンセル
22 アイリス
23 プッシュオートアイリス
24 Base ISO
25 ISO感度／ゲイン
26 シャッターモード
27 AEシフト
28 ホワイトバランス設定方法
- 設定方法がAWBのときに「AWB Lock」を押すと、一時的にAWB動作を停止する。もう一度押すと再開する。
- 設定方法が Aまたは Bのときは、 を押して基準白色を取り込んで、登録する。

29 Full Ctrl（詳細設定）スイッチ（173）
- AF、アイリス、ISO感度／ゲイン、AE、カスタムピクチャーの詳細設定を表示する。

30 (キーロック)ボタン
- ブラウザーリモートの操作ボタンをロックする。 を選ぶとロックは解除される。カメラ本体の操作はロックされない。

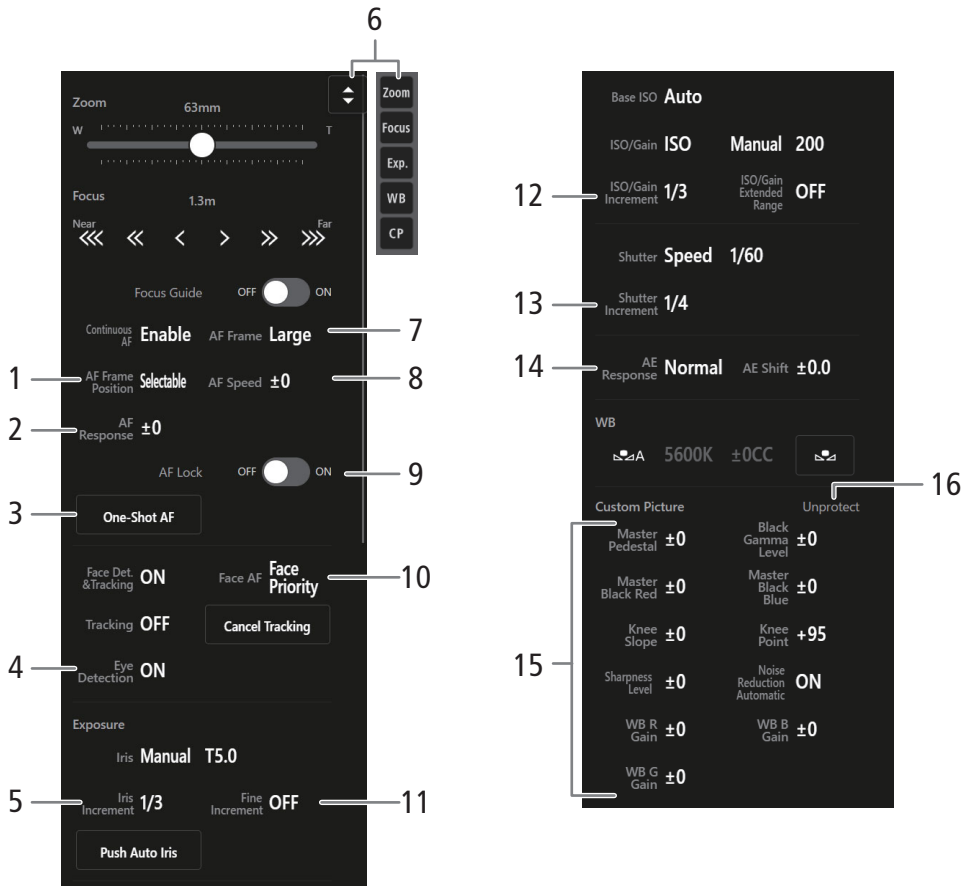
31 設定メニューボタン（174）
32 ズーム操作スライダー
- ズームを調整する。

33 フォーカス操作ボタン
- 、、を選ぶと至近方向に調整し、、、を選ぶと無限方向に調整する。
- 調整量は選ぶボタンによって異なり、／は小、／は中、／は大。
- ボタンを長押しすると、フォーカスの動作が連続する。

34 デュアルピクセルフォーカスガイドスイッチ
- 画面にフォーカスガイド枠が表示される。

35 追尾
36 ケルビン
37 色補正値

詳細設定（Full Controls）

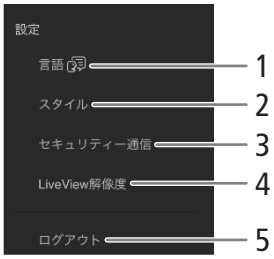


1 AF枠位置
2 AFレスポンス
3 ワンショットAFボタン
4 瞳検出
5 アイリス刻み幅（段）
6 調整項目ボタン
- 調整項目ボタンを表示する。
- 調整する項目にタッチすると、それぞれの調整項目が表示される。

7 AF枠
8 AFスピード
9 AFロック
10 顔検出AF
- 顔検出AFのモードを選ぶ。

11 アイリス刻み幅（ファイン）
12 ISO感度／ゲイン刻み幅
13 シャッタースピード刻み幅
14 AEレスポンス
15 カスタムピクチャー
16 カスタムピクチャープロテクト状態

設定メニュー



1 言語選択
- 一部の画面やメッセージの表示言語を選ぶ。

2 スタイル選択
- ブラウザーリモートの背景色を設定できる。

3 セキュリティー通信
- HTTPS通信で使用するルート証明書をダウンロードする。

4 ライブビュー解像度
- ライブビューの解像度を選択する。

5 ログアウト
- ブラウザーリモートを終了するときに選ぶ。

撮影データをスマートフォンに転送する

本機と同じネットワークに接続しているスマートフォンに、本機で撮影した撮影データ（MP4クリップやプロキシクリップ、WAV形式の音声、News Metadata）を転送できます。転送した撮影データはスマートフォンに保存できます（🕮 152）

1 スマートフォン：アプリをインストールする
- App StoreからContent Transfer Mobileをダウンロードして、インストールする。
- 2回目から、この操作は不要。

2 スマートフォン：本機と同じネットワーク（アクセスポイント）に接続する
- スマートフォンをアクセスポイントにして接続するときは、あらかじめテザリング（インターネット共有）を有効にする。
- スマートフォンの詳細については、スマートフォンの説明書をご覧ください。

3 ネットワークを有効にする（🕮 155）
- 「Canonアプリ」の機能設定を含む接続設定を選ぶ。

4 画面の指示に従って、Content Transfer Mobileを起動する

5 スマートフォン：本機と接続する

6 「OK」を選ぶ

7 スマートフォン：Content Transfer Mobileを操作して撮影データを本機から転送する。

8 終了するときは、MENU > ネットワーク設定 >「ネットワーク」>「無効」を選ぶ
- MENU > ネットワーク設定 >「接続」>「通信切」を選んでも終了できる。
- Content Transfer Mobileから本機との接続を終了したときは、MENU > ネットワーク設定 >「接続」が「通信切」になる。

MEMO
- 「Canonアプリ」の機能設定を含む接続設定を実行中にGPSレシーバー GP-E2を接続するときは、マルチアクセサリーシューに接続してください。

メニュー一覧

各メニューで設定できる項目と設定値について説明します。初期設定は太字で記載しています。
メニュー設定の基本操作については「メニューで設定を変える」（🕮 18）をご覧ください。メニューの項目は、他の機能との設定状態によっては表示されなかったり、使用できなかったりすることがあります。

カメラ設定メニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
アイリスモード	オート、**マニュアル**	76
	対応レンズ（🕮 228）装着時のみ対応可能。	
アイリスステップ	1/2段、**1/3段**	76
アイリスファイン	入、**切**	76
ズーム連動F値補正	**入**、切	–
	ズーム操作により絞り値（F値）が変化するレンズの使用時、入にすると、設定した絞り値（F値）を保つように絞りを補正する。なお、絞りが動作するのにともない、若干の輝度のちらつきと動作音が発生する。切にすると、望遠側にズームするに従って、徐々に絞り値（F値）が大きくなる（暗くなる）。輝度のちらつきはなく、絞りの動作音は発生しない。	
シャッターモード	スピード、**アングル**、クリアスキャン、スロー、切	70
シャッターステップ	1/3段、**1/4段**	70
Base ISO	カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」と記録形式の設定によって選択できる値が異なる。	73
ISO／ゲイン	**ISO**、ゲイン	72
ISO／ゲインモード	オート、**マニュアル**	74
ISO／ゲイン感度拡張	入、**切**	72
ISO／ゲインステップ	[ISO]：1段、**1/3段** [ゲイン]：**ノーマル**、ファイン	72
オート時リミット	[ISO]：ISO 160～**切**／**ISO25600**（**切**／**102400**） [ゲイン]：-2dB～**切**／**42dB**（**切**／**54dB**）	74
	Base ISOの設定によって選択できる値が異なる。	
測光方式	バックライト、**スタンダード**、スポットライト	78
AEシフト	＋2.0～－2.0（**±0**）、0.25段刻み	78
AEレスポンス	ハイ、**ノーマル**、ロー	77
ショックレスWB	入、**切**	79
AWBレスポンス	ハイ、**ノーマル**、ロー	81
色温度ステップ	**ミレッド**、ケルビン	80
連続AF	**しない**、合焦付近のみ、する	82
AF枠	**大**、小、全域* *「連続AF」が「する」または「しない」を選択時に選択可能。	86

設定項目	設定値／内容	🕮
AF枠位置	**可動**、中央固定	86
AFスピード	＋2、＋1、**0**、－1～－7	85
AFレスポンス	＋3、＋2、＋1、**0**、－1、－2、－3	85
フォーカスモード	**AF**、MF	82
顔検出&追尾	入、**切**	87
顔検出AF	**顔優先**、顔限定	87
瞳検出	入、**切**	87
頭部検出モード	顔 / 頭部から検出、**顔から検出**	87
カメラグリップズーム	入、**切**	90
カメラグリップズームスピード	1～16（**8**）	90
デジタルテレコン	x3.0、x2.5、x2.0、x1.5、**切**	90
ABB	－	42
カラーバー	入、**切**	103
カラーバータイプ	**SMPTE**、EBU、ARIB	103
周辺光量補正、色収差補正 回折補正、歪曲収差補正	入、**切**	25
RF-S／EF-Sレンズ	入、**切**	23
	RF-S／EF-Sレンズの装着時、周辺光量の低下やケラレが発生するときは、「入」にして映像の切り出し範囲を変更できる。解像度 4096x2160 または 2048x1080 のときは約1.09倍、解像度 3840x2160 または 1920x1080 のときは約1.04倍の電子拡大を行うため、画質が劣化する。メイン記録形式がRAW以外、センサーモードがフルサイズ以外、デジタルテレコンが無効のときのみ使用可能。通常は「切」での使用を推奨します。	
レンズ光学IS	**入**、切	89
	RF-Sレンズ装着時、「入」にすると手振れによる映像の揺れを光学的に軽減する。	
電子IS	入、**切**	89
電子ISモード	強、**標準**	89
レンズ焦点距離	1～1000（**50**）	89
アナモフィック補正	レンズスクイーズ連動、x2.0、x1.8、x1.3、**切**	89

CP Custom Pictureメニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
CP ファイル選択	**C1:BT.709 Wide DR**、C2:Canon Log 3、C3:PQ、C4:HLG、C5:BT.709 Standard、C6:EOS Standard、C7:EOS Neutral、C8:Canon 709、C9:User09～C20:User20	122
CP ファイル編集		123
名称変更	–	
プロテクト	プロテクト解除、プロテクト	
リセット	**BT.709 Wide DR**、Canon Log 3、PQ、HLG、BT.709 Standard、EOS Standard、EOS Neutral、Canon 709、User (BT.709 Wide DR)	
Gamma/Color Space、Color Matrix、Look File、Look File設定、HLG Color、Black、Black Gamma、Low Key Saturation、Knee、Sharpness、Noise Reduction、Skin Detail、Color Matrix Tuning、White Balance、Color Correction、Other Functions	「カスタムピクチャーの設定項目」を参照。	126
CP ファイル保存	SDカードへ保存、SDカードから読み出し	125

記録/メディア設定メニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
メディア初期化	CFexpress、SDカード	33
センサーモード	**フルサイズ**、Super 35mm (Crop)、Super 16mm (Crop)	58
システム周波数	**59.94 Hz**、50.00 Hz、24.00 Hz	58
メイン記録形式	RAW HQ、RAW ST、RAW LT、HDMI RAW、**XF-AVC YCC422 10 bit**、MP4（HEVC）YCC422 10 bit、MP4（HEVC）YCC420 10 bit、MP4（H.264）YCC420 8 bit	58
メイン記録先	**CFexpress**、SDカード	59
メイン解像度／ビットレート	[RAW形式] 8192x4320、5952x3140、2976x1570 [XF-AVC形式] 4096x2160 Intra-frame、4096x2160 Long GOP、3840x2160 Intra-frame、**3840x2160 Long GOP**、2048x1080 Intra-frame、2048x1080 Long GOP、1920x1080 Intra-frame、1920x1080 Long GOP、1280x720 Long GOP [MP4形式] 8192x4320、7680x4320、4096x2160、3840x2160、2048x1080、1920x1080、1280x720 センサーモード、フレームレートの設定によって選択できる値が異なる。	56
フレームレート	[59.94Hz]：59.94i* / **59.94P** / 29.97P / 23.98P [50.00Hz]：50.00i* / 50.00P / 25.00P [24.00Hz]：24.00P * メイン解像度が1920 x 1080で、「メイン記録形式」がXF-AVC形式を選択時のみ選択可能。スロー &ファストモーション記録、フレーム記録、インターバル記録では選択できない。 メイン解像度／ビットレートの設定によって選択できる値が異なる。	59
メイン記録MP4オーディオ形式	**AAC 16 bit 2CH**、LPCM 16 bit 4CH	98
記録モード	**通常記録**、Slow & Fast モーション、Slow & Fastモーション／音声（WAV）、プレ記録、1メイン／2常時記録、フレーム記録、インターバル記録	110
Slow&Fastフレームレート	「メイン記録形式」、「メイン解像度／ビットレート」や「フレームレート」の設定によって選択できる値が異なる。	110

設定項目	設定値／内容	🕮
常時記録	REC、**STBY**	114
フレーム記録 フレーム数	**1**、3、6、9	113
インターバル記録 時間間隔	**1 sec**、2 sec、3 sec、5 sec、10 sec、15 sec、30 sec、1 min、2 min、3 min、5 min、10 min	114
インターバル記録 フレーム数	**1**、3、6、9	114
2スロット記録機能	**切**、🅁1メイン／🅁2Proxy記録、🅁1メイン／🅁2サブ記録、🅁1メイン／🅁2音声記録、リレー記録、ダブルスロット記録、🅁1---(HDMI メイン)/🅁2Proxy記録*、🅁1---(HDMI メイン)/🅁2サブ記録* *「メイン記録形式」が「HDMI RAW」のときのみ選択可能。	36
🅁2記録形式	XF-AVC YCC422 10 bit、XF-AVC YCC420 8 bit、MP4(HEVC) YCC 422 10 bit、MP4(HEVC) YCC 420 10 bit、MP4(H.264) YCC 420 8 bit	60 68
🅁2解像度／ビットレート	[メイン動画：RAW形式] [XF-AVC YCC422 10 bit] 4096x2160 Intra-frame、4096x2160 Long GOP、2048x1080 Intra-frame、2048x1080 Long GOP [XF-AVC YCC420 8 bit] 2048x1080 Long GOP [MP4（HEVC）YCC422 10 bit ／MP4（HEVC）YCC420 10 bit ／MP4（H.264）YCC420 8 bit] 4096x2160、2048x1080 [メイン動画：XF-AVC形式] [XF-AVC YCC422 10 bit] 4096x2160 Long GOP、3840x2160 Long GOP、2048x1080 Intra-frame、2048x1080 Long GOP、1920x1080 Intra-frame、1920x1080 Long GOP、1280x720 Long GOP [XF-AVC YCC420 8 bit] 2048x1080 Long GOP、1920x1080 Long GOP、1280x720 Long GOP [MP4（H.264）YCC420 8 bit] 4096x2160、3840x2160、2048x1080、1920x1080、1280x720 [メイン動画：MP4形式] [MP4（HEVC）YCC422 10 bit] 2048x1080、1920x1080、1280x720 [MP4（HEVC）YCC420 10 bit] 4096x2160、3840x2160、2048x1080、1920x1080、1280x720 [MP4（H.264）YCC420 8 bit] 2048x1080、1920x1080、1280x720 メイン動画の記録信号形式によって選択できる値が異なる。	60 68
🅁2フレームレート	**メイン記録と同じ**、59.94i、50.00i	60
🅁2MP4オーディオ形式	**AAC 16 bit 2CH**、LPCM 16 bit 4CH	98
Proxy記録色変換	**Custom Picture準拠**、BT.709 (Wide DR)、BT.709 (CMT 709)	68

設定項目	設定値／内容	🕮
メタデータ		38
カメラインデックス	**A**～Z	
リール番号	**001**～999	
クリップ番号	**001**～999	
ユーザー定義	5文字の文字列（**CANON**）	
ストリーム番号／プロキシ	01_Proxy、**_01P**	
シーン	16文字以内の文字列（未設定）	
テイク	8文字以内の文字列（未設定）	
レンズスクイーズ	x2.0、x1.8、x1.3、**切**	
XMLファイル付加	**入**、切	107
XMLファイル形式	News Metadata、User Memo	108
News Metadata	**切**、ファイル選択	
News Metadata設定初期化	－	109
User Memo	**切**、ファイル選択	38
国コード	4文字の文字列	
	UMID所有権情報の国コード。ISO-3166-1で定義している短縮文字を左詰めで入力する。	
組織	4文字の文字列	
	UMID所有権情報の組織コード。各組織で運用する組織コード*を入力する。 * 組織コードは、SMPTE登録局に申請後、取得して初めて使用できる。取得していないときは「0000」を入力する。	
ユーザーコード	4文字の文字列	
	UMID所有権情報のユーザーコード。ユーザーの識別用のコードを入力する*。 * 運用の方法は、ユーザーに任されているが、組織コードに「0000」を入力したときは、入力しない。	
CP ファイル付加	入、**切**	
クリップ番号方式	オートリセット、**通し番号**	
記録コマンド(EXT REC)	入、**切**	144
HDMI Time Code	入、**切**	144
MP4クリップ／静止画番号方式	オートリセット、**通し番号**	40
ボリュームラベル	Canon、**Canon+メタデータ**	34

♪))オーディオ設定メニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
CH1/CH2 ALCリンク CH3/CH4 ALCリンク	連動、**独立**	100
録音レベル CH1 録音レベル CH2 録音レベル CH1/CH2 録音レベル CH3 録音レベル CH4 録音レベル CH3/CH4	**オート**、マニュアル	100

設定項目	設定値／内容	🕮
CH1 レベル CH2 レベル CH1/CH2 レベル CH3 レベル CH4 レベル CH3/CH4 レベル	0～100（**50**）	100
MIC アッテネーター	入、**切**	101
MICローカット	**切** 、LC1、LC2	101
シューマイクアッテネーター	入、**切**	101
シューマイクローカット	入、**切**	101
シューマイク指向性	ショットガン(モノラル)、**90°(ステレオ)**、120°(ステレオ)	101
モノラルマイク	**入**、切	101
1 kHzトーン	－12 dB、－18 dB、－20 dB、**切**	103
ヘッドホン音量	切、1 ～ 15（**8**）	136
スピーカー音量	切、1 ～ 15（**8**）	136
モニターチャンネル	**CH1/CH2**、CH1/CH1、CH2/CH2、CH1+2/CH1+2、CH3/CH4、CH3/CH3、CH4/CH4、CH3+4/CH3+4、CH1/CH3、CH2/CH4、CH1+3/CH2+4	150
HDMIチャンネル	**CH1/CH2**、CH3/CH4	150

モニタリング設定メニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
LCD明るさ	－50～50 (**±0**)	16
LCDコントラスト	－50～50 (**±0**)	16
LCDカラー	－20～20 (**±0**)	16
LCDシャープネス	1～4（**2**）	16
LCD輝度	**ノーマル**、＋1、＋2	16
LCD対面ミラー	入、**切**	16
画面の表示先設定	**オート1（ 時LCD固定)**、オート2（ 時も自動切り換え)、LCD固定、VF固定（アイセンサー入)、VF固定（アイセンサー切）	29
VF明るさ	－50～＋50 (**±0**)	29
VFコントラスト	－50～＋50 (**±0**)	29
VFカラー	－20～＋20 (**±0**)	29
VFシャープネス	1～4（**2**）	29
VF輝度	**ノーマル**、ハイ	29
VF倍速駆動	入、**切**	29
アナモフィック: LCD、VF、HDMI	入、**切**	116
アナモフィックデスクイーズ	**レンズスクイーズ連動**、x2.0、x1.8、x1.3	116
S&F時デスクイーズ	縮小表示、**切**	116
白黒: LCD、VF、HDMI	入、**切**	16
オンスクリーン表示: HDMI	**入**、切	147
DISPレベル1	**全表示**、全表示（フレーム）	50
DISPレベル2	**撮影情報表示**、FUNC/MENU操作時表示	50

設定項目	設定値／内容	🕮
DISPレベル3	**REC/STBY表示のみ**、表示なし	50
フレーム表示対象	DISP レベル1/2/3、DISP レベル1/2、DISP レベル1、**DISP レベル2**、DISP レベル3、切	50
Custom Display 1		46
測光方式、Custom Picture、焦点距離、フォーカスモード、キーロック、ホワイトバランス、AEシフト、アイリス、ISO／ゲイン、シャッター、Base ISO、ピーキング、デジタルテレコン、電子IS、Magnification、ビューアシスト、レンズ	**入**、切	
被写体距離（数値）、被写体距離（バー）	常時入、MF時、**切**	
水準器	Tilt+Roll、Roll、Tilt、**切**	
露出バー	**入**、AE時無効、切	
Custom Display 2		46
バッテリー残量	警告、**ノーマル**、切	
記録可能時間		
記録モード	**入**、切	
インターバルカウンター		
Time Code		
リール番号／クリップ番号		
Photo	警告、**ノーマル**、切	
温度／ファン	**入**、切	
センサーモード		
解像度／カラーサンプリング		
フレームレート		
映像出力		
オンスクリーン表示	入、**切**	
記録コマンド(EXT REC)	**入**、切	
User Memo	入、**切**	
User Bit		
モニターチャンネル		
オーディオレベル	**入**、切	
マルチアクセサリーシュー		
ネットワーク機能		
GPS		
日付／時刻	日付／時刻、時刻、日付、**切**	

設定項目	設定値／内容	🕮
Custom Display	メディアモードで表示される。	46
オーディオレベル	**入**、切	
日付／時刻 カメラデータ	入、**切**	
	日付／時刻：クリップ／静止画の再生画面に日時を表示する。 カメラデータ：クリップの再生画面にカメラデータ（シャッタースピード、絞り値、ISO感度／ゲイン）を表示する。	
表示単位系	**Meters**、Feet	－
	GPSの高度の表示単位を選ぶ。	
オンスクリーン透過: LCD、VF、HDMI	入、**切**	147
オンスクリーン透過 不透過度	**75%**、62.5%、50%、37.5%、25%	147
オンスクリーン透過 適用画面	**すべて**、撮影/再生画面のみ	147
オンスクリーン表示方向：LCD/VF	**標準**、左90度回転、右90度回転	51
オンスクリーン表示方向：HDMI	**LCD/VF連動**、左90度回転、右90度回転	
タリー OSD: LCD、VF、HDMI	入（REC）、**切**	51
タリー OSD位置	**フレーム**、上部、下部	
ビューアシスト: LCD、VF	入、**切**	149
ビューアシスト選択: LCD、VF	**BT.709**、HDRアシスト（1600%）、HDRアシスト（400%）、CMT 709	
ビューアシスト: HDMI	入 、**切**	
ビューアシスト選択: HDMI	**BT.709**、CMT 709	
HDR→SDRゲイン	－7.5dB～＋7.5dB (**－3.0dB**)	149
Range: HDMI		146
Canon Log 出力時	**Full Range優先**、Narrow Range	
HDR出力時	Full Range優先、**Narrow Range**	

アシスト設定メニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
フォーカスガイド	入、**切**	83
ピーキング: LCD、VF、HDMI	入、**切**	83
ピーキング選択	**ピーキング1**、ピーキング2	83
ピーキング1		83
カラー	**ホワイト**、レッド、イエロー、ブルー	
ゲイン	切、1～15（**8**）	
周波数	1～4（**2**）	
ピーキング 2		83
カラー	ホワイト、**レッド**、イエロー、ブルー	
ゲイン	切、1～15（**15**）	
周波数	1～4（**1**）	
Magnification	入、**切**	84
Magnification出力先	**LCD**、VF、HDMI	84

設定項目	設定値／内容	🕮
Magnification有効時白黒	入、**切**	84
フォルスカラー : LCD、VF、HDMI	入、**切**	93
フォルスカラーインデックス	–	93
ゼブラ: LCD、VF、HDMI	入、**切**	93
ゼブラ選択	**ゼブラ 1**、ゼブラ 2、ゼブラ 1+2	93
ゼブラ1レベル	5 ±5% ～ 95 ±5% （**70 ±5%**）	93
	ゼブラパターン1の輝度レベルを5%刻みで選ぶ。	
ゼブラ2レベル	0% ～ **100%**	93
	ゼブラパターン2の輝度レベルを5%刻みで選ぶ。	
WFM: LCD、VF、HDMI	入、**切**	104
WFM不透過度	**オンスクリーン透過連動**、100%、80%、60%、40%、20%	
	WFMの不透過度を選ぶ。「オンスクリーン透過連動」を選ぶと、「オンスクリーン透過 不透過度」の設定に連動する。	
WFM機能	**波形モニター**、ベクトルスコープ	
波形モニター設定		104
サイズ: LCD / VF	**ノーマル**、2倍	
	画面上の表示倍率を切り換える。	
位置	**右**、左	
タイプ	**ライン**、ライン+スポット、ラインセレクト、RGB、YPbPr	
ゲイン	**1x**、2x	
HDR時スケール	**IRE**、PQ/HLG	
Yポジション	**0%**、15%、30%、45%、50%	
ラインセレクト	0～719／1ライン刻み(720記録時）(360)、 0～1079／1ライン刻み(2K記録時) (540)、 0～2158／2ライン刻み(4K記録時) (1080)、 0～3138／2ライン刻み(5.9K記録時) (1570)、 0～4318／2ライン刻み(8K記録時) (2160)	
	波形を表示するライン（赤い横線）の位置を選ぶ。記録解像度、撮影／再生によって、設定範囲と初期値が異なる。	
ベクトルスコープ設定		105
位置	**右**、左	
タイプ	**ノーマル**、スポット	
ゲイン	**1x**、2x	
マーカー : LCD、VF、HDMI	**入**、切	91
センターマーカー、水平マーカー、垂直マーカー、グリッドマーカー	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、**切**	91
センターマーカータイプ	**クロス1**、クロス2、ドット1、ドット2	91
アスペクトマーカー	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、 マスク100%、マスク75%、マスク50%、マスク25%、**切**	92
マーカーアスペクト比	4:3、13:9、14:9、16:9、1.375:1、1.66:1、1.75:1、1.85:1、1.90:1、2.35:1、 **2.39:1**、9:16、カスタム	92
マーカー カスタムアスペクト比	**1.00:1** ～ 9.99:1	92
セーフティーゾーンマーカー	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、 マスク100%、マスク75%、マスク50%、マスク25%、**切**	92
セーフティーゾーン基準	**映像全体**、アスペクトマーカー領域	92

設定項目	設定値／内容	🕮
セーフティーゾーン領域	80%（長さ比）、88%（長さ比）、90%（長さ比）、93%（長さ比）、**95%（長さ比）**、80%（面積比）、90%（面積比）、92.5%（面積比）、95%（面積比）	92
ユーザーマーカー 1、 ユーザーマーカー 2	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、**切**	92
ユーザーマーカー 1 サイズ、 ユーザーマーカー 2 サイズ	W：2 ～ **100** ～ 2048（偶数のみ）、H：2 ～ **100** ～ 1080（偶数のみ）	
ユーザーマーカー 1 位置、 ユーザーマーカー 2 位置	X：－1024 ～ **0** ～ 1024、Y：－540 ～ **0** ～ 540	

ネットワーク設定メニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
ネットワーク	有効、**無効**	155
接続	**通信切**、SET1～SET20	155
接続設定	SET1～SET20	162
ウィザードで新規作成	－	
既存の設定で作成	－	
設定内容確認	－	
ウィザードで変更	－	
既存の設定から選択	－	
セット名	12文字以内の文字列	
設定消去	－	
新規接続設定（ウィザード）	FTP転送、IPストリーミング、ブラウザーリモート、Canonアプリ	156
IPストリーミング実行	する、**しない**	169
FTP全クリップ転送	メディアモードで表示される。	168
IPv4アドレス確認	現在のIPv4アドレスの設定内容を表示する。	－
エラー内容表示	最後に発生したネットワーク関連のエラーを表示する。	－
詳細設定		164
通信設定	NW1～NW25	
機能設定	MODE1～MODE25	
ブラウザーリモート設定	ユーザー名・パスワード、ポート番号（HTTP）、ポート番号（HTTPS）、HTTPS	
802.1X認証の設定	設定ウィザード、設定内容確認、設定消去	162
ニックネーム	16文字以内の文字列（**R5C**）	162
バッテリー充電順序	**カメラ用優先**、WFT用優先	－
	本機に接続したワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10（別売）内のバッテリーパックをUSB電源アダプター PD-E1（別売）を使って充電するときに、カメラ給電用／WFT-R10給電用）のどちらのバッテリーを先に充電するかを選ぶ。	

アサインボタンメニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
カメラ	1：One-Shot AF、2：Magnification、3：DISP、4：MENU、 5：プッシュオートアイリス、6：AFロック、7：アサインボタン設定、 8：表示パネル情報切り換え、9：キーロック、10：（未設定）、11：FUNC、 12：（未設定）、13：ホワイトバランスセット	118
ブラウザーリモート	1：Magnification、2：ピーキング：すべて、3：ゼブラ：すべて、4：WFM：すべて • キーロックは、ブラウザーリモートのアサインボタンに割り当てることができない。	118

システム設定メニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
電源ナビゲーション	**必要な電源を確認する**、使用可能な記録設定を確認する、キャンセル	26
省電力モード	入、**切**	26
リセット		–
全設定	全設定：アワーメーターを除く本機の設定を初期状態に戻す（動画モード時の設定のみ）。 アサインボタン：アサインボタンの機能割り当て設定を初期状態に戻す。	
アサインボタン		
メニュー／CP 設定保存		131
保存	カメラ本体へ、SDカードへ	
読み出し	カメラ本体から、SDカードから	
タイムゾーン	UTC －12:00 ～ ＋14:00（**UTC+09:00　東京/ソウル**）	17
日付／時刻	YYYY.MM.DD hh:mm	17
日時スタイル	**YMD**、YMD/24H、MDY、MDY/24H、DMY、DMY/24H	17
言語	**日本語**、English 表示されるメニューやメッセージなどの言語を選ぶ。	–
HDMI出力形式	**4096x2160P / 3840x2160P**、1920x1080P、1920x1080i、1280x720P	144
HDMIモニター連動	**入**、切	144
Time Codeモード	**Preset**、Regen.	94
Time Code Run	**Rec Run**、Free Run	94
Time Code DF/NDF	**DF**、NDF	94
Time Code設定	[59.94 Hz] 00:00:00.00 ～ 23:59:59.29 [50.00 Hz] 00:00:00.00 ～ 23:59:59.24 [24.00 Hz] 00:00:00.00 ～ 23:59:59.23	94
TC In/Out	**In**、Out	96
User Bit記録モード	**Internal**、External	96
User Bitタイプ	**設定**、時刻、日付	95
グリップ電子ダイヤル 上面電子ダイヤル コントロールリング	**アイリス**、ISO／ゲイン、ホワイトバランスモード、ホワイトバランス（K）、 ホワイトバランス（CC）、被写体切り換え、切 各電子ダイヤル／コントロールリングに割り当てる機能を選ぶ。「被写体切り換え」にすると、顔検出／瞳検出におけるメインの顔／瞳の切り換えができる。上面電子ダイヤルとコントロールリングの初期設定は「切」である。	73 76 80 87

設定項目	設定値／内容	🕮
グリップ電子ダイヤル方向 上面電子ダイヤル方向 コントロールリング方向 SELECTダイヤル方向	リバース、**ノーマル**	–
	各電子ダイヤル／コントロールリング／SELECTダイヤルの操作方向を選ぶ。	
電子ダイヤル FUNC／MENU操作	無効、**有効**	18
	メニュー設定、ダイレクトタッチコントロール、カメラダイレクト設定、ステータス画面における、電子ダイヤルによる操作の有効／無効を切り換える。	
フォーカスリング操作	**AF時有効**、AF時無効	–
フォーカスリング方向	リバース、**ノーマル**	–
	RFレンズのフォーカスリングの操作方向を選ぶ。	
フォーカスリングレスポンス	**回転速度に応じて変動**、回転量に連動	–
フォーカス／コントロールリング	**フォーカスリング**、コントロールリング	–
	RF-Sレンズのフォーカス／コントロールリングに割り当てる機能を選ぶ。「コントロールリング」にすると、フォーカスはAFになる。	
電源オフ時のキーロック保持	入、**切**	22
キーロック	すべてのボタン、**RECボタン以外**	22
RECボタン	無効、**有効**	44
	RECボタンの有効／無効を切り換える。	
アサインボタン10へのREC割り当て アサインボタン13へのREC割り当て	入、**切**	118
	カメラアサイン10/13ボタンに「REC」を割り当てる。	
REC／STBYタッチボタン	入、**切**	44
	撮影画面上の「●REC」／「STBY」のタッチによる、記録開始／停止操作を可能にする。	
タッチ操作レスポンス	**ノーマル**、ロー	16
タリーランプ	**入**、切	10
	「入」にすると、本機の起動や撮影の状態に応じて電源ランプ／タリーランプが点灯する。	
カードアクセスLED	**入**、切	32
	「入」にすると、カードにアクセスしたときに、アクセスランプが点灯する。	
ファンモード	オート、**常時**	41
ファン速度（STBY）	強制冷却、ハイ、ミドル、**ロー**	41
ファン速度（REC） ファン速度（常時） ファン速度	ハイ、ミドル、**ロー**	41
レックレビュー	**クリップ先頭から**、最終4 sec	53
GPS自動時刻設定	入、**切**	–
	GPSから得られる時刻情報を使って、本機の「日付／時刻」を自動的に設定する。 • GPS自動時刻設定が有効のときは、MENU > システム設定 >「日付／時刻」を変更できない。 • 動画撮影中は、時刻設定を行わない。	
USBモード	映像出力(UVC)、iPhone Canonアプリ、**PTP接続/GP-E2**	117
	別売のインターフェースケーブルを使って、本機にGPSレシーバー GP-E2を接続するときは、「PTP接続/GP-E2」を選ぶ。	

設定項目	設定値／内容	🕮
電源オフ時のレンズ収納	**入**、切	228
	レンズのフォーカスモードスイッチをAFにして電源を切ると、自動的にレンズの全長を最短に収納できる（対応レンズの使用時 🕮 229）。 「入」にして電源を切ると、フォーカス位置が移動するため、電源を切る直前のフォーカス位置をある程度維持したい場合は、「切」にしてください。ただし、フォーカス位置を保証するものではないため、電源を入れたときにフォーカス状態を確認してください。	
電源オフ時のシャッター状態	**閉じる**、開く	–
	電源スイッチを「OFF」にしたときに、シャッターを閉じるか閉じないかを設定する。 • レンズ交換時にセンサーへのゴミの付着を防止するため、通常は「閉じる」を選ぶ。 • 「開く」にすると、電源スイッチを「VIDEO」「OFF」にしたときの音を抑える（静かに撮影したいときなど）。	
センサークリーニング	電源オン／オフ時、**電源オフ時**、切	43
アワーメーターリセット	カメラ本体の使用時間（動画モードの場合のみ）として、購入時からの使用時間と、最後にこの設定でリセットしたときからの使用時間とがある。アワーメーターリセットでは、最後にリセットしたときからの使用時間をリセットする。	–
認証情報表示	本機が対応している認証情報の一部を確認できます。	–
Firmware		–
カメラ レンズ マウントアダプター パワーズームアダプター アクセサリー	本機（カメラ）、レンズ、マウントアダプター、パワーズームアダプター、アクセサリーのファームウェアのバージョン確認／更新を行う。	

★ マイメニュー

設定項目	設定値／内容	🕮
CAMERA-1～CAMERA-5		19
編集	登録、並べ換え、消去、設定初期化、メニュー名変更	

ステータス画面を表示する

撮影や再生に関する様々な設定内容や状態をステータス画面に表示して確認することができます。ステータス画面は、外部モニター（🕮 144）に出力することもできます。次にあげるステータス画面を表示できます。なお、一部のステータス画面は英語で表示されます。

1 アサインボタンに「ステータス」を割り当てる（🕮 118）

2 アサインボタンを押して、ステータス画面を表示する

- 最後に表示したステータス画面が表示される
- 「オーディオステータス」を割り当てたアサインボタンを押すと、オーディオ専用のステータス画面が表示される。

3 ジョイスティックを左右に押してステータス画面を切り換える

- カーソルをページ番号に移動してジョイスティックを左右に押すと、ページが切り換わる。
- メニューの操作と同様に、上面電子ダイヤル、グリップ電子ダイヤル、SELECTダイヤルで操作することもできる。

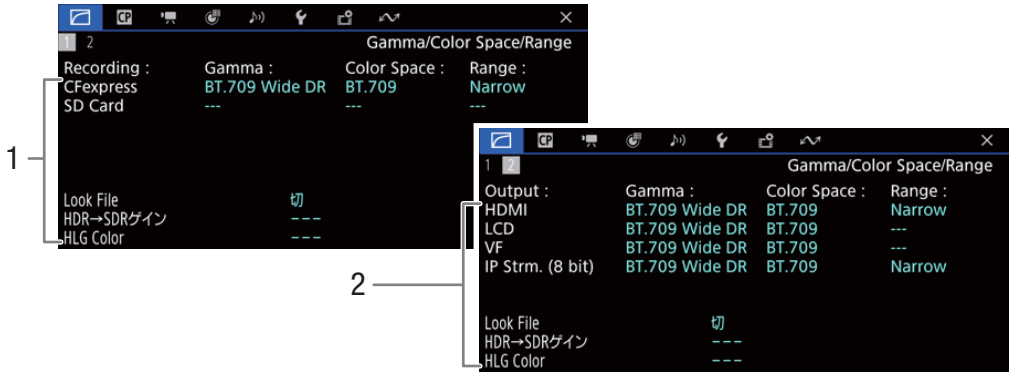
4 アサインボタンを再度押すか、✕を選ぶ

- ステータス画面が消える
- MENUボタンを押しても、ステータス画面が消え、メニューが表示される。

ステータス画面の詳細については、各画面のページをご覧ください。

ガンマ／色空間／レンジ　（🕮 189）
カスタムピクチャー　（🕮 190）
カメラ設定　（🕮 191）
アサインボタン　（🕮 192）
オーディオ設定　（🕮 193）
システム設定　（🕮 194）
記録/メディア設定　（🕮 195）
ネットワーク設定　（🕮 196）

ガンマ／色空間／レンジ（カメラモードのみ）

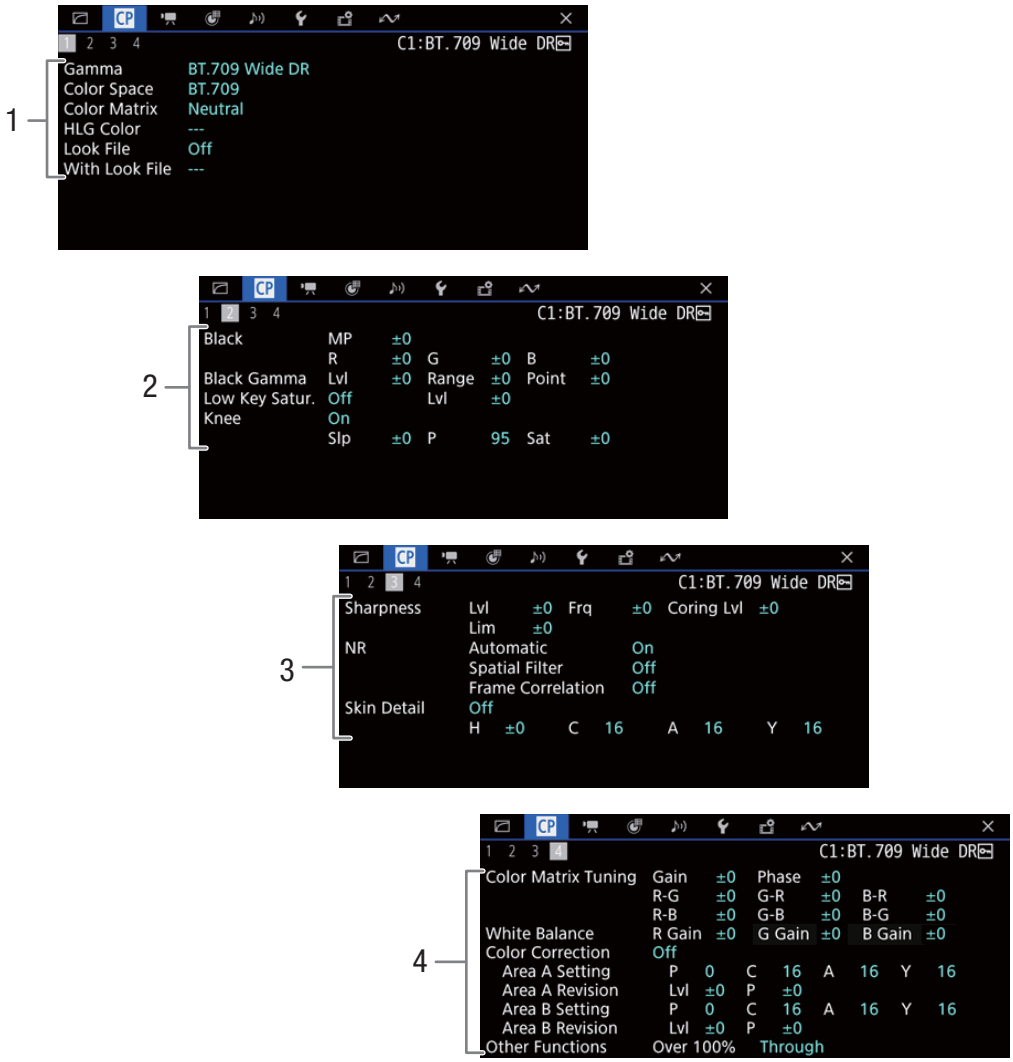


1　カード記録のガンマ／色空間／レンジ、Look File、HDR→SDRゲイン、HLG Color

2　HDMI OUT端子、LCDモニター、ファインダー、IPストリーミングのガンマ／色空間／レンジ、Look File、HDR→SDRゲイン、HLG Color

カスタムピクチャー（カメラモードのみ）

現在選択しているカスタムピクチャーファイルの設定内容を表示します。



1 ガンマ／色空間／カラーマトリクス／HLG Color／Look File／With Look File

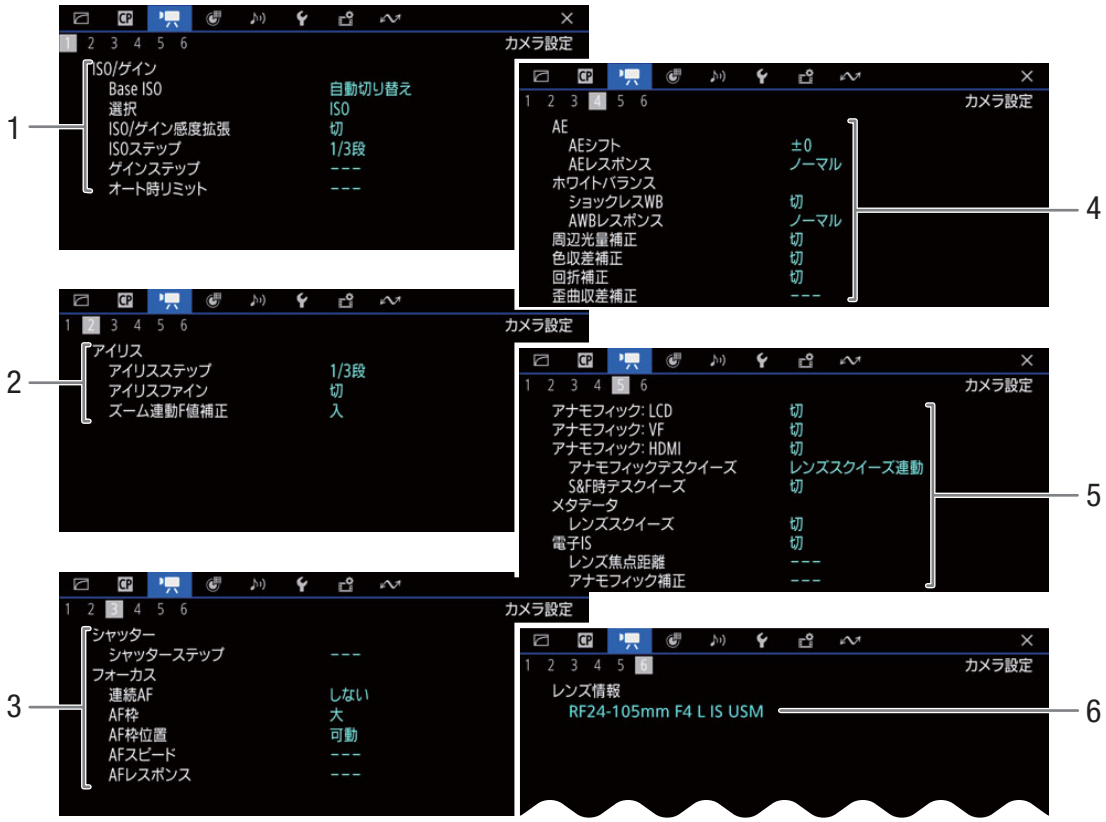
2 ブラック、ブラックガンマ、ローキーサーチュレーション、ニー

3 シャープネス、ノイズリダクション、スキンディテール

4 カラーマトリクスチューニング、ホワイトバランス、カラーコレクション、オーバー 100%

カメラ設定（カメラモードのみ）

ISO感度／ゲイン、アイリス、シャッタースピードや周辺光量補正などの撮影設定とレンズ型名情報を表示します。



1 ISO感度／ゲイン（72）
Base ISO、選択、ISO／ゲイン感度拡張、ISOステップ、ゲインステップ、オート時リミット

2 アイリス（76）
アイリスステップ、アイリスファイン、ズーム連動F値補正

3 シャッター（70）
シャッターステップ

フォーカス（82）
連続AF、AF枠、AF枠位置、AFスピード、AFレスポンス

4 AE（78）
AEシフト、AEレスポンス

ホワイトバランス（79）
ショックレスホワイトバランス、AWBレスポンス

周辺光量補正（25）

色収差補正（25）

回折補正（25）

歪曲収差補正（25）

5 アナモフィック：LCD（116）
アナモフィック：VF
アナモフィック：HDMI
アナモフィックデスクイーズ
S&F時デスクイーズ

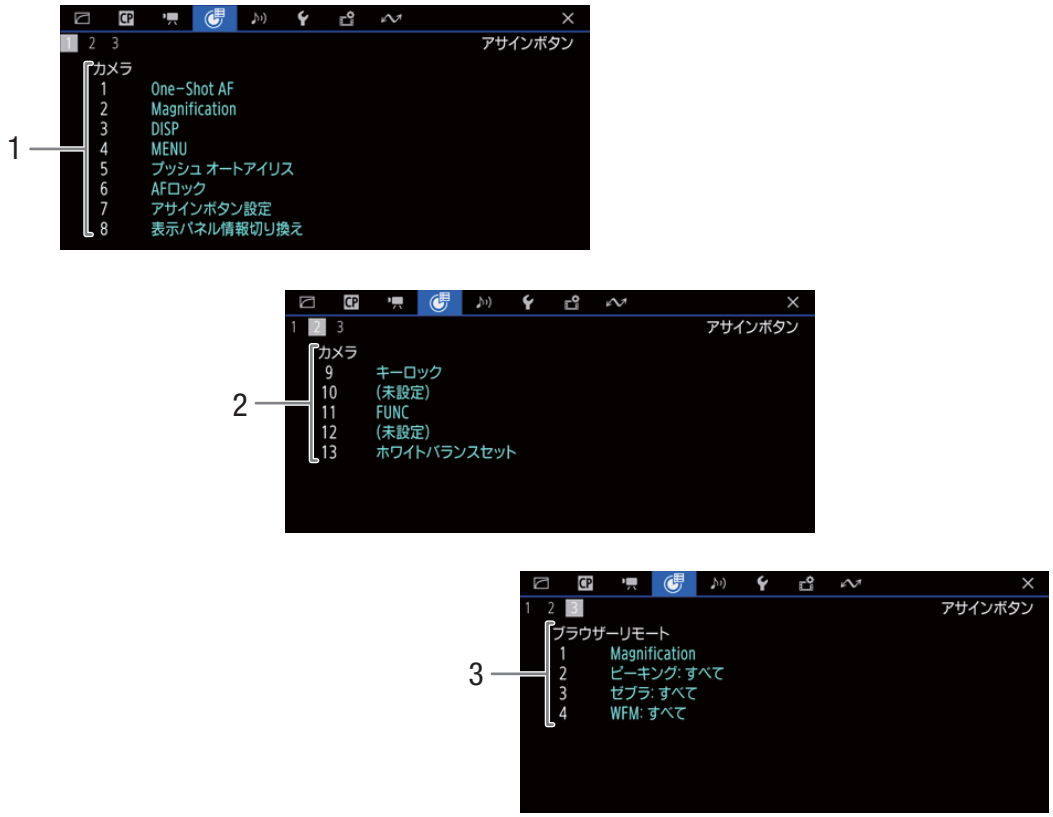
メタデータ
レンズスクイーズ

電子IS
レンズ焦点距離、アナモフィック補正

6 レンズ情報（24）

アサインボタン

アサインボタンに割り当てられている機能の一覧を表示します（118）。



1　カメラ1～8

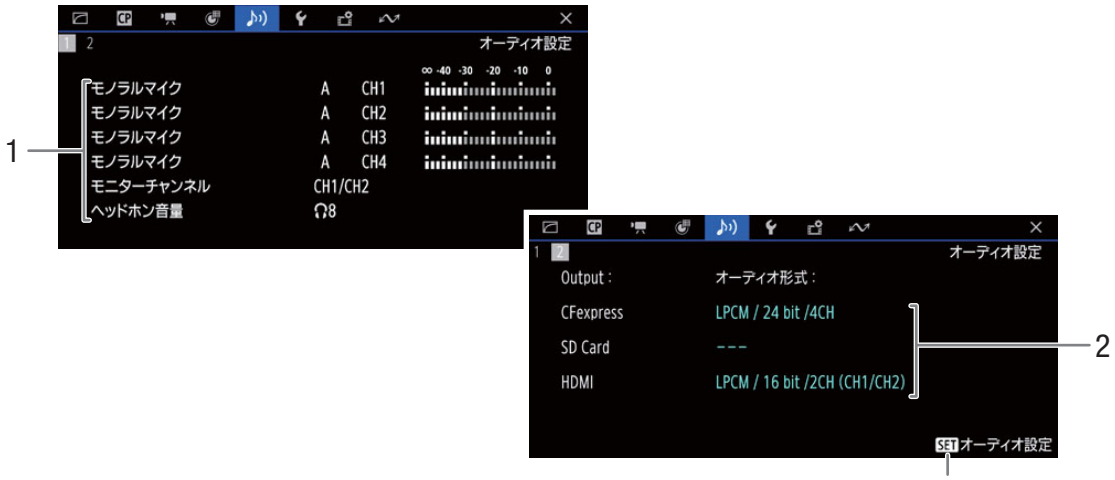
2　カメラ9～13

3　ブラウザーリモート1～4

オーディオ設定

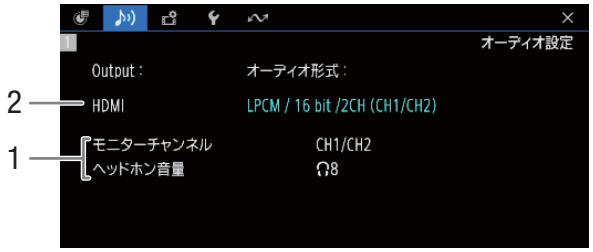
音声の記録、入出力などオーディオ関係の設定内容を表示します。

カメラモードのとき



SETボタンを押すと、♪)オーディオ設定メニューを表示（「オーディオステータス」を割り当てたアサインボタンで表示したときのみ）

メディアモードのとき



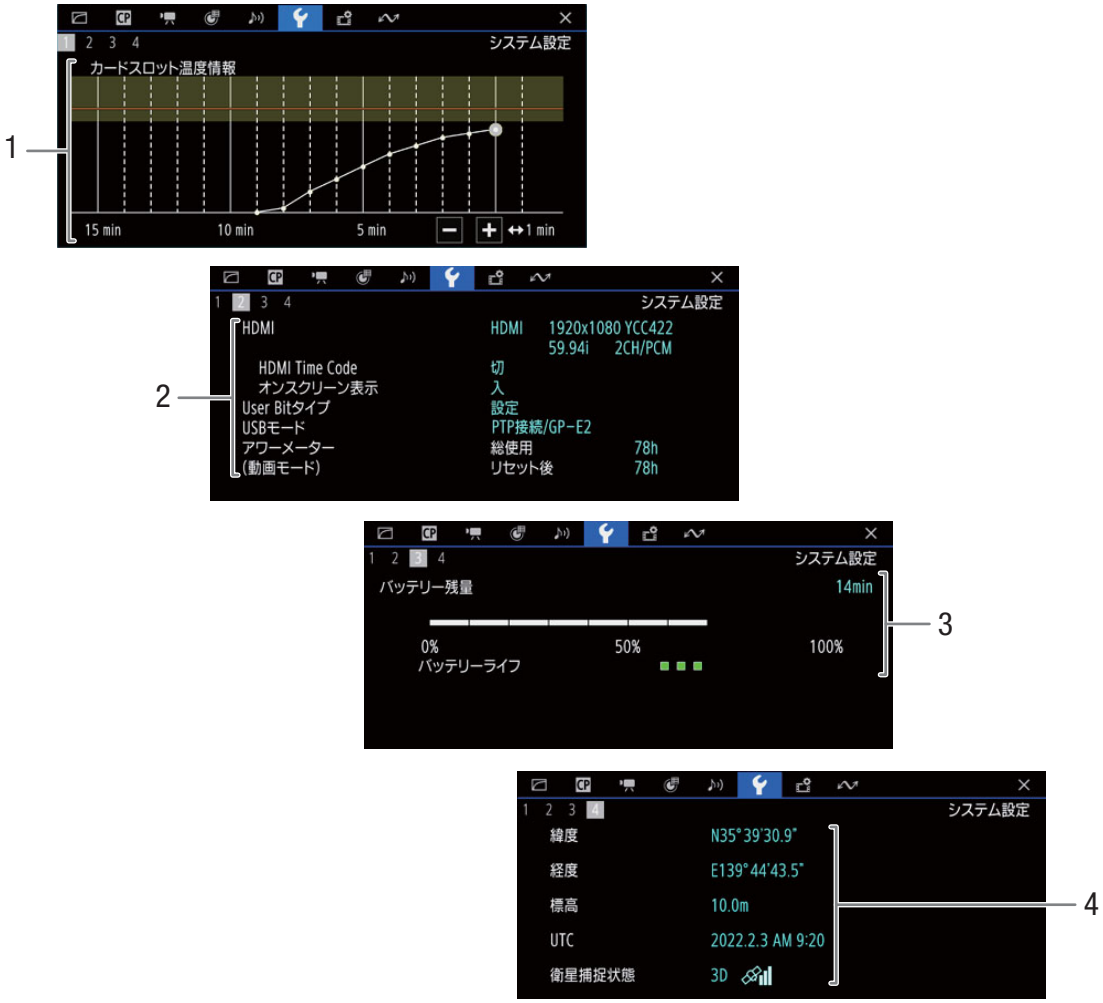
1 入力音声と録音レベルモード（CH1～CH4）（📖 98）

モニターチャンネル（📖 150）

ヘッドホン音量（📖 136）

2 記録（CFexpressカード／SDカード）、出力（HDMI OUT端子）する映像のオーディオ形式（📖 98）

システム設定



1 カードスロット温度情報

2 HDMI OUT端子の出力状態（144）
HDMIタイムコード*（144）
オンスクリーン表示（147）
ユーザービットタイプ*（95）
* カメラモードのみ。
USBモード
購入後／リセット後の使用時間
（アワーメーター（動画モード）188）

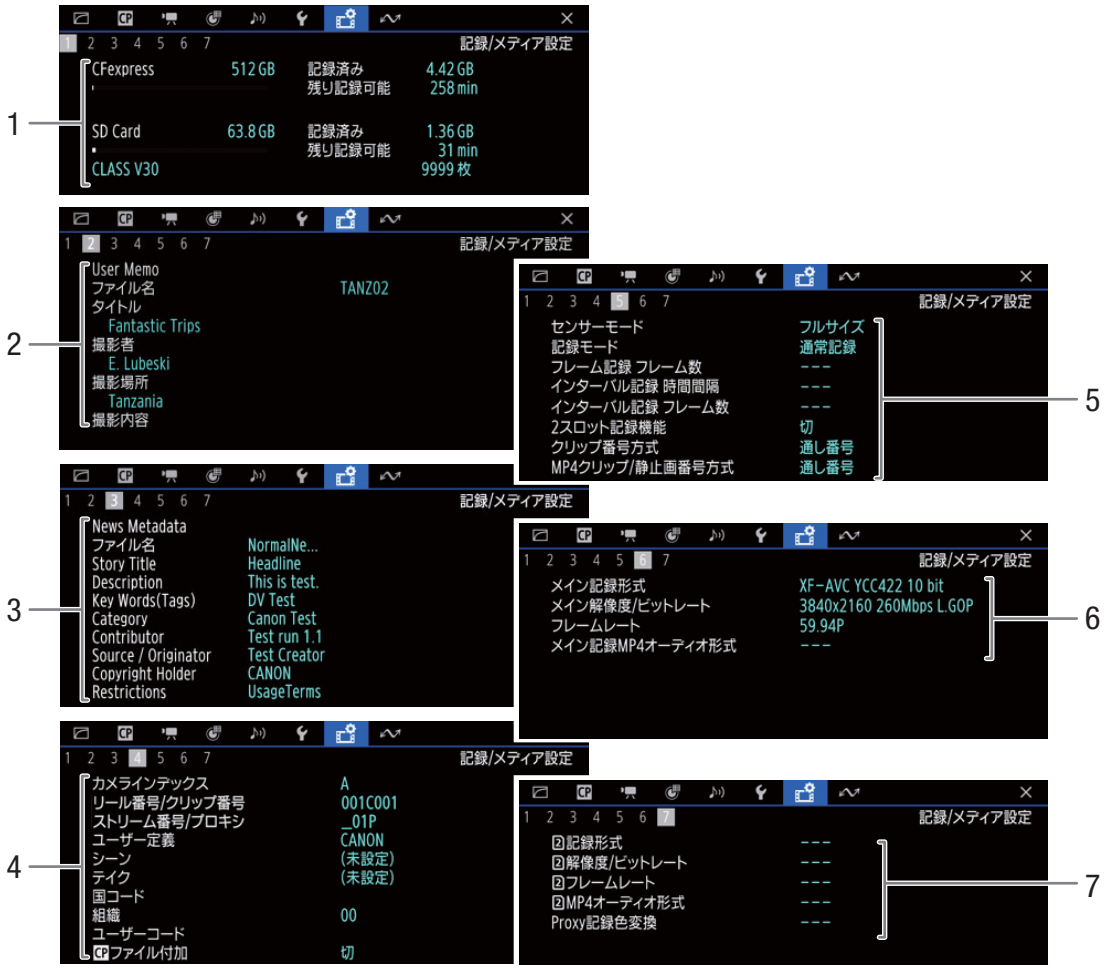
3 バッテリー残量
バッテリーライフ

4 GPS情報*
緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）、
衛星補足状態
* GPSレシーバー GP-E2接続時のみ。

カードスロット温度情報について
CFexpressカードスロットの温度状態を確認できます。カードの温度が上昇して一定温度を達すると、記録を停止することがあるため、記録停止の目安を事前に確認できます。
白線：温度分布*
帯（黄色）：警告温度範囲
赤線：前回、カードが高温になり記録を停止したときの温度
*電源スイッチを「OFF」にすると、折れ線グラフは途切れます。

記録/メディア設定

ページ2～ページ7は、メディアモードでは表示されません。



1 CFexpressカード／SDカード

総容量、記録済み容量、記録可能時間
静止画記録可能枚数（SDカード）、スピードクラス

2 ユーザーメモ

ファイル名、タイトル、撮影者、撮影場所、
撮影内容

3 News Metadata

ファイル名、Story Title、Description、Key Words(Tags)、Category、Contributor、Source / Originator、Copyrihgt Holder、Restrictions

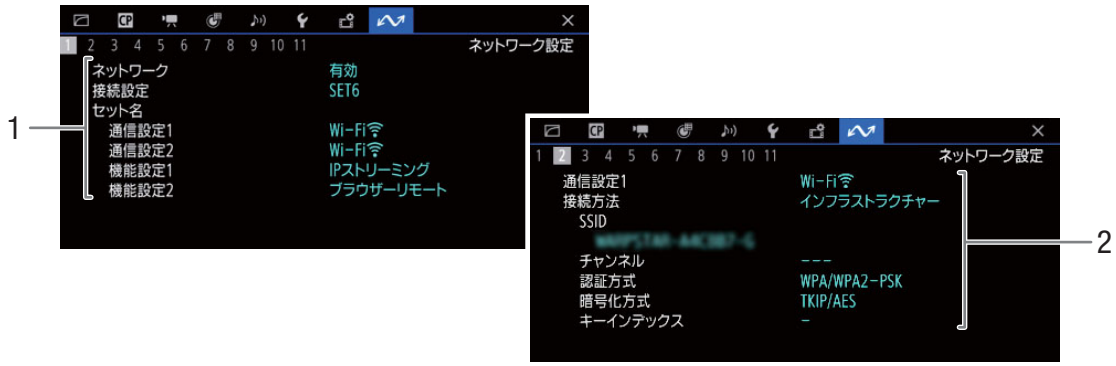
4 カメラインデックス、リール番号／クリップ番号、
ストリーム番号／プロキシ、
ユーザー定義（38）、シーン、テイク、
国コード、組織、ユーザーコード（107）
CP ファイル付加

5 センサーモード（56）
記録モード（36）
フレーム記録 フレーム数（113）
インターバル記録 時間間隔（114）
インターバル記録 フレーム数（114）
2スロット記録機能（36）
クリップ番号方式（38）
MP4クリップ／静止画番号方式（40）

6 メイン記録形式
メイン解像度／ビットレート
フレームレート（56）
メイン記録MP4オーディオ形式（98）

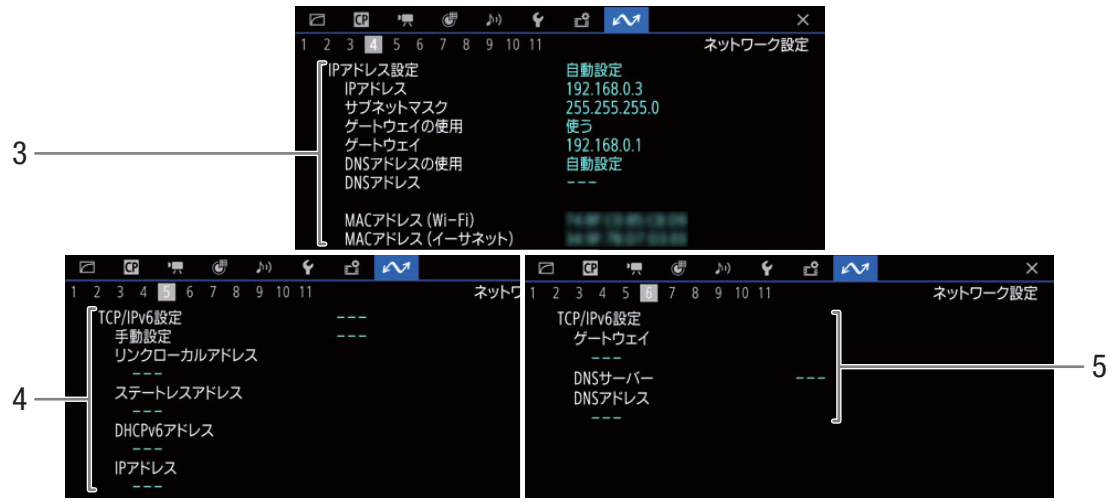
7 ②記録の記録形式
②記録の解像度／ビットレート
②記録の記録フレームレート（60）
②記録のMP4オーディオ形式（98）
Proxy記録色変換（68）

ネットワーク設定



1 ネットワーク（有効／無効）
接続設定
セット名
通信設定1／2、機能設定1／2

2 通信設定1／2
接続方法
SSID、チャンネル、認証方式、暗号化方式、
キーインデックス

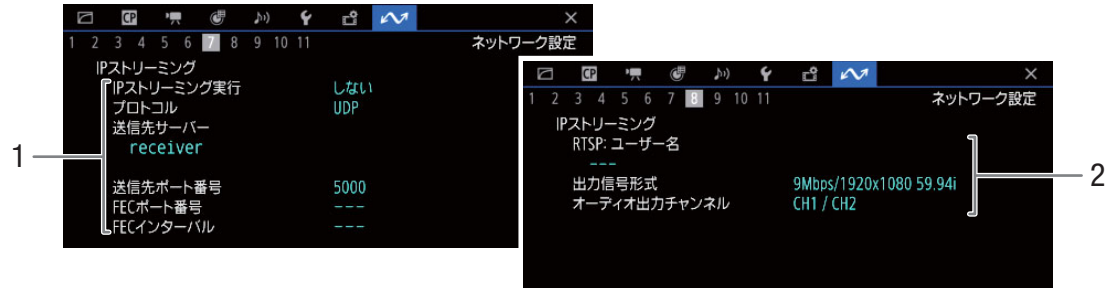


3 IPアドレス設定
IPアドレス、サブネットマスク、
ゲートウェイの使用、ゲートウェイ、
DNSアドレスの使用、DNSアドレス、
MACアドレス

4 TCP/IPv6設定
手動設定、リンクローカルアドレス、
ステートレスアドレス、DHCPv6アドレス、
IPアドレス

5 TCP/IPv6設定
ゲートウェイ、DNSサーバー、DNSアドレス

IPストリーミング（カメラモードのみ）



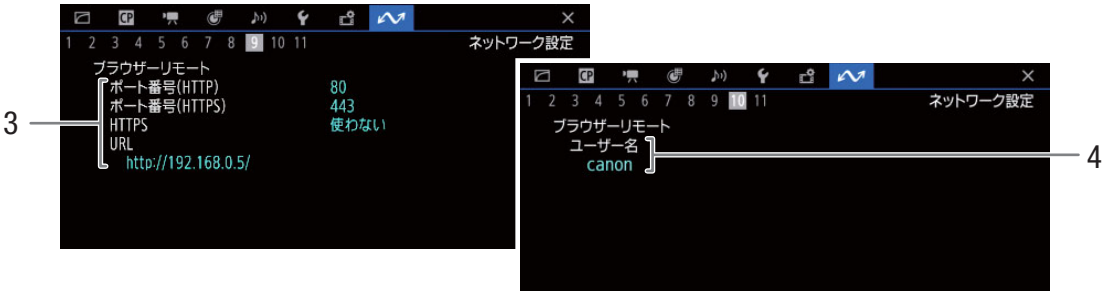
1　IPストリーミング

IPストリーミング実行、プロトコル、送信先サーバー、送信先ポート番号、FECポート番号、FECインターバル

2　IPストリーミング

RTSP：ユーザー名、出力信号形式、オーディオ出力チャンネル

ブラウザーリモート（カメラモードのみ）



3　ブラウザーリモート

ポート番号(HTTP)、ポート番号(HTTPS)、HTTPSの使用有無、URL

4　ブラウザーリモート

ユーザー名

FTP転送（メディアモードのみ）

5　FTP転送

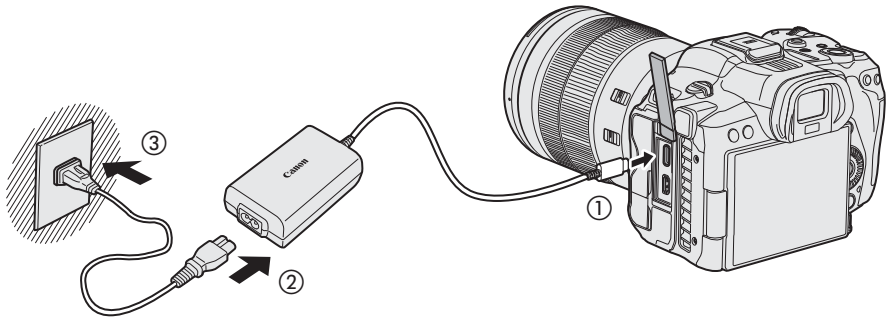
FTPモード、ユーザー名、転送先サーバー

Canonアプリ

6　Canonアプリ
　　接続先の名称、USBモード

USB電源アダプターを使う

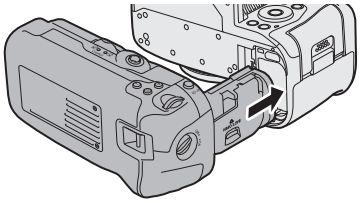
USB電源アダプター PD-E1（別売）を使用して、カメラ内のバッテリーパック LP-E6NHまたはLP-E6Nを充電することができます。また、カメラへの給電を行うことができます。**バッテリーパック LP-E6は充電できません。**カメラへの取り付け方などの詳細については、詳細ガイド「静止画編」をご参照ください。
USB電源アダプターは、バッテリーパックをカメラに取り付けた状態で使用します。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。



- カメラの電源スイッチを「VIDEO」にすると給電のみを行い、充電はされません。
- カメラの電源スイッチを「OFF」にすると給電から充電に切り換わります。

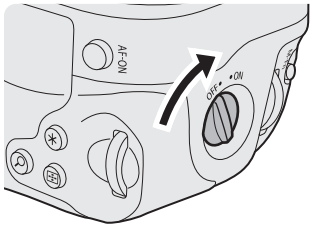
バッテリーグリップを使う

バッテリーグリップBG-R10（別売）は、縦位置撮影用のボタンやダイヤル、バッテリー 2個による電力供給機能などを備えた、カメラ用アクセサリーです。カメラへの取り付け方は、詳細ガイド「静止画編」をご参照ください。

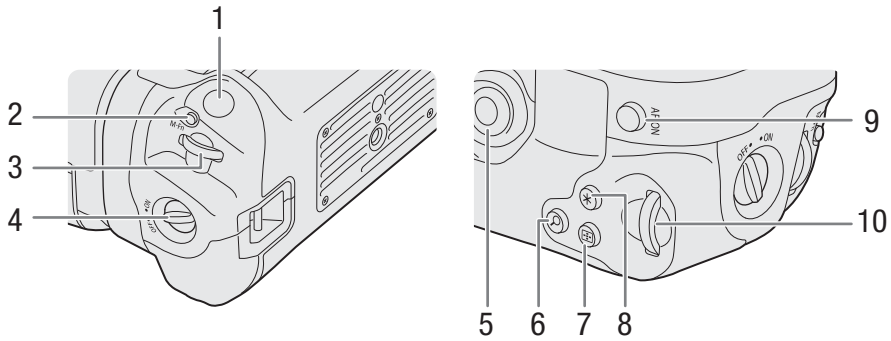


ボタンやダイヤルの操作

縦位置操作スイッチをON にすると、ボタンやダイヤルが操作できます。



電源スイッチを「VIDEO」にしたとき、各ボタンやダイヤルの操作方法は、カメラ本体の動画モードと同じです。



	静止画モード	動画モード
1	シャッターボタン	REC（記録開始／停止）ボタン
2	<M-Fn>マルチファンクションボタン	FUNC（ファンクション）ボタン、アサイン11ボタン
3	<メイン電子ダイヤル>	グリップ電子ダイヤル
4	縦位置操作スイッチ	縦位置操作スイッチ
5	<マルチコントローラー>	ジョイスティック
6	<拡大／縮小ボタン>	MAGN.（拡大）ボタン、アサイン2ボタン
7	<AFフレーム選択ボタン>	AF LOCKボタン、アサイン6ボタン
8	<AEロック／FEロックボタン>	AUTO IRISボタン、アサイン5ボタン
9	<AF-ON>AFスタートボタン	AF-ONボタン、アサイン1ボタン
10	<サブ電子ダイヤル2>	上面電子ダイヤル

MEMO

- バッテリーグリップ 使用時もバッテリー情報が表示されます。
- バッテリーパック使用時とバッテリーグリップ使用時の撮影可能な条件は、同じです。

ワイヤレスファイルトランスミッターを使う

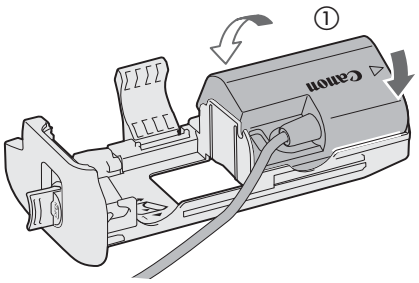
ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10（別売）は、カメラに取り付けることでLAN機能を拡張できるカメラ用アクセサリーです。WFT-R10をEOS R5 Cに取り付けて使用するとき、静止画モードと動画モードの場合で操作が異なります。また、家庭用電源を使用するときに使用する電源アクセサリーが異なります。
カメラへの取り付けかたや静止画モードでの操作、WFT-R10の詳細については、WFT-R10の説明書をご覧ください。

家庭用電源を使用するとき

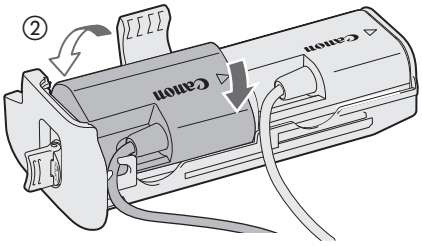
家庭用電源を使用するとき、WFT-R10に取り付けるEOS R5 C用電源はDCカプラー DR-E6C（別売）です。

1 DCカプラーを取り付ける

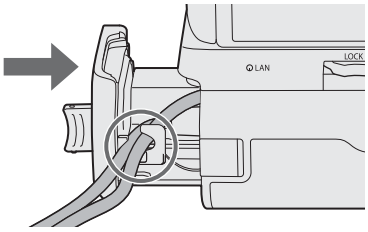
- ①にはDCカプラー DR-E6Cを、バッテリーと同じ手順でバッテリーマガジンに取り付けます。



- ②にはDCカプラー DR-E6CまたはDR-E6（別売）を取り付けます。

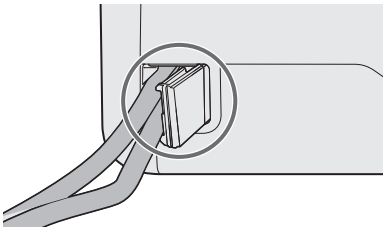


- DCカプラーのコードをバッテリーマガジンの通し溝に通します。
- バッテリーマガジンを奥まで入れて固定します。



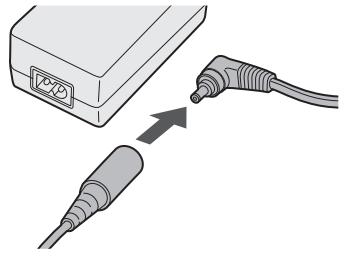
2 バッテリーマガジンを取り付ける

- コードは通し部から出します。



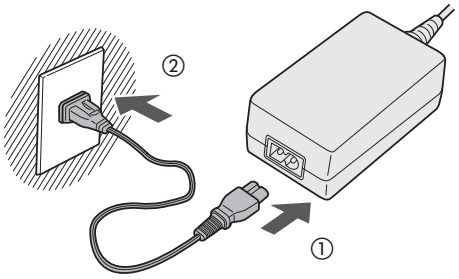
3 DCカプラーとACアダプターを接続する

- DCカプラー DR-E6Cのコネクターと ACアダプター CA-946（別売）のDCプラグをしっかりと接続します。
- DCカプラー DR-E6を使用時は、プラグをACアダプター AC-E6N（別売）のコネクターをしっかりと接続します。



4 電源コードを接続する

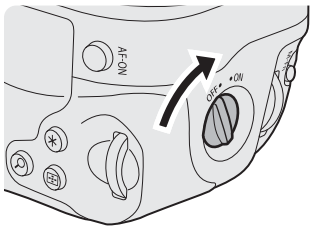
- 電源コードをACアダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。



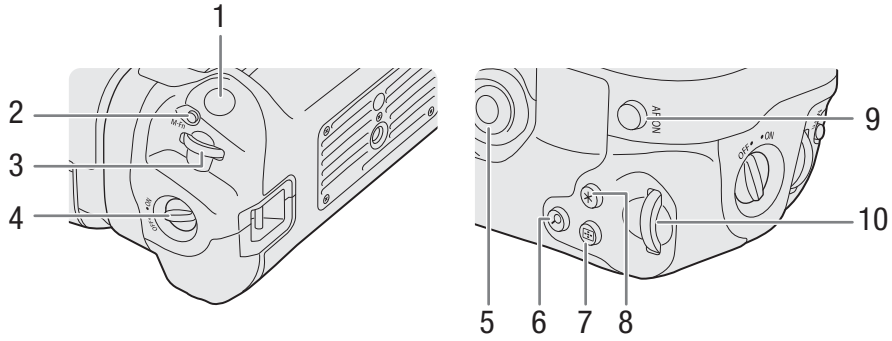
ボタンやダイヤルの操作

ボタンやダイヤルの操作方法は、カメラ本体と同じです。

縦位置操作スイッチをON にすると、ボタンやダイヤルが操作できます。



- 各ボタンやダイヤルの操作方法は、カメラ本体と同じです。



	静止画モード	動画モード
1	シャッターボタン	REC（記録開始／停止）ボタン
2	<M-Fn>マルチファンクションボタン	FUNC（ファンクション）ボタン、アサイン11ボタン
3	<メイン電子ダイヤル>	グリップ電子ダイヤル
4	縦位置操作スイッチ	縦位置操作スイッチ
5	<❊>マルチコントローラー	ジョイスティック
6	<🔍>拡大／縮小ボタン	MAGN.（拡大）ボタン、アサイン2ボタン
7	<⊡>AFフレーム選択ボタン	AF LOCKボタン、アサイン6ボタン
8	<✳>AEロック／FEロックボタン	AUTO IRISボタン、アサイン5ボタン
9	<AF-ON>AFスタートボタン	AF-ONボタン、アサイン1ボタン
10	<サブ電子ダイヤル2>	上面電子ダイヤル

トラブルシューティング

動画モードでの使用時、修理に出す前にこの「トラブルシューティング」で説明する内容をもう一度確認してください。それでも直らないときは、カメラ修理センター（🕮 240）にご相談ください。

電源

詳細ガイド「静止画編」（「故障かな？と思ったら」の「電源関連」）をあわせてご参照ください。

電源が入らない。または途中で電源が切れる。

- バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する（🕮 13）。
- バッテリーを正しく取り付け直す（🕮 14）。

起動直後に電源が自動的に切れる。

- 本機で使用できないバッテリーを取り付けた。本機に対応するバッテリーに交換する（🕮 222）。

常温でバッテリーの消耗が極端に早い。

- バッテリーの寿命の可能性がある。システム設定ステータス画面（🕮 194）でバッテリーの寿命を確認し、寿命がないときは、新しいバッテリーを購入する。

撮影中

カメラ本体の操作が利かない。

- キーロックを設定していると、すべての操作、またはRECボタン以外の操作が無効になる*。LOCK（キーロック）ボタンを押して、キーロックを解除する。
  * MENU > システム設定 >「キーロック」で変更可能（🕮 187）。

REC操作を行っても録画しない。

- カードに空き容量がない。または999クリップ記録されている。別のカードと入れ換える。または不要なクリップを消すか（🕮 140）、記録されているクリップをバックアップして初期化する（🕮 33）。
- MENU > システム設定 >「キーロック」（🕮 187）を「すべてのボタン」に設定して、キーロック中にRECボタンを押した。キーロック（🕮 22）を解除するか、設定を「RECボタン以外」に変更する。
- MENU > システム設定 >「RECボタン」、「アサインボタン10／13へのREC割り当て」、「REC／STBY タッチボタン」のうち、使用している操作方法が無効になっている。有効にする。
- カメラに供給している電源の電圧が低下している。電源を確認する。
- カスタムピクチャーの「Color Correction」で調整中は録画できない（🕮 130）
  （Area A(B) Revision LevelまたはArea A(B) Revision Phaseの調整中を除く）

REC操作を行った時点と、記録されたクリップの始めと終わりの時点が異なる。

- REC操作を行ってから、録画の開始／終了までに、多少時間がかかることがある。故障ではない。

レンズが動作しない。

- 本機の電源を切り、レンズを正しく装着し直す（🕮 23）。
- 本機で使用できないレンズを取り付けた（🕮 228）。
- 画面にエラーメッセージが出たときは、メッセージの内容を確認し、対処をする（🕮 211）。
- MENU > システム設定 >「電源ナビゲーション」で、レンズ、アクセサリー、記録設定、電源が使用可能な組み合わせであるかを確認する。使用可能な電源や記録設定に変更する。

ピントが合わない。

- オートフォーカスでフォーカスを調整するとき、被写体によってはピントが自動で合いにくいことがある。手動でピントを調整する（🕮 82）。
- 連続AFが「合焦付近のみ」のときは、合焦付近（連続AF枠が黄色から白色に変わる）まで手動で調整する。
- ファインダーの視度が合っていない。視度調整レバーで画面がはっきり見えるように調整する（🕮 29）。
- レンズが汚れているのでお手入れする。

被写体が横切るとき、被写体がゆがんで見える。

- 撮像素子にCMOSセンサーを使用しているため、本機の前を被写体が素早く横切ると、少しゆがんで見えることがある。故障ではない。

画面に赤、緑、青の輝点が出る。

- ブラックバランス調整を行うと改善することがある（🕮 42）。高度な精密技術で作られている撮像素子（CMOSセンサー）が、宇宙線などの影響を受けると、まれに画面上に小さな輝点（赤、緑、青）ができることがある。これは、撮像素子の原理によるもので、故障ではない。なお、次の場合は画面上に生じる輝点が見えやすくなる。
  - 高温の場所で使用するとき。
  - ISO感度／ゲインが高いとき。
  - シャッタースピードのモードがスローのとき。

画面に通常出ない映像が出て、動画を正しく記録できない。

- 消耗したバッテリーを装着し、ACアダプターをつないで動画記録中に、ACアダプターが抜かれた。または、停電した。ACアダプターを再度つないで本機の電源を入れ直すか、十分に充電したバッテリーと交換する。

動画の「● REC」／「STBY」の切り換えに時間がかかる。

- クリップ数が多いとこのようになることがある。別のカードと入れ換えるか、クリップをバックアップしてカードを初期化する（🕮 33）。

動画を正しく記録できない。

- 記録や消去を繰り返すと、このようになることがある。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（🕮 33）。

長時間使うと熱くなる。

- 長時間使い続けると熱くなることがあるが、そのまま使用しても問題ない。
  本機の温度が急激に上昇したり、持てないほど熱くなったときは故障の可能性がある。カメラ修理センター（🕮 240）にご相談ください。

再生中

クリップの消去ができない。

- OKマークが付加されたXF-AVCクリップは、本機では消去できない。OKマークを消去してからクリップを消去する（🕮 139）。
- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または🔒側になっているので、ロックを解除する。

クリップの消去に時間がかかる。

- クリップ数が多いとこのようになることがある。クリップをバックアップしてカードを初期化する（🕮 33）。

静止画を消せない。

- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または🔒側になっているので、ロックを解除する。
- 他機でプロテクトされた静止画は、本機では消去できない。

表示やランプ

画面に（赤色）が出る。

- バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する。

画面に が出る。

- 本機と通信できないバッテリーが取り付けられているため、使用可能時間を表示できない。

電源ランプ／タリーランプが点灯しない。

- MENU > システム設定 >「タリーランプ」を「入」にする。

電源ランプ／タリーランプが速く点滅する。

（1秒に4回の点滅）

- バッテリーが消耗している。十分に充電されたバッテリーと交換する。
- カード 1とカード 2に空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（🕮 140）。
- システムエラーが発生している。電源を入れなおしても解決しないときは、故障の可能性がある。カメラ修理センター（🕮 240）にご相談ください。

電源ランプ／タリーランプがゆっくり点滅する。

（1秒に1回の点滅）

- カード 1とカード 2の空き容量が少なくなっている。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（🕮 140）。

画面に 1 2 （赤色）が出る。

- カードエラー。電源を切り、カードを出し入れする。それでも赤く点灯しているときは、クリップ／静止画をバックアップしてカードを初期化する（🕮 33）。

画面に 1 2 （赤色）が出て、記録可能時間に「END」が表示される。

- カードに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、クリップと静止画を消す（🕮 140）。

撮影を中断してもアクセスランプが赤く点灯している。

- 撮影したクリップを記録メディアに書き込んでいる。故障ではない。

画面に （黄色）が出る。

- 本機内部の温度が高くなり一定の温度に達した。そのまま使用しても問題ない。

画面に （赤色）が出る。

- 画面に （黄色）が出ている状態で、さらに内部温度が高くなった。本機の電源を切り、温度が下がるまで使用を中止する。

画面に FAN （赤色）が出る。

- 冷却ファンが故障した可能性がある。数分後に電源が強制的に切れる。カメラ修理センター（🕮 240）にご相談ください。

画面に LENS （赤色）が出る。

- レンズと正常に通信できない。

画面のT値が灰色で出る。

- アイリス調整に対応するEFシネマレンズの使用時、絞りがクローズする可能性があるときに灰色に変わる。さらに絞って絞りがクローズすると、表示が「closed」に変わる。

画面や音

HDMIケーブルで接続しているときに、外部モニター／レコーダーに映像や音が出ない。

- HDMIケーブルを抜き差しするか、本機の電源を入れ直す。
- 出力信号に対応する外部モニター／レコーダーを接続する。
- ケーブルを交換する。

画面に、ピーキング／ゼブラ／WFM／マーカー／フォルスカラー／タリー OSDの表示、拡大表示、白黒表示が行われない。アナモフィック、ビューアシストが適用されない。

- 各設定項目の出力設定を行う。
- 画面表示が出力映像に重畳されていない。画面表示の重畳を「入」にする（🕮 147）。

画面がついたり消えたりを繰り返す。

- バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する。
- バッテリーを正しく取り付け直す。

画面に通常出ない文字が出たり、正常に動作しない。

- 電源を取り外し、メモリーカードを取り出す。しばらくしてから電源を取り付けて、メモリーカードを入れる。それでも解決しないときは、MENU > システム設定 >「リセット」>「全設定」を行う。アワーメーター（動画モードでリセット後の使用時間）を除く本機の設定が初期状態に戻る。

画面にノイズが出る。
- 磁石、モーターの近くや電波塔の近くなど、強い磁気や電波が発生する場所から離れて本機を使用する。

画面上部の画像が乱れる。
- メイン記録形式をHDMI RAW以外に設定する。

画面に横帯が出る。
- 撮像素子にCMOSセンサーを使用しているため、撮影時の照明によっては横帯が見えることがある。故障ではない。電源の周波数に応じたシャッタースピードを設定すると軽減することがある。電源周波数が50 Hzのときは1/50秒*、または1/100秒を、60 Hzのときは1/60秒、または1/120秒を設定する。
  * フレームレートによっては選択できない。

音声が記録されない。
- 外部マイクの電源が入っていないか、電池が消耗している。
- スロー＆ファストモーション記録で音声を記録するときは、記録モードを「Slow&Fastモーション／音声（WAV）」にする。

音がひずんだり、実際より小さく記録される。
- 録音レベルが適正でないと、このようになることがある。録音レベルをマニュアルで調整する（100）。マイクアッテネーターを使う（101）と、録音レベルを小さくすることができる。
- 録音レベルをマニュアルで調整していて、録音レベルをしぼっている。画面のオーディオレベルメーターで確認しながら適正なレベルに調整する（100）。

映像は出るが、内蔵スピーカーから音が出ない。
- スピーカーの音量が「切」になっているので、音量を調整する（136）。
- ヘッドホンをはずす。

アクセサリー

メモリーカードが入らない。
- カードは対応するカードスロットにそれぞれ正しい向きで入れる。

カードに動画、静止画を記録できない。
- 対応しているカードを確認する（31）。
- はじめて使用するカードは、本機で初期化する（33）。
- カードに空き容量がないか、または記録可能なクリップ数（999個）を超えた。カードの不要なクリップを消すか（140）、別のカードと入れ換える。
- クリップ番号が最大になった。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化（33）するか、クリップをすべて消す（140）。
- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または側になっているので、ロックを解除する。
- MP4クリップ／静止画に付けられるファイル番号が最大になったため、カードに記録できない。新しいSDカードを入れて、MENU > 記録/メディア設定 >「MP4クリップ／静止画番号方式」を「オートリセット」にする（180）。

カードへの書き込み／読み出しが遅くなった。
- 記録や消去を繰り返すとこのようになることがある。カードに記録されているデータをバックアップしたあと、カードを初期化する（33）。

他機

テレビの放送画面にノイズが出る。
- テレビの近くで使用するときは、テレビやアンテナケーブルからACアダプターを離す。

ネットワーク接続

ネットワーク接続に関するトラブルについては、ここで説明する内容をご確認ください。お使いのネットワーク機器の説明書も併せてご覧ください。

はじめに確認してください

- アクセスポイントやパソコンなどのネットワーク機器と本機の電源は入っていますか？
- ネットワークの設定が完了し、正しく動作していますか？
- パソコンなどのネットワーク機器は、本機と同じネットワークに正しく接続していますか？
- Wi-Fi接続の場合、本機をアクセスポイントまたはパソコンなどWi-Fi対応機器から見通しの良い場所に置いていますか？

アクセスポイントに接続できない。
カメラアクセスポイントで、本機に接続できない。

- 装着しているワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10が本機に正しく取り付けられているかを確認する。
- 接続方式アイコン*が黄色から白色に変わらないときは、本機の電源を切り、Wi-Fiアダプターを取り付け直す。
  * アクセスポイントのときは 、カメラアクセスポイントのときは。
- アクセスポイントに接続するときは、接続しようとしているネットワーク機器の設定が正しいか確認する。
- 本機の全設定をリセットすると、ネットワーク設定が解除される。初期設定で接続するか、再度設定を行う。
- 電波状況が悪いか、周囲の電子機器と電波が干渉している可能性がある。「Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法」を参考に対応する（210）。

イーサネットに接続できない。

- 装着しているワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10が本機に正しく取り付けられているかを確認する。
- 本機の電源を切り、ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10に接続しているイーサネットケーブルを接続し直す。
- イーサネットケーブルには、カテゴリー 5e以上のSTPケーブルを使用する。
- 別のイーサネットケーブルで接続する。
- 本機の全設定をリセットすると、ネットワーク設定が解除される。
- 本機と接続しているネットワーク機器が正しく動作しているか確認する。1000BASE-Tで通信するときはギガビットに対応したネットワーク機器を使用する。

ブラウザーリモートが起動できない。

- ブラウザーリモートで設定した接続設定を選んで接続する。
- ネットワーク機器のWebブラウザーに入力したURLが間違っている。MENU > ネットワーク設定 >「接続設定」> 使用する接続設定 >「設定内容確認」を選んで、表示されているIPアドレスを入力する（170）。

ネットワーク機器のWebブラウザーで、ブラウザーリモートの画面が正しく表示されない。

- ブラウザーリモートが対応していないOSやWebブラウザーを使用した。キヤノンのホームページで動作環境を確認する。
- Webブラウザーの設定で、CookieとJavaScriptが無効になっているときは、有効にする。

IPストリーミングが実行できない。

- 手順に従ってIPストリーミングを開始する（169）。
- IPストリーミングのプロトコルが「RTSP+RTP」以外のときは、「送信先サーバー」を設定する。
- 次のときはIPストリーミングを使用できない。設定を確認する。
  - スロー &ファストモーション記録、プレ記録、フレーム記録、インターバル記録、常時記録、2スロット記録、リレー記録、ダブルスロット記録を設定しているとき。
  - システム周波数が24.00 Hzのとき。
  - メイン記録形式がMP4（HEVC）形式またはRAW形式のとき。
  - 本機をWebカメラとして使用しているとき。

スマートフォンと接続できない。

- スマートフォンを本機と同じネットワークに接続していないときは、同じネットワークに接続する。
- スマートフォンのテザリング（インターネット共有）が無効になっているときは、有効にする。

Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法

ここでは、Wi-Fi接続に関する注意点と、トラブル発生時の一般的な対応方法を説明します。Wi-Fiを使用しているときに「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときには、以下の例を参考に対応してください。

ネットワーク機器（アクセスポイント／携帯端末）の設置のしかたについて

- Wi-Fiを室内で使用するときは、本機とネットワーク機器を同じ部屋に設置してください。
- 本機とネットワーク機器の間に人や遮蔽物が入らない、見通しの良い場所に設置してください。
- 本機とネットワーク機器をできるだけ近付けて設置してください。必要に応じて、設置する高さや向きを変えてください。

周囲の電子機器について

- 周囲にある電子機器の影響（電波の干渉）で通信速度が遅くなるときは、5 GHz帯の電波を使用するか、チャンネルを変更すると、問題を解消できることがあります。
- IEEE 802.11b / g / nのWi-Fiでは、電子レンジやコードレス電話機、ワイヤレスマイク、Bluetooth機器などと同じ2.4 GHz帯の電波を使用します。このため、周囲にこれらの機器があると通信速度が遅くなります。
- 装着しているWi-Fi対応アクセサリーと同じ周波数帯を使用するアクセスポイントが近くで稼動していると、通信速度が遅くなります。

Wi-Fi対応アクセサリーやアクセスポイントを複数台使用するとき

- 同一ネットワーク内の機器のIPアドレスが重複しないようにしてください。
- 同じアクセスポイントに本機を2台以上接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b / gまたはIEEE 802.11n （2.4 GHz帯）のアクセスポイントを複数台使用するときは、電波干渉を少なくするため、Wi-Fiのチャンネルの間隔を、「1、6、11」、「2、7、12」、「3、8、13」のように4チャンネル分空けてください。5 GHz帯の電波を使用するIEEE 802.11a / n / acが使用可能なときは、IEEE 802.11a / n / acに切り換え、異なるチャンネルを設定してください。その際、Wi-Fiのチャンネルの間隔は、使用する電波や帯域幅に応じて、必要なチャンネル分空けてください。
  例：IEEE 802.11acの場合、VHT80のときは8チャンネル分空ける。

エラーメッセージ

本機の画面にメッセージが出たときは、次のような対処をしてください。
メッセージ中に表示される以下の表示は、エラーが発生した記録メディア／カードスロットを表わします。
- 「CFexpress」、「1」：CFexpressカード（カード1、スロット1）
- 「SDカード」、「2」：SDカード（カード2、スロット2）

空き容量がありません
- カードに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（📖 140）。
- カード 1（カード 2）に空き容量がないため記録を開始できない。もう一方のスロットに切り換えてから撮影する。

アクセサリーが使用できない状態です
- 本機とマルチアクセサリーシューに装着しているアクセサリーの通信エラーが発生した。本機の電源を入れ直す。

アクセサリーが使用できない状態です
アクセサリーの電池の状態を確認してください
- マルチアクセサリーシューに装着しているアクセサリーの電池残量が少ない。電池を入れ換える。

アクセス中です
取り出さないでください
- カードに記録中にカードカバーを開けた。記録を停止してからカードを取り出す。

以下の設定が更新されました
- 記録/メディア設定メニューの変更に伴い、画面に表示されたメニュー項目が自動的に変更された。設定を確認する。

エラーが発生しました
電源を入れなおしてください
- エラーが発生した。本機の電源を入れ直す。それでも解決しないときは、エラーメッセージが表示されている状態で、MENUボタンを押しながら、本機の電源を切る。アワーメーターを除く本機の設定が初期化されるので、再度電源を入れる。

カード空き容量がわずかです
- 以下の空き容量不足が発生した。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（📖 140）。
  - 通常記録で記録中に、カードの空き容量が少なくなっている。
  - リレー記録で記録中に、カード 1とカード 2を合わせた空き容量が少なくなっている。
  - サブ記録、ダブルスロット記録で記録中に、カード 1とカード 2のうち、記録容量の少ないカードの空き容量がわずかになっている。
  - プロキシ記録で記録中に、カード 1（メイン動画）の空き容量が少なくなった。または、カード 2（プロキシ動画）のみ記録中にカード 2の空き容量が少なくなった。
  - 常時記録で記録中に、カード 2の空き容量が少なくなっている。

カードの誤消去防止ツマミを確認してください
- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または🔒側になっているため、カードに書き込めない。誤消去防止ツマミを反対側にする。

カードを確認してください
- カードにアクセスできない。カードが正しく入っているときはカードをいったん取り出し、カードに不具合がないか確認したあと、再度入れ直す。
- カードにエラーがあり記録や再生ができない。カードを出し入れするか、別のカードと入れ換える。
- マルチメディアカードを入れた。推奨のSDカードを入れる（📖 31）。
- 「カードを確認してください」が4秒後に消えて1、2 が赤く点灯するときは、電源を切り、カードを出し入れする。1 、2 が緑色に点灯すれば、そのまま記録や再生ができる。それでも赤く点灯しているときは、動画と静止画をバックアップして初期化する（📖 33）。

解像度7680x4320以上のMP4記録で「HDMI出力形式」が3840x2160以上のときは Magnificationを使用できません

- 記録形式がMP4で解像度が8192x4320／7680x4320の場合、HDMI OUT端子から4096x2160または3840x2160の映像出力時は、拡大表示できない。

下記の機能を使用中のため省電力モードを使用できません 「XXXXX」

- 表示された機能が有効のため、省電力モードを「入」にできない。「省電力モードのときに使用できない機能／設定」（🕮 26）を参照して、表示された機能を無効にする（使用できない設定以外に変更する）。
- 「カメラから給電するアクセサリー」については、装着しているアクセサリーの給電方法を変更するか、アクセサリーを取り外す。

画像がありません

- SDカードに静止画が記録されていない。静止画を記録してから再生する。

カバーがあいています

- カメラモードに切り換えたときに、メモリーカードカバーが開いていた。カードを入れたらカードカバーを閉じる。

カメラとレンズの通信不良です レンズの接点を清掃してください

- レンズ接点が汚れているので、本機とレンズが通信できない。画面にLENSアイコンが表示される。レンズの接点を柔らかい布などでふく。

管理ファイルエラー

- クリップの管理情報に書き込みできないため、記録できない。他の機器でカード内のファイルを操作すると、このようになることがある。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（🕮 33）。

記録を中止しました

- クリップの管理情報が壊れた*1か、またはエンコーダーにエラーが発生したため、記録できない。電源を入れなおしてカードを出し入れするか、別のカードと入れ換える。それでも解決しないときは、カメラ修理センター（🕮 240）にご相談ください。

クリップがありません

- カードにクリップが記録されていない。クリップを記録してから再生する。

クリップ数がいっぱいです

- 記録中のカードがクリップ数の上限（999個）に達した。もう一方のスロットに切り換えるか、別のカードと入れ換える。
- ダブルスロット記録時に、両カードのクリップ数がいっぱいで記録できない。

現在のGamma/Color Space設定では「メイン記録形式」を10 bitに設定することをお勧めします

- メイン記録形式のビット数が8 bitのときに、カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」に色空間が「C.Gamut」または「BT.2020」の項目を設定した。またはその逆。設定したGamma/Color Spaceの特性を生かすには、ビット数を10 bitにすることをおすすめします。

このカードでは動画記録できないことがあります

- 本機で使用する条件を満たさないカードを入れた。「使用可能な記録メディア」を確認する（🕮 31）。

この設定を変更すると、現在のLook Fileを使用できません

- カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」、「HLG Color」、「Over 100%」が、Lookファイルを登録したときの設定から変更されたため、Lookファイルによる画質調整を有効にできない。前記の設定をLookファイル登録時の設定に戻すか、Lookファイルを登録し直す。

再生できない画像です

- 他機で記録したり、パソコンで作成や加工をしたりした静止画は再生できないことがある。

再生できません

- XF-AVCクリップの管理情報が壊れた*1か、またはデコーダーにエラーが発生したため、再生できない。電源を入れなおしてカードを出し入れする。それでも解決しないときは、カメラ修理センター（🕮 240）にご相談ください。
- メモリーカードの読み出し速度が遅いため、再生を中断した。記録／再生には推奨のカードを使用する。

*1 破損した管理情報は修復できません。また、管理情報が破損したカードやXF-AVCクリップを、ソフトウェア（Canon XF Utility）で読み込むことはできません。

修復が必要なクリップがあります
- 記録中に停電したり、記録中にカードを取り外したりしたことにより、クリップに異常が発生した。クリップを修復する（🕮 34）。

修復が必要なWAVファイルがあります
- 記録中に停電したり、記録中にカードを取り出したりしたことにより、音声ファイル（WAV）に異常が発生した。音声ファイルを修復する（🕮 34）。

省電力モード中です　カメラからアクセサリーに給電できません
- 省電力モード中、カメラからの給電が必要なアクセサリーは使用できない（🕮 26）。

省電力モード中のため下記の設定値は使用できません
XXXXX
- 省電力モード中、一部の設定値は使用できない。「省電力モードのときに使用できない機能／設定」（🕮 26）を確認する。

省電力モード中のため使用できません
- 省電力モード中は、「省電力モードのときに使用できない機能／設定」（🕮 26）に記載の項目は使用できない。

スロット切り換えできません
- 撮影中など、カードスロットの切り換えができないときにスロットを切り換えようとした。撮影終了後にスロットを切り換える。

操作は無効です
- 次にあげる無効な操作を行った。
  - メディアモードで再生中、同じフレームにショットマークを付加しようとした。
  - OKマーク、チェックマークを同じクリップに付加しようとした。
  - 記録メディアが入っていないときに、RECボタンを押した。

装着されている電源において
現在の記録設定ではレンズが動作しません
詳しくは「電源ナビゲーション」で確認してください
- MENU > ⚙ システム設定 >「電源ナビゲーション」で、使用可能なレンズ、電源、記録設定の組み合わせを確認する（🕮 26）。

装着されている電源において
現在の記録設定ではレンズが動作しません
「VF倍速駆動」を「切」にすることをお勧めします
- 現在の設定で「VF倍速駆動」を使用するには電力が足りない。「VF倍速駆動」を「切」にする（🕮 29）。

装着されているレンズアクセサリーはカメラが対応していないため正しく動作しないことがあります
- 非対応のレンズアクセサリーを取り付けた。一部の機能が正しく動作しない可能性がある。

装着されているレンズが本機で正しく動作するためにはレンズのファームウェアのアップデートが必要です
- レンズの最新のファームウェアについては、キヤノンのホームページで確認してください。

装着されているレンズはカメラが対応していないため正しく動作しないことがあります
- 非対応のレンズを取り付けた。一部の機能が正しく動作しない可能性がある。

装着されているレンズは
カメラが対応していないため動作しません
- 非対応のレンズを取り付けた。

装着しているレンズとマウントアダプターの組み合わせで使用する場合、一部の機能が正確に動作しないことがあります
キヤノンのWebサイトをご確認ください
- 装着しているレンズとマウントアダプターの組み合わせで本機を使用する場合、焦点距離やF値の表示は目安として使用する。また、一部の機能が正確に動作しないことがある。

データの確認と初期化をお勧めします
- 次の理由によりカードを使用できない。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（🕮 33）。
  - カードに異常があるため、記録・再生できない。
  - カードの情報が取得できない。
  - パソコンなど他の機器で初期化されている。
  - カード内にパーティションが設定されている。

電圧が低下しました
電源を確認してください
- 電源（DCカプラー）の入力電圧や、バッテリーの撮影／再生可能時間が、電源警告値に達した。電源を確認する。
- 電源が上記の状態のときに、RECボタンを押した。

電力不足です
レンズは動作しません
- 電源と記録設定を、装着しているレンズが使用できない組み合わせに変更した。MENU > システム設定 >「電源ナビゲーション」で、装着しているレンズが使用できる電源と記録設定の組み合わせを確認する（🕮 26）。

バッテリー残量が少ないため変更できません
- バッテリーの残量が少ないため、「省電力モード」を「切」にできない。

バッテリー通信エラー
ご使用のバッテリーにCanonロゴはありますか？
- キヤノンの推奨以外のバッテリーを取り付けて、電源を入れた。
- キヤノン推奨のバッテリーを使用している場合は、カメラ本体またはバッテリーの故障の可能性がある。カメラ修理センター（🕮 240）にご相談ください。

バッテリーパック、または、DCカプラーを
装着してください
- USB電源アダプターの使用が一定時間に達した。バッテリーパックまたはDCカプラーを本機に取り付ける。

バッファオーバーです
記録を中止しました
- メモリーカードの書き込み速度が遅いため、記録を中断した。推奨のカードを入れる。
- 記録メディアに記録されているクリップをバックアップしたあと、記録メディアを初期化する（🕮 33）。

パワーズームアダプター
温度が上昇したため操作できません
- パワーズームアダプターの温度が上昇している。温度が下がるまで使用を中止する。

パワーズームアダプター
電源を確認してください
- パワーズームアダプターの電池残量が少ない。電池を入れ換える。

ファイル名が作成できません
- RAWクリップ／XF-AVCクリップのクリップ番号またはMP4クリップ／静止画番号が最大になった。撮影データをバックアップしてカードを初期化するか（🕮 33）、撮影データをすべて消す（🕮 140）。

ファンエラー
- 冷却ファンが故障した可能性がある。数分後に電源が強制的に切れる。カメラ修理センター（🕮 240）にご相談ください。

本機はDCカプラー DR-E6に対応していません
電源供給を停止します
- 非対応の電源（DCカプラー DR-E6）を取り付けた。本機が対応する電源に変更する。

レンズエラー
電源を入れなおしてください
- 本機とレンズの通信エラーが発生した。本機の電源を入れ直す。

レンズを撮影準備位置にセットしてください
- 装着した沈胴式レンズが撮影準備位置（胴が伸びてロックされた状態）にセットされていない。レンズを撮影準備位置にセットする。

50.00 Hz（24.00 Hz）（59.94 Hz）で記録されています
データの確認と初期化をお勧めします
- カード内のクリップが異なるシステム周波数または動画形式で記録されている。このカードに記録するときは、カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（🕮 33）。XF-AVCクリップを再生するときは、本機のシステム周波数を、記録されているクリップと同じにする。

60分を超えたので、WAV記録を停止します
- 60分を超えたため、音声（WAV）記録を停止した。動画記録は継続する。

CFexpress→SDカード（SDカード→CFexpress）切り換えました
- リレー記録またはスロット切り換え操作により、記録先が切り換わった。

CFexpress→SDカード（SDカード→CFexpress）まもなく切り換えます
- 選択しているカードの空き容量が少なくなったため、リレー記録によって、約1分後に記録先スロットが切り換わる。

CFexpressが高温になっています
取り出すときは注意してください
- CFexpressカードが熱くなっている。カードを取り出すとき、カードを落とさないようにご注意ください。

CFexpressの温度が上昇したため、記録を停止しました
カードスロット温度情報を確認して記録再開してください
- 撮影中に、CFexpressカードの温度が上昇し一定の温度に達したため、記録を停止した。カードスロットの温度情報を、システム設定ステータス画面（🕮 194）で確認する。カードスロットの温度がグラフの警告温度を越えている場合は、本機の電源を切り、温度が下がるまで使用を中止する。

CFexpressの温度が上昇しています
記録が停止する可能性があります
- 撮影中に、CFexpressカードの温度が上昇した。カードの温度がさらに上昇すると、記録を停止する。カードスロットの温度情報を、システム設定ステータス画面（🕮 194）で確認する。

Lens firmware update
Firmware update failed.
Try updating again.
- レンズのファームウェアの更新が正常に終了しなかった。再度アップデートを行う。

Mount adapter firmware update
Firmware update failed.
Try updating again.
- マウントアダプターのファームウェアの更新が正常に終了しなかった。再度アップデートを行う。

Power zoom adapter firmware update
Firmware update failed.
Try updating again.
- パワーズームアダプターのファームウェアの更新が正常に終了しなかった。再度アップデートを行う。

RAW以外への出力／サブ記録映像のノイズが増えます
- メイン記録形式がRAWで、「Gamma/Color Space」のGammaが「Canon Log 3」以外に設定されている。この設定ではプロキシ動画（SDカード）、各端子出力の映像にノイズが増えることがある。

SDカード
現在の動画記録設定に対応していないカードです
- ビデオスピードクラスがV90未満のカードが入っているときに、スロー &ファストモーション記録モードにして、スロー記録になる撮影フレームレートを選んだ。V90のカードに入れ換える。
- ビデオスピードクラスがV60未満のカードが入っているときに、記録形式をXF-AVC YCC422 10 bit、MP4（HEVC）YCC422 10 bit 4096x2160／3840x2160のいずれかにした。V60またはV90のカードに入れ換える。
- ビデオスピードクラスがV60未満のカードが入っているときに、記録形式をXF-AVC YCC422 10 bit 、ビットレート方式をIntra（Intra-frame）にした。V60またはV90のカードに入れ換える。
- SD / SDHCメモリーカードが入っているときに、記録形式をRAW形式にした。SDXCメモリーカードに入れ換える。

SDカード
現在のビットレートでは記録できません
- SDカードに記録できない記録形式、解像度／ビットレートになっている。SDカードに記録できる設定に変更する（🕮 31）。

Shot Mark数オーバー
- ショットマーク数が最大の100個になったため、付加できない。

「Slow & Fastフレームレート」が60を超えるときはMagnificationを使用できません
- センサーモードを「フルサイズ」または「Super 35mm（Crop）」に設定して、スロー &ファストモーション記録モードを有効、かつ60を超える撮影フレームレートを設定しているときに拡大表示をしようとした。拡大表示をするときは、センサーモードを変更するか、撮影フレームレートを60以下に設定する。

ネットワーク機能使用時

アクセスポイントからの応答がありません
- アクセスポイントが正しく動作しているか確認する。
- 「Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法」を参考に対応する（🕮 210）。

アクセスポイントに接続できません
- 本機とアクセスポイントの暗号化方式が異なる。本機をアクセスポイントの設定に合わせる。

アクセスポイントに接続できませんでした
始めからやり直してください
- WPS（プッシュボタン方式）で接続するときは、あらかじめアクセスポイントの説明書をご覧になり、アクセスポイントがWPS起動状態になるまで、WPSのボタンを押してください。

イーサネットの接続が切れました
- イーサネットで接続時に、イーサネットケーブルが接続されていなかった。本機に取り付けたワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10またはネットワーク機器のイーサネット端子にケーブルが接続されていることを確認する。
- ハブ、ルーターやサーバーの電源が入っていて正常に動作しているか確認する。

カメラの温度が上昇したため
ネットワーク接続を切断しました
- カメラ内部の温度上昇により、ネットワークが切断された。本機の電源を切り、温度が下がるまで使用を中止する。

接続先が見つかりません
- Content Transfer Mobileを起動しているか確認する。
- スマートフォンを本機と同じネットワークに接続しているか確認する。

選択したSSIDのWi-Fiネットワークがみつかりません
- アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDを本機に設定する。
- アクセスポイントが正常に動作しているか確認して、もう一度接続を行う。

データセッションに対し、FTPサーバーからエラーが通知されました
- FTPサーバーが接続を切断した。FTPサーバーを再起動する。
- FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にする。
- FTPサーバーにある保存先フォルダーのアクセス権を設定する。
- FTPサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか確認する。
- 記憶装置（ハードディスクなど）に空き容量があるか確認する。

転送先サーバーとの接続の安全性を確認できません
このサーバーを信頼して接続する場合は、「転送先サーバーを信頼」を「する」に設定してください
- 証明書が正しく設定されているか確認する。
- 証明書設定に関わらず、このサーバーを信頼して接続する場合は、「転送先サーバーを信頼」を「する」に設定する。

ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します
- 本機と同じIPアドレスの機器が、同一ネットワーク内にあった。IPアドレスが重複している他機または本機のIPアドレスを変更する。
- DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、本機のIPアドレスが「手動設定」になっているときは、IPアドレスを「自動設定」にする。

複数のアクセスポイントを検出したため、接続できませんでした
始めからやり直してください
- 他のWi-Fi機器がWPS のプッシュボタン方式で接続を行っている。しばらくしてから操作するか、「WPS(PIN方式)」など他の接続方法で接続してください。

ほかの機器が、同じIPアドレスを設定しました
- 本機と同じIPアドレスの機器が、同一ネットワーク内にあった。IPアドレスが重複している他機または本機のIPアドレスを変更する。

A user with the same login name is already accessing the camera.
- ネットワーク機器の画面に表示される。
- 他のネットワーク機器が、すでに本機に接続している。他機の接続を解除する。

DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません
- 本機の設定がIPアドレス「自動設定」になっている。DHCPサーバーを使用していない場合は、本機をIPアドレス「手動設定」にして設定を行う。
- DHCPサーバーを確認する。
  - DHCPサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか。
  - DHCPサーバーに割り当てられるアドレスに余裕はあるか。
- ネットワーク全体を確認する。
  - 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていないか。
  - 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定する。
  - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定する。

DNSサーバーから応答がありません
- 本機の設定がDNSアドレス「手動設定」になっている。DNSサーバーを使用していない場合は、本機をDNSアドレス「使わない」にして設定を行う。
- 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスを本機に設定する。
- DNSサーバーを確認する。
  - DNSサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか。
  - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定する。
- ネットワーク全体を確認する。
  - 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていないか。
  - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定する。
  - 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定する。

FTPサーバーから接続を拒否されました
- FTPサーバーが、特定のIPアドレスのみ接続を許可する設定になっている。「設定内容確認」で本機のIPアドレスを確認して、FTPサーバーの設定を変更する。

FTPサーバーから切断できません
サーバーからエラーが通知されました
- FTPサーバーに対する接続解除が、何らかの理由でうまくいかなかった。FTPサーバーとカメラの電源を入れなおす。

FTPサーバーから、ファイルの転送完了通知がありませんでした
- FTPサーバーからの転送完了通知を、何らかの理由で受けられなかった。FTPサーバーと本機の電源を入れ直し、再度FTP転送を行う。

FTPサーバーに接続できません
- FTPサーバーと同じIPアドレスを本機に設定する。
- 暗号化の認証方式が「オープン」の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになる。大文字、小文字も確認し、正しい認証用の暗号キーを本機に設定する。
- ポート番号は通常21（SFTPのときは22）で、本機とFTPサーバーとも同じポート番号を設定する。FTPサーバーのポート番号を本機に設定する。
- 設定したFTPサーバーのサーバー名が、DNSサーバーに正しく設定されているか確認する。また、使用するFTPサーバーのサーバー名が、本機に間違いなく設定されているか確認する。
- FTPサーバーを確認する。
  - FTPサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか。
  - FTPサーバーに設定しているIPアドレスと、本機に設定しているFTPサーバーのIPアドレスを、同じ設定にする。
  - セキュリティソフトウェアやブロードバンドルーターによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性がある。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにする。
  - 本機の設定で「パッシブモード」を「使う」にすると、FTPサーバーに接続できる場合がある。
  - ネットワーク管理者がいるときは、FTPサーバーのアドレスとポート番号を聞いて、その内容を本機に設定する。
- ネットワーク全体を確認する。
  - 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていないか。
  - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定する。
  - 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定する。

FTPサーバーに接続できません
サーバーからエラーが通知されました
- FTPサーバーで設定している最大接続数を超えて接続している。FTPサーバーに接続しているネットワーク機器を少なくするか、FTPサーバーの設定で最大接続数を増やす。

FTPサーバーにログインできません
サーバーからエラーが通知されました
- FTPサーバーにログインできなかった。本機のFTPサーバーの「ユーザー名」と「パスワード」を確認する。
- FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にする。
- フォルダー名をASCII文字で構成する。

Wi-Fiの暗号化方式が違います
- 本機とアクセスポイントの認証／暗号化方式が異なる。本機をアクセスポイントの設定に合わせる。

Wi-Fiの接続が切れました
- アクセスポイントなどのネットワーク機器に接続できなかった。
- コードレス電話機、電子レンジ、冷蔵庫などからの電波と干渉することがある。これらの機器から離れた場所で本機を操作する。

Wi-Fiの認証ができませんでした
- 本機とアクセスポイントの認証方式、認証用の暗号キーが異なる。本機をアクセスポイントの設定に合わせる。

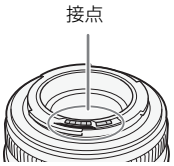
Wi-Fiのパスワードが違います
- 正しい認証用の暗号キーを本機とアクセスポイントに設定する。

取り扱い上のご注意

ここでは本機や電源とメモリーカードなどを取り扱うときに注意していただきたいことや、カメラ本体の日常のお手入れについて説明しています。

カメラ本体

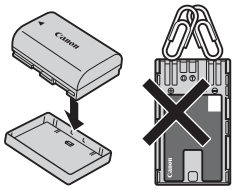
- ホコリ・砂・水・泥・塩分の多い場所で使用・保管しないでください。本機は防水・防じん構造になっていませんので、これらが内部に入ると故障の原因となります。レンズにホコリや砂が付くのを防ぐため、使用後は、ホコリなどの少ない場所でレンズフードを外してレンズキャップを取り付けてください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布で、よくふき取ってください。万一、本機が水に濡れてしまったときは、早めにカメラ修理センター（🕮 240）にご相談ください。
- 磁石、モーターの近くや電波塔の近くなど、強い磁気や電波が発生する場所での使用は避けてください。映像や音声が乱れたり、ノイズが入ったりすることがあります。
- カメラやファインダーを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子などの内部の部品が損傷する恐れがあります。特に三脚を使用しているときやショルダーストラップを使って本機を持ち運ぶときは、本体の角度を変えて直射日光などが入らないようにしてください。本機を使用しないときは、レンズを外して、ボディキャップを取り付けてください。
- カメラのレンズ接点を手で触れないでください。接触不良や腐食の原因になることがあります。接点が腐食するとカメラが正しく動作しなくなることがあります。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となり、カメラやレンズが正確に動作しないことがあります。



- LCDモニターをつかんでもちあげたり、正しい位置に戻さないで無理に収納したりしないでください。LCDモニターの接合部が破損することがあります。
- LCDモニターの画面を強くタッチしないでください。画面の表示がムラになったり、LCDモニターの接合部が破損したりすることがあります。
- 画面に保護シートなどを貼らないでください。静電容量方式のタッチパネルのため、正しく動作しなくなることがあります。
- 製品を長期間ご使用にならない場合は、ホコリが少なく、湿度の低い、30℃以下の場所に保管してください。

バッテリー

- バッテリーと本体端子（充電器の端子）の間に異物が入り込まないようにしてください。接触不良、ショート、破損の原因となります。バッテリーの端子は、乾いた布または綿棒などで定期的に清掃してください。
- バッテリーを持ち運ぶときや保管するときは、必ず端子カバーを取り付けてください（図A）。金属などでショートすると高熱や液漏れ、破損の原因となります（図B）。
- バッテリーを使い切ってからフル充電してください。バッテリーを高温下で長時間使ったり、フル充電後に放置したりすると、正しく表示されないことがあります。また、使用回数が多いバッテリーも正しく表示されないことがあります。なお、表示は目安としてご使用ください。



（図A）　（図B）

使用時間を長くするコツ
こまめに電源を切り、10℃～ 30℃のところで使用すると、長く使えます。スキー場などでバッテリーが冷たくなると、一時的に使用時間が短くなりますので、ポケットなどに入れて温めてから使用すると効果的です。

長い間保管するとき
- バッテリーの消耗を防ぐため本体から取り外し、乾燥した30℃以下のところで保管してください。
- 保管する際の充電状態はフル充電ではなく、50%程度を目安としてください。
  使い切ったバッテリーを50%程度充電するために必要な時間は、常温（＋23°C）で約60分です。なお、充電時間は周囲の温度によって大きく異なります。
- 1年に1回程度、充電完了まで充電してから使い切ってください。

- ショート防止用端子カバーには▭の穴があり、バッテリーに取り付けるときの向きによって▭の穴から見える色が異なります。これを利用して端子カバーを取り付ければ、充電済みバッテリーを見分けることができます。
- 海外でも付属のバッテリーチャージャーやACアダプター（AC100 ～ 240 V 50/60 Hzまでの電源に対応）を使用できます。お使いになる国のコンセント形状にあった変換プラグを使用してください。
- バッテリーチャージャーやACアダプターを変圧器に接続しないでください。故障するおそれがあります。

メモリーカード

- カメラ本体／メモリーカードの故障や静電気などによるデータの損傷・消失に備えて、データはパソコンなどにバックアップしてください。なお、データ損傷および消失については、当社では一切の責任を負いかねます。
- 端子に触れないでください。汚れが付着し、接触不良の原因となります。
- 強い磁気が発生する場所で使わないでください。
- 高温・多湿の場所に放置しないでください。
- シールを貼らないでください。シールが差し込み口につまるおそれがあります。
- 落とす、ぬらす、強い衝撃を与えるなどしないでください。分解は絶対にしないでください。
- メモリーカードに記録されたデータは、消去や初期化をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消えません。譲渡・廃棄するときは、データを復元できないように、一度メモリーカードの初期化（🕮 33）を行った後、本機にボディキャップを取り付けて最後まで撮影し、再度初期化を行います。これによって、情報漏洩を防いでください。

充電式内蔵電池

本機には充電式のリチウム電池が内蔵されており、日付などの設定を保持しています。この電池は本機を使用中、自動的に充電されますが、約3か月間使わないと完全に放電してしまいます。充電式リチウム電池を充電するときは、本機の電源を切り、電源（バッテリーまたはDCカプラーなど）を取り付けてください。約24時間で充電できます。

その他

結露について

室温が高いとき、冷水の入ったコップの表面に水滴がつくことがあります。この現象を結露といいます。本機が結露した場合、そのままの状態で使うと故障の原因になりますので注意してください。なお、次のような条件のときに結露が発生しやすくなります。
- 寒い所から急に暖かい所に移動したとき
- 湿度の高い部屋の中
- 夏季、冷房のきいた部屋から急に温度や湿度の高い所に移動したとき

結露したらどうする？

周囲の環境によって多少異なりますが、水滴が消えるまで約2時間程度放置してください。

温度差のある場所へ移動するときは

バッテリーを取り外し、メモリーカードを取り出して、本機をビニール袋に空気がはいらないように入れて密閉します。移動先の温度になじんだら袋から取り出します。

日常のお手入れ

大切なカメラをより長くお使いいただくために、日常のお手入れには十分注意してください。

カメラ本体

製品の汚れは乾いたやわらかい布で軽くふいてください。化学ぞうきんやシンナーなどの使用は、製品を傷めることがあるのでおやめください。

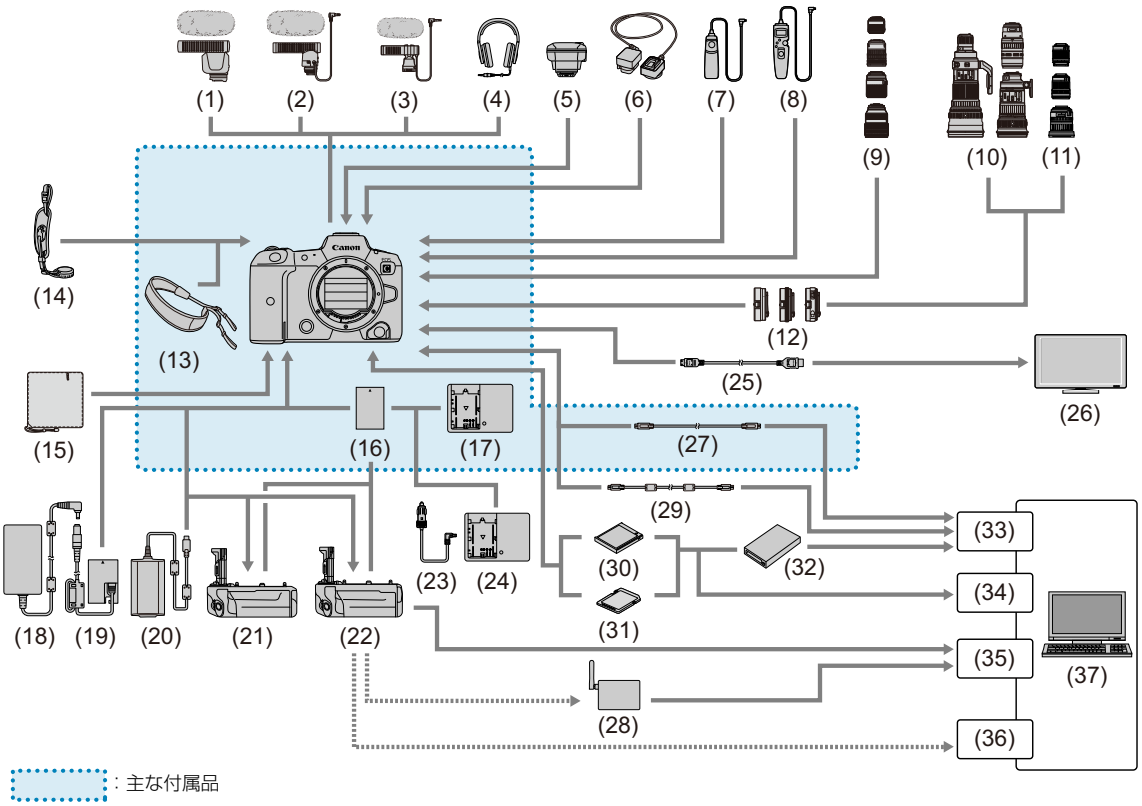
レンズ

レンズは常にきれいに保つようにしてください。レンズにホコリや汚れがついたときは、最初にブロアーで表面のゴミ、ホコリを取り除き、それから汚れをふき取るようにしてください。

LCDモニター

- 汚れたときは市販の眼鏡クリーナー（布製）などで拭いてください。
- 温度差の激しいところでは、画面に水滴がつくことがあります。柔らかい乾いた布で拭いてください。

システム図



(1) 指向性ステレオマイクロホン DM-E1D
(2) 指向性ステレオマイクロホン DM-E1
(3) ステレオマイクロホン DM-E100
(4) ヘッドホン*1
(5) GPSレシーバー GP-E2
(6) オフカメラシューコード OC-E4A*2
(7) リモートスイッチ RS-80N3
(8) タイマーリモートコントローラー TC-80N3
(9) RF / RF-Sレンズ
(10) EFレンズ
(11) EF-Sレンズ
(12) マウントアダプター
(13) ストラップ
(14) ハンドストラップ E2
(15) プロテクティングクロス PC-E1/E2
(16) バッテリーパック LP-E6NH*3
(17) バッテリーチャージャー LC-E6
(18) ACアダプター CA-946
(19) DCカプラー DR-E6C
(20) USB電源アダプター PD-E1*4
(21) バッテリーグリップ BG-R10
(22) ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10*5
(23) カーバッテリーケーブル CB-570
(24) カーバッテリーチャージャー CBC-E6
(25) HDMIケーブル*6
(26) テレビ／モニター
(27) インターフェースケーブル IFC-100U（約1m）*7, 8
(28) 無線LANアクセスポイント
(29) インターフェースケーブル IFC-400U（約4m）*7, 9
(30) CFexpressカード
(31) SD/SDHC/SDXCメモリーカード
(32) カードリーダー
(33) USBポート
(34) カードスロット
(35) Ethernet端子
(36) 無線LANアダプター
(37) パソコン

*1 ヘッドホン端子に接続するケーブルは長さが2.5m以下の市販品をお使いください。
*2 GPSレシーバー GP-E2は使用できません。
*3 バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用することもできます。
*4 USB電源アダプター PD-E1接続時は、LP-E6NH/LP-E6Nのみ充電できます（LP-E6は充電できません）。
*5 WFT-R10には、カメラ本体用電源を取り付けることができます。カメラ本体用電源として、家庭用電源を使用するときは、DCカプラー DR-E6CとACアダプター CA-946を使用します（DR-E6とAC-E6Nは使用できません）。WFT-R10のバッテリーマガジンのカメラ側（カメラ本体用バッテリー取り付け部）に、DR-E6Cを取り付けます。
*6 長さ2.5m以下の市販品をお使いください。カメラ側の端子はタイプDです。

*7 カメラ側／パソコン側の端子はともにUSB Type-C™
*8 IFC-100U使用時は、通信速度がSuperSpeed USB（USB 3.1 Gen 1）相当になります。
*9 IFC-400U使用時は、通信速度がHi-Speed USB（USB 2.0）相当になります。

ご注意

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

このカメラでキヤノン純正以外のバッテリーをお使いになると、「バッテリー通信エラー」のメッセージが表示され、所定の操作が必要となります。なお、純正以外のバッテリーに起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。

CANON ACCESSORY GENUINE

このマークは、キヤノンのビデオ関連商品の純正マークです。キヤノンのビデオ機器をお求めの際は、同じマークもしくはキヤノンビデオ関連商品をおすすめします。

主な仕様

R5 C本体

システム

- **記録方式**
  動画：
    RAW
      映像記録方式：Cinema RAW Light
      音声記録方式：リニアPCM、24 bit、48 kHz、4 ch
      ファイルフォーマット：CRM（Canon Raw Movie：キヤノン独自フォーマット）
    XF-AVC
      映像圧縮方法：MPEG-4 AVC / H.264
      音声記録方式：リニアPCM、24 bit、48 kHz、4 ch
      ファイルフォーマット：MXF
    MP4
      映像圧縮方法：H.265 / HEVC、MPEG-4 AVC / H.264
      音声記録方式：リニアPCM、16 bit、48 kHz、4 ch
      MPEG-2 AAC-LC、16 bit、48 kHz、2 ch
      ファイルフォーマット：MP4
    WAV
      音声記録方式：スロー &ファストモーション記録時の音声ファイル
      リニアPCM、24 bit、48 kHz、4 ch
      2スロット記録機能の音声記録時の音声ファイル
      リニアPCM、16 bit、8 kHz、1 ch
      ファイルフォーマット：BWF
  静止画：DCF準拠、Exif Ver2.31準拠、静止画圧縮方法：JPEG

- **記録／再生信号形式**
  メイン動画：
    RAW
      ビットレート：2570 Mbps、2140 Mbps、2120 Mbps、2090 Mbps、1980 Mbps、1770 Mbps、1750 Mbps、
      1700 Mbps、1650 Mbps、1580 Mbps、1360 Mbps、1290 Mbps、1140 Mbps、1080 Mbps、
      1070 Mbps、1050 Mbps、1030 Mbps、896 Mbps、871 Mbps、836 Mbps、679 Mbps、
      566 Mbps、544 Mbps、537 Mbps、529 Mbps、448 Mbps、441 Mbps、430 Mbps、344 Mbps、
      287 Mbps、265 Mbps、221 Mbps、212 Mbps、172 Mbps、144 Mbps、138 Mbps
      解像度：8192x4320、5952x3140、2976x1570
      深度：12 bit
      フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P
    XF-AVC
      ビットレート：810 Mbps、410 Mbps、310 Mbps、160 Mbps / Intra-frame
      260 Mbps、160 Mbps、50 Mbps、24 Mbps / Long GOP
      解像度：4096×2160、3840×2160、2048×1080、1920×1080、1280×720
      カラーサンプリング：4:2:2 10 bit
      フレームレート：59.94P、59.94i、50.00P、50.00i、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P
    MP4
      ビットレート：540 Mbps、400 Mbps、225 Mbps、170 Mbps、150 Mbps、135 Mbps、100 Mbps、50 Mbps、
      35 Mbps、12 Mbps、9 Mbps、8 Mbps / Long GOP
      解像度：8192x4320、7680x4320、4096x2160、3840x2160、2048x1080、1920x1080、1280x720
      カラーサンプリング：4:2:2 10 bit、4:2:0 10 bit、4:2:0 8 bit
      フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P

サブ動画：
XF-AVC
ビットレート：410 Mbps、310 Mbps、160 Mbps / Intra-frame
260 Mbps、160 Mbps、50 Mbps、24 Mbps / Long GOP
解像度：4096x2160、3840x2160、2048x1080、1920x1080、1280x720
カラーサンプリング：4:2:2 10 bit
フレームレート：59.94P、59.94i、50.00P、50.00i、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P
MP4
ビットレート：225 Mbps、170 Mbps、150 Mbps、135 Mbps、100 Mbps、50 Mbps、35 Mbps、12 Mbps、
9 Mbps、8 Mbps / Long GOP
解像度：4096x2160、3840x2160、2048x1080、1920x1080、1280x720
カラーサンプリング：4:2:2 10 bit、4:2:0 10 bit、4:2:0 8 bit
フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P
プロキシ動画：
XF-AVC
ビットレート：35 Mbps、24 Mbps、17 Mbps / Long GOP
解像度：2048×1080、1920×1080、1280×720
カラーサンプリング：4:2:0 8 bit
フレームレート：59.94P、59.94i、50.00P、50.00i、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P
MP4
ビットレート：9 Mbps、6 Mbps / Long GOP
解像度：2048x1080、1920x1080、1280x720
カラーサンプリング：4:2:0 8 bit
フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、23.98P

- **記録メディア**
メイン動画：CFexpressカード　CFexpress 2.0 Type B 準拠、SD / SDHC / SDXCメモリーカード
プロキシ動画／静止画：SD / SDHC / SDXCメモリーカード*
* プロキシ動画以外のファイルの保存や読み出しにも使用。

- **撮像素子**
フルサイズCMOSセンサー
センサーモード：フルサイズ
有効画素：
解像度が8192×4320 / 4096×2160 / 2048×1080のとき：約3540万画素（8192×4320）
解像度が7680×4320 / 3840×2160 / 1920×1080のとき：約3320万画素（7680×4320）
センサーモード：Super 35mm (Crop)
有効画素：
解像度が5952×3140 / 4096×2160 / 2048×1080のとき：約1870万画素（5952×3140）
解像度が3840×2160 / 1920×1080のとき：約1750万画素（5580×3140）
センサーモード：Super 16mm (Crop)
有効画素：
解像度が2976×1570 / 2048×1080のとき：約470万画素（2976×1570）
解像度が1920×1080 / 1280×720のとき：約440万画素（2790×1570）

- **LCDモニター**
カラー液晶（3.2型、約210万ドット、視野率100%）、静電容量方式タッチパネル
ビューアシスト（ガンマ：BT.709 Wide DR相当／CMT 709相当／独自、色空間：BT.709相当）
アシスト表示（画面表示、ピーキング、ゼブラ、拡大表示、白黒表示、WFM機能、フォルスカラー、アナモフィック）

- **ビューファインダー**
OLEDカラー電子ビューファインダー（0.5型、約576万ドット、視野率100%）
ビューアシスト（ガンマ：BT.709 Wide DR相当／CMT 709相当／独自、色空間：BT.709相当）
アシスト表示（画面表示、ピーキング、ゼブラ、拡大表示、白黒表示、WFM機能、フォルスカラー、アナモフィック）

- **レンズマウント**
キヤノンRFマウント、キヤノンRF / EFレンズ群*対応
* RFレンズはRF-Sレンズ、RFシネマレンズを含む。EFレンズはマウントアダプター EF-EOS R装着時に使用でき、EF-Sレンズ、EFシネマレンズを含む。

- **35mmフィルム換算時の焦点距離**
  センサーモード：Super 35mm (Crop)
  　　水平解像度が5952 / 4096 / 2048のとき：実焦点距離* × 約1.460**
  　　水平解像度が3840 / 1920 / 1280のとき：実焦点距離* × 約1.534**
  センサーモード：Super 16mm (Crop)
  　　水平解像度が 2976 / 2048のとき：実焦点距離* × 約2.920**
  　　水平解像度が 1920 / 1280のとき：実焦点距離* × 約3.069**
  * レンズの焦点距離　　** 変換係数
- **周辺光量補正／色収差補正／回折補正／歪曲収差補正**
  キヤノンのRF / EF*レンズ、RF / EFシネマレンズで可能*。歪曲収差補正はRFレンズ／RFシネマレンズのみ。
  * 一部のレンズは対応していません。
- **シャッタースピード**
  スピード（1/3段ステップ、1/4段ステップ）、アングル、クリアスキャン、スロー、切
- **アイリス**
  マニュアル、プッシュオートアイリス、オートアイリス
  ステップ（1/2段、1/3段、ファイン）
- **ISO感度／ゲイン**
  オート、マニュアル
  ISO感度（1段、1/3段設定）：100～102400
  ゲイン（ノーマル、ファイン設定）：-6dB～54dB
- **露出**
  AEシフト、測光方式（スタンダード、スポットライト、バックライト）
- **ホワイトバランス**
  セットA、セットB、プリセット設定（太陽光 約5600K、電球 約3200K）*、色温度設定（2000K ～ 15000K）、AWB　* 色温度は目安です。
  色温度（K）／色補正値（CC）による微調整（ホワイトバランスセット、AWB以外）
- **フォーカス**
  調整方法：マニュアル、ワンショットAF、連続AF（合焦付近のみ、する）、顔検出AF、追尾
  AF方式：デュアルピクセルCMOS AF
- **感度**
  59.94 Hz　F10（2048×1080 / 59.94P時）、F14（1920×1080 / 29.97P時）
  50.00 Hz　F11（2048×1080 / 50.00P時）、F16（1920×1080 / 25.00P時）
  いずれも、ISO800、2000ルクス、反射率89.9 %時
- **マイク**
  モノラルマイク
- **静止画サイズ**
  8192x4320、7680x4320、4096×2160、3840×2160、2048×1080、1920×1080

入・出力端子

- **HDMI OUT端子**
  HDMIマイクロ端子（タイプD）、出力のみ
  ビューアシスト（ガンマ：BT.709 Wide DR相当／CMT 709相当、色空間：BT.709相当）
  アシスト表示（画面表示、ピーキング、ゼブラ、拡大表示、白黒表示、WFM機能、フォルスカラー、アナモフィック）
- **MIC（マイク）端子**
  ∅3.5mmステレオミニジャック
  －72 dBV（ボリュームセンター、フルスケール－18 dB）／Att.：20 dB
  供給電圧：DC2.0V
- **🎧（ヘッドホン）端子**
  ∅3.5 mmステレオミニジャック
  －17 dBV（32 Ω負荷、ボリューム最大）
- **TIME CODE端子**
  DIN1.0/2.3ジャック（入出力兼用）、入力時：0.5 -18 Vp-p ／ 100 kΩ、出力時：1.3 Vp-p ／ 50 Ω以下
- **デジタル端子**
  USB Type-C™ SuperSpeed Plus USB(USB3.1 Gen2) 相当

その他

- **動作温度**
  0 ℃ ～ ＋40 ℃
- **外形寸法（幅×高さ×奥行き）**
  カメラ本体のみ：約142 x 101 x 111 mm（突起部を含まず）
- **質量**
  カメラ本体：
  　約680 g
  カメラ本体、LP-E6NH、CFexpressカード、SDカードを含む：
  　約770 g

バッテリーチャージャー LC-E6

- **定格入力**：AC 100－240 V（50／60Hz）
- **定格出力**：DC 8.4 V、1.0 A
- **使用温度**：＋5 ℃～ ＋40 ℃
- **外形寸法（幅×高さ×奥行き）**：約69.0×33.0×93.0 mm
- **質量**：約110 g

バッテリーパック LP-E6NH

- **使用電池**：充電式リチウムイオン電池
- **使用温度**：0 ℃ ～ ＋40 ℃
- **公称電圧**：DC 7.2 V
- **容量**：2130 mAh
- **外形寸法（幅×高さ×奥行き）**：約38.4×21.0×56.8 mm
- **質量**：約80 g （保護カバーを除く）

対応レンズと機能

ご購入いただいた時期によっては、レンズのファームウェアのアップデートが必要になることがあります。詳細については、キヤノンのホームページをご覧ください。

レンズ		カメラからのアイリス調整			カメラからのズーム調整
		マニュアル	プッシュオート	オート	
RFレンズ		●*2	●*2	●*2	●*5
EFレンズ*1		●	●	–	–
	オートアイリスに対応するEFレンズ	●	●	●	●*3
RF / EFシネマレンズ*1					
	CN7x17 KAS S/E1*4 CN8x15 IAS S/E1*4 CN10x25 IAS S/E1*4 CN20x50 IAS H/E1*4	●	●	●	●
	CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S CN-E70-200mm T4.4 L IS KAS S	●	●	●	●
	デュアルピクセルフォーカスガイドが使用可能なマニュアルフォーカスレンズ	–	–	–	–
	CN-E15.5-47mm T2.8 L S CN-E15.5-47mm T2.8 L SP CN-E30-105mm T2.8 L S CN-E30-105mm T2.8 L SP				

*1 マウントアダプターが必要。
*2 RF600mm F11 IS STM、RF800mm F11 IS STMを除く。
*3 パワーズームアダプター PZ-E1を装着したレンズのみ。
*4「AEレスポンス」（🕮 176）は非対応。
*5 パワーズームアダプター PZ-E2を装着したレンズのみ。

- オートアイリスに対応するEFレンズ

EF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STM
EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM
EF-S35mm F2.8 MACRO IS STM
EF70-300mm F4-5.6 IS II USM
EF600mm F4L IS III USM
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM
EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM
EF85mm F1.4L IS USM
EF70-200mm F4L IS II USM
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM
EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM
EF400mm F2.8L IS III USM

レンズ		カメラからのフォーカス調整					フォーカスガイド
		マニュアル	ワンショット	連続	顔検出AF	追尾	
RFレンズ／EFレンズ*1		●*2	●*2	●*2	●*2	●*2	●
	スロー＆ファストモーション記録時にオートフォーカスが使用できないレンズ	●	–	–	–	–	●
RF / EFシネマレンズ*1							
	CN7x17 KAS S/E1 CN8x15 IAS S/E1 CN10x25 IAS S/E1	●	●	●	●	●	●
	CN20x50 IAS H/E1	●	–	–	–	–	–
	CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S CN-E70-200mm T4.4 L IS KAS S	●	●	●	●	●	●
	デュアルピクセルフォーカスガイドが使用可能なマニュアルフォーカスレンズ	–	–	–	–	–	●

*1 マウントアダプターが必要。
*2 RF5.2mm F2.8 L DUAL FISHEYEを除く

- デュアルピクセルフォーカスガイドが使用可能なマニュアルフォーカスレンズ

CN-E14mm T3.1 L F
CN-E24mm T1.5 L F
CN-E35mm T1.5 L F
CN-E50mm T1.3 L F
CN-E85mm T1.3 L F
CN-E135mm T2.2 L F
CN-E20mm T1.5 L F
CN-E20-50mm T2.4 L F
CN-E14-35mm T1.7 L S
CN-E45-135mm T2.4 L F
CN-E31.5-95mm T1.7 L S
CN-R24mm T1.5 L F
CN-R35mm T1.5 L F
CN-R50mm T1.3 L F
CN-R85mm T1.3 L F
CN-R14mm T3.1 L F
CN-R20mm T1.5 L F
CN-R135mm T2.2 L F

- スロー＆ファストモーション記録時にオートフォーカスが使用できないレンズ

EF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STM
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM
EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM
EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM
EF-S35mm F2.8 MACRO IS STM
EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM
EF70-300mm F4-5.6 IS II USM

- 「電源オフ時のレンズ収納」（188）に対応するレンズ

EF40mm F2.8 STM
EF-S 24mm F2.8 STM
EF50mm F1.8 STM
RF35mm F1.8 MACRO IS STM
RF85mm F2 MACRO IS STM
RF50mm F1.8 STM
RF24mm F1.8 MACRO IS STM
RF16mm F2.8 STM

動画の記録可能時間の目安

1回の記録でカードの空き容量がなくなるまで記録したときの記録時間です。

CFexpressカード

記録形式	ビットレート	512 GB
RAW	2570 Mbps	約24分
	2120 Mbps	約30分
	2090 Mbps	約30分
	1980 Mbps	約32分
	1700 Mbps	約37分
	1580 Mbps	約40分
	1360 Mbps	約47分
	1290 Mbps	約49分
	1080 Mbps	約59分
	1030 Mbps	約62分
	836 Mbps	約76分
XF-AVC	810 Mbps	約79分
	410 Mbps	約156分
	310 Mbps	約207分
	260 Mbps	約246分
	160 Mbps	約401分
MP4 (HEVC) MP4 (H.264)	540 Mbps	約118分
	400 Mbps	約160分
	225 Mbps	約285分
	170 Mbps	約377分
	150 Mbps	約428分
	135 Mbps	約475分
	100 Mbps	約642分
	50 Mbps	約1,284分
	35 Mbps	約1,834分

SDカード

記録形式	ビットレート	128 GB	512 GB
RAW	544 Mbps	約29分	約118分
	537 Mbps	約29分	約119分
	529 Mbps	約30分	約121分
	430 Mbps	約37分	約149分
	344 Mbps	約46分	約186分
	265 Mbps	約60分	約242分
	212 Mbps	約75分	約302分
	172 Mbps	約93分	約373分
	138 Mbps	約116分	約465分
XF-AVC	410 Mbps	約39分	約156分
	310 Mbps	約51分	約207分
	260 Mbps	約61分	約246分
	160 Mbps	約100分	約401分
	50 Mbps	約321分	約1,284分
	35 Mbps	約458分	約1,834分
	24 Mbps	約668分	約2,675分
	17 Mbps	約944分	約3,776分
MP4 (HEVC) MP4 (H.264)	540 Mbps	約29分	約118分
	400 Mbps	約40分	約160分
	225 Mbps	約71分	約285分
	170 Mbps	約94分	約377分
	150 Mbps	約107分	約428分
	135 Mbps	約118分	約475分
	100 Mbps	約160分	約642分
	50 Mbps	約321分	約1,284分
	35 Mbps	約458分	約1,834分

動画の連続撮影時間の目安

付属のバッテリー LP-E6NHをフル充電したときの連続撮影時間の目安は、次のとおりです。
いずれもCFexpressカード記録（2スロット記録機能「切」）、RF 50mm F1.2 L USMレンズ装着、LCDモニター使用（LCD輝度「ノーマル」）、省電力モード「切」時の値です。

映像の信号方式				消費電力	連続撮影時間（LP-E6NH）
センサーモード	解像度	フレームレート	ビットレート		
RAW					
フルサイズ	8192 x 4320	29.97P	1980Mbps	11.7	45
		25.00P	1650Mbps	10.5	50
Super 35mm (Crop)	5952 x 3140	59.94P	2090Mbps	15.8	30
		50.00P	1750Mbps	13.9	35
Super 16mm (Crop)	2976 x 1570	59.94P	1080Mbps	9.1	65
		50.00P	896Mbps	8.4	70
XF-AVC					
フルサイズ	4096 x 2160	59.94P	810Mbps	14.8	30
		50.00P		13.3	35
Super 35mm (Crop)	4096 x 2160	59.94P	810Mbps	14.8	35
		50.00P		13.3	35
Super 16mm (Crop)	2048 x 1080	59.94P	310Mbps	8.5	70
		50.00P		8.0	75
MP4 (HEVC)					
フルサイズ	8192 x 4320	29.97P	540Mbps	12.7	40
		25.00P		11.2	45
	4096 x 2160	59.94P	225Mbps	14.5	35
		50.00P		12.9	40
Super 35mm (Crop)	4096 x 2160	59.94P	225Mbps	14.7	35
		50.00P		12.9	40
Super 16mm (Crop)	2048 x 1080	59.94P	50Mbps	8.4	70
		50.00P		7.7	80
MP4 (H.264)					
フルサイズ	4096 x 2160	59.94P	150Mbps	14.4	35
		50.00P		12.8	35
Super 35mm (Crop)	4096 x 2160	59.94P	150Mbps	14.4	35
		50.00P		12.8	40
Super 16mm (Crop)	2048 x 1080	59.94P	35Mbps	8.2	75
		50.00P		7.7	80

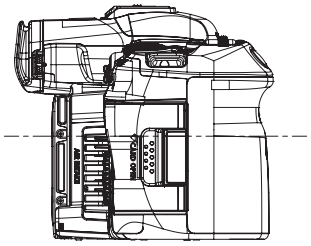
バッテリーの充電時間の目安

バッテリーパック	LP-E6NH
充電時間*（バッテリーチャージャー LC-E6を使用時）	約180分

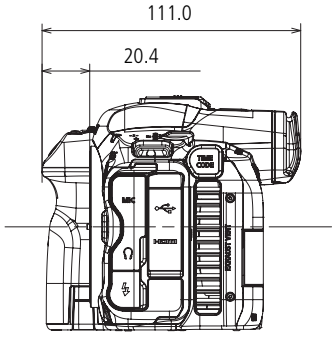
* 周囲の温度や充電状態によって異なります。

寸法図（単位：mm）

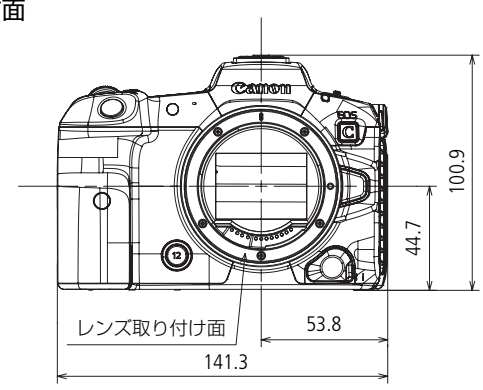
左面



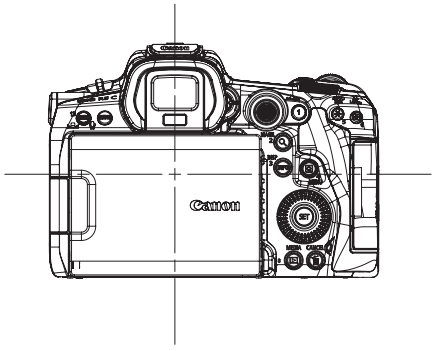
右面



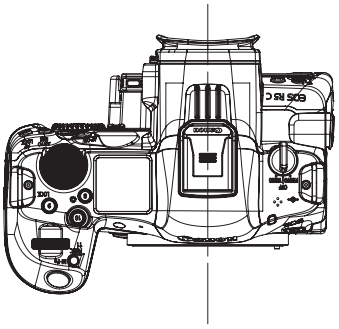
前面



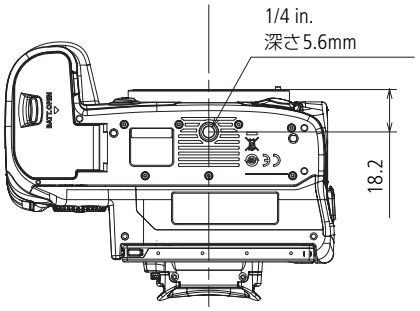
背面

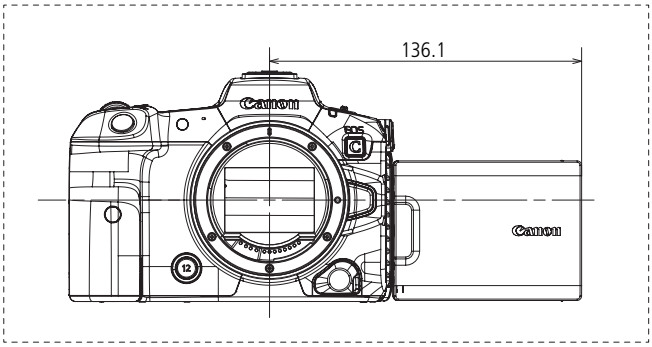


上面



底面





索引

あ

アイリス 76
アクセサリー 222
アクセスポイント 154
アサインボタン 118
アナモフィックレンズ 116

い

イーサネット 154
色空間 122
色収差補正 25
インターバル記録 114
インデックス表示 132
インフラストラクチャー 154

え

エラーメッセージ 211

お

オーディオ形式 98
オートアイリス 77
お手入れ 221
音声記録 . . . . . 36、99
音声記録形式 98
音声出力チャンネル 150
音声を記録する 98
音声をモニターする 102
音声（スロー＆ファストモーション記録） 110

か

カード
:カードを入れる／取り出す 32
:初期化 33
:スロットを切り換える 34
回折補正 25
解像度 59
外部機器 144
外部マイク／外部音声入力機器を接続する 99
顔検出 87
拡大表示 84
カスタムディスプレイ 46
カスタムピクチャー 122
:プリセット 122
:Lookファイル 124
カメラアクセスポイント 154
カメラインデックス 38
カメラダイレクト設定 55
カメラモード 44
画面表示 . . . . . .46、134、147
カラーサンプリング 56
カラーバー 103
ガンマ 122

き

キーロック 22
機能設定（MODE） 155
吸気口 12
記録形式 56
記録コマンド 144
記録信号形式 56

く

クリップ番号 38
クリップファイル名 38
クリップメニュー 137

け

ゲイン 72
結露 220

こ

コントロールリング 186

さ

再生
:撮影データを再生する 132
撮影データを操作する 137
撮影データを保存する 151
撮影フレームレート 110
撮影
:静止画を撮影する 45
:動画を撮影する 44
サブ動画 60
三脚 12

し

シークバー 134
シーン 109
システム周波数 58
絞り値 76
シャッタースピード 70
修復 34
周辺光量補正 25
修理対応 240
出力信号形式 141
出力チャンネル 150
出力レンジ 146
仕様 224
常時記録 114
省電力モード 26
ショットマーク 106

す

水準器 30
ズーム 90
ステータス画面 189
スピーカー ..... 11、136
スロー &ファストモーション記録 110

せ

静止画
:MP4クリップ／静止画番号の付けかたを選ぶ 40
:記録する 45
:再生する 132
接続設定（SET）.....155
接続
:外部モニター／レコーダーを接続する ...144
:ヘッドホンでモニターする ..... 102、136
設定データ 131
ゼブラパターン 91
センサーモード 58

そ

測光方式 78

た

タイムコード 94
タイムコードを外部同期する 96
ダイレクトタッチコントロール 54
縦撮り 51
ダブルスロット記録 36
タリーランプ 44
タリー OSD 51

ち

チェックマーク ..... 106、139

つ

追尾 88
通信設定（NW）.....155

て

テイク 109
デジタル端子 11
デジタルテレコン 90
デスクイーズ 116
テストトーン 103
手ブレ補正 89
デュアルピクセルフォーカスガイド 83
電源
:コンセントにつないで使う 15
:バッテリーを使う 13
電源スイッチ 10
電源ナビゲーション 26
電源ランプ 10
電子ダイヤル 11
電子手ブレ補正（電子IS）.....89

と

動画の記録方法 36
動画形式 56
特殊記録 110
トラブルシューティング 205
取り扱い上のご注意 219
ドロップフレーム 94

に

ニックネーム 162

ね

ネットワーク
:機能 153
:機能設定 . . . . . 155、156
:接続状態 167
:接続設定 . . . . . 155、162
:通信設定 . . . . . 155、159

の

ノンドロップフレーム 94

は

排気口 11
波形モニター 104
パソコン 151
バッテリー
:充電する 13
:本体に取り付ける／取り外す 14

ひ

ピーキング 83
日付・時刻 17
ビットレート 56
ビューアシスト 148
表示パネル 52

ふ

ファームウェア . . . . . 24、188
ファイル名 38
ファン 41
フォーカス
:顔検出 87
:追尾 88
:フォーカスアシスト機能 83
:マニュアルフォーカス 82
:連続AF 85
:ワンショットAF 84
:AFスピード 85
フォーカスガイド 83
フォーカスリング 82
フォルスカラー 93
プッシュオートアイリス 77
ブラウザーリモート 170
ブラックバランス 42
フリーラン 95
フレーム記録 113
フレーム表示 50
フレームレート 59
プレ記録 112
プロキシ動画記録 68

へ

ベクトルスコープ 104
ヘッドホン端子 102

ほ

ボリュームラベル 34
ホワイトバランス 79
:色温度／色補正値（CC）調整 80
:プリセット設定 80
:ホワイトバランスセット 79
:AWB 81

ま

マーカー 91
マイメニュー 19
マルチアクセサリーシュー 30

め

メイン記録形式 56
メイン動画 . . . . . 36、58
メタデータ 107
メッセージ 211
メニュー
:基本操作 18
:メニュー一覧 176

も

文字入力 21
モノラルマイク（内蔵） 98

ゆ

ユーザービット 95
ユーザーメモ 107

り

リール番号 38
リセット 186
量子化ビット数 98
リレー記録 36

る

ルート証明書 162

れ

冷却ファン 41
レックラン 95
レックレビュー 53
レンズ 23
レンズファームウェア 24
レンズマウント . . . . . 23、225

ろ

録音レベル調整 100
露出バー 78

わ

歪曲収差補正 25

番号

2スロット記録機能 36

その他

ABB 42
AEシフト 78
AFロック 86
AF枠 86
AUTO IRIS 77
Base ISO 72
C.Gamut 122
Canon Log 3 123
Canonアプリ . . . . . 158、175
CFexpressカード
:使用可能なCFexpressカード 31
Cinema RAW Development 152
DISPレベル 50
FEC（エラー訂正） 157
FTP転送 168
FUNCボタン 55
Gamma/Color Space 122
HDMI OUT端子 144
HDRアシスト 148
HTTPS 166
INDEX画面 132
IPアドレス 161
IPストリーミング 169
IPv4 161
IPv6 164
ISO感度 72
LCDモニター 16
Lookファイル 124
MIC（マイク）端子 11
MP4 58
MXF 224
News Metadata 108
OKマーク . . . . . 106、139
RAW 56
RECボタン 10
SDカード
:使用可能なSDカード 31
SSID 161
TCP/IPv6 164
TIME CODE端子 96
User Memo 107
Vectorscope 104
WAV 112
Waveform Monitor 104
WFM 104
Wi-Fi 154
WPS 154
XF Utility 151
XF-AVC 57

商標について

- SD、SDHC、SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Apple、macOS、App Storeは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Avid、Media Composerは、米国および／またはその他の国におけるAvid Technology, Inc.またはその子会社の商標または登録商標です。
- Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。Wi-Fi CERTIFIED、WPA、WPA2とWi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- JavaScriptは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMIのトレードドレスおよび HDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- DaVinci Resolve™ は、Blackmagic Design Pty Ltd.の商標です。
- DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の「Design rule for Camera File system」の規格を表す団体商標です。
- USB Type-C™ およびUSB-C™ はUSB Implementers Forumの商標です。
- QRコードは、株式会社デンソーウェーブの商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

使用許諾について

- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and noncommercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.
- THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD("AVC VIDEO")AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM

本機は、DCFに準拠しています。DCFは、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で主として、デジタルカメラ等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本となる撮影データを記録した記録メディアを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

修理のお問い合わせ

- 修理・メンテナンスのご相談・お申し込み
  https://canon.jp/support/repair-index
- 電話でのお申し込み
  カメラ修理受付センター
  0570-07-0070
  平日・土　9：00～17：00
  ・12月31日から1月3日は休ませていただきます。
  ・上記番号は0570から始まるナビダイヤルを利用しています。
  ・ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、03-6634-5704におかけください。

■本書の記載内容は2023年11月現在のものです
製品の仕様および外観や本書の記載内容は、改良等のため予告なく変更することがあります。最新の使用説明書については、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

© CANON INC. 2023